

科目名：英語科教育論 I / Teaching Theory of English I

曜日・講時：通年 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：4

担当教員：LEIS ADRIAN PAUL

コード：LB92401, 科目ナンバリング：LHM-EDU903J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育や第二学習動機づけの基本・基礎
2. Course Title (授業題目)：Teaching Theory of English I
3. 授業の目的と概要：1) 外国語教育の基本・基礎について理解を深める。
2) 外国語学習動機づけの基本について理解を深める。
3) 英語科授業の模擬授業や英語教育についてのディスカッションを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：1) Deepening understanding of foreign language pedagogy
2) Deepening understanding of foreign language learning motivation
3) Participating in microteaching and discussions related to foreign language education
5. 学習の到達目標：1) 英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
2) 外国語学習動機づけに関する話題や課題についてディスカッションができる。
3) 模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1) Having a basic command of foreign language pedagogy (theories and practice)
2) Having a basic command of foreign language learning motivation
3) Be confident participating in microteaching and discussions related to foreign language education
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：Course Introduction. Background to motivation
第2回：The growth and fixed mindsets
第3回：What can we learn from the growth mindset in sports?
第4回：Parents, teachers, and coaches: Where do mindsets come from?
第5回：Mindsets in second language acquisition
第6回：Choosing words, choosing worlds
第7回：Learning Worlds: People, performing, and learning
第8回：Changing learning narratives
第9回：“Good Job!” Feedback, praise, and other responses
第10回：Any other ways to think about that? Inquiry, dialogue, uncertainty, and difference
第11回：Social imagination
第12回：Moral agency: Moral development and civic engagement
第13回：Thinking together, working together
第14回：Choice worlds
第15回：Review test

後期
第16回：後期の説明、模擬授業について、指導案の書き方について
第17回：PPP の指導方法について
第18回：PPP 模擬授業、ディスカッション
第19回：PPP 模擬授業、ディスカッション
第20回：PPP 模擬授業、ディスカッション
第21回：PPP 模擬授業、ディスカッション
第22回：PPP 模擬授業、ディスカッション
第23回：TBLT の指導方法について
第24回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第25回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第26回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第27回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第28回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第29回：TBLT 模擬授業、ディスカッション
第30回：TPPT、コースのまとめ
8. 成績評価方法：
① 小テスト及び試験（前期）40% ② 模擬授業 x 2（後期）40% ③ 積極的な参加、20%
9. 教科書および参考書：
Johnstone, P. (2012). Opening Minds: Using Language to Change Lives. Stenhouse Pub. (紙媒体でも電子でも構いません。)
10. 授業時間外学習：教科書を読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、

授業に臨むこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

教科書を早めに購入してください。

英語科教育論 I は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：国語科教育論 I / Teaching Theory of the Japanese Language I

曜日・講時：通年 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：4

担当教員：挽地 裕之

コード：LB93201, 科目ナンバリング：LHM-EDU901J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：国語科教育論 I

2. Course Title (授業題目)：Teaching Theory of the Japanese Language I

3. 授業の目的と概要：国語科教育を支える理論や学習指導要領の目標・内容を理解するとともに、国語の授業づくりに必要とされる基本的技能の理論を身につける。国語科教育の意義や目的を踏まえつつ、国語科の課題や学習指導要領の目標や内容を理解する。その上で指導方法の知識を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：国語科教育を支える理論や学習指導要領の目標・内容を理解するとともに、国語の授業づくりに必要とされる基本的技能の理論を身につける。国語科教育の意義や目的を踏まえつつ、国語科の課題や学習指導要領の目標や内容を理解する。その上で指導方法の知識を身につける。

5. 学習の到達目標：国語科教育の意義や目的・内容を理解するとともに、基本的かつ具体的な指導方法の理論を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：国語科教育の意義や目的・内容を理解するとともに、基本的かつ具体的な指導方法の理論を身につける。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 国語教育と国語科教育 国語科教育の周辺—国語科とは—
- 2 国語科教育以前① 授業 I 体験的教育論 —自分の受けた授業—
- 3 国語科教育以前② 授業 II 林竹二の授業
- 4 国語科教育以前③ 学び 学びの背景 —消費行動の影響力—
- 5 国語科教育の今日的課題① 学力調査等に見られる問題点と課題
- 6 国語科教育の今日的課題② 高度情報化等への対応
- 7 ことばの特徴や使い方について① 主に気になることば等を中心にして
- 8 ことばの特徴や使い方について② 主に我が国の言語文化を中心にして
- 9 学習指導要領の改訂の背景と改訂 改訂の背景と趣旨及び要点(現行との比較)
- 10 教材研究①分野別 文学的文章を中心に
- 11 教材研究②分野別 説明的文章を中心に
- 12 国語の技能①話すこと・聞くこと 基本的な考え方
- 13 国語の技能①書くこと 基本的な考え方
- 14 国語の技能①読むこと 基本的な考え方
- 15 学習指導要領の目標と内容① 初等教育を中心に

8. 成績評価方法：

出席及び平常点(2点×30回=60)、レポート(10点×2回[前期・後期]=20)、その他(20%)①出席及び平常点(2点×30回=60)期日を過ぎて提出の場合、遅刻・早退等の場合は適宜減点処理することになります。

②レポート(10点×2回[前期・後期]=20)…前期と後期に2回のレポート提出を課します。様式等は後日指示します。

9. 教科書および参考書：

『中学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省刊※最新刊)

『高等学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省刊※最新刊)

『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』(全国大学国語教育学会編)

10. 授業時間外学習：テキストや紹介された書籍を活用するなどして国語科教育の内容等について調べまとめる。紹介された書籍を積極的に読む等することが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

メールアドレス(個人) hikichi361010@gmail.com

科目名：英語科教育論Ⅱ／ Teaching Theory of English II

曜日・講時：通年 火曜日 3講時

Semester：4 単位数：4

担当教員：LEIS ADRIAN PAUL

コード：LB92301, 科目ナンバリング：LHM-EDU904J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育の理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Teaching Theory of English II
3. 授業の目的と概要：1) 英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。
2) 英語科授業の模擬授業を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1) Deeping understanding of theories and practice of foreign language pedagogy
2) Conducting lessons in microteaching
5. 学習の到達目標：・英語科教育の目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Having a strong understanding of theories and practice of foreign language pedagogy
2) Able to conduct and comment on lessons in microteaching
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
Week 1 コース説明、模擬授業の説明、TPPT とは
Week 2 英語教育に関するディスカッション
Week 3 Flipped learning, a Definition についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 1
Week 4 Before, during, and after class についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 2
Week 5 The analogue age and digital age of flipped learning についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 3
Week 6 The pros and cons of flipping your classroom についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 4
Week 7 What isn't flipped / Using closed captions についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 5
Week 8 What if students don't watch the videos? についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 6
Week 9 Speaking についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 7
Week 10 Writing についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 8
Week 11 Listening についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 9
Week 12 Reading についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 10
Week 13 Grammar についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 11
Week 14 Task-based language teaching についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 12
Week 15 Content-based language teaching についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 13
後期
Week 16 後期の説明、反転授業の実践と模擬授業の説明、指導案の書き方について
Week 17 Young learners についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 14
Week 18 Assessment についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 15
Week 19 SOFLA についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 16
Week 20 Vingnettes 1-3 についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 17
Week 21 Vingnettes 4-6 についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 18
Week 22 Vingnettes 9-12 についてのプレゼンテーション and ディスカッション / 模擬授業 19
Week 23 研究のやり方について and 模擬授業 20
Week 24 各自の研究についてのディスカッション 1 and 模擬授業 21
Week 25 各自の研究についてのディスカッション 2 and 模擬授業 22
Week 26 各自の研究についてのディスカッション 3 and 模擬授業 23
Week 27 プレゼンテーション 1
Week 28 プレゼンテーション 2
Week 29 プレゼンテーション 3
Week 30 プレゼンテーション 4
8. 成績評価方法：
①模擬授業 (40%)、②ディスカッション参加 (20%)、③プレゼンテーション・研究発表 (40%)
9. 教科書および参考書：
教科書
Leis, A. (2023). Insights into Flipped Learning. Castledown.
<https://www.castledown.com/academic-books/view-title/?reference=9781914291104>
10. 授業時間外学習：教科書を必ず読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上

で、授業に臨むこと

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

教科書を早めに購入してください。

英語科教育論 II は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：国語科教育論Ⅱ／ Teaching Theory of the Japanese Language II

曜日・講時：通年 水曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：4

担当教員：小川 典昭

コード：LB93101, 科目ナンバリング：LHM-EDU902J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：国語科教育論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Teaching Theory of the Japanese Language II

3. 授業の目的と概要：中学校や高等学校の国語科における授業づくりの実践的な技能を身につける。

国語の授業づくりの特質を踏まえて、教材研究や発問づくり、指導案の作成、模擬授業等を実践的に行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：中学校や高等学校の国語科における授業づくりの実践的な技能を身につける。

国語の授業づくりの特質を踏まえて、教材研究や発問づくり、指導案の作成、模擬授業等を実践的に行う。

5. 学習の到達目標：国語科における指導案の作成や学習指導・評価等の知識や技能を身につけ、教壇実習ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：国語科における指導案の作成や学習指導・評価等の知識や技能を身につけ、教壇実習ができる。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：教師の魅力～国語科が育む生きる力～

第2回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト小学校国語科テストをもとに）

第3回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト中学校国語科テストをもとに）

第4回：国語の授業づくりの特質について①（なぜ日本語を学ぶのか？なぜ教えるのか？）

第5回：国語の授業づくりの特質について②（心に残る国語教室の本質を探る）

第6回：国語の授業づくりの特質について③（小中高国語教室の実践からⅠ）

第7回：国語の授業づくりの特質について④（小中高国語教室の実践からⅡ）

第8回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて①（読むことに関する高校教材を中心に）

第9回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて②（読むことに関する中学校教材を中心に）

第10回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて③（話すこと・聞くことに関する教材を中心に）

第11回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて④（書くことに関する教材を中心に）

第12回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」①（学習形態の機能と授業設計－読む書く聞く）

第13回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」②（学習形態の機能と授業設計－机間指導と発問）

第14回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」③（学習形態の機能と授業設計－ペア学習の効果）

第15回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて①（韻文指導）

第16回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて②（情報機器の活用）

第17回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて③（音読指導）

第18回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて④（古典指導）

第19回：学習指導案の構成について

第20回：授業設計と学習指導案の作成について（小説教材を中心に）

第21回：模擬授業の実施①（A グループ）

第22回：模擬授業の実施②（B グループ）

第23回：模擬授業の実施③（C グループ）

第24回：模擬授業の実施④（D グループ）

第25回：模擬授業の実施⑤（E グループ）

第26回：模擬授業の実施⑥（F グループ）

第27回：模擬授業の振り返りと授業改善について①（自己評価を中心に）

第28回：模擬授業の振り返りと授業改善について②（相互評価を中心に）

第29回：学習評価の実際と課題について

第30回：国語科の実践研究の動向と課題について

8. 成績評価方法：

平常点（40％）・模擬授業（30％）・レポート（30％）

9. 教科書および参考書：

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

10. 授業時間外学習：説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくりなどを各自事前に行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31101, 科目ナンバリング：LHM-PHI204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 1－

2. Course Title (授業題目)：Outline of Indian Buddhist History 1

3. 授業の目的と概要： 釈尊（紀元前 5 世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、初期仏教の思想とその展開の一端を中期中観派の段階まで把握することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to help students understand the outline of the Indian Buddhist history from the life and thought of Śākyamuni to the middle Mādhyamika.

5. 学習の到達目標：釈尊から中期中観派までのインド仏教に関する基礎知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to provide students with basic knowledge on early Buddhism focusing mainly on the thought of Śākyamuni to the middle Mādhyamika.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論：仏教成立時代の社会と思想の概略
2. 釈尊の生涯と主な事蹟
3. 初期仏教の思想- 1 -
4. 初期仏教の思想- 2 -
5. 初期教団とその分裂
6. 『俱舎論』を中心とした説一切有部の思想- 1 -
7. 『俱舎論』を中心とした説一切有部の思想- 2 -
8. 大乘仏教の勃興
9. 初期大乘経典- 1 -
10. 初期大乘経典- 2 -
11. ナーガールジュナの思想- 1 -
12. ナーガールジュナの思想- 2 -
13. 瑜伽行唯識派の思想- 1 -
14. 瑜伽行唯識派の思想- 2 -
15. 中期中観派の思想

8. 成績評価方法：

レポート [100%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。

10. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

オンデマンド型オンライン形式で実施する。

参考書は各単元において随時追加紹介を行う。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：毛塚 和宏

コード：LB31102, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学におけるモデル入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Model in Sociological Science
3. 授業の目的と概要：(数理) モデルは人や社会のふるまいや傾向を理解するのに大いに役立つ。本授業では以下のモデルを通して、社会科学におけるモデルを理解する。
 - 1) 確率と効用
 - 2) 合理的選択理論
 - 3) 行動の伝播
 - 4) 社会的ネットワーク
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Models give us insight about behaviors and tendencies of humanity and society.
In this course, students learn the models in social science below:
 - 1) Probability and Utility
 - 2) Rational Choice
 - 3) Influence of Behavior
 - 4) Social Network
5. 学習の到達目標：1) 社会科学におけるモデルを他人に説明できるようになる。
2) 社会科学におけるモデルを簡単な数学を用いて表現できるようになる。
3) 社会科学におけるモデルを、自分で見つけた社会現象に応用して分析できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By participating in the course, students will be able to:
 - 1) explain the models to others
 - 2) express the models with basic mathematics
 - 3) analyze the social phenomena with the models
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：オンライン
 1. イントロダクション
 2. 非合理的なくじのひき方：確率と効用
 3. 人の意思決定：リスクとプロスペクト理論
 4. なぜバイトは暴走するのか：エージェンシー問題
 5. 社員がきちんと働くには：インセンティブ契約とモニタリング
 6. カルトや陰謀論が信者の生活様式を変えるのはなぜか：宗教とカルト
 7. 教育格差はなぜ縮まらないのか：Breen-Goldthorpe モデル
 8. 隣の芝はなぜ青いのか：相対的はく奪
 9. 流行が生じるメカニズム：閾値モデルとロジスティック曲線
 10. 流行はなぜ収まるのか：SIR モデル
 11. 格差の行きつく先はどこへ：マルコフ連鎖
 12. 感染する肥満？：社会的ネットワークとその威力
 13. 誰がネットワークの中心か：ネットワーク分析と行列
 14. ボーリングと政治腐敗：社会関係資本
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [70%] ・ (○) 小課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
なし。適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：入念な予習，復習を行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
随時メール (kkezuka@ila.titech.ac.jp) にて連絡すること。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31204, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典チベット語初級文法 I

2. Course Title (授業題目)：Classical Tibetan Grammar

3. 授業の目的と概要： チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。

教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This is an introductory course on the classical Tibetan grammar beginning with the method of pronouncing and writing the Tibetan letters.

5. 学習の到達目標：(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。

(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. Learn the pronunciation and orthography of Tibetan letters, and read aloud the Tibetan texts correctly.

2. Obtain the fundamental knowledge of basic classical Tibetan grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット文字発音法・正書法-1-

2. チベット文字発音法・正書法-2-

3. チベット文字発音法・正書法-3-

4. 古典チベット語初級文法-1-

5. 古典チベット語初級文法-2-

6. 古典チベット語初級文法-3-

7. 古典チベット語初級文法-4-

8. 古典チベット語初級文法-5-

9. 古典チベット語初級文法-6-

10. 古典チベット語初級文法-7-

11. 古典チベット語初級文法-8-

12. 古典チベット語初級文法-9-

13. 古典チベット語初級文法-10-

14. 古典チベット語初級文法-11-

15. 古典チベット語初級文法-12-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；初回時に配布の予定）

10. 授業時間外学習：予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認-発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習，文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶など-を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生のみ履修可。

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB31202, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学習の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 非人称の es (1)
 - 3 非人称の es (2)
 - 4 人称代名詞
 - 5 指示代名詞
 - 6 不定代名詞
 - 7 関係代名詞 (1)
 - 8 関係代名詞 (2)
 - 9 命令表現 (1)
 - 10 命令表現 (2)
 - 11 不定詞 (1)
 - 12 不定詞 (2)
 - 13 分詞 (1)
 - 14 分詞 (2)
 - 15 分詞 (3)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学基礎講読 I / Innovative Japanese Studies (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB31203, 科目ナンバリング：LHM-OHS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の日本史の購読の紹介
2. Course Title (授業題目)：An Introduction to Reading Japanese History in English
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた日本史の文献を取り上げその課題と方法・用語を習得し日本語に翻訳する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will be introduced to works on Japanese history written in English, will gain an understanding of the issues, methods, and vocabulary used in them, and will translate them into Japanese.
5. 学習の到達目標：英語の日本史研究の方法と課題の特長を理解して、多分野を用いる歴史学の方法と歴史学に関する翻訳の方法を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain an understanding of the characteristic methods and issues in English-language Japanese historical research, learn to conduct historical research using methods from a variety of disciplines, and develop skills in translating historical s
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第 1 回：講読についての解説①
 - 第 2 回：講読についての解説②
 - 第 3 回：講読①
 - 第 4 回：講読②
 - 第 5 回：講読③
 - 第 6 回：講読④
 - 第 7 回：講読⑤
 - 第 8 回：講読⑥
 - 第 9 回：講読⑦
 - 第 10 回：講読⑧
 - 第 11 回：講読⑨
 - 第 12 回：講読⑩
 - 第 13 回：講読⑪
 - 第 14 回：講読⑫
 - 第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む） [60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）
9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.
10. 授業時間外学習：購読を設定した時間にレポートを用意し、発表する。

Students will be assigned class meetings for which to prepare a report and make a presentation.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
読むテキストは英語で、授業やディスカッションは日本語で行う。
Texts to read will be in English, while the class instruction and discussion will be in Japanese.

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB31201, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Special Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的な事例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will understand peculiarity and characteristics of archaeology in Japan. This course also offers an opportunity to learn various methods which proposed effective solution on archaeological issues in recent years. Especially, this

5. 学習の到達目標：(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The aim of this lecture is that students understand (1) historical issues of archaeological study, (2) methods and theories of archaeology in recent years, (3) relationship between human activities and natural/social/cultural environments.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は、講義中心の授業です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・ (○) 出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献を講義中に随時提示する。

10. 授業時間外学習：講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB31501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史の方法

2. Course Title (授業題目) : An introduction to Japanese historical linguistics

3. 授業の目的と概要：言語の歴史は古い文献を探ればわかるように思えるが、文献だけが言語の歴史を知る資料になるわけではない。また、古い文献を探ることにもさまざまな問題がある。そこで、ここでは、日本語の具体的な例を見ながら、言語の歴史（日本語の歴史）を探る方法について考える。同時に、古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要を把握したうえで、日本語の歴史をとらえるための視点について解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Although it would seem that the history of a language can be found by exploring old literature, literature is not the only source for the history of a language. There are also various problems in exploring old literature. Therefore, here we will consider

5. 学習の到達目標：(1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。

(2) 言語の歴史を明らかにする方法について説明できるようになる。

(3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to outline the history of Japanese language,

(2) be able to explain important matters of Japanese language history,

(3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ことばは変化する

第2回 ことばはなぜ変化するのか

第3回 信頼できるテキストを求めて(1)

第4回 信頼できるテキストを求めて(2)

第5回 文献にあらわれた言語の性格(1)

第6回 文献にあらわれた言語の性格(2)

第7回 文献による言語の歴史

第8回 文献以前の言語の姿をさぐる

第9回 言語の地域差と言語の歴史(1)

第10回 言語の地域差と言語の歴史(2)

第11回 方言による言語史と文献による言語史

第12回 言語の体系性と言語の歴史

第13回 社会のなかの言語と言語変化

第14回 試験と解説

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』ひつじ書房 2013。その他、必要な資料・テキストは印刷して、あるいは PDF で配布する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) 指示されたテキストの必要範囲を読み、十分理解して参加する。

(2) 前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につける。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する（いずれでもかまわない）。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 知花

コード：LB31401, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エスノグラフィー講読入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Reading Ethnography

3. 授業の目的と概要：この授業では、エスノグラフィーの講読を通じ、エスノグラフィーの手法とはどのようなものか、質的社会調査で得られたデータがどのように分析、考察され一つの研究作品になるかを学びます。エスノグラフィーの代表的研究である、『ローカルボクサーと貧困世界』を取り上げ、ローカルボクサーたちが生きる社会と貧困とを結びつけて読み解きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students understand how to read ethnography and think about the relationship between poverty and society.

5. 学習の到達目標：ローカルボクサーの生きる社会と貧困とのつながりを読み解き、エスノグラフィーにおける調査と理論との関係性を理解する力を身につける。また、過不足のないレジюмеを作成できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the relationship between the society in which local boxers live and poverty and the relationship between theory and research. Students also acquire the skills to write a resume.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ローカルボクサーと貧困 (1)
3. ローカルボクサーと貧困 (2)
4. ボクサーになる (1)
5. ボクサーになる (2)
6. ボクサーになる (3)
7. 敗者の生産 (1)
8. 敗者の生産 (2)
9. 敗者の生産 (3)
10. 敗者の生産 (4)
11. 引退ボクサーの日常 (1)
12. 引退ボクサーの日常 (2)
13. 引退ボクサーの日常 (3)
14. 引退ボクサーの日常 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加（報告、ディスカッション）40%、課題レポート 60%

9. 教科書および参考書：

石岡丈昇『ローカルボクサーと貧困世界—マニラのボクシングジムにみる身体文化』（世界思想社、2012 年）

10. 授業時間外学習：各回レジюме担当を決め、レジюмеの作成と報告をしてもらいます。各回担当者だけではなく、参加者全員が教科書の該当箇所を事前に読み、授業での議論に参加できるよう準備しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は必ず初回に出席してください。出席できない場合には事前に連絡してください。

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB31403, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：時事フランス語
2. Course Title (授業題目)：Current French
3. 授業の目的と概要：初級文法を修了した学習者を主な対象として、幅広い内容を扱ったフランス語を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read French texts about various contemporary issues.
5. 学習の到達目標：各学習者が自分の興味に応じて、さまざまなフランス語を自律的に読めるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner can read various French texts according to his/her interests.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

(下に記した教科書をベースとします。学習者のレベルに応じて他の文章も用いることがあります。また各回に扱う課については、進度に応じて適時調整します。)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1 課
- 第3回 2 課
- 第4回 3 課
- 第5回 4 課
- 第6回 5 課
- 第7回 6 課
- 第8回 7 課
- 第9回 8 課
- 第10回 9 課
- 第11回 10 課
- 第12回 11 課
- 第13回 12 課
- 第14回 13 課
- 第15回 14 課

8. 成績評価方法：

出席点 (100%)

9. 教科書および参考書：

石井洋二郎、野崎夏生、ジョルジュ・ヴェスイエール『時事フランス語 2024 年度版』、朝日出版社、2024。

10. 授業時間外学習：出席の際の訳読も評価の対象となりますので、毎回の綿密な予習が必須となります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB31301, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デカルト『省察』入門

2. Course Title (授業題目) : Descartes' Meditations on First Philosophy

3. 授業の目的と概要： デカルトの『第一哲学の省察』(1641 年) は、神の存在証明と心身(物心)二元論の確立を目標とするが、さらにそれを目掛けて、普遍的懐疑、自己意識と精神の存在、誤謬と自由意志、物体の本質と存在証明、心身結合と人間の生といった幅広いテーマが、おそるべき速度と密度で論じられている。

講義では、『省察』本編のテキストを読みすすめるとともに、そこに畳みこまれた哲学的諸問題を引き出し、ときには大きく脱線して歴史的あるいは問題分析的に解明を試みつつ、またテキストに戻るといふかたで、デカルト哲学への導入を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Reading Descartes' Meditations on First Philosophy and examining the philosophical topics in them.

5. 学習の到達目標：哲学文献の基本的な読解力を身につける。デカルトに即して哲学の基本的な諸問題を学び、みずから思考し、表現する力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will learn to read classical texts and to examine their philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. デカルトとその時代 — 『省察』への導入
2. 懐疑の極限にいとむ — 第一省察 (1)
3. 普遍的な懐疑は可能か — 第一省察 (2)
4. 「私はある」の発見 — 第二省察 (1)
5. 精神への精錬 — 第二省察 (2)
6. 蜜蠟の分析 — 第二省察 (3)
7. 神の存在証明と観念の表現的实在性 — 第三省察 (1)
8. 無限に溢れゆく他者としての神 — 第三省察 (2)
9. 人はなぜ誤謬に陥るか — 第四省察 (1)
10. 人間の行為と自由 — 第四省察 (2)
11. 物体即延長の科学哲学 — 第五省察 (1)
12. 神の存在論的証明 — 第五省察 (2)
13. 心身の実在的区別 — 第六省察 (1)
14. 心身の実体的結合と物体の存在 — 第六省察 (2)
15. 哲学と生 — 第六省察 (3)

8. 成績評価方法：

数回の小課題と期末レポートによって評価する

9. 教科書および参考書：

教科書 ルネ・デカルト著『省察』山田弘明訳、筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2006年。

(生協に指定してあります。講義に持参すること。)

10. 授業時間外学習：『省察』を読んでから講義に臨み、講義では思考を同期させ、講義のあとは内容を反芻して自分の言葉で咀嚼すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB31303, 科目ナンバリング：LHM-LIN226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析 1
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Analysis for teaching Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を分析的に捉える方法を理解し、分析し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language and connect this way with Japanese teaching practices.
5. 学習の到達目標：(1)日本語教育ための日本語の基礎を理解し説明できる。
(2)日本語教育の観点から日本語を分析することができる。
(3)日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language
 2. analyze Japanese language by using this view
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本語教育の参照枠
 3. 日本語教育のための音声・音韻①
 4. 日本語教育のための音声・音韻②
 5. 日本語教育のための音声・音韻③
 6. 日本語教育のための文字・表記①
 7. 日本語教育のための文字・表記②
 8. 日本語教育のための文字・表記③
 9. 日本語教育のための形態・語彙・意味①
 10. 日本語教育のための形態・語彙・意味②
 11. 日本語教育のための形態・語彙・意味③
 12. 日本語教育のための文法
 13. 教案作成
 14. 模擬授業
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 30%・課題 40%
9. 教科書および参考書：

『みんなの日本語 初級 1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
日本語教育学概論を履修していること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：複雑な社会をいきなり研究しようとしても、どこから始めたらいいのか途方に暮れるだろう。この授業では、文化人類学でながく培われてきた思考の道具立てとして、ジェンダー（社会的・文化的性差）を取り上げ、それらに関する基礎文献を講読することで、研究の手がかりと文化人類学の概括的な知識を得る。次に各テーマに関連した代表的な民族誌を読み解くことで、文化人類学の思考法と研究方法がいかなるものかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course takes up gender, explores basic literature regarding these themes, and helps students obtain a fundamental understanding of cultural anthropology. Students will also read major ethnographies relating to these themes and learn basic methods of

5. 学習の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve basic understanding of the themes and methods of cultural anthropology through reading basic literature and group discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：ジェンダーで学ぶ文化人類学
2. 男は狩りに、女は採集に？
3. 父系、父権、遊牧、イスラーム
4. 母系社会と権力
5. 宇宙と身体の共鳴
6. 越境する女 — 市場を仕切る女性商人
7. 働く — 性別役割分業の多様性
8. つがう — 結婚の多様な形
9. 産む — 生殖観と子ども観の変容
10. 育てる — 社会の中の子育て
11. 女になる、男になる — ジェンダー儀礼
12. 性をゆさぶる — トランスジェンダー
13. 開発は女性を解放したか
14. 病いへのまなざし — 日本におけるジェンダーと HIV/AIDS 像の構築
15. マイノリティとジェンダー — 在日コリアン二世・三世の見合いから

8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席、授業時の口頭発表、議論参加 [60%]

9. 教科書および参考書：

田中雅一・中谷文美 編 2005 『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
他の文献については授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：阿部 友紀. 間芝 志保. 木村 敏明. 谷山 洋三

コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。

(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB31302, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学の基礎知識とその応用
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Experimental Psychology
3. 授業の目的と概要：実生活場面で見られる様々な場面を心理学の視点からみるとどのようにとらえられるのか、また心理学の知識を修得しておけば、実生活でどのように有利なのか、などについて学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class offers you to study psychology with psychological phenomena in your daily lives. The topics will be broad from "seeing ghosts" to "why we do not want to eat bugs". The approaches are mainly knowledge based on the experimental psychology.
5. 学習の到達目標：・心理学の基礎事項を学ぶ
・実生活場面で「騙されない」ための基礎知識を修得する。
・医療や産業の場面で生じる様々な問題の解決に心理学の知識が有効に働くことを理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Earning the basic knowledge of psychology
Acquiring the knowledge that helps your well-being
Understanding the role of psychology in our daily lives
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下は予定であり、進行状況によって複数回に渡るものや省略されるものもある。
 1. 心理テストと血液型性格検査(導入)
 2. 生まれか育ちか?-ヒトラーのクローンは作れるか?-(心理学研究法)
 3. 遺伝子と性格-タブララサと優生学- (生物学と心理学)
 4. マトリックスの世界観(感覚と知覚)
 5. 人生を紡ぐ記憶(学習と記憶)
 6. スタバのコーヒーはなぜおいしく感じるのか?(認知心理学)
 7. 子どもは世界をどう見ているか?(発達)
 8. 大人になるということ(アイデンティティ)
 9. 吊り橋を渡ると恋人ができる?(感情と情動)
 10. なぜ食べ過ぎてしまうのか?(動機づけ)
 11. 使いやすいモノとは?(人間工学)
 12. 「人は見た目が9割」は本当か?(社会心理学)
 13. ミラーニューロンと共感(コミュニケーション)
 14. なぜ騙されるのか?(ヒューリスティック)
 15. より幸せになるために(まとめ)なお、適宜実験・調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究を体験してもらおう。
8. 成績評価方法：
筆記試験・レポート(70%)、実験や調査への参加・受講態度などの参加意欲(30%)
9. 教科書および参考書：
心理学の視点 25 (ISBN 978-4-910603-04-9)
10. 授業時間外学習：Should post reports in every classes. The topics of the reports will be announced in the classes.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅲ／ English Literature (Seminar) III

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-LIT322E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Victorian Literature and Culture: Elizabeth Gaskell, Cranford

2. Course Title (授業題目)：ヴィクトリア朝の文化と文学 エリザベス・ギaskell 『克蘭フォード』

3. 授業の目的と概要：In this class we will read the short novel Cranford (1853) by Elizabeth Gaskell. This is a comic description of life in small town in Victorian England yet is also shows us a lot about changing ideas and contexts of 19th century Britain (the Victorian per

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：この授業では、エリザベス・ガaskellの短編小説『克蘭フォード』(1853年)を読みます。この小説は、ヴィクトリア朝イギリスの小さな町の生活をコミカルに描いたものですが、19世紀イギリス(ヴィクトリア朝時代)の考え方や背景の変化についても多くのことを教えてくれます。そこで授業では、この小説に登場するヴィクトリア朝の文化や社会の様々な側面、つまり女性と男性の役割、イギリスの階級制度、鉄道と産業革命、田舎と都会、大英帝国の影響とグローバリゼーションについて学ぶ。

5. 学習の到達目標：1: Read a Victorian novel in English.

2: Understand the context of 19th century British literature and culture

3: Understand and analyse literary prose in English

4: Improve skills in English academic writing and communication

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: ヴィクトリア朝の小説を英語で読む。

2: 19世紀イギリスの文学と文化の背景を理解する。

3: 文学散文を英語で理解し、分析する。

4: 英語でのアカデミックライティングとコミュニケーションスキルの向

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

Week 1 Introduction

Week 2 Chapter I “Our Society”

Week 3 Chapter II “The Captain”

Week 4 Chapter III “A Love Affair of Long Ago”

Week 5 Chapter IV “A Visit to an Old Bachelor”

Week 6 Chapter V “Old Letters” & Chapter VI “Poor Peter”

Week 7 Chapter VII “Visiting” & Chapter VIII “Your Ladyship”

Week 8 Chapter IX “Signor Brunoni” [mid-semester test]

Week 9 Chapter X “Panic” & Chapter XI “Samuel Brown”

Week 10 Chapter XII “Engaged to be Married”

Week 11 Chapter XIII “Stopped Payment”

Week 12 Chapter XIV “Friends in Need”

Week 13 Chapter XV “A Happy Return”

Week 14 Chapter XVI “Peace to Cranford” & Conclusion

Week 15 Final Exam

8. 成績評価方法：

Short assignments and reaction comments (30%) Final essay (30%) mid-term quiz (20%) final quiz (20%)

9. 教科書および参考書：

Elizabeth Gaskell, Cranford, edited by Patricia Ingham (Penguin 2005)

10. 授業時間外学習：Short written assignments to Google Classroom

Final essay

Mid-semester quiz

Final quiz

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

This class will be taught in English

科目名：考古学各論／ Archaeology

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB51202, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人類の進化と考古学

2. Course Title (授業題目)：Archaeology and Human Evolution

3. 授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the correlation between the development of archaeological cultures and the human evolution are explained. Students better understand the significance of the biological evolution of humans and cultural development by learning the advances i

5. 学習の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are supposed to learn the basis of the human evolution and the development of archaeological cultures so that they can better understand the evolutionary significance of the advances in archaeological cultures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人類の進化史
3. 道具の出現と発達
- 4-5. 火の利用の起源
6. 原人・旧人の出現と拡散
7. ネアンデルタール人
- 8-9. DNA 研究からみた進化史
10. 旧人・新人の交替劇
11. 狩猟技術の発達史
- 12-13. 旧石器時代の芸術
14. 新石器文化の拡散と受容
15. 家畜化の歴史

8. 成績評価方法：

レポート [70%]・出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）／ Statistics on Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB51204, 科目ナンバリング：LHM-PSY315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理調査概論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Psychological Research

3. 授業の目的と概要：主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法，記述式のテスト，小論文，面接試験等，主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に，心理検査等，心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について，その基礎的な概念を学ぶ。信頼性，妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論，さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course mainly target to learn about the theoretical background related to psychological measurement such as questionnaires, psychological testing, open-ended questions, essay, interview and so on. The measurement theory is also useful for evaluating

5. 学習の到達目標：調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Basic understanding of the measurement theory behind the survey method and literacy on indicators often used in the thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 3 対面授業（半分以上）とオンデマンド型オンライン授業の併用

1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の紹介）（1コマ）

2. 古典的テスト理論の基礎（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式）（4～7コマ）

3. 信頼性の評価（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論）（4～6コマ）

4. 探索的因子分析（因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順）（3～5コマ）

5. 心理尺度作成の実際（心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率とIT 相関）（1～2コマ）

6. 期末考査（1コマ）

8. 成績評価方法：

出席[40%程度]・討論参加[20%程度]・期末試験[40%程度]

毎回対面授業を予定している。どのような理由でも公欠は認めない。ただし、やむを得ない理由で出席できない場合には、求めに応じて授業動画を提供する場合がある。その視聴をもって当該授業への出席と認める。

9. 教科書および参考書：

(1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』，朝倉書店

(2) 海保博之編著（1984）「心理・教育データの解析法10講 基礎編」，福村出版

10. 授業時間外学習：授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オンデマンドの授業動画のクオリティは保証しない。

The quality of on-demand class videos is not guaranteed.

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の成立と展開
2. Course Title (授業題目)：Establishment and Development of "The Tale of Genji"
3. 授業の目的と概要：『源氏物語』現五十四帖がいかんして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻（「桜人」「狭筵」「巢守」さらには「輝く日の宮」）についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本（写本群）についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安～鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We will examine how the "Genji Monogatari" is composed, the problem of establishment, the problem of the volume, and the description of the old commentary on the dissipated volume.
Furthermore, we will explore what kind of "Genji Monogatari" texts were
5. 学習の到達目標：『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By broadly studying the issues of establishment and development, dissemination and inheritance, acceptance and enjoyment of "Genji Monogatari", (1) deepening the understanding of various cultural phenomena surrounding "Genji Monogatari", (2) appreciating
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 01. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。
 02. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。
 03. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。
 04. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。
 05. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復原する。
 06. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。
 07. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。
 08. 「巢守」について (1)。『源氏物語古系図』から復原する。
 09. 「巢守」について (2)。「古筆断簡』『風葉和歌集』から復原する。
 10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。
 11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。
 12. 『山路の露』を読む (1)。「序文」を読む。
 13. 『山路の露』を読む (2)。薫と浮舟の再会場面を読む。
 14. 『山路の露』を読む (3)。浮舟と手習歌。
 15. 『山路の露』を読む (4)。物語としての独自性。
8. 成績評価方法：
レポート (期末) の内容 [50%]、毎時間提出するミニットペーパーの内容 [50%]。
9. 教科書および参考書：
【教科書】『源氏物語補作 山路の露・雲隠六帖 他二篇』(今西祐一郎編注、岩波文庫、2022 年)
その他はすべてプリントを用いる。テキスト (岩波文庫) は大学生協で購入のこと。毎時間用意すること。参考文献は授業内で随時紹介する。Classroom を併用する予定。
10. 授業時間外学習：復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：比較文化論各論／ Comparative Culture (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB51310, 科目ナンバリング：LHM-LIT338E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Keywords in Comparative Cultural Studies I
2. Course Title (授業題目)：比較文化研究のキーワード I
3. 授業の目的と概要：This course is intended to introduce basic concepts and approaches for intercultural research by reviewing some important English keywords for researching for broad cultural studies in the humanities. By “cultural studies” we mean broadly any approach us
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：本講座は、人文科学における幅広い文化研究を行うための重要な英語キーワードを概観しながら、異文化間研究のための基本的な概念やアプローチを紹介することを目的としています。ここでいう「カルチュラル・スタディーズ」とは、広く文学部で用いられる、知の形態を研究するためのあらゆるアプローチを意味します。このクラスでは毎週、関連性のある概念、対象、トピックを表す特定の単語を取り上げ、その意味合いと学部での研究への応用について考えます。そのために、受講生は毎週、何らかの短いテキスト（通常はコピーやオンライン資料、時には
5. 学習の到達目標：1: To survey some critical vocabulary in English that is useful for humanities studies.
2: To read a variety of short texts and sources in English.
3: To improve comprehension and communication skills in English.
4: To improve intercultural understandi
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 人文科学に役立つ英語の語彙を調査する。
2: 様々な短文や資料を英語で読む。
3: 英語の理解力とコミュニケーション能力を高める。
4: 授業内容やクラス活動を通して、異文化理解を深める。
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1: Introduction
 - 2: Culture
 - 3: Arts
 - 4: Popular Culture
 - 5: Value
 - 6: Nostalgia
 - 7: Humanism
 - 8: Nature
 - 9: Technology
 - 10: Animals
 - 11: Emotions
 - 12: Memory
 - 13: Group work/presentations
 - 14: Group work/ presentations
 - 15: Final exam
8. 成績評価方法：

Short reaction papers to Google Classroom after class 25%; One final term paper at end of the semester 25%;
Group presentation work 20%; Final test 30%
9. 教科書および参考書：

There is no textbook for this course: reading material will be supplied. Students are encouraged to research

keywords themselves as preparation for class. The Cultural Studies Reader, edited by Simon During (Third Edition 2007) is an expensive but useful

10. 授業時間外学習: Short reaction papers during or after class

One final essay

Group exercise

Final exam at end of the course

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

The final list of keyword topics may change by the start of the semester.

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-PHI312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第 1 章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyāna

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論 I 界品』(江島恵教著)、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎積論』(真谛訳)。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：フランス語科教育法 I / Teaching Method of French Studies I

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB51309, 科目ナンバリング：LHM-EDU909J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Language and Culture of Contemporary France
2. Course Title (授業題目)：Language and Culture of Contemporary France
3. 授業の目的と概要：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents (dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role - playing
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents(dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role - playing
5. 学習の到達目標：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skills
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Oral and written expression
 - 2) Oral and written expression
 - 3) Oral and written expression
 - 4) Oral and written expression
 - 5) Oral and written expression
 - 6) Oral and written expression
 - 7) Oral and written expression
 - 8) Oral and written expression
 - 9) Oral and written expression
 - 10) Oral and written expression
 - 11) Oral and written expression
 - 12) Oral and written expression
 - 13) Oral and written expression
 - 14) Oral and written expression
 - 15) Oral and written expression
 - 16) Film screening . Analysis and discussion
8. 成績評価方法：

Attendance at all classes is required .Oral participation counts for 50 % . The evaluation will also be written (several short texts) .
9. 教科書および参考書：

The textbook will be chosen according to the students' level .
10. 授業時間外学習：Exercices will be used to review vocabulary and grammar points . Students will also be asked to write short texts related to the subject of the course .
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB51304, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第 3 回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第 4 回：文献・研究課題に関わるガイダンス③

第 5 回：研究プロジェクトとその進め方①

第 6 回：研究プロジェクトとその進め方②

第 7 回：研究プロジェクトとその進め方③

第 8 回：研究プロジェクトとその進め方④

第 9 回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第 10 回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第 11 回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第 12 回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第 13 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第 14 回：日本学の課題についての総合討論①

第 15 回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表 [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：中国思想各論／

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB51203, 科目ナンバリング：LHM-PHI302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国中世仏教の学術と実践
2. Course Title (授業題目)：Scholarship and practice of Chinese medieval Buddhism
3. 授業の目的と概要：中国中世の仏教について、学術の形式や思想活動の場、信仰と実践、また史学や医学、文学などの文化全般との関わりに注意しながら考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course Chinese medieval Buddhism will be discussed, paying attention to their academic forms and sites of intellectual activity, rituals and practices, as well as their relationship to culture in general, including history, medicine and literature
5. 学習の到達目標：中国中世における仏教の諸相について基本的な理解を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain a basic understanding of the various aspects of Chinese medieval Buddhism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. 仏典翻訳と偽経、経録1
 3. 仏典翻訳と偽経、経録2
 4. 一切経の作成と伝承
 5. 注疏と語録の成立
 6. 仏教史学の諸相
 7. 山林仏教と禅宗の成立1
 8. 山林仏教と禅宗の成立2
 9. 具足戒と大乘戒
 10. 士大夫の仏教信仰1
 11. 士大夫の仏教信仰2
 12. 正統から逸脱した実践
 13. 異民族と仏教
 14. 女性にとっての仏教
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

レポート (100%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は講義中に紹介する。
10. 授業時間外学習：紹介された参考書や原典は出来るだけ読んでみることに。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB51303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目) : Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教的世界観を概観しながら、その世界観に基づく美術を時代順に論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2) Students understand the world view projected on art.

(3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
4. 奈良時代の仏教的世界観と美術 1
5. 奈良時代の仏教的世界観と美術 2
6. 奈良時代の仏教的世界観と美術 3
7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 1
8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 2
9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 3
10. 平安時代後期の仏教的世界観と美術 1
11. 平安時代後期の仏教的世界観と美術 2
12. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 1
13. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 2
14. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 3
15. まとめ—古代・中世日本の仏教的世界観と美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB51302, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

1. コンピューターを用いて文体を計量する技術、2. 引用と話法に着目したデータの収集、分析について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological appr

5. 学習の到達目標：(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。(3)実際に言語データが分析できるように、コンピューターによる計量文体、および話し言葉における引用と話法に着目して、データを収集し分析の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～

2. 物語作品の享受と分析

3. ジェンダーと日本語

4. 引用と話法

5. コーパス, 言語のバリエーション

6. 文体の指標

7. 文体を計量する

8. 接続詞と言語ジャンル

9. 文学作品と電子化資料

10. コンコーダンサー

11. 特徴語の分析

12. 話し言葉における技巧性

13. 音声データの収集と加工

14. 研究の進め方

15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：甲田直美(2024)『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』ひつじ書房

その他の参考文献は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IUの実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

毎回コンピューターを持参すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：鎌倉時代の法と社会(1)

2. Course Title (授業題目) : The Lawls and Society of the Kamakura Period 1

3. 授業の目的と概要： 鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。また、裁判記録も残されている。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、「裁許状」および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の裁判と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Kamakura Shogunate compiled the basic regulations, Goseibai-shikimoku (御成敗式目) . And it issued numerous additional laws and administrative orders, we say Tsuika-ho (追加法) .

Records of trials are also kept. These are important historical materials for clarif

5. 学習の到達目標：(1) 中世史料の基礎的な読解力を身につける。

(2) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) To gain the fundamental skills in reading medieval Japanese sources.

(2) It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

原則として対面

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下（吉川弘文館）。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is Seno Seiichiro "Kamakura Bakuhu Saikyozyou-syu" .

10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments be

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources. Students must take "The Lawls and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecu

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動 1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動 2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB51308, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB51307, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participant)
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022 年。

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-LIT323J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：Medieval German Literature

3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften. In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. J

5. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1713-1714)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1715-1716)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1717-1719)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1720-1722)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1723-1725)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1726-1729)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1730-1733)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1734-1737)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1738-1740)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1741-1744)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1745-1748)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu
5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、英語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
オンライン公開されている、11 世紀イングランドを論じる論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むテキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世史料の研究 (1)

2. Course Title (授業題目) : Study on Japanese Medieval Historical Materials 1

3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

5. 学習の到達目標：(1) 日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.

(2) It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

日本史演習「中世史料の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval Historical Materials" 1 and 2 consecutively.

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB51402, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』 「桐壺」「帚木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Kiritubo' 'Hahakigi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and an

5. 学習の到達目標：『源氏物語』 「桐壺」「帚木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Kiritubo Chapter, Hahakigi Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the s

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「桐壺」巻からの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017 年) を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012 年) がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

- ・本演習は、第6セメスターも続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Art Meets Magic: The World of the Italian Renaissance
2. Course Title (授業題目)：Art Meets Magic: The World of the Italian Renaissance
3. 授業の目的と概要：現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリア・ルネサンスの時代の美術に注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の一側面を解説します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In contemporary art and photography, we often refer to works of art that shake the boundaries between reality and fiction, nature and technology as "magical. However, the correlation between art and magic was already discovered in ancient times, and in th
5. 学習の到達目標：美術作品および作家を歴史的な脈と照らし合わせて分析する問いの立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understanding how to formulate questions and procedures for analyzing works of art and artists in relation to their historical contexts.
Understanding of the development of art in Italy from ancient times to the early modern period.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：プロローグ——生きている彫像？
 - 2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
 - 3：同時代の言説における美術と魔術
 - 4：イメージ魔術と肖像画 (1)
 - 5：イメージ魔術と肖像画 (2)
 - 6：絵画と暗号 (1)
 - 7：絵画と暗号 (2)
 - 8：怪物の創造 (1)
 - 9：怪物の創造 (2)
 - 10：絵画と記憶術 (1)
 - 11：絵画と記憶術 (2)
 - 12：絵画と鏡魔術 (1)
 - 13：絵画と鏡魔術 (2)
 - 14：絵画と呪い
 - 15：エピローグ——絵画と錬金術(注1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(注2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 友紀. 谷山 洋三. 間芝 志保. 木村 敏明

コード：LB51406, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。

(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講

3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①

4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②

5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①

6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②

7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院

8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説

9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在

10. 第九回：調査と研究の倫理

11. 第十回：現地調査計画の立案

12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る

13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる

14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える

15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB51501, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国中世思想文献精読
2. Course Title (授業題目)：A Reading of Chinese Medieval Thought
3. 授業の目的と概要：唐・孔穎達 (574-648) 等撰『礼記正義』礼運篇を会読する。各版本を参照し、阮元校勘記の成績を検証しながら、中国思想文献の精確な訳注を作成する能力を涵養するのが本演習の目的である。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is a reading of the chapter of The Conveyance of Rites (禮運), from the Right Meaning of the Ritual Records (禮記正義) edited by Kong Yingda (孔穎達) and other scholars at Tang period. The aim of the course is to cultivate the ability to produce accurate
5. 学習の到達目標：中国思想の原典資料を読解し、精確な日本語訳を作成できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Be able to read and understand original source materials on Chinese thought and produce accurate Japanese translations.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、導入
 - 2、『礼記正義』会読 1
 - 3、『礼記正義』会読 2
 - 4、『礼記正義』会読 3
 - 5、『礼記正義』会読 4
 - 6、『礼記正義』会読 5
 - 7、『礼記正義』会読 6
 - 8、『礼記正義』会読 7
 - 9、『礼記正義』会読 8
 - 10、『礼記正義』会読 9
 - 11、『礼記正義』会読 10
 - 12、『礼記正義』会読 11
 - 13、『礼記正義』会読 12
 - 14、『礼記正義』会読 13
 - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況 (100%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教室でプリントを配布する。
10. 授業時間外学習：予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB98823, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：春秋戦国秦漢史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies historical sources in the Spring and Autumn Period, the Warring States Period, and Qin-Han Period

3. 授業の目的と概要：漢文史料の読解力（訓読・現代語訳）を向上させ、春秋・戦国・秦漢時代の基礎的な知識を獲得し、伝世文献の扱いを習得することを目的とする。前期は『資治通鑑』秦紀を資料とし、本文および注記を精読しながら、関連する史書や諸子百家文献、そして出土文字資料を比較検討し、編年や地理考証を行い、訳注を作成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is help students improve the skills to read the Chinese classics, to acquire the basic knowledge about history from the Spring and Autumn period to Qin-Han period, and become proficient in handling the traditional literatures of Chi

5. 学習の到達目標：中国古代・中世史の漢文史料を扱うための基本的な能力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire the basic skills to handle the Chinese classics in the Ancient and Middle age of East Asia.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。『資治通鑑』と原典資料／工具書／訳注の方針

第2回：訳注の実例と解説

第3回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十年（1）

第4回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十年（2）

第5回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十一年

第6回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十二年（1）

第7回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十二年（2）

第8回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十三年・二十四年（1）

第9回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十三年・二十四年（2）

第10回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十五年（1）

第11回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十五年（2）

第12回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十五年（3）

第13回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十六年（1）

第14回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十六年（2）

第15回：『資治通鑑』秦紀二・始皇二十六年（3）

8. 成績評価方法：

報告および議論への参加状況（60％）と提出課題（40％）を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を配布する。参考書はガイダンスで示すが、楊寛『戦国史（増訂版）』（上海人民出版社、1998年）および『戦国史料編年輯證』（上海人民出版社、2001年）を挙げておく。

10. 授業時間外学習：担当者は十分に予習のうえで報告資料を作成する。参加者全員で討論を行うため、担当者以外も予習のうえで出席すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB51502, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication

5. 学習の到達目標： (1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)： After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成 1

5. 模擬授業の実施 1

6. 模擬授業の実施 2

7. 授業改善・評価 1

8. 教材分析 1

9. 模擬授業の実施 3

10. 模擬授業の実施 4

11. 授業改善・評価 2

12. シラバスの作成 1

13. シラバスの作成 2

14. 教案作成 1

15. 教案作成 2

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習： 毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Linguistics (General Lecture) II

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB32102, 科目ナンバリング：LHM-LIT219J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ

2. Course Title (授業題目)：Improving German language skills

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。

ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and develop German language skills acquired in the first year.

Learn about cultural aspects of German language countries, and acquire skills of expression corresponding to the topics discussed.

5. 学習の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquiring A2 level German language skills

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Im Restaurant I

3. Im Restaurant II

4. Im Restaurant III

5. Im Hotel I

6. Im Hotel II

7. Im Hotel III

8. In der Stadt I

9. In der Stadt II

10. In der Stadt III

11. Reise und Verkehr I

12. Reise und Verkehr II

13. Reise und Verkehr III

14. Wetter I

15. Wetter II, 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。そのとき Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。

9. 教科書および参考書：

Szenen 2 ワークブック付き (生協文型店で入手可)

10. 授業時間外学習：毎回の課題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業の課題等は、Google Classroom 上で運営さえる

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB32101, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英詩入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Poetry

3. 授業の目的と概要：英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもありません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ルネサンスから 20 世紀に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。詩はジャンルや約束事が分からないと理解できない作品が多いので、そうした事項を説明しながら詩のテキストを読解してゆきます。詩は読者から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture covers English poetry from the Renaissance to the 20th century, focusing on famous poems in these periods. Because poetry is usually written based on literary tradition and conventions, this lecture pays attention to the knowledge of literary

5. 学習の到達目標：(1) 英文学史の知識を身につける

(2) 英語読解力を身につける

(3) 分析的思考力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history

(2) To be able to think logically and critically

(3) To develop the skill of reading literary texts written in English

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(1) Introduction

(2) Sonnets in the Renaissance: Shakespeare

(3) Sonnets in the Renaissance: Sidney & Spenser

(4) Metaphysical Poets: John Donne

(5) Metaphysical Poets: George Herbert

(6) Poems in neo-classicism: Pope & Dryden

(7) Pre-romantics: Collins & Gray + midterm exam.

(8) Romantic Poets: William Wordsworth

(9) Romantic Poets: Keats & Shelley

(10) Victorian Poets

(11) Emily Dickinson

(12) Poetry in the Modern Era: T. S. Eliot

(13) Poetry in the Modern Era: W. B. Yeats & W. H. Auden

(14) Poetry in the Modern Era: Some American Poets

(15) Review and term-end exam

8. 成績評価方法：

成績評価の方法：ミニペーパー40%、 期末テスト 60%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します

10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語哲学入門

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Language

3. 授業の目的と概要：20 世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture reviews the discussions that have been conducted in analytical philosophy on topics such as reference and meaning.

5. 学習の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。

2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.

2. To understand philosophical arguments about reference and meaning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。

以下の項目を順番に講義する。

1. はじめに
2. 指示と意味
3. 記述の理論 1
4. 記述の理論 2
5. 固有名 1
6. 固有名 2
7. 様々な真理概念 1
8. 様々な真理概念 2
9. 可能世界 1
10. 可能世界 2
11. 名指しと必然性 1
12. 名指しと必然性 2
13. 検証主義
14. 真理条件説
15. まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出（60%）、テスト（40%）

9. 教科書および参考書：

服部裕幸『言語哲学入門』2003 年、勁草書房

Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB32104, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世古文書読解入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). For example, old letters, old acceptance notices, old admission letters, old tuition fee invoices, old tuition fee receipts, old de

5. 学習の到達目標：(1) 中世の原文書を読解できるようになる。

(2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding original warrior documents of Medieval Japan.

(2) Students will acquire the basic knowledge of diplomatics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

1) ガイダンス①

2) ガイダンス②

3) 鎌倉幕府文書 下文

4) 鎌倉幕府文書 政所下文

5) 鎌倉幕府文書 御教書

6) 鎌倉幕府文書 下知状

7) 室町幕府文書 御判御教書

8) 室町幕府文書 御内書

9) 室町幕府文書 奉書系文書

10) 室町幕府文書 命令の傳達・施行

11) 軍事関係文書

12) 戦国大名文書①

13) 戦国大名文書②

14) 譲状、起請文など

15) 授業のまとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (Pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB32105, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思考文献購読・初級 1

2. Course Title (授業題目) : Reading of Chinese Philosophical Classics, Elementary 1

3. 授業の目的と概要：句読点と訓点が施された中国思想文献を読む。漢文の基本的な語法に習熟すると共に、思想文献特有の思惟方法や表現形式に慣れるのが目的である。テキストとしては、日本の江戸期の学者・岡白駒による『蒙求箋注』を予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students will read Chinese thought literature with punctuation and marks of Kun-doku. The purpose of this course is to familiarize the students with the basic grammar of Chinese writing, as well as with the methods of thought and forms of expression peculiar

5. 学習の到達目標：訓点を頼りに中国思想に関する漢文文献を読むことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Able to read Chinese literature on Chinese thought by relying on the punctuation marks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 漢文基礎文法 1
3. 漢文基礎文法 2
4. 漢文基礎文法 3
5. 『論語集説』読解 1
6. 『論語集説』読解 2
7. 『論語集説』読解 3
8. 『論語集説』読解 4
9. 『論語集説』読解 5
10. 『論語集説』読解 6
11. 『論語集説』読解 7
12. 『論語集説』読解 8
13. 『論語集説』読解 9
14. 『論語集説』読解 10
15. 『論語集説』読解 11

8. 成績評価方法：

予習状況と討論での発言状況 (100%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

10. 授業時間外学習：辞書を引き、訓読と現代日本語訳を準備すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：フランス文学概論 I / French Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB32203, 科目ナンバリング：LHM-LIT208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「フランス文学」を通じて何を学ぶのか：その展望および文学史（17 世紀まで）
2. Course Title (授業題目)：French Literature: history and perspectives
3. 授業の目的と概要：1) 今日の日本にあって、「フランス文学」という学問領域を通して何を学ぶことができるのかを考える。
2) 古代から近世にかけてフランス語やフランス語による文学が成立してきた過程の概要をつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We learn about：
1) the meaning of French Literature in today's Japan
2) the history of French and French Literature until the 17th century.
5. 学習の到達目標：一人一人がこれからの日本におけるフランス語・フランス文学のありかたを考えられるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner thinks about French and French Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第 1 回 オリエンテーション / フランス文学と日本
第 2 回 ラテン語からフランス語へ / ウェルギリウス『アエネーイス』 / 英雄像の変遷
第 3 回 『ローランの歌』 / 中世における口承と文書 / フランス文学の翻訳
第 4 回 「ロマン (物語)」の発生 / 『アーサー王の死』 / 結婚とその他
第 5 回 中世文学の担い手たち / 『ジャンヌ・ダルク処刑裁判』 / 牢獄
第 6 回 中世・ルネサンスにおける詩と音楽 / フランソワ・ヴィヨン / 自己
第 7 回 16 世紀概観 / ラブレール『ガルガンチュア物語』 / 日本におけるフランス文学の翻訳
第 8 回 カルヴァン『キリスト教綱要』 / 対抗宗教改革 / 神の探求
第 9 回 日本におけるキリスト教の伝播 / モンテーニュ『エッセー』 / ラテン語とフランス語
第 10 回 17 世紀概観 / 近代フランス語の成立 / デカルトとパスカル
第 11 回 古典主義の美学 / コルネイユ / ジャーナリズムの誕生
第 12 回 フランスの世界進出 / モリエール / オペラ・バレエ
第 13 回 ラシーヌ / 演劇
第 14 回 ラ・フォンテーヌ / フランス語の形成と辞書の歴史
第 15 回 教場レポート
(内容は予定であり、変更があり得ます)
8. 成績評価方法：
出席 (70%) および教場レポート (30%)
9. 教科書および参考書：
永井敦子・畠山達・黒岩卓編著『フランス文学の楽しみかた ウェルギリウスからル・クレジオまで』、ミネルヴァ書房、2021 年。
10. 授業時間外学習：授業後、感想をフィードバックしていただく可能性があります。また期末の教場レポートの作成に向け、各自が準備をすることが求められます。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし

科目名：現代日本学概論 I / Innovative Japanese Studies (General Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB32201, 科目ナンバリング：LHM-OHS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の方法と対象
2. Course Title (授業題目)：Methodology and target of Japanese Studies
3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の基礎的な方法について概説する。「メディア」・「表象」・「言説」をキーワードとして、文化研究の方法としての批評理論を紹介し、具体的な検討を通して理解を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic method of Inovative Japanese Stuidies. In this course, students will understand methods through, tinkng about "media", "representation" and "discourse" as keywords.
5. 学習の到達目標：現代日本学の方法について理解し、先行論文を正確に読めるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic methods of Japanese Studies and be able to read prior papers accurately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 インTRODクシヨン
第2回 「メディア」「表象」「言説」から考える
第3回 批評理論の歴史
第4回 物語論①
第5回 物語論②
第6回 脱構築批評
第7回 メディア論
第8回 表現の不自由
第9回 アダプテーション
第10回 翻訳論
第11回 歴史と物語
第12回 文化研究の思考
第13回 ジェンダー批評
第14回 ポストコロニアル批評
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32202, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：中国明王朝（1368-1644）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the history of the Ming Dynasty (1368-1644) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems r

5. 学習の到達目標：中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Ming dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義をリアルタイムのオンライン形式で行う。

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 元明交替（1）
4. 元明交替（2）
5. 明王朝成立史（3）
6. 官僚制度—中央官制
7. 官僚制度—地方官制
8. 明代中期の歴史（1）
9. 明代中期の歴史（2）
10. 明代科挙制度（1）
11. 明代科挙制度（2）
12. 明末政治史（1）
13. 明末政治史（2）
14. 明清交替
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席点（30%）とレポート（70%）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

板書内容が非常に多くなるので注意すること。

科目名：言語学基礎演習 I / Linguistics (Introductory Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB32302, 科目ナンバリング：LHM-LIN219J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のパラメトリックデータ分析

2. Course Title (授業題目)：Parametric data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。言語使用に関する共通データについて、統計ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今回は、連続量の平均や分散に基づくパラメトリックデータの分析を扱います

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a practical course to cover a range of statistical analyses required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course

5. 学習の到達目標：言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を、とくにパラメトリックデータの側面について把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on parametric data used in language studies. Students are expected to have basic abilities to conduct the appropriate statist

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 変数、記述統計、統計的検定、推測
- (2) 相関分析
- (3) t 検定
- (4) 分散分析
- (5) 回帰分析
- (6) 共分散分析
- (7) 線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：専門中国語／ Italian

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB32305, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級中国語読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students read essays about the differences in Japanese and Chinese cultures and customs. This course aims to enhance their reading comprehension in Mandarin Chinese as well as help them to learn more about the society and culture of China.

5. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays written in modern Mandarin Chinese with accuracy, and they will be able to give concrete examples to explain the differences of Japanese and Chinese cultures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、应该怎么应答？

第2回 客套话

第3回 凉饭与热饭

第4回 饺子

第5回 凉拌西红柿

第6回 淘米

第7回 早点

第8回 鱼刺儿应该放在哪儿？

第9回 被窝

第10回 四二一现象

第11回 起名字的学问

第12回 儿童票

第13回 高考

第14回 身份证

第15回 期末試験

8. 成績評価方法：

【成績評価方法】

課題：60%

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『小点心—あつさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

<参考書>『日本人が知りたい中国人の当たり前：中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016年

10. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『虎明本狂言集』。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Kyōgen collection written by Toraakira". You are required to prepare for class accordingly

5. 学習の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
(2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
(3) Be able

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『虎明本狂言集』
3. 日本語史の研究を知る
4. 『虎明本狂言集』を読む(1)
5. 『虎明本狂言集』を読む(2)
6. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(1)
7. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(2)
8. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(3)
9. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(4)
10. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(5)
11. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(6)
12. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(7)
13. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(8)
14. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(9)
15. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(10)・まとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：池田廣司・北原保雄『大蔵虎明本狂言集の研究』(表現社)、初回講義時にテキストの一部を配布する。
その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language
3. 授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.
5. 学習の到達目標：(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
(2)日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand what is Japanese language teaching
 2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching
 3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
 2. 日本語教育の変遷
 3. 国内外の日本語教育
 4. 日本語教師
 5. 日本語教育の方法1
 6. 日本語教育の方法2
 7. 日本語教育の現場を知る1
 8. 振り返り1
 9. 日本語教育の現場を知る2
 10. 振り返り2
 11. 日本語教育の現場を知る3
 12. 振り返り3
 13. 日本語教育の現場を知る4
 14. 振り返り4
 15. まとめ、日本語教育の役割※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。
8. 成績評価方法：

レポート40%・課題60%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
4回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ネイティブ・ツアーズ：トラベルとツーリズムの文化人類学
 2. Course Title (授業題目)：Native Tours：The Anthropology of Travel and Tourism
 3. 授業の目的と概要：この授業では、Ervec Chambers によるトラベルとツーリズムの文化人類学に関する英語著作の講読を通して、近代ツーリズムの発展やそれがもたらす自然や社会への影響について人類学的に理解することを目的とする。この授業は、学術的な英文の読解力向上を目指す。受講生は、教材テキストを毎回 4-5 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to improve your reading skills in academic English. Students are required to prepare Japanese translations of English texts (4-5 pages per class) and take turns presenting their translations in class. The text to be used is a 2000
 5. 学習の到達目標：(1) 英文読解力を養う。
(2) ツーリズムの発展に関する歴史、エコツーリズムの事例から人類学的なものの見方を学ぶ。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Improve English comprehension skills
(2) Learn anthropological perspectives through a case study of tourism history and eco-tourism.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回から第15回は以下の内容を順次訳し、議論する。
 - 1 From Travel to Tourism
Travel in Historical Perspective
The Advent of Modern Tourism
The Tourist as Subject
Case Study: Touring the American Southwest
 - 2 Tourism, Society, and the Political Economy
Tourism and Economic Development
The Distribution of Economic Costs and Benefits
Tourism as Work
Tourism Policies and Plans
Transnational Dimensions of Tourism
The Politics of Representation
Social Consequences of Tourism
Tourism and Gender
Case Study: Tirol and Rural Tourism
 - 3 Nature, Tourism, and the Environment
Environmental Impacts of Tourism
Tourism to Natural Places
People as Nature
Ecotourism
Case Study: Ecotourism in Belize
 - 4 Tourism and Culture
Tradition, Authenticity, and Modernity
Tourism and Ethnicity
- 毎回、4-5 ページ分の訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。その他、人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう。
8. 成績評価方法：
毎回の授業での訳文の口頭発表 (40%) 出席と議論 (60%)
 9. 教科書および参考書：
テキストを授業中に配布する。
 10. 授業時間外学習：毎回の授業前に約 4-5 ページ分の訳文を準備し、授業後は授業での討論を踏まえて自分の訳文を修正する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：心理学研究法／ Psychological Experiment (Experimentation)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：荒井 崇史. 河地 庸介. 阿部 恒之. 坂井 信之. 辻本 昌弘. RAEVSKIY ALEXAND

コード：LB32307, 科目ナンバリング：LHM-PSY209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and a

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students acquire the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 心理統計の基礎
4. 心理統計解析法
5. 文献検索・レポート作成法
6. 実験法 1 (基礎)
7. 実験法 2 (動物実験)
8. 質問紙法 (作成と実施)
9. 観察法・フィールドワーク
10. 面接法
11. 質問紙法 (実施後の処理)
12. 心理検査法
13. 心理統計解析実習
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名: 東洋・日本美術史基礎実習 / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時: 前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター: 3 単位数: 2

担当教員: 長岡 龍作. 杉本 欣久

コード: LB32306, 科目ナンバリング: LHM-ART205J, 使用言語: 日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目: 美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目): 美術作品取り扱いの理論と実践
3. 授業の目的と概要: 素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要): In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Pr
5. 学習の到達目標: 美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標): Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進捗予定:

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

 1. ガイダンス
 2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
 3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
 4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
 5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
 6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
 7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
 8. 篆書(ハンコ)を読む
 9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
 10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
 11. 「仏像」の基礎と取り扱い
 12. カメラの撮影と画像の使用
 13. 箱の扱いと結び・工芸品の展示
 14. 博物館・美術館見学
 15. 取り扱い復習
8. 成績評価方法:

出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書:

資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習: 展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他: なし

4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)もあわせて履修することが望ましい。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。
基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：前期 火曜日 4講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB32404, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習 (1)

2. Course Title (授業題目)：Reading Practice in English 1

3. 授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to increase students' knowledge of English vocabulary and expressions, to develop their ability to read English texts accurately, and to learn about the English language by reading a book about how the English language has developed.

5. 学習の到達目標：(1) 英語の語彙や表現の知識を増やす。

(2) 英文を正確に読むことができるようになる。

(3) 英語という言語に関する知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will increase their knowledge of English vocabulary and expressions.

(2) Students will learn to read English passages accurately.

(3) Students will acquire knowledge of the English language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに10頁前後読み進めていきます。

事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。

それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。

また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第1回 オリエンテーション

第2回 Chapter 1 The Common Tongue (1)

第3回 Chapter 1 The Common Tongue (2)

第4回 Chapter 2 The Great Escape (1)

第5回 Chapter 2 The Great Escape (2)

第6回 Chapter 3 Conquest

第7回 Chapter 4 Holding On

第8回 Chapter 5 The Speech of Kings (1)

第9回 Chapter 5 The Speech of Kings (2)

第10回 Chapter 6 Chaucer

第11回 Chapter 7 God's English

第12回 Chapter 8 English and the Language of the State

第13回 Chapter 9 William Tyndale's Bible

第14回 Chapter 10 A Renaissance of Words

第15回 Chapter 11 Preparing the Ground

8. 成績評価方法：

授業への参加 (20%)、発表担当 (50%)、コメントペーパーの提出 (30%)

9. 教科書および参考書：

Melvyn Bragg, The Adventure of English: The Biography of a Language

10. 授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。

また、復習をして知識の定着を図りましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB32401, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax I

3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。

2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。

3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：英語の普遍性と特殊性

第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論

第4回：英語音声の基本的特徴

第5回：英語の綴り字と発音

第6回：英語のリズムとイントネーション

第7回：文をつくる規則：句構造規則

第8回：句構造規則と文法

第9回：構成素について

第10回：樹形図と構造関係

第11回：構造関係に基づく文法原理

第12回：文、樹形図、文法原理の関係

第13回：品詞と歴史的变化

第14回：語彙と意味の歴史的变化

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テスト (50%), 期末テスト (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書/textbook：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

Not required. Handouts are distributed for each class.

参考書/reference book：

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

Students are required to review each class using handouts.

Students are also expected to read the reference books in advance.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

副読本の内容確認テストについては初回の講義で説明する。

Details on the short tests will be given in the first lecture.

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB32403, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。)

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布、もしくは URL を共有します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進度予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB32502, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course serves as an introductory course on social surveys. It helps students understand the basics of questionnaire design, sampling, interviewing, data analysis, and research ethics.

5. 学習の到達目標：社会調査に関する基本的な知識を修得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course helps students acquire basic knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』(改訂版) 放送大学教育振興会、2009.

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- (1) 行動科学概論 (社会調査の実際) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：中国語基礎演習／ Chinese Literature (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：張 佩茹

コード：LB32503, 科目ナンバリング：LHM-LIT214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：初級中国語

2. Course Title (授業題目) : Mandarin Chinese for Beginners

3. 授業の目的と概要：この授業は初心者を対象とするもので、中国語の基礎となる発音と文法事項を一通り学び、今後の勉学の土台作りをしておくことを目的とする。まず、中国語の発音と表記法（ピンイン）を習得する。発音練習を繰り返すことによって、記号と実際の発音との結びつきを定着させる。次に、日常的なコミュニケーションに役立つ基礎単語や文法事項を学習していく。この授業を通じて、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく習得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is designed for students who learn Mandarin Chinese for the first time. It covers pronunciation and basic grammar of Mandarin Chinese, which will serve as a foundation for further learning. First of all, students learn how to pronounce Mandari

5. 学習の到達目標：1. 中国語の発音を弁別でき、ピンインの表記を熟知する。

2. 中国の基礎単語および基礎文法を身につけて、簡単な日常会話ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students will be able to differentiate various sounds in Mandarin Chinese and familiarize themselves with the Pinyin system.

(2) Students will learn basic vocabulary words and grammar and be able to carry out simple daily conversations in Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>

テキストの会話文を使い、置き換え練習やロールプレイを通じて学習内容の定着を図る。

<進度予定>

第1回 オリエンテーション、発音（1）

第2回 発音（2）

第3回 第1課 はじめまして

第4回 第2課 とてもおいしいです

第5回 第3課 うどんを食べたことがありますか

第6回 第4課 彼女は今年20歳です

第7回 第5課 お子さんは何人いらっしゃいますか

第8回 第6課 うちが駅の近くにいます

第9回 第7課 お茶をどうぞ

第10回 第8課 そのうち一緒に食べに行きましょう

第11回 第9課 浅草寺に行ってみたいです

第12回 第10課 どこで買ったのですか

第13回 第11課 電車にしますかそれとも地下鉄にしますか

第14回 第12課 私は福建省から来たんです

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60%（授業態度、小テストなど）

期末試験：40%（口頭および筆記）

9. 教科書および参考書：

<教科書> 『中国語で伝えよう』楊凱榮・張麗群著、朝日出版社、2019年

<参考書> 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：事前に内容を確認し、例文や本文の意味を訳しておく。

復習：学習した部分を読み返し、理解できたかを確認する。また、音声がか正確に聞き取れるまで、CDを繰り返し聞くこと。また、音読の練習も3回以上すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32504, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読（1）

2. Course Title (授業題目)：ERSHIERSHIZHAJI (Reading) (1)

3. 授業の目的と概要：中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として、清趙翼『廿二史劄記』明史の記述をテキストとする。受講者は、このテキストを読解し、訓読と現代日本語訳を作成する作業を体験する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Ershiershizhaji”.

5. 学習の到達目標：中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the basic skills to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の1～2回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。本年度は巻31を読み進める予定。

1、ガイダンス：授業の進め方について

2、『廿二史劄記』について/漢文の語法について

3、『廿二史劄記』明史講読（1）

4、『廿二史劄記』明史講読（2）

5、『廿二史劄記』明史講読（3）

6、『廿二史劄記』明史講読（4）

7、『廿二史劄記』明史講読（5）

8、『廿二史劄記』明史講読（6）

9、『廿二史劄記』明史講読（7）

10、『廿二史劄記』明史講読（8）

11、『廿二史劄記』明史講読（9）

12、『廿二史劄記』明史講読（10）

13、『廿二史劄記』明史講読（11）

14、『廿二史劄記』明史講読（12）

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2回目の授業以降、毎回の発表内容によって評価する。

9. 教科書および参考書：

配布した資料を用いて授業を進める。

10. 授業時間外学習：訓読・日本語訳の作成を毎回行って授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB32505, 科目ナンバリング：LHM-LIN223J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異文化コミュニケーション

2. Course Title (授業題目) : Cross-cultural communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学習者との会話セッションを通して日本語を母語としない日本語学習者との異文化コミュニケーションへの理解を深め、円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。日本語学習者との会話セッションへの参加経験、論文の講読や講義、他の受講生とのディスカッションをしながら異文化コミュニケーションについて考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to deepen students' understanding of cross-cultural communication with non-native speakers of Japanese through conversation sessions, while also enabling them to communicate smoothly. Students will consider cross-cultural communication th

5. 学習の到達目標：・コミュニケーション能力とは何かを説明することができる

・日本語教育を行う上で必要なコミュニケーション能力を向上させることができる

・異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを理解し、実践することができる

・円滑なコミュニケーションを実現するための言語・非言語行動の様相や方略について理解し、実践することができる

・異文化接触によって生じる問題とその解決、その際の学習者の心的側面について理解する

多言語・多文化社会について理解し、異なる文化・言語を持つ人々

6. Learning Goals(学修の到達目標) :-To be able to explain what communicative competence is

-To be able to improve communication skills necessary for teaching Japanese

-Understand and use the knowledge and skills necessary for smooth communication with people from different cultural backg

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (4/9)：イントロダクション

第2回 (4/16)：コミュニケーションとは①

第3回 (4/23)：コミュニケーションとは②

第4回 (5/7)：言語的・非言語的コミュニケーション

第5回 (5/14)：コミュニケーションの背景にある異文化

第6回 (5/21)：コミュニケーション能力とは①

第7回 (5/28)：コミュニケーション能力とは②

第8回 (6/4)：日本語学習者の日本語①

第9回 (6/11)：日本語学習者の日本語②

第10回 (6/18)：日本語母語話者の日本語①

第11回 (6/25)：日本語母語話者の日本語②

第12回 (7/2)：接触場面でのコミュニケーション

第13回 (7/9)：コミュニケーションストラテジー

第14回 (7/16)：異文化コミュニケーションと社会

第15回 (7/23)：まとめ

4/30 は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業での課題（毎週のラーニングジャーナルを含む）30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：この授業では、第2回目の授業から第14回目の授業まで 17:30-18:30 に実施する日本語学習者との会話セッションに参加してもらいます。授業の終了は 18:30 になります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB32501, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アートの誕生現場：14 世紀から現代まで

2. Course Title (授業題目)：The Birth of Art: From the 14th Century to the Present

3. 授業の目的と概要：中世末期から現代にかけての絵画および彫刻の発展過程を理解するためには、「アーティスト」および「アート」という概念の形成過程を理解することが必要不可欠です。この授業では、信仰や崇拜の対象として制作されていた絵画や彫刻が、いかにして現代の私たちが知るアートへと「変容」していったかを、特に重要な役割を果たした作品および事例の分析を通じて概観します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to understand the development of painting and sculpture from the late Middle Ages to the present day, it is essential to understand how the concepts of "artist" and "art" were formed. In this course, we will look at how paintings and sculptures,

5. 学習の到達目標：アーティストおよびアートという概念の形成過程を具体的な作品および作家を通じて理解する。

美術作品の視覚的分析のための具体的な観点および手順（特にイコノグラフィ、様式と形式）を理解する。

14 世紀から現代までの重要な美術作品を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the process of formation of the concepts of artist and art through specific works and artists. Understand the specific perspectives and procedures (especially iconography, style and form) for the visual analysis of works of art.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：アートとは コミック作品『 QED 』『ファイハの画集』を起点として

2：アートワールド

3：イコノグラフィ 1) 美術作品を分析する方法

4：イコノグラフィ 2) 「時代の目」

5：形式と様式

6：署名と自画像

7：アーティスト誕生の瞬間 1

8：アーティスト誕生の瞬間 2

9：炎上するアーティストたち

10：美術アカデミーの誕生

11：「本物そっくり」とは何か

12；印象主義から ファン・ゴッホへ

13：写真術とピカソ

14：アートの勝利

15：アートの昨日と近未来

(註：資料作成の過程で発見した内容に基づいて変更することがあります)

8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：フランス語学演習 I / French Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB52101, 科目ナンバリング：LHM-LIT335J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス語の歴史と諸相（1）
2. Course Title (授業題目)：The history of French language and the francophonie (1)
3. 授業の目的と概要：フランス語の歴史をその起源から学び、また現代世界におけるその広がりについて学びます。指定された教科書 (Mireille Huchon, Histoire de la langue française, Paris, Le Livre de poche, 2002) を基に、フランス語の起源から今日におけるまでの歴史を概観します。同時に仏文解釈の練習も行います。前期・後期を別々に受講することも可能ですが、両方を受講することで理解がより深まります。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We learn about the history of the French language from its origin to nowadays. We will also excise French-Japanese translation.
5. 学習の到達目標：フランス語の起源と歴史、現代におけるその諸相についての基礎知識を習得する。また仏文解釈のスキルを向上させる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner acquires basic knowledge about the history of the French language. Also, he/she will have a better proficiency in French-Japanese translation.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
(以下に対象とする教科書のページ数を記します。実際には変更がありえます。)
第一回 pp. 11-25.
第二回 pp. 27-37.
第三回 pp. 37-47.
第四回 pp. 47-58.
第五回 pp. 59-70.
第六回 pp. 71-80.
第七回 pp. 80-90.
第八回 pp. 90-99.
第九回 pp. 99-108.
第十回 pp. 109-118.
第十一回 pp. 119-131.
第十二回 pp. 131-138.
第十三回 pp. 138-147.
第十四回 まとめ (1)
第十五回 まとめ (2)
8. 成績評価方法：
出席点 100% (毎週の仏文和訳)
9. 教科書および参考書：
Mireille Huchon, Histoire de la langue française, Paris, Le Livre de poche, 2002.
10. 授業時間外学習：指定箇所 of 仏文和訳が必要になります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB52102, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談

2. Course Title (授業題目)：A study of ghost folklore from American colleges

3. 授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" という民俗誌を読み、"ghostlore", つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊, 大学, アメリカ, 伝承, フォークロア, 死生観, 通過儀礼, 異文化)

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern "ghostlore" found on American college campuses. We will focus on one asp

5. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Reading the text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" we will progress from Chapter 1 through Chapter 8. The tentative schedule is as follows: First semester: Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; Second semester: Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.

8. 成績評価方法：

授業中のディスカッションおよび課題：30%; オンライン小テスト (Google classroom)：70%.

9. 教科書および参考書：

Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007) ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RN01AY

10. 授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1~3 時間の自主的学修をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

The textbook "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" is required. Paperback or Kindle.

科目名：インド仏教史各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism tran
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp.4-139.

※ コピーを配布する
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中村 嘉菜子

コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-LIN301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語音声学入門

2. Course Title (授業題目)：English Phonetics

3. 授業の目的と概要：この授業で受講生は、音声学の基礎を学ぶ。主に、英語と日本語の音声の特徴を観察、分析することで、音声学の観点から英語の発音についてより理解を深める。さらに、Praat などを用いて自分の音声を録音したり分析したりすることで、音声学の研究手法を体験し、音声を対象とした研究の目的と意義を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn the basics of phonetics. Mainly, students are expected to better understand English pronunciation from a phonetics perspective by observing and analyzing the characteristics of English and Japanese speech sounds. In add

5. 学習の到達目標：(1) 音声学の基礎的な考え方や分析方法について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(2) 英語の音声に見られる特徴や、音の分類について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

(3) 日本語と英語の音声の違いと共通点について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Understand the basic concepts and analytical methods of phonetics, and be able to explain them with specific examples.

(2) To understand the characteristics of English speech and the classification of sounds, and to be able to explain them with speci

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲については授業内で指示する。なお、受講生の理解度や興味にもとづいて内容を変更することある。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介、発表担当箇所の割振り
2. 第1章 1回目 音声学での音の区切り方、調音（声帯・軟口蓋の役割）
3. 第1章 2回目 VPM ラベル
4. 第2章 1回目 英語の子音群
5. 第2章 2回目 音素と異音
6. 第3章 1回目 つづりと発音
7. 第3章 2回目 音節と強勢1
8. 第3章 3回目 音節と強勢2
9. 第4章 イントネーション核の置き方、発音練習
10. 第5章 英語のリズムとフット、発音練習
11. Praat の使い方
12. Praat 実技1
13. Praat 実技2
14. Praat 実技3
15. 総括、レポート発表

8. 成績評価方法：

1. 授業参加 30%
2. 授業内発表 20%
3. 期末レポートと発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書/textbook：入門英語音声学 服部範子著 研究者 2021年

10. 授業時間外学習：教科書の該当範囲を予習すること。

Students are expected to read the textbook in advance.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。

Students will need to download the Praat software for speech analysis.

科目名：言語学各論Ⅱ／Linguistics (Special Lecture) II

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB52204, 科目ナンバリング：LHM-LIN330J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB52207, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Uncertainty

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにかに論じるかを探ってみたい。とくに、いわゆる「リスク社会」論では相対的に見過ごされてきたジェンダーとリスクとの関連について、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern

5. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する

・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

・ジェンダーとリスクとの関連を捉えるための視角を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:

(1)Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts

(2)Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

(3)Students will be able to devel

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. リスク論の社会(科)学的基礎

3. リスクと社会理論

4. ジェンダー化されたリスクの視点(1)

5. ジェンダー化されたリスクの視点(2)

6. ジェンダー化されたリスクの視点(3)

7. ジェンダー化されたリスクの視点(4)

8. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(1)

9. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(2)

10. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(3)

11. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(4)

12. 犯罪のリスクとジェンダー(1)

13. 犯罪のリスクとジェンダー(2)

14. 犯罪のリスクとジェンダー(3)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点50%と提出レポート50%による。

9. 教科書および参考書：

Kelly Hannah-Moffat and Pat O’Malley(eds.), 2007, “Gendered Risks”, Routledge-Cavendish

J. O. Zinn, 2008, “Social Theories of Risk and Uncertainty”, Blackwell.

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB52206, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB51206, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法Ⅰ－語の意味分析

2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language I:analysis of word meanings

3. 授業の目的と概要：言語にとって意味というものは欠かすことのできない側面であるが、それをとらえるのは思いのほかむずかしい。そこで、ここでは語の意味にしぼって、それがどのようなものであるのかを検討する。検討にあたっては、現代日本語の類義語をとりあげ、具体的な例文にもとづき類義語の差異を分析し、また、議論しながら、語の意味について考えていくことにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, we will examine the meanings of words. We will take up synonyms in modern Japanese, analyze the differences between synonyms based on concrete example sentences, and consider the meaning of words through discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 言語における意味、意味分析の方法の概略が説明できるようになる。

(2) 現代日本語の具体的な例文にもとづき、語の意味を分析することができるようになる。

(3) 言語調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) To be able to give an outline of meaning in language and of methods of semantic analysis.

(2) To be able to analyze the meaning of words based on concrete examples of modern Japanese.

(3) To be able to

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究の技法
3. 語の意味とは何か
4. 意味分析の方法①
5. 意味分析の方法②
6. 意味分析の実践①
7. 意味分析の実践②
8. 意味分析の実践③
9. 意味分析の実践④
10. 意味分析の実践⑤
11. 意味分析の実践⑥
12. 意味分析の実践⑦
13. 意味分析の実践⑧
14. 意味分析の実践⑨
15. 意味分析の実践⑩、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要な資料、テキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：意味および意味研究の方法にかかわる文献資料を読んで参加する。意味分析の方法について検討する。

類義語の意味についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB52201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要： 平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of literature and culture through reading the original of this classical tale.

5. 学習の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める

- 1 『平家物語』の特質と概要
- 2 『平家物語』の成立と諸本
- 3 序文のしくみと機能 — 巻第一「祇園精舎」より —
- 4 都をめぐる観念 — 巻第一「殿上閣討」より —
- 5 制度と祝祭 — 巻第一「禿髪」、「吾身栄花」より —
- 6 芸能と仏道 — 巻第一「祇王」より —
- 7 事実の置き換えが意味するもの — 巻第一「殿下乗合」より —
- 8 歴史叙述と祝祭性 — 鹿の谷事件をめぐる —
- 9 登場人物の形象の変移 — 藤原成親に着目して —
- 10 空間の多様な見え方 — 「きかいが島」に着目して —
- 11 登場人物の対照性 — 平清盛と平重盛 —
- 12 戦いの表現が指向するもの — 巻第四「橋合戦」より —
- 13 都をめぐる観念 — 福原遷都をめぐる —
- 14 「悪」の表現が意味するもの — 平清盛の形象 —
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義（『平家物語』の研究）は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダー/セクシュアリティと倫理

2. Course Title (授業題目)：Gender/sexuality introduction

3. 授業の目的と概要： 応用倫理学では、理論だけではなく、社会問題が起きている現場のリアリティを学びながら、「私たちはどう行動すべきか」を検討しなければなりません。本講義では、ジェンダー/セクシュアリティをテーマに挙げ、社会問題の背景にある歴史的な文脈・社会構造を学びながら、倫理的考察を進める方法を学びます。狭義の倫理学の知識だけではなく、社会学、心理学、歴史学等の知見を援用しながら、授業を進めます。

本講義はケーススタディを行います。センシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In applied ethics, we must examine "how we should act" while learning not only theory but also the reality of the field where ethical conflicts are arising. This course highlights one of the most controversial topics of our time, gender/sexuality, and pro

5. 学習の到達目標：(1)ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識を身につける。

(2)社会問題の背景にある構造や歴史的な文脈・社会構造について理解する。

(3)実際に起きている社会問題を、倫理的に検討するための基礎的な技術を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire a basic knowledge of gender/sexuality.

(2) To understand the structures behind ethical conflicts and the historical context and social structures.

(3) To develop basic skills to examine actual social phenomena from an ethical point of view

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回： 「なぜ、ジェンダー/セクシュアリティについて学ぶのか？」(授業ガイダンス)

第二回：「男女平等であるべきか？」(フェミニズムの歴史、バックラッシュ、トランス差別等)

第三回：「家族は大事にすべきか？」(家父長制、軍隊と家族、人口政策、同性婚等)

第四回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第五回：「家庭内の暴力に第三者は介入すべきか？」(DV、児童虐待等)

第六回：「性暴力被害者を支援すべきか？」(司法制度内の性差別、トラウマ、被害者支援等)

第七回：「性表現を規制すべきか？」(マスメディアの性差別、ポルノ問題、インターネット等)

第八回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第九回：「男女は同じ労働をすべきか？」(教育・労働・スポーツにおける性差別等)

第十回：「性労働を合法化すべきか？」(避妊法、HIV/性感染症、セックスワーカーの権利等)

第十一回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第十二回：「薬剤による中絶を認めるべきか？」(中絶、ピル等)

第十三回：「障害を持つ子どもにも権利を保障すべきか？」(障害者運動の歴史、出生前診断等)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学 ジェンダー論入門』第3版、有斐閣アルマ、2019年。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

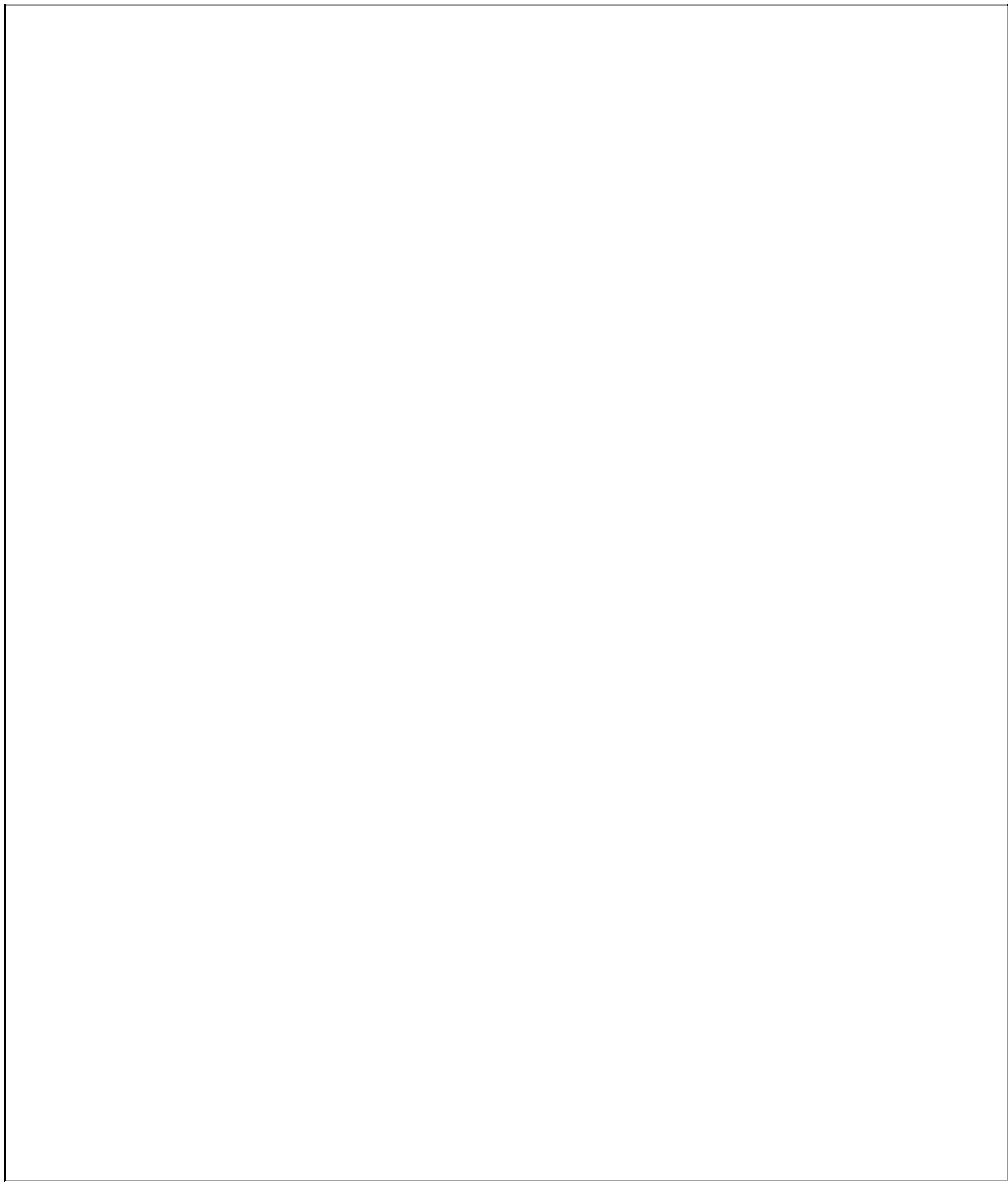
10. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし



科目名：日本語論文作成法 I / Advanced Japanese for Academic writing I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB72201, 科目ナンバリング：LHM-OHU304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to pra

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
クラスコードは、653hi7w です。
classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%
以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：現代日本学各論Ⅱ／

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB52301, 科目ナンバリング：LHM-OHS302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：13の瞬間から見る戦後日本史
2. Course Title (授業題目)：Postwar Japanese History as Seen through 13 Moments
3. 授業の目的と概要：この授業では、13の重要な瞬間の検討を通じて、第二次世界大戦の終結から現在までの日本の歴史を探求する。災害、世界との新たな関わり、政治・経済の変化、その他の注目すべき出来事を含め、新しい視点から戦後を概観し、戦後の社会と政治の根底にある連続性と非連続性の両方の線、そして戦後の世界秩序における日本の位置を規定した地域と世界のつながりを浮き彫りにします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explores the history of the period from the end of the Second World War to the present in Japan through an examination of 13 important moments. Including disasters, new engagements with the world, political and economic shifts, and other notab
5. 学習の到達目標：このクラスの主な目的は、戦後日本についての理解を深めるとともに、個々の出来事をより長い歴史的展開と結びつける手段を紹介することである。また、このテーマに関する英語での研究知識も身につけます。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goals of the class are to build an understanding of the Japanese postwar among students while also demonstrating the means by which to connect individual moments with longer historical developments. Students will also gain familiarity with Eng
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：序論
 - 第2回：戦後日本史：概論
 - 第3回：1945年8月15日
 - 第4回：1946年10月21日
 - 第5回：1947年1月31日
 - 第6回：1950年6月25日
 - 第7回：1960年6月15日
 - 第8回：1964年10月10日
 - 第9回：1971年4月10日
 - 第10回：1972年8月23日
 - 第11回：1985年9月22日
 - 第12回：1989年1月7日
 - 第13回：1995年1月7日・3月20日
 - 第14回：1997年7月7日
 - 第15回：2001年3月11日
8. 成績評価方法：
 - 一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】
9. 教科書および参考書：
 - 各時間に適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：Readings will be distributed for each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
 - This class is taught in English. All readings are in English, but assignments can be submitted in English or Japanese.
 - このクラスは英語で行われます。リーディングはすべて英語で行われますが、課題の提出は英語または日本語で可能です。

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB52303, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約20万件あり、これらの資料はおよそ90年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた縄文時代および弥生時代研究の特質について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In Tohoku University there are many collections of the various fields. Approximately 200,000 of archaeology artifacts are in those. Those archaeology artifacts has been collected by investigations for more than 90 years.

This course provides explanations

5. 学習の到達目標：(1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。

(2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1) Archaeology collection of Tohoku University.

(2) The academic significance of the collection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における縄文文化研究 (1)
8. 東北大学における縄文文化研究 (2)
9. 東北大学における縄文文化研究 (3)
10. 東北大学における縄文文化研究 (4)
11. 東北大学における弥生文化研究 (1)
12. 東北大学における弥生文化研究 (2)
13. 東北大学における弥生文化研究 (3)
14. 東北大学における弥生文化研究 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB52304, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会階層と不平等の計量分析
2. Course Title (授業題目)：Quantitative Analysis on Social Stratification and Inequality
3. 授業の目的と概要：社会階層と不平等に関わる諸問題について、英語のリーディングを教材として理論と量的データ分析の方法への理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a variety of topics on social stratification and inequality. Students learn theories and statistical methods of relevant areas through reading and discussion of literature.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 決められた担当回の発表を通じて、学術的な発表の経験を積む
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review
(2) To learn academic presentation skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 社会階層と不平等の理論 (1)
 3. 社会階層と不平等の理論 (2)
 4. 社会階層と不平等の理論 (3)
 5. 社会階層と不平等の理論 (4)
 6. 教育 (1)
 7. 教育 (2)
 8. 労働市場
 9. ジェンダー (1)
 10. ジェンダー (2)
 11. 人種・エスニシティ
 12. 社会関係資本
 13. 文化資本
 14. グローバリゼーション
 15. 総括討論
8. 成績評価方法：
授業への積極的参加、文献の担当回における発表および課題提出
9. 教科書および参考書：
Social Stratification: Class, Race, and Gender in Sociological Perspective (4th), edited by David Grusky, 2014.

必要な範囲についてコピーを用意する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読んで上で授業に出席することが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：間芝 志保

コード：LB52305, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教社会学
 2. Course Title (授業題目)：Sociology of Religion in Japan
 3. 授業の目的と概要：①日本の宗教実践（特に葬送墓制、死別、巡礼、パワースポットブームなど）を対象とした英語論文を講読する。②外国人研究者が日本の宗教をどのようにとらえ、どのような点に注目しているかを理解する。③国内の研究動向との関連をディスカッションする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：(1) read English-language articles on Japanese religious practices (funeral and grave systems, bereavement, pilgrimage, power spot boom, etc.) (2) understand how foreign researchers view Japanese religions and what points they focus on (3) discuss the rel
 5. 学習の到達目標：「宗教と社会」という問題をとらえるための視座を養う。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn about a basic framework for the study of religion and the sociology of religion in Japan.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・各回1名の受講者が報告を担当する。報告者は課題論文を熟読し、要約したレジュメを作成し、報告を行う。
 - ・誰がいつ何を報告するかは初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に出席すること（どうしても出席できない場合は応相談）。
 - ・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。
 - (1) イントロダクション
 - (2) 日本の宗教社会学史概説講義①
 - (3) 日本の宗教社会学史概説講義②
 - (4) 現代日本の葬送墓制①
 - (5) 現代日本の葬送墓制②
 - (6) 現代日本の葬送墓制③
 - (7) 現代日本の葬送墓制④
 - (8) 日本の寺院・新宗教①
 - (9) 日本の寺院・新宗教②
 - (10) 日本の寺院・新宗教③
 - (11) 日本およびアジアの巡礼①
 - (12) 日本およびアジアの巡礼②
 - (13) 日本およびアジアの巡礼③
 - (14) 日本およびアジアの巡礼④
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：

レジュメによる報告 もしくは 期末レポートの提出による。
9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項は事典等で調べておく。

授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：生命の哲学
2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of life
3. 授業の目的と概要：20世紀以降の生命の哲学／生物学の哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of life and philosophy of biology since the 20th century and understand their basic structure.
5. 学習の到達目標：・生命哲学／生物学の哲学の基本概念について説明をすることができる。
・生命哲学／生物学の哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of life and the philosophy of biology
・Discuss the fundamental issues in the philosophy of life and the philosophy of biology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』/ Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス 生物学の哲学への招待』)の文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。
 - 1, オリエンテーション
 - 2, ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(1)
 - 3, ゲシュタルトクライス ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(2)
 - 4, ゲシュタルトクライス 相即原理
 - 5, ゲシュタルトクライス 生物学的行為と主体
 - 6, ゲシュタルトクライス パトスの範疇
 - 7, 生物学的機能 生物の固有機能
 - 8, 生物学的機能 機能と自然選択
 - 9, 生物学的機能 機能とデザイン
 - 10, 生物学的機能と適応、自然のデザイン
 - 11, 進化的説明(1)
 - 12, 進化的説明(2)
 - 13, 進化と人間本性(1)
 - 14, 進化と人間本性(2)
 - 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス』木村敏、濱中淑彦訳 / Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス』松本 俊吉監修・解題は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB52302, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世日本周縁地域史の研究

2. Course Title (授業題目)：Research on the History of the Peripheral Regions of Medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 授業担当者が行っている、中世日本国の東西周縁部の比較研究の一端について講義する。前半は、主として東北地方と南九州における歴史認識や正統観念について講ずる。後半は、主として東北地方の歴史資料について論ずる。授業を通して、日本中世の国家構造について理解を深めるとともに、歴史研究の具体的方法について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This lecture will cover some aspects of the class instructor's comparative research on the eastern and western peripheries of medieval Japan. The first half of the lecture will focus mainly on historical perceptions and notions of legitimacy in the Tōhoku

5. 学習の到達目標：1. 中世日本の国家構造について理解する。

2. 歴史研究の具体的方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To understand the structure of the medieval Japanese state.

2. To acquire specific methods of historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 西の周縁地域 (1)
3. 西の周縁地域 (2)
4. 西の周縁地域 (3)
5. 東西周縁地域の比較 (1)
6. 東西周縁地域の比較 (2)
6. 東西周縁地域の比較 (3)
7. 東西周縁知己の比較 (4)
8. 史料論 (1)
9. 史料論 (2)
10. 史料論 (3)
11. 史料論 (4)
12. 史料論 (5)
13. 史料論 (6)
14. 史料論 (7)
15. まとめと試験

原則として対面

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他 (講義中における発表の内容と授業への参加度) [20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：授業中に紹介される研究書や論文を、各自で検討する。

Students will review on their own research books and papers introduced in class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：心理学特殊実験Ⅰ／ Individual Instruction on Psychological Study I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之. 荒井 崇史. 大森 美香. 河地 庸介. 坂井 信之. 辻本 昌弘

コード：LB52308, 科目ナンバリング：LHM-PSY324J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅰ
2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study I
3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.
5. 学習の到達目標：心理学の実験や調査の方法を実践的に修得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. ガイダンス
 2. 研究テーマの選定 1
 3. 研究テーマの選定 2
 4. 文献の検討 1
 5. 文献の検討 2
 6. 研究計画の立案 1
 7. 研究計画の立案 2
 8. 実験・調査の実施 1
 9. 実験・調査の実施 2
 10. 実験・調査の実施 3
 11. 実験・調査の実施 4
 12. データの分析 1
 13. データの分析 2
 14. レポート作成 1
 15. レポート作成 2
8. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
心理学専修の学生は必ず履修してください（履修できるは、原則として心理学専修の学生に限ります）。次セメスターの心理学特殊実験Ⅱと連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：博物館実習Ⅳ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅳ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久. 長岡 龍作

コード：LB52309, 科目ナンバリング：LHM-CUM309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：美術作品取り扱いの理論と実践

3. 授業の目的と概要：素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.

1. Handling artwork and how to research artworks
2. The thought for exhibition and practice
3. Pr

5. 学習の到達目標：美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目ではClassroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い2
8. 篆書(ハンコ)を読む
9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
11. 「仏像」の基礎と取り扱い
12. カメラの撮影と画像の使用
13. 箱の扱いと結び・工芸品の展示
14. 博物館・美術館見学
15. 取り扱い復習

8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)もあわせて履修することが望ましい。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

科目名：博物館実習Ⅴ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅴ

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB52310, 科目ナンバリング：LHM-CUM310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品分析入門：構図から細部までをいかに観察し記述するか
2. Course Title (授業題目)：Visual analysis of works of art: How to observe and describe from composition to detail
3. 授業の目的と概要：美術作品を視覚的に分析し、言語化するための手順と観点、およびインターネットおよび文献資料を通じて作品の画像資料および基本的データを収集する方法を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Understanding the procedures and perspectives for visual analysis works of art and linguistically describing them, and learn how to research imagery and basic data of the work through the Internet and literature.
5. 学習の到達目標：美術作品の視覚的分析、資料調査、カタログ記述を自ら行う力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquiring the ability to perform visual analysis of works of art, material research, and catalog description.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：美術作品の視覚的分析一目的と目標
 - 2：客観的なことばを目指して
 - 3：フォーマット
 - 4：構図
 - 5：空間
 - 6：色彩
 - 7：明暗
 - 8：線
 - 9：モデリング
 - 10：人物像
 - 12：見学会（場所、展覧会等は未定）
 - 13：作品研究ポスターの制作（1）作品の選定
 - 14：作品研究ポスターの制作（2）中間発表
 - 15：作品研究ポスターの発表（見学会の時期、集中講義の予定等により、内容の変更や休講がある場合があります）
8. 成績評価方法：

出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業中に指示します。
10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB52307, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品分析入門：構図から細部までをいかに観察し記述するか
2. Course Title (授業題目)：Visual analysis of works of art: How to observe and describe from composition to detail
3. 授業の目的と概要：美術作品を視覚的に分析し、言語化するための手順と観点、およびインターネットおよび文献資料を通じて作品の画像資料および基本的データを収集する方法を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Understanding the procedures and perspectives for visual analysis works of art and linguistically describing them, and learn how to research imagery and basic data of the work through the Internet and literature.
5. 学習の到達目標：美術作品の視覚的分析、資料調査、カタログ記述を自ら行う力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquiring the ability to perform visual analysis of works of art, material research, and catalog description.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：美術作品の視覚的分析一目的と目標
 - 2：客観的なことばを目指して
 - 3：フォーマット
 - 4：構図
 - 5：空間
 - 6：色彩
 - 7：明暗
 - 8：線
 - 9：モデリング
 - 10：人物像
 - 12：見学会（場所、展覧会等は未定）
 - 13：作品研究ポスターの制作（1）作品の選定
 - 14：作品研究ポスターの制作（2）中間発表
 - 15：作品研究ポスターの発表（見学会の時期、集中講義の予定等により、内容の変更や休講がある場合があります）
8. 成績評価方法：

出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業中に指示します。
10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学演習 I / English Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：福士 航

コード：LB52406, 科目ナンバリング：LHM-LIT320J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：As You Like It を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading As You Like It
3. 授業の目的と概要：William Shakespeare, *As You Like It* を参加者全員で精読する。英語を正確に読むことはもちろん、作品の内包するイメージ・シンボル、構造なども読解することが要求される。授業では毎回担当者を決めて該当箇所の日本語訳とコメントをしてもらう。その後参加者でディスカッションを行い、テキストの理解を深める。最終的に作品論を書いてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will be required to do the 'close reading' of William Shakespeare, *As You Like It*. 'Close Reading' in this class means not only understanding Shakespeare's English correctly but also reading, for example, images, symbols, structures of the text
5. 学習の到達目標：1. Shakespeare の英語（初期近代英語）の理解を深める。
2. 文学批評の理解を深める。
3. 文学作品の作品論を書く能力を涵養する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To understand Shakespeare's English (Early Modern English)
2. To understand literary criticism
3. To build up a competency to write an academic essay on a literary text
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Act 1 Scene 1
 3. Act 1 Scene 2
 4. Act 1 Scene 3, Act 2 Scene 1
 5. Act 2 Scene 2, Act 2 Scene 3, Act 2 Scene 4
 6. Act 2 Scene 5, Act 2 Scene 6, Act 2 Scene 7
 7. Act 3 Scene 1, Act 3 Scene 2, Act 3 Scene 3 1-136.
 8. Act 3 Scene 3 137-357.
 9. Act 3 Scene 4, Act 3 Scene 5, Act 3 Scene 6
 10. Act 4 Scene 1
 11. Act 4 Scene 2, Act 4 Scene 3
 12. Act 5 Scene 1, Act 3 Scene 2
 13. Act 5 Scene 3, Act 5 Scene 4
 14. *As You Like It* についての論文解題
 15. レポート作成のための論点整理
8. 成績評価方法：
発表の充実度と積極的なディスカッションへの参加 50%、レポート 50%
9. 教科書および参考書：
William Shakespeare, *As You Like It* (The New Cambridge Shakespeare)
10. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること。
Students are required to read the assigned part before each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学講読 I / Innovative Japanese Studies (Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-OHS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学講読

2. Course Title (授業題目)：現代日本学講読

3. 授業の目的と概要：本授業では現代日本学に関連する論文の精読を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では様々な対象および方法論を検討する。受講者は学期中に最低一回の口頭報告を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will do a close reading of articles related to Innovative Japanese studies. In this course, we will examine a variety of subjects and methodologies. Students will give at least one oral presentation during the semester.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して文献講読の方法を理解し、自らの問題意識を先鋭化させることが出来ることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the method of reading and to sharpen their own awareness of the issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 インTRODakション

第2回 担当の決定と論文検索の方法

第3回 準備報告①

第4回 準備報告②

第5回 論文講読①

第6回 論文講読②

第7回 論文講読③

第8回 論文講読④

第9回 論文講読⑤

第10回 論文講読⑥

第11回 論文講読⑦

第12回 論文講読⑧

第13回 論文講読⑨

第14回 論文講読⑩

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、事前の論文精読が必要となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB52402, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語の諸相

2. Course Title (授業題目)：Various Aspects of Modern Mandarin Chinese

3. 授業の目的と概要：現代中国語の言語的特徴について、理解を深めることを目的とする。まず、現代中国語に関する概説を読み、その全体像をある程度把握したうえで、テーマ別の研究論文の精読を通して、中国語学における重要な概念や構文、さらに、問題意識の置き方や研究手法について学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to enhance students' understanding of the linguistic characteristics of modern Mandarin Chinese. At first, students are required to read an overview of modern Mandarin Chinese, and then by reading research papers that deal with different

5. 学習の到達目標：①中国語の論文を正確に読み解く能力を身につける。

②中国語学における重要な概念を理解し、説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will be able to read research papers written in Chinese accurately.

②Students will understand the essential concepts in Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>基本的に講義形式で行うが、演習も取り入れる。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 現代中国語の概説 (一)

第3回 現代中国語の概説 (二)

第4回 現代中国語の概説 (三)

第5回 現代中国語の概説 (四)

第6回 研究論文1 (一)

第7回 研究論文1 (二)

第8回 研究論文1 (三)

第9回 研究論文1 (四)

第10回 研究論文2 (一)

第11回 研究論文2 (二)

第12回 研究論文2 (三)

第13回 研究論文2 (四)

第14回 研究論文2 (五)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み：50%

課題：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995 年

10. 授業時間外学習：予習：プリントの指定箇所を読んだうえ、問題点を整理する。

復習：プリントや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB52403, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門

Introduction to Formal Logic

2. Course Title (授業題目) : An introduction to philosophical logic

3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of modern logic

5. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course is designed for students (i) to understand what logic is, and (ii) to understand the soundness and completeness result for classical propositional logic which is the basic and important result modern logic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB52407, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワーク I

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Education I

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語教育におけるフィールドワークの研究計画の作成、データ収集の方法（インタビュー、観察）について学びます。夏季休業中にデータ収集を行い、後期に開講される「日本語教育におけるフィールドワーク II」で分析、論文の執筆について学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students make research proposal of fieldwork in the area of Japanese language learning and collect qualitative data (interview and observation). The students will collect data during their summer vication, analyze it, and write up a min

5. 学習の到達目標：・フィールドワークとは何かを説明できる

- ・研究計画を立てることができる
- ・目的に合わせて適切なインタビューができる
- ・目的に合わせて適切な観察ができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- explain what "fieldwork" is
- make a research plan
- conduct interviews according to their purposes
- conduct observation according to their purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 (4/9)：イントロダクション
 - 第2回 (4/16)：フィールドワークとは
 - 第3回 (4/23)：フィールドワークを使った研究①
 - 第4回 (5/7)：フィールドワークを使った研究②
 - 第5回 (5/14)：研究計画の立案①
 - 第6回 (5/21)：情報収集の方法
 - 第7回 (5/28)：研究計画の立案②
 - 第8回 (6/4)：インタビュー①：種類、質問作成の方法
 - 第9回 (6/11)：インタビュー②：ライフストーリーインタビュー
 - 第10回 (6/18)：インタビュー③：ライフストーリーインタビューの実践
 - 第11回 (6/25)：インタビュー④：文字起こしと振り返り
 - 第12回 (7/2)：観察①：観察とは、記録のつけ方
 - 第13回 (7/9)：観察②：実践、実践の振り返り
 - 第14回 (7/16)：研究計画の検討
 - 第15回 (7/23)：研究倫理
- 4/30 は休講の予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終課題（研究計画書）40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料研究（1）

2. Course Title (授業題目)：Early Modern Document Research (1)

3. 授業の目的と概要：本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：(1)近世史料についての基礎的な読解能力を身につける。

(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見するきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 伊達騒動について(1)
3. 伊達騒動について(2)
4. 史料読解の報告と討論(1)
5. 史料読解の報告と討論(2)
6. 史料読解の報告と討論(3)
7. 史料読解の報告と討論(4)
8. 史料読解の報告と討論(5)
9. 史料読解の報告と討論(6)
10. 史料読解の報告と討論(7)
11. 史料読解の報告と討論(8)
12. 史料読解の報告と討論(9)
13. 史料読解の報告と討論(10)
14. 史料読解の報告と討論(11)
15. 史料読解の報告と討論(12)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず「近世史料研究(2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目) : History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望（近世編）ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性（近世編）ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望（近代編）ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性（近代編）ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人（近世編）ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人（近代編）ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具（近世編①）ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具（近世編②）ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具（近代編①）ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具（近代編②）ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具（近代編③）ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律（近世編）ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律（近代編）ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB52504, 科目ナンバリング：LHM-PHI311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
 2. Course Title (授業題目) : Vedic Literature
 3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 18 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read R.gveda IV 18 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRH
 5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 18
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB52501, 科目ナンバリング：LHM-LIT306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (15)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (15)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a G

5. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
7. Zu Hause in Prag 1
8. Zu Hause in Prag 2
9. Zu Hause in Prag 3
10. Zu Hause in Prag 4
11. Zu Hause in Prag 5
12. Zu Hause in Prag 6
13. Zu Hause in Prag 7
14. Zu Hause in Prag 8
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学の理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of environmental sociology
3. 授業の目的と概要：環境社会学の課題は、環境問題のメカニズムの解明や自然環境の保全の方法を探ることにとどまらない。歴史的環境（街並みや景観）、食と農、震災復興、科学技術とリスク、ツーリズムなど、さまざまな対象を扱ってきた。この授業では、それらさまざまな環境社会学の研究に学び、環境社会学の理論と方法を理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The challenges of environmental sociology are not limited to elucidating the mechanisms of environmental problems and finding ways to conserve the natural environment. It has dealt with a variety of subjects, including the historical environment (cityscap
5. 学習の到達目標：環境社会学の理論と方法を理解し、さまざまな対象に応用する考え方を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is for students to understand the theories and methods of environmental sociology and acquire ways of thinking that can be applied to a variety of subjects.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション——環境社会学とは何か？
 - 2 環境社会学の理論(1)——被害・加害構造論①
 - 3 環境社会学の理論(2)——被害・加害構造論②
 - 4 環境社会学の理論(3)——受益圏・受苦圏論①
 - 5 環境社会学の理論(4)——受益圏・受苦圏論②
 - 6 環境社会学の理論(5)——社会的ジレンマ論①
 - 7 環境社会学の理論(6)——社会的ジレンマ論②
 - 8 中間のまとめ
 - 9 環境社会学の方法(1)——災害をとらえる
 - 10 環境社会学の方法(2)——震災復興をとらえる
 - 11 環境社会学の方法(3)——食と農をとらえる
 - 12 環境社会学の方法(4)——街並みや景観をとらえる
 - 13 環境社会学の方法(5)——合意形成を考える
 - 14 環境社会学の方法(6)——NPO／ボランティアを考える
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%
9. 教科書および参考書：

テキスト：時間ごとに文献を指定します。
参考書：授業の際に適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
初回には必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52505, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

私たちは、何かを知覚し、想起するといった経験をjする。このとき、私が何かをjするという主j的、能動的な働きをまず考jえがちであるが、その土台として、自我の関与なしにおjのずと生起する連合や触発といった働きが先行している。これはカント的な総合と区別して受動的総合と呼ばれるが、フロイトの無意識とは違jった意識のあり方である。『受動的総合の分析』では、自我からの能作の関与していない感性野の自発的組織化が明らかjにされるが、そこでは感情契機のはたらきや意識が流れることjの分析を通じて、自我、時間といったことjが解き明かされていくことになる。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の序論を読んで枠組を確認する。本書はもともと講義録であるが、精読を必要とする。授業では議論をていねいに読み解きながら、知覚、総合、自我、時間といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこれらの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、「知覚における自己所与」読解 (1)

3、「知覚における自己所与」読解 (2)

4、「知覚における自己所与」読解 (3)

5、「知覚における自己所与」読解 (4)

6、中間まとめ1 パースペクティブについて

7、「受動的総合の原現象」読解 (5)

8、「受動的総合の原現象」読解 (6)

9、「受動的総合の原現象」読解 (7)

10、「受動的総合の原現象」読解 (8)

11、中間まとめ2 連合について

12、「受動的総合の原現象」読解 (9)

13、「受動的総合の原現象」読解 (10)

14、「受動的総合の原現象」読解 (11)

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみるjこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB52503, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis. Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research

5. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本語理解表現Ⅰ／ Japanese comprehension and expression I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB72501, 科目ナンバリング：LHM-0HU312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunity
5. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
 1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
 2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 再話活動(1)
 3. 再話活動(2)
 4. 再話活動(3)
 5. 再話活動(4)
 6. 再話活動(5)
 7. 再話活動(6)
 8. 中間テスト
 9. 再話活動(7)
 10. 再話活動(8)
 11. 再話活動(9)
 12. 再話活動(10)
 13. 再話活動(11)
 14. 再話活動(12)
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB98802, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing I
2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I
3. 授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an
5. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:
 - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
 - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions relat
6. Learning Goals(学修の到達目標)：s a result of completing this course, students will be able to:
 - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
 - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions relate
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
 - 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
 - 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
 - 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
 - 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
 - 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
 - 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
 - 8) Writing Workshop for Assignment 2
 - 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
 - 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
 - 11) Writing Workshop for Assignment 3
 - 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
 - 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
 - 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
 - 15) Semester I Test
8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.
9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.
10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB33201, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：身体と他者の哲学
2. Course Title (授業題目)：Philosophy of the Embodiment and the Other
3. 授業の目的と概要：この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「生命と生」「身体」「他者理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "life," "body/embodiment" "understanding others," and so on.
5. 学習の到達目標：現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、デイルタイ、ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 身体という謎(1)
5. 身体という謎(2)
6. 世界と環境世界
7. 他者という謎(1)
8. 他者という謎(2)
9. 他者という謎(3)
10. 合理主義とロマン
11. 生活世界と学問(1)
12. 生活世界と学問(2)
13. 異なるもの理解(1)
14. 異なるもの理解(2)
12. 異なるもの理解(1)(1)(1)(1)
13. 異なるもの理解(2)
13. 言語、身体と社会(1)
14. 言語、身体と社会(2)
15. まとめ

【必要に応じて、一部内容・順番を差し替えることがあります。】

コメントメーバーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめ、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられることを目指します。また、今年の授業では毎回ワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、どのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

8. 成績評価方法：

平常点 30% レポートないし試験(問題は事前公開) 70%

9. 教科書および参考書：

参考書：新田義弘『哲学の歴史』(講談社現代新書)

授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 西洋史研究の基礎
2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History
3. 授業の目的と概要： 演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.
5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 歴史学とはいかなる学問か
 3. 歴史研究と史料(1)
 4. 歴史研究と史料(2)
 5. 課題発表(1)a
 6. 課題発表(1)b
 7. 課題発表(1)c
 8. 課題発表(1)d
 9. 専門論文の読み方(1)
 10. 専門論文の読み方(2)
 11. 課題発表(2)a
 12. 課題発表(2)b
 13. 課題発表(2)c
 14. 課題発表(2)d
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：

資料等は、基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級作文

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Writing

3. 授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing

5. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>テーマに沿って、作文練習をする。

<進度予定>

前期

第1回 ガイダンス、“奇异的影”について

第2回 “自立”について

第3回 “瞻瞻的梦”について

第4回 “听故事”について

第5回 “办公室”について

第6回 “种花”について

第7回 “你给我削瓜，我给你打扇”について

第8回 “小旅行”について

第9回 “小母亲”について

第10回 “似爱之虐”について

第11回 “弟弟睡了”について

第12回 “水光”について

第13回 “小树”について

第14回 “夕阳”について

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：100%（主に課題）

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリント配布

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB33206, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：韓国語入門
2. Course Title (授業題目)：Korean for Beginners
3. 授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To be familiar with the overall concept of Hangeul, with the aim of being able to read and write Hangeul characters.
5. 学習の到達目標：学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the structure of Hangeul characters as an introduction to learning Korean, so as to draw interest in the Korean language. In particular, to focus on pronunciations not found in the Japanese language, and to practise accurate Korean pronunciation
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション：授業の全般的説明、学修方法などについてガイダンスを行う
 - 第2回：韓国語の基本母音と子音に関して、6個の基本母音と5個の子音【平音】の組み合わせ
 - 第3回：韓国語の基本母音と子音に関して、4個の基本母音と5個の子音【平音】の組み合わせ
 - 第4回：韓国語の基本母音と子音に関して、10個の基本母音と4個の子音【激音】の組み合わせ
 - 第5回：韓国語の基本母音と子音に関して、基本母音10個と5個の子音【濃音】の組み合わせ
 - 第6回：11個の複合母音の学習
 - 第7回：一つ文字終声(パッチム)→連音化、流音化、有声音化の学習
 - 第8回：二つ文字終声(パッチム)→激音化、濃音化、鼻音化の学習、日本語のハングル(韓国語)表記練習
 - 第9回：助詞「～は」と「～です」の表現→「あなたはどこの国の人ですか」など、相手の国籍の尋ねや答え方、自己紹介
 - 第10回：助詞「～を」を用いて「名詞+です」、「名詞+ですか」、「名詞+ではない」の文型を練習
 - 第11回：指示表現と所有表現の学習
 - 第12回：助詞「～を」と動詞の丁寧表現、「～ます、～ています」の学習
 - 第13回：助詞「～に、～も」を用いて位置名詞を学習場所や方向など、位置を表す表現を学び、道や場所を尋ねる練習をする
 - 第14回：助詞「～で」、動詞の否定形を練習
 - 第15回：総まとめと試験
8. 成績評価方法：

期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
9. 教科書および参考書：

鄭世桓、権来順、金永昊、吳正培、張基善 著『パルン韓国語』 朝日出版社、参考資料のプリント配布
10. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB33202, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美学史

2. Course Title (授業題目)：A History of Western Aesthetics

3. 授業の目的と概要：古代ギリシャの芸術論からカントやヘーゲルの哲学における美の理想まで、授業がヨーロッパ美学史の主な時期、著者、問題へ招待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The course will offer an introduction to the main periods, authors and problems in the history of Western Aesthetics, beginning from Ancient Greece up to Kant and Hegel.

5. 学習の到達目標：授業の目的は西洋美学の根本的な問題や概念を紹介し、生徒たちがそれらを自分の研究にも適用するように指導することである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Aim of the course is introducing the fundamental problems and concepts of aesthetics, and guiding the students to apply them meaningfully in their own research interests

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の主な資料はスライドである。授業の後、Classroom にアップロードされる。

1 美学というのは・授業入門

2 美学概論 美の色々な逆説

3 西洋美学の始まり・プラトン

4 西洋美学の始まり・プラトン II

5 西洋美学の歴史・アリストテレス

6 キリスト教と美の体験

7 ルネサンスの美学

8 近代と美の問題

9 ヒュームの趣味論

10 カントの「判断力批判」1

11 カントの「判断力批判」2

12 ゲーテの感覚論

13 ロマンティック派の美術論

14 ヘーゲルの「美学」1

15 試験

8. 成績評価方法：

期末テスト(持ち込みなし)によって評価する。

(100%)

9. 教科書および参考書：

小田部 胤久の「西洋美学史」

10. 授業時間外学習：無

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33204, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習
2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy
3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれの
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.
5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）
第二回以降：訳読、報告、議論
8. 成績評価方法：
出席、担当、参加度により総合的に判断します。
9. 教科書および参考書：
必要なものはすべてプリントで配布します。
フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。
10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：学術英語演習 I / Academic English I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB33308, 科目ナンバリング：LHM-LIT341E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing in the Humanities I
2. Course Title (授業題目)：アカデミック・ライティング 人文学 I
3. 授業の目的と概要：In this class, students will learn how to write an academic essay in continuous English prose of at least five paragraphs. Each week, we will review a stage of the writing process from preparing a topic and thesis statement to organizing and editing paragraphs.
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このクラスでは、アカデミック・エッセイの書き方を学びます。毎週、トピックや論文の準備から段落の構成、編集に至るまで、執筆プロセスの各段階を確認します。学期前半では、5 段落のエッセイを書き、後半では、アカデミックな仕事における出典の正しい使い方、剽窃の回避、引用の種類について学びます。コース終了時には、各自が選択した学術的なトピックについて、引用と文書化を伴った 2 本目のエッセイを作成する必要があります。

このクラスの定員は 35 名です。このクラスは後期にも開講されます。

5. 学習の到達目標：1: To write academic essay/term paper in English
2: To learn the stages of preparing an academic written report in the humanities.
2: To introduce academic citation methods.
4: To practice and improve confidence in communicating in written English.
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 英語でエッセイ・論文を書く。
2: 人文科学における学術的なレポート作成の段階を学ぶ。
2: アカデミックな引用方法を学ぶ。
4: 英語でのコミュニケーションに自信を持つ。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Choosing Essay Topics
- 第 3 回 Thesis Statements
- 第 4 回 Introductions
- 第 5 回 Body Paragraphs
- 第 6 回 Linking Ideas
- 第 7 回 Conclusions
- 第 8 回 Using Sources: Quotations
- 第 9 回 Summaries and Paraphrases
- 第 10 回 Citations
- 第 11 回 References
- 第 12 回 Definitions
- 第 13 回 Arguments
- 第 14 回 Plagiarism
- 第 15 回 Conclusion

8. 成績評価方法：

First essay 30% Final essay 40% Weekly short exercises 30%

9. 教科書および参考書：

No text book for this class

10. 授業時間外学習：First essay

Second essay

Short quizzes and writing exercises on Google Classroom

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

This class will be conducted in English.

科目名：インド学概論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB33301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーリヤ人の宗教と生活

2. Course Title (授業題目) : Life and religion of the Āryan people

3. 授業の目的と概要： 本講義では、最古の『リグヴェーダ』(紀元前 1200 年頃編集固定)をはじめとする各ヴェーダ学派の諸文献に基づき、アーリヤ諸部族が持っていた宗教とその整備過程、並びに社会の変化を辿りながら、各学派、各文献ジャンルの特徴について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れることによって、伝承実態の理解をも目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides an overview of various Vedic texts, starting with the oldest one that dates back to 1200 B.C., the Rigveda. The aim is to get students acquainted with history and characteristics of various Vedic schools and their primary texts in conn

5. 学習の到達目標：・当時の人々が世界をどのように理解していたかを、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。

・宗教儀礼および宗教文献の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon the completion of this course, students will be able to interpret the Āryans' views on life and death in line with the ancient Vedic tradition. They will also gain a better understanding of relations between the development of religion and social cha

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の概要 インド学 サンスクリット語と印欧語族 インダス文明とアーリヤ人
 2. アーリヤ人の宗教と生活 1 移住遊牧生活から定住生活へ： 異部族との接触、祭官階級と王族階級（ヴァルナ [四姓] を巡る議論）、都市国家の成立（自由思想家達の台頭と仏教興起を視野に入れて）
 3. アーリヤ人の宗教と生活 2 ヴェーダ祭式概説： 部族全体の繁栄を祈願する祭式と、部族長個人のライフステージに応じて行う祭式
 4. アーリヤ人の宗教と生活 3 ヴェーダ文献概説： ヴェーダ学派と文献ジャンル、祭官組織
 5. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 1 文献の編集方針と祭官家系、伝承スタイル、世界の創造と人類の起源
 6. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 2 インドラ讃歌
 7. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 3 対話讃歌 プルーラヴァースとウルヴァシー
 8. アタルヴァヴェーダ 呪法の伝統
 9. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 1 祭官組織とヤジュルヴェーダ学派、マントラとブラーフマナ、祭式整備の過程
 10. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 2 神々との相互関係、神話、神学議論
 11. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 3 祭式整備に見る社会の変化
 12. サーマヴェーダ ソーマ祭が果たした役割： 大規模祭式と王権儀礼
 13. 諸学派のブラーフマナ文献 神学議論と神話による権威付け
 14. ウパニシャッド 1 その位置づけと意義
 15. ウパニシャッド 2 神学者たちの論争
- ※上記は必要に応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

課題提出（随時，40%），レポート（60%）

9. 教科書および参考書：

資料を配付する。参考書は授業で指示する。

Reading and reference materials will be distributed in class.

10. 授業時間外学習：予習として前回の資料と指示された参考資料に目を通す。復習として動画資料を視聴する。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

I would like you to review printed materials and your notes before and after c

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

後期のインド学概論と併せて履修することが望ましい。

It is recommended that students combine this course with "Indological Studies (General Lecture)" in the second semester.

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB33302, 科目ナンバリング：LHM-LIT204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学史
2. Course Title (授業題目)：History of German Literature
3. 授業の目的と概要：9 世紀から現代までのドイツ文学の歴史を概観する。ドイツ文学の主要な作品を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In dieser Vorlesung handelt es sich um die Geschichte der deutschen Literatur vom 9. Jahrhundert bis zur Moderne. Dabei werden wichtige Werke der deutschen Literatur vorgestellt.
5. 学習の到達目標：ドイツ文学の歴史の概要を知る。ドイツ文学の主要な作品の内容を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel der Vorlesung ist, die grundlegende Geschichte der deutschen Literatur und die Inhalte der wichtigen Werke kennen zu lernen.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 古高ドイツ語期の文学 (1)
 - 3 古高ドイツ語期の文学 (2)
 - 4 中世文学 (1)
 - 5 中世文学 (2)
 - 6 中世文学 (3)
 - 7 中世文学 (4)
 - 8 初期新高ドイツ語期の文学 (1)
 - 9 初期新高ドイツ語期の文学 (2)
 - 10 初期新高ドイツ語期の文学 (3)
 - 11 バロック期の文学
 - 12 啓蒙主義
 - 13 ゲーテ時代 (1)
 - 14 ゲーテ時代 (2)
 - 15 ゲーテ時代 (3)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

参考書：手塚富雄・神品芳夫「増補ドイツ文学案内」(岩波文庫)、柴田翔編著「はじめて学ぶドイツ文学史」(ミネルヴァ書房)、
畠山寛他編「ドイツ文学の道しるべ」(ミネルヴァ書房)
10. 授業時間外学習：最も大事なことは自分で実際に作品を読むことです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：音声学Ⅰ / Phonetics I

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB33304, 科目ナンバリング：LHM-LIN221J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：Phonetics: Overview and Articulatory Phonetics

3. 授業の目的と概要：音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを把握したうえで、世界の言語音を対象に、「聞き取り・国際音声記号 (IPA) を用いた書き取り・発音」の3点を実践的に身につけます。音声と書記法の違いを理解するほか、同化・異化、強勢など、聞き取った音声をもとに分析や考察も行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will firstly learn about the function of the vocal tract within speech production and the airstream mechanism, they will then practice their listening skills, IPA phonetic transcription, and the pronunciation of a range of sounds

5. 学習の到達目標：・世界の言語音の調音を理解し、聞き取り・書き取り・発音ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to explain the airstream mechanisms and be able to articulate and transcribe the sounds of spoken world languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音声学とは一音声産出・音の物理的性質・音の知覚
2. 音声器官と音声産出のメカニズム
3. 調音位置と調音方法
4. 国際音声記号
5. 子音1. 破裂音・鼻音・ふるえ音
6. 子音2. はじき音・摩擦音・接近音
7. 補助記号を用いた書き取り
8. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習1
9. 母音の性質と特徴
10. 単母音と二重母音
11. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習2
12. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習3
13. 音素と音声特徴
14. 拍と音節・強勢とピッチ・同化と異化
15. プロソディー

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) J. C. Catford, A Practical Introduction to Phonetics, Oxford University Press (2002)

10. 授業時間外学習：授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返して行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

音声学Ⅱ (後期開講) の受講希望者は、本講義 (音声学Ⅰ・前期開講) を受講して下さい。

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 古代・中世ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Ancient/Medieval Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、前近代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標： ・「国家」と「社会」の観点から、西洋古代・中世史の展開過程を把握する
・西洋古代・中世史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標) : ・To grasp the outline of the ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society"
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 古代ギリシアにおける国家と社会
 3. ヘレニズム期における国家と社会
 4. 古代ローマにおける国家と社会
 5. 中世ヨーロッパ世界の形成
 6. 「中世封建社会」(1)
 7. 「中世封建社会」(2)
 8. 中世都市と農村
 9. 皇帝と教皇
 10. 「近世」への推転(1)
 11. 「近世」への推転(2)
 12. イギリス革命(1)*
 13. イギリス革命(2)*
 14. イギリス革命(3)*
 15. 総括と展望

*後期の進行との兼ね合いから、前期では 17 世紀イギリス革命までを扱う
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、全体をほぼカバーするものとして、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984 年、をまず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
なし。

科目名：哲学思想基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LB33305, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山先生と哲学の原が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed parti

5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss texts of ethics.
Become able to find and discuss topics in ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス

2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)

3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)

4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)

5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)

6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)

7. 哲学の入門的テキストの講読(1)

8. 哲学の入門的テキストの講読(2)

9. 哲学の入門的テキストの講読(3)

10. 哲学の入門的テキストの講読(4)

11. 哲学の入門的テキストの講読(5)

12. 発表と討論(1)

13. 発表と討論(2)

14. 発表と討論(3)

15. 発表と討論(4)

8. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

9. 教科書および参考書：

必要なものは配布します。

参考書は演習内で指示します。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。

哲学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33306, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：Western Ethics (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山と哲学の教員一名が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed parti

5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss texts of ethics.

Become able to find and discuss topics in ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス

2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)

3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)

4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)

5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)

6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)

7. 哲学の入門的テキストの講読(1)

8. 哲学の入門的テキストの講読(2)

9. 哲学の入門的テキストの講読(3)

10. 哲学の入門的テキストの講読(4)

11. 哲学の入門的テキストの講読(5)

12. 発表と討論(1)

13. 発表と討論(2)

14. 発表と討論(3)

15. 発表と討論(4)

8. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

9. 教科書および参考書：

必要なものは配布します。

参考書は演習内で指示します。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。

倫理学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 3 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：浜田 宏

コード：LB33307, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統計学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定のお考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an introductory course on elementary statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in descriptive statistics to help students understand

5. 学習の到達目標：官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn about elementary statistical methods for interpreting academic and governmental reports that contain statistics and graphs.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. データ分析とは (イントロダクション)

2. データと測定

3. 度数分布と比率

4. 平均・分散・相関係数

5. 代表値と変動

6. グラフの見方と作り方

7. 確率変数とデータ

8. 確率分布間の関係

9. 区間推定の理論

10. 区間推定の実践

11. データ分析への準備 (1)

12. データ分析への準備 (2)

13. 因果関係、相関関係、因果推論 (1)

14. 因果関係、相関関係、因果推論 (2)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席 50%, 期末試験 50%

9. 教科書および参考書：

教科書：小寺平治, 1996『新統計入門』裳華房

10. 授業時間外学習：教科書で予習・復習をする。

教科書の各章末にある練習問題を解く。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

(1) 人文統計学 (推測統計と多変量解析の基礎) とあわせて受講することが望ましい。

(2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。

(3) 受講者は Google Classroom 上での連絡を毎週確認すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 上級
2. Course Title (授業題目)：Advanced Italian
3. 授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become
5. 学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 復習テスト
 2. 会話と読解の練習。
 3. 小テストと直接法未来形。
 4. 進行動詞と gerundio の使用
 5. 会話と読解の練習。
 6. 曲の聞き取り、歌詞分析
 7. 翻訳の小テスト
 8. passato remoto の過去形
 9. 会話と読解の練習。
 10. 動詞文法のまとめ
 11. 作文・自分の趣味
 12. イタリア語での映画
 13. 映画でまとめた文法・単語。
 14. 聞き取り練習とテストの準備。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト、音楽、映画
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：フランス文学基礎講読Ⅰ / French Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：今井 勉

コード：LB33404, 科目ナンバリング：LHM-LIT223J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文学テクストを読む
2. Course Title (授業題目) : Reading of French literature
3. 授業の目的と概要：この授業では、フランス語の基礎文法を確認しながら、フランス語で書かれた文学的な文章を読みます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course offers an opportunity to develop the abilities necessary in reading of French literature.
5. 学習の到達目標：フランス語で書かれた文学的な文章の読解技術について実践的な見通しを持つことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students have a practical perspective of understanding of French literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
(以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)
第1回 導入
第2回 名文撰 (1)
第3回 名文撰 (2)
第4回 名文撰 (3)
第5回 名文撰 (4)
第6回 名文撰 (5)
第7回 名文撰 (6)
第8回 名文撰 (7)
第9回 名文撰 (8)
第10回 名文撰 (9)
第11回 名文撰 (10)
第12回 名文撰 (11)
第13回 名文撰 (12)
第14回 名文撰 (13)
第15回 まとめと筆記試験
8. 成績評価方法：
授業参加状況 60% + 筆記試験 40%。
9. 教科書および参考書：
プリントを配付します。
10. 授業時間外学習：毎回、十分な準備をして臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB33401, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代社会の諸相
2. Course Title (授業題目)：The Defining Characteristics of Modern Society
3. 授業の目的と概要：U. ベックによれば、社会学には、(1) 理論研究、(2) 経験的研究およびそれによる理論の吟味、そして(3) 時代診断という三つの課題があるとされる。社会学者たちは、みずからの生きる近現代社会をどんな社会として時代診断し、理論化し、検証してきたのだろうか。この授業の目的は、社会学的な現代社会論をいくつか取り上げながら、現代社会の構造と変動をマクロな視点から考察し、また同時に、そこで生きる個々人のライフコースの変容について検討することである。授業の前半では、主に、近代化論とその問題について考える。授業の後半では、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course. According to Ulrich Beck, a well known German sociologist, Sociology must carry out the three basic tasks; (1)theoretical investigations, (2)empirical researches and (3)diagnosis of the times. How the sociologists have
5. 学習の到達目標：・現代社会の構造やその変動について理解できるようになる
・それぞれの現代社会論の特徴と課題について学ぶ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students (1) understand the structures of modern society and their changes and (2) recognize the features and problems of modern social theories.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1・オリエンテーション
 - 2・社会の「機能分化」論の系譜 (1)
 - 3・社会の「機能分化」論の系譜 (2)
 - 4・近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視角 (1)
 - 5・近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視角 (2)
 - 6・再帰的近代化論とリスク社会論 (1)
 - 7・再帰的近代化論とリスク社会論 (2)
 - 8・グローバリゼーション
 - 9・マクドナルド化する現代
 - 10・消費社会のゆくえ
 - 11・監視のテクノロジーと社会
 - 12・廃棄物とエネルギー問題の社会学
 - 13・社会的排除と包摂
 - 14・オフショア化する世界—不可視化の諸相—
 - 15・まとめ
8. 成績評価方法：

講義終了後のミニットペーパーへの記入内容 50%+ (中間・期末) レポート 50%で評価する
9. 教科書および参考書：

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2019, 『【新版】社会学』有斐閣

その他、トピックに応じて参考文献を授業の中で指示する
10. 授業時間外学習：適宜、授業において、次回までに自宅で行うべき学習課題を出します。また、授業時間外の資料収集に基づく中間レポートも提出してもらう予定です。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
受講者があまりにも多い場合には、受講制限を行うことがある。
資料の配付等は、Google Classroom を通じて行う。
オンライン授業は行わず、すべて「対面」で実施する。

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：阿部 友紀

コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教民俗学の視点入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Perspective of Religious Folklore

3. 授業の目的と概要：本授業は日本の宗教現象に注目した宗教民俗学の視点について学ぶことを目的とする。この分野の研究に関しては数多くの蓄積があるが、ライフスタイルや現代日本の社会変化を踏まえて宗教民俗学の現状と課題を再考する必要がある。本年の授業では、宗教民俗学のトピックを 4 点にまとめ、比較的オーソドックスな視点の論文と新しい視点や対象に基づいた論文について読解し議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn about the perspective of religious folklore focusing on religious phenomena in Japan. Although there is a great deal of research in this field, it is necessary to reconsider the current situation and issues of religio

5. 学習の到達目標：宗教民俗学の視点と対象について比較検討することで、このジャンルの基礎を理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By comparing the perspectives and objects of religious folklore, we can understand the basics of this genre.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

次の 4 つのテーマを設定し、古典的視点の論文と新視点の論文を 3 本程度事前に読んでおく。各担当者はレジュメを作成し、全体でディスカッションをする。

1. 授業について
2. 宗教民俗学とは①
3. 宗教民俗学とは②
4. 宗教民俗学とは③
5. 巡礼①
6. 巡礼②
7. 巡礼③
8. 流行神①
9. 流行神②
10. 流行神③
11. 怪異①
12. 怪異②
13. 怪異③
14. まとめ
15. 予備日

各論文は準備するので、各自コピーして予習をしておく。

8. 成績評価方法：

期末レポート (60%)・ディスカッションの参加度 (20%)・出席率 (20%)

9. 教科書および参考書：

論文を準備するので各自コピーする。参考文献はその都度提示する。

10. 授業時間外学習：予習をしておくこと。議論への積極的な参加を期待する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：中国文学基礎講読／ Chinese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LB33403, 科目ナンバリング：LHM-LIT213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語実用文法研究

2. Course Title (授業題目)：Chinese Grammar

3. 授業の目的と概要：本授業では、中国語学習歴半年以上の学生が、中国語のリスニング、作文、スピーキングなどの演習を通して、中国語によるコミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。(中国語未履修の方は、事前にご相談ください。)なお、この授業は講読演習を兼ねています。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to communicate and express their thoughts in Chinese, through various activities involving exercises in listening, writing, speaking, and so on.

5. 学習の到達目標：(1) 現代中国語の文法について基礎的な事項を理解する。

(2) 基礎的な作文能力をつける。

(3) 基礎的な読解力を確実なものとする。

(4) 中国語の発音をブラッシュ・アップする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students understand Chinese basic grammar.

2. Students gain basic writing skills.

3. Students develop basic reading skills.

4. Students brush up basic speaking skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では教科書を使用し、以下のように進めていきます。

受講者には毎回の授業後に、課題の提出を求めます(提出方法は別途指示します)。

第一回 ガイダンス

第二回 第1課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第三回 第2課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第四回 第3課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第五回 第4課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第六回 第5課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第七回 第6課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第八回 中間試験

第九回 第7課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十回 第8課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十一回 第9課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十二回 第10課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十三回 第11課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十四回 第12課 発音、文法説明、翻訳、問題演習

第十五回 期末試験

8. 成績評価方法：

課題：30%、小テスト：30%、定期試験(中間試験と期末試験)：40%

なお、定期試験を受けるには、3分の2以上の出席が必要です。

9. 教科書および参考書：

教科書：奥村佳代子 / 塩山正純 / 張軼欧 著『準中級中国語 会話編 自分のことばで話す中国語 準中級編』金星堂
辞書：小学館『中日辞典』『日中辞典』、または、講談社『中日辞典』『日中辞典』などをおすすめします。

10. 授業時間外学習：毎回、授業の内容及び課題、小テストに取り組むための予習復習を求めます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB33402, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史料講読
2. Course Title (授業題目)：Reading Japanese Modern Historical Documents
3. 授業の目的と概要：日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will train reading historical documents of Japanese modern history. This course will be taught in Japanese.
5. 学習の到達目標：(1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。
(2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students read historical documents of Japanese modern history and better understand the basic structure of the Modern Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
 2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
 3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
 4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
 5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
 6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
 7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
 8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
 9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
 10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
 11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
 12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
 13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
 14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
 15. 授業のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) リポート[60%]・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど）[20%]
9. 教科書および参考書：

随時、プリントを配布する。
10. 授業時間外学習：事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。
オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（1）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Classical Greek (1)
3. 授業の目的と概要：古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Beginning with the study of the classical Greek alphabet, students will learn the minimum necessary grammatical items such as nouns, adjectives, and verbs. The course will basically follow the textbook, but the order will be changed as necessary. Important
5. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
"文字と発音、アクセント
第1・第2変化名詞及び形容詞、定冠詞
ω 動詞：直説法能動相現在及び未来
ω 動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法
ω 動詞：直説法能動相第2アオリスト、結果文、時の表現
前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格
第3変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格
第3変化名詞、母音融合を行う第1・第2変化形容詞
第3変化名詞：母音幹、関係代名詞
指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς
形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化
母音融合動詞
流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞
-υ ς -ε ι α -υ 型および -η ς -ε ς 型の形容詞
π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化
μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト
μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι, ι η μ ι, ε ι μ ι, δ ε κ ν υ μ ι"
8. 成績評価方法：
出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%
9. 教科書および参考書：
水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税
10. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB33501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：パーリ語入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Pāli language

3. 授業の目的と概要：サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pāli Grammar を参考にし、その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前身譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course introduces essentials of Pāli grammar, placing emphasis on morphological and phonological changes of Pāli language from Sanskrit. It also enhances the development of students' skill in reading Pāli texts. Students will read some tales of Buddha

5. 学習の到達目標：サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to acquire essential reading skills in Pāli based on Sanskrit Grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)
- 3 同 (2)
- 4 同 (3)
- 5 同 (4)
- 6 「バカ・ジャータカ」 (1)
- 7 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「シーハチャンマ・ジャータカ」
- 10 「ササ・ジャータカ」 (1)
- 12 同 (2)
- 13 同 (3)
- 14 同 (4)
- 15 同 (5)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader. 後者は大学に必要な部数が揃っているが、自分で持っていない場合でも後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。

10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。4セメスターのパーリ語と併せて履修することが望ましい。

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）／ Psychology of Emotion and Personality(Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB53101, 科目ナンバリング：LHM-PSY313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情・人格心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Emotion and Personality

3. 授業の目的と概要：具体的な研究事例に触れながら，感情と人格について総合的に学ぶ。

なお，本科目は公認心理師必修科目「感情・人格心理学」に対応している。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経-副腎髄質系・HPA 系・自尊心・自意識

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers many topics of actual researches on psychology to help students deepen their understanding of emotion and personality.

This course is a prerequisite for the students who plan to take the exam to become a licensed psychologist.

Key w

5. 学習の到達目標：感情と人格について以下のことを学び，日常生活における機能と影響を理解する。

①感情に関する理論及び感情喚起の機序

②感情が行動に及ぼす影響

③人格の概念及び形成過程

④人格の種類、特性 等

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this course, students will learn about important topics of emotion and personality as follows and understand their function/effect on daily life.

1) Theory and mechanisms of emotion

2) The effects of emotion on behavior

3) The concept and formation

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し，オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出，連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは教務係から通知されるので，それに基づいて必ず登録すること。

主な内容は以下の通り。但し，講義順序は，別途指示するテキストの内容に沿い，講読を中心に進め，投影で要点を押さえる。詳細はガイダンスで伝える。

① ガイダンス，感情の基礎

② 感情の生物学的基盤

③ 感情の理論 1 古典的理論

④ 感情の理論 2 基本的感情説と次元説

⑤ 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理

⑥ 感情と行動

⑦ 感情の測定

⑧ 援助行動と共感性

⑨ 感情の制御・調整

⑩ 人格の概念

⑪ 知的機能の個人差

⑫ 人格の形成と変容

⑬ 人格の理論

⑭ 自尊心と自意識

⑮ 人格の障害

8. 成績評価方法：

期末レポート* (20%)，毎回の小レポート* (60%)，出席**と討議への参加 (20%)。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと毎回の小レポートについては，もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

購入不要。授業中に指示する。

1 0. 授業時間外学習：毎回小レポートを課すので、それを通じて復習すること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

小レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。
授業でコンピュータを使用することがあるので、持参すること。

科目名：フランス文学演習Ⅲ／ French Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：今井 勉

コード：LB53209, 科目ナンバリング：LHM-LIT333F, 使用言語：英語以外の外国語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代仏文学テキスト読解
 2. Course Title (授業題目)：Reading Modern and Contemporary French Literary Texts
 3. 授業の目的と概要：この授業では、近現代フランス文学関連のテキストを精読します。今学期は、ボードレー、ユイスマンス、プルースト、モディアノ、ジャック・レダといった作家の作品からパリを描いたテキストを選んで、読んでみたいと思います。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to deepen understanding of the French modern literature through the intensive reading of texts. This semester, I would like to read a selection of texts depicting Paris from the works of authors such as Baudelaire, Huysma
 5. 学習の到達目標：近現代フランス文学の理解を深める。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand French modern literature.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
(以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)
- 第1回 導入&テキスト読解 (1)
- 第2回 テキスト読解 (2)
- 第3回 テキスト読解 (3)
- 第4回 テキスト読解 (4)
- 第5回 テキスト読解 (5)
- 第6回 テキスト読解 (6)
- 第7回 テキスト読解 (7)
- 第8回 テキスト読解 (8)
- 第9回 テキスト読解 (9)
- 第10回 テキスト読解 (10)
- 第11回 テキスト読解 (11)
- 第12回 テキスト読解 (12)
- 第13回 テキスト読解 (13)
- 第14回 テキスト読解 (14)
- 第15回 テキスト読解 (15)
8. 成績評価方法：
予習をしたうえでの授業への参加状況 100%
 9. 教科書および参考書：
Google クラスルームに PDF ファイルをアップします。
 10. 授業時間外学習：毎回、十分な予習を行ったうえで、授業に臨んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：英文学各論／ English Literature

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB53201, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Paul Auster. Moon Palace (1)

2. Course Title (授業題目)：Paul Auster. Moon Palace (1)

3. 授業の目的と概要：現代アメリカの作家ヴポール・オースターの『ムーン・パレス』の原書の前半部分を精読します。オースターは巧みなストーリーテリングの技法で知られ、日本でも多くの読者をもつ人気作家です。この作品はオースターの自伝的な要素を含みながら、壮大なスケールでアメリカを描いています。筋は複雑ですが、読者を引き込む圧倒的な魅力をもっており、この作品を読むことは大きな知的満足を与えてくれるでしょう。前期は作品の前半部分を読みます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A close reading of the first half of Paul Auster's "Moon Palace." Auster is famous for his style of story-telling. In this novel, Auster describes, through a story of a young man's life and adventure, what America is. The plot structure is complicated, to

5. 学習の到達目標：(1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける

(2) 文学作品を分析する技法を身につける

(3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history

(2) To be able to think logically and critically

(3) To develop the skill of reading literary texts written in English

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(1) Introduction

(2) Moon palace, pp. 1-18.

(3) Moon palace, pp. 19-36.

(4) Moon palace, pp. 37-54.

(5) Moon palace, pp. 55-72.

(6) Moon palace, pp. 101-90.

(7) Moon palace, pp. 91-108.

(8) Moon palace, pp. 109-126.

(9) Moon palace, pp. 127-144.

(10) Moon palace, pp. 145-162.

(11) Moon palace, pp. 163-180.

(12) Moon palace, pp. 181-198.

(13) Moon palace, pp. 199-216.

(14) Moon palace, pp. 217-234

(15) Review and exam

8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

9. 教科書および参考書：

Paul Auster. Moon Palace (Penguin Modern Classics, 1989).

10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：言語交流学各論（学習・言語心理学）／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB53202, 科目ナンバリング：LHM-LIN322J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations utilizing experiments to examine processes in which human behaviors change. To have a general understanding of these disciplines, students are required to summarize

5. 学習の到達目標：学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon completing this course, students should have a general understanding of the concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points o

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 学習心理学の概要 (教員)
- (3) 言語心理学の概要 (教員)
- (4) 生得的行動 (受講生)
- (5) レスポンデント (古典的) 条件づけ (受講生)
- (6) オペラント (道具的) 条件づけ (受講生)
- (7) 問題解決 (受講生)
- (8) 技能学習 (受講生)
- (9) 社会的学習 (受講生)
- (10) 音声・音韻の発達 (受講生)
- (11) 語彙の発達 (受講生)
- (12) 文法の発達 (受講生)
- (13) 談話・会話処理の発達 (受講生)
- (14) 言語に関わる障害 (受講生)
- (15) まとめ (教員)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業後の課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：木山幸子他 (2022) 『学習・言語心理学 (ライブラリ心理学の杜 7)』サイエンス社

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学のための統計的因果推論

2. Course Title (授業題目)：Causal inference for Social Science

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を統計モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 現実の社会現象をどうやって統計モデルとして定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

3) RCTの枠組みにおける平均処置効果と条件付き期待値回帰モデルとの関係を理解する

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Course objectives is to understand basics of statistical model

5. 学習の到達目標：データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Learnig goal is to understand the method to formalize a statistical model.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

1 なぜ因果を学ぶのか

2 Simpsonのパラドックス

3 確率と統計

4 グラフ, 構造的因果モデル

5 グラフィカルモデルとその応用

6 モデルとデータの関係

7 連鎖経路と分岐経路

8 合流点, 分離性

9 モデル検定と因果探索

10 介入効果, 調整, 媒介

11 バックドア基準, フロントドア基準

12 条件付き介入と特定共変量効果

13 逆確率重み付け法

14 線形システムにおける因果推論

15 反事実とその応用

8. 成績評価方法：

出席 [70%], 授業内の課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：Pearl, Glymour, and Jewell, 2016, Causal Inference in Statistics: A Primer, John Wiley and Sons (=2019, 落海浩 (訳) 『入門統計的因果推論』朝倉書店.)

参考書：岩崎学, 2015, 『統計的因果推論』朝倉書店.

鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社,

末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

10. 授業時間外学習：毎週、指定された予習範囲を事前に読み、質問があればクラスルームにアップする

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。事前に履修していない場合は授業を通して学習することが必要である。

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：病いの語り研究の可能性

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Illness Narrative Research

3. 授業の目的と概要：病いの語り (illness narrative) 研究とは、主に社会学と人類学において 1980 年代以降に発展してきた患者経験の研究の総称である。その焦点は、病いや痛み、苦悩の経験を言葉によって意味づけていく側面に着目しつつ、本人が自らの病いをどのように捉え、それにどう対処しようとしているのかを明らかにすることにある。本講義では病いの語り研究の古典の一つであるアーサー・W・フランクの『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』を取り上げ、その後の論争や関係する経験的研究を検討しつつ、その可能性と課題を検討する

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of illness narrative research, focusing on the work of Arthur W. Frank.

5. 学習の到達目標：(1) 『傷ついた物語の語り手』の内容を精確に理解する

(2) 病いの語り研究の課題を明確化し、新たな可能性を探る

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is for students to understand the sociological concept of stigma and its application.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. 病いの語り研究とは
3. 『傷ついた物語の語り手』を読む (1)
4. 『傷ついた物語の語り手』を読む (2)
5. 『傷ついた物語の語り手』を読む (3)
6. 『傷ついた物語の語り手』を読む (4)
7. 『傷ついた物語の語り手』を読む (5)
8. 『傷ついた物語の語り手』を読む (6)
9. 『傷ついた物語の語り手』を読む (7)
10. 『傷ついた物語の語り手』を読む (8)
11. 中間まとめ
12. 病いの語り研究に関する論争 (1)
13. 病いの語り研究に関する論争 (2)
14. 経験的研究の展開 (1)
15. 経験的研究の展開 (2)

8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

Arthur W. Frank, The Wounded Storyteller: Body, Illness, and Ethics, The University of Chicago Press. 1995 (『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年)

10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：地理歴史科教育法 I / Teaching Method of Geography and History Studies I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：浅川 俊夫

コード：LB53208, 科目ナンバリング：LHM-EDU913J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：高等学校の地理授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目): Class study about the geography field of studies of geography and history in high school

3. 授業の目的と概要: 高等学校学習指導要領における地理科目の指導内容のポイントとその具体的展開や教材の取扱いを学び、学習指導案を作成して模擬授業を行える実践的な指導力を育成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learn the points of the teaching contents of geography subjects in National curriculum for high schools, their specific development, and the handling of teaching materials. Base on that, develop practical teaching ability to create a class plan and do a t

5. 学習の到達目標 : ①これまでの高校学習指導要領に位置付けられた地理科目の変遷を理解し、その概要を述べることができる。

②新教育課程における地理科目について、目標と指導内容、指導の具体的展開、教材の取扱いのポイントを理解し、授業づくりを進めることができる。

③学習指導案の役割や内容を理解し、地理科目の学習指導案を作成することができる。

④作成した学習指導案に基づいて(模擬)授業を行うことができる。

⑤(模擬)授業の評価を基に、授業改善について考えることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : ① You can understand the transition of geography subjects in National curriculum for high schools . And give the overview.

② About geography subjects of high school, you can understand the points of objectives and contents of instruction, the specific dev

7. 授業の内容・方法と進度予定 :

第1回：オリエンテーション、高校学習指導要領「社会科・地理歴史科」地理科目の変遷に関する講義 (1)

第2回：高校学習指導要領「社会科・地理歴史科」地理科目の変遷に関する講義 (2)

第3回：学習指導要領「地理総合」の目標や内容の要点に関する講義 (1)

第4回：学習指導要領「地理総合」の目標や内容の要点に関する講義 (2)

第5回：学習指導案の役割と基本的内容に関する講義・演習 (1) 一指導案の役割と構成

第6回：学習指導案の役割と基本的内容に関する講義・演習 (2) 一目標と評価

第7回：学習指導案の役割と基本的内容に関する講義・演習 (3) 一展開

第8回：「地理総合」の教材、授業作りに関する講義・演習 (1) 一デジタル地図を使って

第9回：「地理総合」の教材、授業作りに関する講義・演習 (2) 一GIS教材を使って①

第10回：「地理総合」の教材、授業作りに関する講義・演習 (3) 一GIS教材を使って②

第11回：「地理総合」の教材、授業作りに関する講義・演習 (4) 一フィールドワークを取り入れて

第12回：全体またはグループ単位での模擬授業実施とルーブリックによる相互評価 (1)

第13回：全体またはグループ単位での模擬授業実施とルーブリックによる相互評価 (2)

第14回：全体またはグループ単位での模擬授業実施とルーブリックによる相互評価 (3)

第15回：模擬授業の振り返り、相互評価結果を基にした授業改善レポート作成

8. 成績評価方法 :

これまでの学習指導要領における地理科目や新学習指導要領地理科目に関する確認テスト (20%)、学習指導案の作成及びそれに基づく模擬授業 (40%)、課題の取組状況・授業への参加態度等 (40%)

9. 教科書および参考書 :

教科書：・文部科学省 (2018) : 『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 地理歴史編』, 東洋館出版社 (または文部科学省 HP

https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf

よりダウンロード可能)。

・帝国書院『高等学校 新地理総合』

参考書：・帝国書院『新詳高等地図』(高校で使用した「地図帳」の流用可)

・国立教育政策研究所 (2021) : 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に

10. 授業時間外学習 : 課題レポートへの取組、学習指導案の作成、模擬授業に向けた教材研究などを行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他 : なし

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB53204, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of

5. 学習の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. 方言的特徴の調べ方についての解説 (3)

6. テーマ等設定に向けての作業 (1)

7. テーマ等設定に向けての作業 (2)

8. テーマ中間報告 (1)

9. テーマ中間報告 (2)

10. 調査票の作り方についての解説

11. 模擬調査と録音機の使い方

12. 調査票の検討(1)

13. 調査票の検討(2)

14. テーマ最終報告 (1)、調査実施準備

15. テーマ最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB53203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象（特に動植物に関する文学的表現）という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cu
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. ガイダンス2
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習は第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB53205, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれの

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島 越郎, 中村 太一

コード：LB73201, 科目ナンバリング：LHM-LIN302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LB53309, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学のための Python プログラミング入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction of Python Programming for Computational Social Science
3. 授業の目的と概要：この授業では、計算社会科学に必要なプログラミング基礎を、Python を通じて習得する。データ構造、制御構造、関数、オブジェクトなどプログラミングの基礎概念を学んで、ライブラリを用いたデータ解析・可視化などを、講義と実習を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course pertains to elementary Python programming for computational social science. This course covers fundamentals of programming including data types, control structure, functions, and object oriented design. Also, students will learn how to utilize
5. 学習の到達目標：Python の基本概念と Python によるデータ分析の基本手法を習得することを目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to learn the basic concept of Python and the fundamentals of data analysis techniques utilizing Python.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Git/Github の使い方、プログラミング環境の構築(1)
 3. Git/Github の使い方、プログラミング環境の構築(2)
 4. Python の基本文法
 5. 変数の基礎
 6. 繰り返しと制御構造
 7. 関数
 8. オブジェクトとクラス(1)
 9. オブジェクトとクラス(2)
 10. Numpy 入門
 11. pandas 入門
 12. scikit-learn 入門
 13. 可視化
 14. データ分析の実践
 15. データ分析の実践
8. 成績評価方法：

復習課題+出席 [70%], 期末課題 [30%]
9. 教科書および参考書：

Bill Lubanovic, 「入門 Python 3 第2版」, オライリージャパン
Wes McKinney, 「Python によるデータ分析入門 第2版 —NumPy, pandas を使ったデータ処理」, オライリージャパン
Aurlien Gron, 「Hands-on Machine Learning With Scikit-learn, Keras, and Tensorflow: Concepts, Tools, and Techniques to Build Intelligence
10. 授業時間外学習：授業内容の習得を問う復習課題を完成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53304, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Some Topics on Death Studies
3. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn what death studies is.
5. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand death in cultural contexts from the view point of death studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
指定テキスト（参考書）のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。
 - (1) 死生学とは何か
 - (2) 死生観と宗教
 - (3) 日本人の死生観
 - (4) 喪と追悼
 - (5) 死生観一国と地域の視点から
 - (6) マスメディアで死生について考える
 - (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
 - (8) 老いと死
 - (9) 病い経験と「生」
 - (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
 - (11) 自己決定権
 - (12) ターミナルケア
 - (13) 自殺予防
 - (14) 尊厳死
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
(参考書)
石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014
石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：実験心理学演習Ⅲ／ Experimental Psychology (Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-PSY320J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学の文献研究
2. Course Title (授業題目)：Seminars on Neuropsychology and Biological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students are required to read and summarize a chapter of a textbook (about Biological Psychology), and then to have a presentation in the class. The other students are required to attend discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To know how to use and apply their psychological knowledge to solve everyday problems.
2. To have a skill to present their ideas to the other students, and to discuss with them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
最初に与えられた英語の専門書 (Brain and Behavior Revisiting the classic studies) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
第1回 導入 (講義の進め方／担当決め)
第2回 プレゼンテーションの方法
第3回 文献講読その1
第4回 文献講読その2
第5回 文献講読その3
第6回 文献講読その4
第7回 文献講読その5
第8回 文献講読その6
第9回 文献講読その7
第10回 文献講読その8
第11回 文献紹介その1
第12回 文献紹介その2
第13回 文献紹介その3
第14回 文献紹介その4
第15回 文献紹介その5
8. 成績評価方法：
() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席
(○) その他 (発表態度) [60%]
9. 教科書および参考書：
授業時に指示する。
10. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
何か質問があれば、電子メール (nob_sakai@tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LB53303, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的研究概論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Qualitative Inquiry in Sociology

3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について学ぶ。参加者は教材を読み、資料収集や日常観察などの実践を試みることで、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn some methods and theories in sociological qualitative inquiry in introductory lectures, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection and observation in everyday life.

5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界が理解できるようになる。

2) フィールドワークやインタビューを初歩的な形で実践できる基礎素養が身につく。

3) 調査のモラルと倫理、責任について考慮できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)： Through this course students will become able to 1) understand fundamental methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits, 2) acquire background knowledge to conduct some fieldwork or interview in elementary form, and 3) c

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

8. 成績評価方法：

平常点(50%)と学期末レポート(50%)を総合的に加味して評価する。

9. 教科書および参考書：

エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998)など複数を教室にて指示する。

また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

Books and papers will be introduced in class, such as Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et.al.(1995), Dictionary of Qualitative Inqu

10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

Students are required preparatory readings and some home works.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウィリアム・マーシャルとその世界

2. Course Title (授業題目)：William Marshal and his world

3. 授業の目的と概要：この授業は、「世界で最高の騎士」とたたえられたウィリアム・マーシャルの生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、12世紀から13世紀初頭の西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries through the life of William Marshal, 'the best knight in the world'.

5. 学習の到達目標：12世紀～13世紀初頭の西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries and also understanding people in their historical context.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 1170年まで (1)
3. 同上 (2)
4. 同上 (3)
5. ヘンリ2世のもとで (1)
6. 同上 (2)
7. 騎士の社会 (1)
8. 同上 (2)
9. 同上 (3)
10. リチャド1世のもとで (1)
11. 同上 (2)
12. ジョン王のもとで (1)
13. 同上 (2)
14. 同上 (3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50パーセント) とレポート (50パーセント)。

9. 教科書および参考書：

Google Classroom で指示します。

10. 授業時間外学習：指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LB53307, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世文学研究

2. Course Title (授業題目)：Chinese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：本授業では、中国の伝統的な注釈方法に基づいて、中国古典文学の作品を読解します。作品読解を通して中国古典文学の基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力の向上を目指します。授業は出席者による発表と質疑応答によって進めます。

前期は、主に北宋詞を読みます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the fundamental knowledge about Chinese classical literature, gain reading ability, analysis ability, through reading Chinese classical literature.

This course is centered on a presentation and a quest

5. 学習の到達目標：(1) 中国古典文の読解力を向上させる。

(2) 中国の文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。

(3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。

(4) 歴史的背景を踏まえ、中国の文学作品がどのように変化してきたかを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students improve Chinese classical Literature reading skill.

2. Students gain the perspective needed to analyze Chinese classical Literature.

3. Students gain the skills of using dictionaries, databases and original books and so on.

4. Students und

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりです。

1. ガイダンス

2. 発表と質疑応答 (1)

3. 発表と質疑応答 (2)

4. 発表と質疑応答 (3)

5. 発表と質疑応答 (4)

6. 発表と質疑応答 (5)

7. 発表と質疑応答 (6)

8. 発表と質疑応答 (7)

9. 発表と質疑応答 (8)

10. 発表と質疑応答 (9)

11. 発表と質疑応答 (10)

12. 発表と質疑応答 (11)

13. 発表と質疑応答 (12)

14. 発表と質疑応答 (13)

15. 発表と質疑応答 (14)

8. 成績評価方法：

授業への取り組み (レジュメ提出含む)：50%

発表 (資料作成を含む)：50%

9. 教科書および参考書：

テキスト・資料等は、Google Classroom より配布予定。

参考文献等は授業中に指示。

10. 授業時間外学習：辞書類やデータベース等を活用して、予習・復習をしてください。

原文の語彙について語釈を見るだけでなく、前後の文脈も考慮した丁寧な読解をこころがけましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Reason in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要：ヘーゲルをはじめとする近代ドイツの哲学者たちは、ドイツ観念論という名のもとにくられるのが一般的です。その場合、彼らの哲学が全体として観念論に属する、という先行了解が背後にあります。ただ彼らのテキストを実際に紐解くならば、事情はそう簡単ではないことが用意に見て取れます。そこで本演習では、ヘーゲルの『精神現象学』から「理性」章を取り上げ、観念論をめぐる議論を実際に検証してみることにします。そうすることで、カントの批判的観念論、ヤコービによる観念論と实在論の対比、フィヒテとシェリングにおける超越論的観念論な
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Wir werden das Vernunft-kapitel von Hegels "Phänomenologie des Geistes" lesen. Dort wird diskutiert, was der Idealismus eigentlich bedeutet, sowie was die Realität für die Vernunft ist. Hegels Argumentation verweist viele vorhergehende Denker wie Kant, J
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション (授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：近代的理性——意識の一形態としての理性——
第3回：自己意識としての理性——対象との関係と实在性の確信——
第4回：理性の立場としての観念論
第5回：観念論における实在性の位置づけ
第6回：理性とカテゴリー
第7回：カテゴリーはどのように対象に関係するか
第8回：カントの純粹統覚論との関係
第9回：観念論における真理概念について
第10回：理性の観察について
第11回：概念と物
第12回：理性の観察対象としての自然
第13回：普遍・特殊・個別
第14回：自然観察における認識の特徴について
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 3回目 狩野派の系譜1—御用絵師・正信から元信へ
- 4回目 狩野派の系譜2—永徳と桃山の大家
- 5回目 狩野派の系譜3—探幽と江戸狩野の確立
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 英一蝶と英派の絵画
- 8回目 京の町絵師1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 9回目 京の町絵師2—尾形光琳と乾山
- 10回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 11回目 刀装具と鐔の意匠性
- 12回目 雪舟流—長谷川派と雲谷派
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播—高田敬輔から小泉檀山へ
- 14回目 対外交易と長崎派
- 15回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (1)
2. Course Title (授業題目)：A study of the Modern Japanese Political and Social History (1)
3. 授業の目的と概要：戦時期の国家中枢の資料である参謀本部編『杉山メモ』と参謀本部戦争指導班『機密戦争日誌』を照合して読解し、関連する史料などとあわせて、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will read the "Sugiyama Memo" edited by the General Staff Headquarters, which is a central document of the nation during the war, and the "Secret War Diary" by the War Guidance Group of the General Staff Headquarters, and use it t
5. 学習の到達目標：(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。
(2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
(3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.
(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.
(3) Through the above two t
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・史料の概要
 2. 日中戦争からアジア・太平洋戦争に至るころの陸軍に関する研究の把握
 3. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
 4. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
 5. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
 6. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
 7. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
 8. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
 9. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
 10. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
 11. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
 12. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
 13. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
 14. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
 15. これまでの報告と討論のまとめ
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]
(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]
9. 教科書および参考書：
史料は、随時、配付する。
10. 授業時間外学習：『杉山メモ』『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約
履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔. 片岡 龍

コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：卒業論文のテーマの決定

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Determining the thesis theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは 1 週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：松本 圭太. 鹿又 喜隆

コード：LB53311, **科目ナンバリング：**LHM-HIS310J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (1)

2. Course Title (授業題目)：Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides opportunities to experience excavation, basic operation of archaeological materials, projected drawing/layout of artifacts, taking photographs for editing the excavation report. Students will obtain basic techniques and methods for arc

5. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn methodology to make an excavation report for basic archaeological study. They also learn about planning and methods for archaeological fieldwork.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目(考古学実習)は、対面講義です。

初回のみオンライン講義を行います。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは rwhilal です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義のスケジュールは以下の通り。

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)①

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)②

発掘調査実習①

発掘調査実習②

出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)③

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

遺物の実測と製図①

遺物の実測と製図②

遺物の実測と製図③

遺物の実測と製図④

遺物の実測と製図⑤

測定の基礎と機器の操作①

測定の基礎と機器の操作②

測定の基礎と機器の操作③

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他(具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み)「30%」

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎
2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course I
3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように教える
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials a
5. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する
 - ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
 - ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
 - ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - understand the purpose and goals of the practicum and how it relates to the qualities and abilities required of a Japanese language teacher.
 - analyze the needs, readiness, and environment of th
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (4/10)：オリエンテーション
 - 第2回 (4/17)：コースデザインとは①
 - 第3回 (4/24)：コースデザインとは②
 - 第4回 (5/8)：模擬授業
 - 第5回 (5/15)：コミュニケーション能力とは
 - 第6回 (5/22)：学習者の日本語の習熟度とは
 - 第7回 (5/29)：多様な授業内活動①
 - 第8回 (6/5)：多様な授業内活動②
 - 第9回 (6/12)：多様な授業内活動③
 - 第10回 (6/19)：授業準備・模擬授業①
 - 第11回 (6/26)：振り返り①、授業準備・模擬授業②
 - 第12回 (7/3)：振り返り②、授業準備・模擬授業③
 - 第13回 (7/10)：振り返り③、授業準備・模擬授業④
 - 第14回 (7/17)：振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
 - 第15回 (7/24)：振り返り⑤まとめ5/1は休講予定です。
8. 成績評価方法：
 - 授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
 - 教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB53313, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：How do we do fieldwork?

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目指す。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画を立案する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acqu

5. 学習の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論①
7. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論②
8. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論③
9. フィールドワーク計画の報告と討論①
10. フィールドワーク計画の報告と討論②
11. フィールドワーク計画の報告と討論③
12. フィールドワーク計画の報告と討論④
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

8. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

9. 教科書および参考書：

特定の教科書は用いず、必要資料は講義前に classroom にて適宜配布する。

10. 授業時間外学習：フィールドワークに向けたテーマ設定、文献調査等を事前に行った上で、各自のテーマに沿ったフィールドワークを遂行し、フィールドノートを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB53403, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の思考法 I

2. Course Title (授業題目)：Fundamental Perspectives in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、文献を正確に読む能力を育成するとともに、生成文法統語論の基本的な概念の理解を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and introduce students to basic concepts of generative syntax, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学習の到達目標：①生成文法統語論の思考法や研究方法論を理解する
②批判的に英文を読む力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concepts and methodology of generative syntax and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当教員による講義、担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：導入

第 3 回：生成言語学の方法論

第 4 回：長距離依存関係

第 5 回：長距離依存関係と階層構造(1)：構成素統御

第 6 回：長距離依存関係と階層構造(2)：階層構造の精緻化

第 7 回：長距離依存関係の類型論(1)：主要部と句の移動

第 8 回：長距離依存関係の類型論(2)：連続循環的移動

第 9 回：長距離依存関係の類型論(3)：A 移動と A-bar 移動

第 10 回：長距離依存関係の類型論(4)：接辞繰り下げと非頭在的移動

第 11 回：長距離依存関係の類型論(5)：束縛関係

第 12 回：長距離依存関係の類型論(6)：移動の局所性

第 13 回：空所の類型論(1)：繰り上げとコントロール

第 14 回：空所の類型論(2)：省略

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表とディスカッションへの参加 (40%)，期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Cheng, Lisa Lai-Shen and James Griffiths (2021) "The Enduring Discoveries of Generative Syntax," in A Companion to Chomsky, ed. by Nicholas Allot, Terje Lohndal and Georges Rey, pp. 52-65, Wiley-Blackwell. プリント使用。

10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し問題点について理解を深める (2 時間)。

The students are required to read the assigned part of the textbook in advance and prepare for in-class discussion and presentation. They are also required to review each class to have a better

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：記述言語学各論／ Descriptive Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-LIN331J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論

2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis

3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the objectives.

5. 学習の到達目標：・ピジン・クレオールの言語特徴を分析により導く。
・言語調査の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フィールド言語学・記述言語学とは
2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
4. ピジン・クレオールの背景
5. ビスマラ語の聞き取り
6. 現地語の聞き取り
7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
9. 3 言語の句構造・文構造の比較
10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
11. 仮説の設定と調査手法
12. 3 言語の比較から導くピジン・クレオールの特徴
13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
14. 言語接触のプロセスと言語変化
15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名:実験心理学各論(知覚・認知心理学) / Psychology of Perception and Cognition (Special Lecture)

曜日・講時:前期 水曜日 4講時

セメスター:5 単位数:2

担当教員:河地 庸介

コード:LB53402, 科目ナンバリング:LHM-PSY312J, 使用言語:日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目:知覚・認知心理学

2. Course Title (授業題目):Perceptual and Cognitive Psychology

3. 授業の目的と概要:人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える感覚・知覚・注意・記憶・思考といった「こころ」の様々な機能を幅広く理解し、さらにはそれらの機能を実現する脳内メカニズムを理解することを目指す。適宜、錯覚等のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見や話題を織り交ぜながら講義を進めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要):We consciously or unconsciously perceive various information from the internal and external environments, choose an adaptive behavior based on perceived information, and interact with the environments. This course aims at comprehensively understanding the

5. 学習の到達目標:日常生活の中で体験する自分自身や他者の「こころ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近年様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標):Students improve the ability to analyze psychological phenomena from the perspective of cognitive psychology and to understand and evaluate psychological topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定:

授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス
2. 知覚・認知心理学で用いる心の測り方
3. 世界を感じるための心の基本特性
4. 初期視覚情報処理1 (網膜・受容野)
5. 初期視覚情報処理2 (コントラスト・空間周波数処理)
6. 初期視覚情報処理3 (色・運動・奥行き知覚)
7. 中期視覚情報処理 (図地の知覚, 群化)
8. 高次視覚情報処理 (物体・顔・シーンの知覚)
9. 聴覚・触覚情報処理
10. 多感覚統合:複数感覚の情報をいかにしてまとめ上げるのか
11. 注意:注意とは何か, 如何にして測定するのか
12. 様々な注意:注意はどこに向けられるのか
13. 心的イメージ
14. 意思決定
15. まとめ

8. 成績評価方法:

試験もしくはレポート(60%)およびコメントシートの提出(40%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書:

必要に応じてPDF ファイルを配布する。

10. 授業時間外学習:講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URLなどを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB53404, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する

2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective

3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participant)

5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。

(2) 現実には起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion

(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：入門講義 (1) : テキストの背景

第三回：入門講義 (2) : 要約・論点出しの仕方、担当者決定

第四回：テキストの読解 (1)

第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

テキストはプリントで配布します。

現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。

10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

【重要】通年の受講が望ましい。

科目名：行動科学実習／ Behavioral Science (Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：小川 和孝

コード：LB53405, 科目ナンバリング：LHM-OS0303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目) : Training in Social Surveys

3. 授業の目的と概要：量的社会調査を実施する上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とする。受講生は社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。調査は東北大学の学生を対象にして行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けた上で、受講生の関心に応じてグループを分ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers knowledge and skills that are needed to conduct quantitative social surveys. Students experience a set of processes on social surveys, including establishing hypotheses, designing questionnaires, statistical data analysis, and writing a

5. 学習の到達目標：(1) 社会調査を実施するための技法を身につける。

(2) 社会調査の一次分析を通じた論文を執筆する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To acquire skills for conducting social surveys

(2) To write a paper through a primary analysis of a social survey

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (40%)、最終報告書 (60%)

9. 教科書および参考書：

[参考書] 轟亮・杉野勇, 2021, 『入門・社会調査法 第4版』法律文化社。

10. 授業時間外学習：(1) 調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する

(2) 実査段階：調査項目の検討、実査への参加

(3) 分析段階：報告書原稿の作成

授業時間外もグループによる作業が必要になることがあるので留意すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本授業は、社会調査士カリキュラムの G 科目（「社会調査を実際に経験し学習する科目」）に該当する。

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学文献講読
2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies
3. 授業の目的と概要：死生観に関する文献を読み、日本文化における悲嘆とそのケアのありかたについて基礎的な知識を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to death and grief in Japanese cultural tradition.
5. 学習の到達目標：日本人の文学的感性が死と悲嘆をどのように捉えてきたのか、事例を踏まえて理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .
7. 授業の内容・方法と進度予定：
島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)を読み進める。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

- (1) イントロダクション
- (2) 【序章】自分自身の死生観を探る——東日本大震災後に目立つ死生観探究
- (3) 【第 1 章】魂のふるさとと原初の孤独 死者が近くにいるという感覚
- (4) 折口信夫のマレビト
- (5) 魂のふるさとへの憧憬
- (6) 【第 2 章】無常を嘆き、受け入れる 無常——野口雨情の童謡と一茶の「おらが春」
- (7) 無常を描き出す宗教文書と文芸
- (8) 無常観——芭蕉と李白
- (9) 【第 3 章】悲嘆の文学の系譜 王朝文芸の「はかなし」と死生観
- (10) 母の悲嘆と作者の憤り、そして笑い
- (11) 【第 4 章】無常から浮き世へ 桜に託された孤独、苦悩と信仰の間
- (12) 現代人のうき世観と魂のふるさと
- (13) 【終章】夏目漱石、死生観を問う——死生観が問われる時代
- (14) まとめ その一
- (15) まとめ その二

8. 成績評価方法：

出席回数と発表内容により総合に評価する。

9. 教科書および参考書：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)、朝日新聞出版、2023

10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、原 壘、小泉 政利、中西 太郎、浜田 宏

コード：LB53505, 科目ナンバリング：LHM-0HU311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：Research Ethics

3. 授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

5. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。

2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。

3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）として実施します。

授業内容は以下の通りです。

第1回：イントロダクション（担当：原壘）

第2回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）

第3回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）

第4回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：浜田宏）

第5回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：浜田宏）

第6回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）

第7回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）

第8回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：中西太郎）

第9回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）

第10回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）

第11回：人文学・社会科学分野における盗用（担当：原壘）

第12回：共同研究とオーサーシップ（担当：原壘）

第13回：ピア・レビューと利益相反（担当：原壘）

第14回：人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係（担当：原壘）

第15回：人文学・社会科学の学問特性と研究不正（担当：原壘）

8. 成績評価方法：

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

10. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回のイントロダクションは、オンライン会議システムを使用して行います。詳細は、Google Classroom を使ってお知らせいたします。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB53504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読

第二章 純粋理性のアンチノミー

第一節 宇宙論的理念の体系

第二節 純粋理性の背反論

超越論的理念の第一の抗争

第一アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第二の抗争

第二アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第三の抗争

第三アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第四の抗争

第四アンチノミーに対する注解

第三節 これらの抗争における理性の関心について

第四節 端的に解決されうるはずであるかぎりの、純粋理性の超越論的課題について

第五節 四つの超越論的理念すべてをつうじて生じる宇宙論的問いの懐疑的な表象

第六節 宇宙論的弁証論を解決するカギとしての超越論的観念論

8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB53503, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is designed to help students learn how to search for historical materials and how to use dictionaries / index through reading the Chinese historical documents of Ming Qing Period. Then students get basic knowledge on exploring various subject

5. 学習の到達目標：内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB53502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する 3 年生・4 年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論 (1)

3. 受講者による報告と討論 (2)

4. 受講者による報告と討論 (3)

5. 受講者による報告と討論 (4)

6. 受講者による報告と討論 (5)

7. 受講者による報告と討論 (6)

8. 受講者による報告と討論 (7)

9. 受講者による報告と討論 (8)

10. 受講者による報告と討論 (9)

11. 受講者による報告と討論 (10)

12. 受講者による報告と討論 (11)

13. 受講者による報告と討論 (12)

14. 受講者による報告と討論 (13)

15. 受講者による報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB34102, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学
2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology
3. 授業の目的と概要：2 者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：An introduction to social psychological research and theory regarding interpersonal relations and group processes.
5. 学習の到達目標：社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand social psychological theories and research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 態度と行動
 2. 社会的影響
 3. 服従と抵抗
 4. 集合行動①
 5. 集合行動②
 6. 相互依存関係
 7. 社会的ジレンマ
 8. 規範・信頼・家族
 9. 集団のパフォーマンス
 10. 集団の意思決定
 11. 集団間関係
 12. リーダーシップ
 13. 文化と心
 14. 社会的自己
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

毎回実施する小テスト (100%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。
10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
対面授業により実施します。履修希望者が教室定員を超過する場合には、他学部生の履修を制限します。学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがあります。

科目名：中国文学概論／ Chinese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LB34101, 科目ナンバリング：LHM-LIT202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国古典詩歌文学史

2. Course Title (授業題目)：History and development of Classical Chinese poetry

3. 授業の目的と概要：【目的】

1. 中国の先秦時代から唐代に到るまでの古典詩を読み、理解を深める。
2. 同時に、いわゆる「漢文」の構造や訓読法、古体詩と近体詩の違い、近体詩の格律（きまり・法則）など、基本知識をおさえる。

【概要】

中国文学の中でも、特に先秦から唐代までの古典詩歌文学に焦点を絞り、時代・ジャンルごとに重要事項について学習する。実際に代表的な作品を実際に読み、その内容を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：【Course Objectives】

1. In this course, students read poetry from Pre-Qin to Song dynasty to acquire knowledge of Chinese classical literature.

2. At the same time, students grasp the fundamentals of classical Chinese literature such as the construction of

5. 学習の到達目標：・中国古典詩歌文学に関する基礎知識を身につける。

・中国古典詩歌のジャンルや修辞等の歴史的変遷について理解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：・Students will acquire fundamental knowledge of Chinese classical literature.

・Students will be able to understand historical transition of genres or rhetoric of Chinese classical poetry.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『詩経』(1)
3. 『詩経』(2)
4. 『楚辞』(1)
5. 『楚辞』(2)
6. 漢代の詩(1)
7. 漢代の詩(2)
8. 魏晋の詩(1)
9. 魏晋の詩(2)
10. 南北朝の詩(1)
11. 南北朝の詩(2)
12. 初唐の詩
13. 盛唐の詩
14. 中唐の詩
15. 晩唐の詩

8. 成績評価方法：

授業に対する参加姿勢(30%)と課題提出(20%)及び最終レポート(50%)による。

9. 教科書および参考書：

教科書は用いず、毎回配布する資料による。

参考書は、授業中に適宜紹介する。

Materials will be handed out at every class.

References to further readings will be made in classes.

10. 授業時間外学習：授業中に示した参考文献に目を通し、授業で得た知識を補い、作品をより深く広く理解する力をつけること。

Students are required to read the references given in classes to supplement the knowledge and deepen understanding about Chinese classical literature.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：言語学概論 I / Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB34202, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（基礎）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Linguistics (foundation)
3. 授業の目的と概要：現代言語学の研究目標，研究対象，分析方法，基礎的概念などについて学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will study the purpose, research objects, analytical methods, and basic concepts of modern linguistics.
5. 学習の到達目標：(1) 現代言語学の研究目標と研究対象を理解する。
(2) 言語学の基礎的な概念を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the purpose and research objects of modern linguistics
(2) To understand the basic concepts of linguistics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・言語と言語学
 2. 音声学 1：子音
 3. 音声学 2：母音
 4. 音韻論 1：音素
 5. 音韻論 2：音節
 6. 音韻論 3：韻律
 7. 形態論 1：形態素
 8. 形態論 2：接辞
 9. 形態論 3：語形成
 10. 統語論 1：統語構造
 11. 統語論 2：統語分析
 12. 統語論 3：統語類型
 13. 意味論 1：命題、モダリティ、ヴォイス
 14. 意味論 2：テンス、アスペクト
 15. まとめと試験
8. 成績評価方法：
期末試験 70%、発表 30%
9. 教科書および参考書：
適宜、資料の配布および参考書等の紹介を行います。
10. 授業時間外学習：毎週、事前に示された内容の予習および講義の復習をして下さい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB34203, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的社会調査入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to qualitative social research
3. 授業の目的と概要：様々な質的研究法の概要を理解するとともに、それらの方法論に基づいて執筆された論文の精読を行うことを通じて質的社会調査の実際を学ぶ。なお、受講生には授業で学んだことを活かして文献検索等を行い、先行研究の検討を通じて自らの研究テーマを掘り下げることが期待される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of qualitative social research methods.
5. 学習の到達目標：(1) 質的研究法の特徴を理解できるようになる
(2) 質的社会調査に基づく研究成果を批判的に読むことができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is that students understand how to collect and analyze qualitative data based on different methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 演習の進め方について
 - 2 質的研究とは何か
 - 3 質的研究におけるデータ収集
 - 4 フィールドワーク (1)
 - 5 フィールドワーク (2)
 - 6 参与観察 (1)
 - 7 参与観察 (2)
 - 8 生活史 (1)
 - 9 生活史 (2)
 - 10 中間まとめ
 - 11 質的研究の実例を読む (1)
 - 12 質的研究の実例を読む (2)
 - 13 質的研究の実例を読む (3)
 - 14 質的研究の実例を読む (4)
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』(有斐閣、2016 年)
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：安達 宏昭. 籠橋 俊光. 柳原 敏昭

コード：LB34201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史概説 1

2. Course Title (授業題目) : Lecture on Japanese History 1

3. 授業の目的と概要：本講義では、「人物」を通して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。「人物」をとりあげることによって、ある人物の判断が歴史を動かす場面を目の当たりにしたり、市井の人物の人生が、歴史の変動によって翻弄される場面を目撃することになる。人が歴史をつくり、歴史によって人がつくられる点を現代の私たちが実感しつつ、あわせて「人物」から歴史を学ぶことの意義も考えたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学ぶこと

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (柳原)
2. 古代・中世 1 (柳原)
3. 古代・中世 2 (柳原)
4. 古代・中世 3 (柳原)
5. 古代・中世 4 (柳原)
6. 近世 1 (籠橋)
7. 近世 2 (籠橋)
8. 近世 3 (籠橋)
9. 近世 4 (籠橋)
10. 近現代 1 (安達)
11. 近現代 2 (安達)
12. 近現代 3 (安達)
13. 近現代 4 (安達)
14. 歴史学のいま (安達)
15. まとめ (籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講生は、原則として文学部に在籍する者と、他学部の教職の関係から単位取得が必要な者ならびに 4 年生とする。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB34305, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 初級
2. Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)
3. 授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去）、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the
5. 学習の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業紹介・挨拶から
 3. 冠詞と名詞。
 4. 形容詞の二種類
 5. Essere
 6. Avere
 7. 規則動詞入門
 8. 不規則動詞入門
 9. 数字、時間、日付
 10. 中間テスト
 11. 過去入門
 12. 副詞の種類
 13. 疑問詞。
 14. 小テストと復習。
 15. 期末テストとまとめ。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to classical Sanskrit literature I

3. 授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして平易なサンスクリット文の読解演習を行い、サンスクリット語文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記のほか、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。インド古典文学の理解のため、随時、古代インド文化の概説を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, we aims to deepen our understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's "A Sanskrit Reader." We will read as much as possible by referring to Whitney's "Sanskrit Grammar" as well as the textbook's glossary a

5. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第1章 (ナラ王とダマヤンティーの生い立ち) 1-4
3. 『ナラ王物語』第1章 5-8
4. 『ナラ王物語』第1章 9-12
5. 『ナラ王物語』第1章 13-16
6. 『ナラ王物語』第1章 17-21
7. 『ナラ王物語』第1章 22-26
8. 『ナラ王物語』第1章 27-32
9. 『ナラ王物語』第2章 (婿選びの御触れ) 1-6
10. 『ナラ王物語』第2章 7-13
11. 『ナラ王物語』第2章 14-20
12. 『ナラ王物語』第2章 21-28
13. 『ナラ王物語』第2章 29-30, 第3章 (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-6
14. 『ナラ王物語』第3章 7-14
15. 『ナラ王物語』第3章 15-22

8. 成績評価方法：

授業への出席状況と受講態度 (40%)、授業内容の理解度 (40%) および予習 (20%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

サンスクリット語初級の知識を有すること。冬セメスターのサンスクリット語 (サンスクリット語基礎演習 II) と合せて受講するのが望ましい。

科目名：英文学・英語学基礎講読 I / English Literature and Linguistics (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-LIT217E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Postwar British Short Stories
2. Course Title (授業題目)：戦後イギリス短編小説
3. 授業の目的と概要：This course will consider the period of the “Postwar” in British Literature (1945-2000s). We will read a selection of short stories and study them in the literary, historical and cultural context of literature after World War Two. Topics for study will in
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このコースでは、イギリス文学における「戦後」の時代（1945-2000 年代）を考察する。選りすぐりの短編小説を読み、第二次世界大戦後の文学、歴史、文化的背景の中で研究する。学習内容には、短編小説のスタイル、戦後イギリスの社会階級と変化、ジェンダーとアイデンティティ、科学技術と環境、文学史の理解と現代の時代区分などが含まれる。学生は、英語で小説を読み、比較近代文化を理解するスキルを向上させる。
5. 学習の到達目標：1: To improve reading comprehension through short stories in English.
2: To understand the literary and cultural contexts of literature since 1945.
3: To improve comprehension skills in English through group discussion.
4: To write and improve academ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 英語の短編小説を読む。
2: 1945 年以降の文学の文学的・文化的背景を理解する。
3: 授業でのプレゼンテーションやディスカッションを通して、英語の理解力を高める。
4: アカデミックな英作文を書く
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Introduction
 2. Elizabeth Bowen, “Mysterious Kôr.”
 3. Jean Rhys, “The Lotus.”
 4. Alan Sillitoe, “The Fishing Boat Picture.”
 5. V. S. Naipul, “The Perfect Tenants.”
 6. Ted Hughes, “The Rain Horse.”
 7. Doris Lessing, “To Room Nineteen.”
 8. Muriel Spark, “House of the Famous Poet.”
 9. J.G. Ballard, “Memories of the Space Age.”
 10. Fay Weldon, “Weekend.”
 11. Angela Carter, “Flesh and the Mirror.”
 12. Anna Kavan, ‘Judy and the Bazooka.’
 13. Beryl Bainbridge, “Clap Hands, Here Comes Charlie.”
 14. Salman Rushdie, “The Prophet’ s Hair.”
 15. Samuel Beckett, “Ping.”
8. 成績評価方法：
Mid-semester test 20%, final exam 30%, short writing assignments 50%
9. 教科書および参考書：
Bradbury, Malcolm, ed. The Penguin Book of Modern British Short Stories. (Penguin, 2011)
10. 授業時間外学習：Mid-term quiz
Final quiz

Reaction comments to Google Classroom

End-of-course written report

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

This class will be taught in English.

Students should read a short English text each week in advance of class and may be asked to write a short comment in reaction after class.

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：渡部 東一郎

コード：LB34301, 科目ナンバリング：LHM-PHI202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思想史概説1：南北朝まで
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Chinese Thought 1：Up to the period of the Northern
3. 授業の目的と概要：多様な思想が開花した春秋・戦国時代に始まり、秦・漢王朝による学術の統一を経て、仏教に対する理解の進展と道教の確立によって儒・仏・道三教が出揃い、受容や対立の様相を呈した南北朝時代までの中国思想史を概説する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course outlines the history of Chinese thought, beginning with the Spring and Autumn period and the Warring States period, when diverse ideas flourished, through the unification of learning by the Qin and Han dynasties, to the period of the Northern
5. 学習の到達目標：春秋・戦国時代から南北朝時代に至る、諸思想の内容と史的展開について理解することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The students will be able to understand the content of various schools of thought and the historical development of thought from the Spring and Autumn period and the Warring States Period to the period of Northern and Southern Dynasties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
[授業内容・方法]
各回のテーマについて配布資料を元に解説していく。
[進度予定]
 1. 導入
 2. 春秋・戦国1：『論語』に見る孔子の思想
 3. 春秋・戦国2：『老子』と『莊子』の思想
 4. 春秋・戦国3：『墨子』の思想
 5. 春秋・戦国4：『孟子』と『荀子』の思想
 6. 春秋・戦国5：『韓非子』の思想とその他の諸子百家の思想
 7. 前漢1：漢初の思想
 8. 前漢2：『淮南子』と董仲舒の思想
 9. 後漢1：桓譚『新論』と王充『論衡』の思想
 10. 後漢2：儒教経典の整理と政治思想について
 11. 魏晉1：魏晉の玄学1
 12. 魏晉2：魏晉の玄学2
 13. 南北朝1：南朝梁の学術と思想
 14. 南北朝2：南北朝時代の仏教と道教1
 15. 南北朝3：南北朝時代の仏教と道教2
8. 成績評価方法：
中間レポート(50%)、期末レポート(50%)。
9. 教科書および参考書：
毎回の授業始めにプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。
10. 授業時間外学習：配布プリントを読み直すとともに、紹介した参考書を積極的に読み、レポート作成に備えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
特になし。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィヒテの教育哲学的著作を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Fichte's Writings of Educational Philosophy

3. 授業の目的と概要： フィヒテの『学者の使命』(1795年)は、学者とは何であるかという観点から、教育哲学の議論を展開した古典的なテキストとしてきわめて重要です。それと同時に、前年の『全知識学の基礎』(1794年)で提示された純粋な自我の概念について、より広い視点から考察がなされており、フィヒテ哲学のみならず、近代ドイツ哲学を理解する上で非常に有用なものといえます。さらに『学者の使命』では、学者が何であるかという問題が社会や文化との関係から論じられており、非常に多様な層から問題に光を当てています。

この講読では、フィヒ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： In this course, we are going to read some philosophical writings of Johann Gottlieb Fichte (1762~1814) concerning the problem of education and culture in its original German text. By reading the text, we are going to tackle with the problem of the educatio

5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション(授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認)

第2回：『学者の使命』第1講の読解(1)——人間の使命とは——

第3回：第1講の読解(2)——存在をめぐる——

第4回：第1講の読解(3)——理性的であることと有限であること——

第5回：第1講の読解(4)——文化の役割とは——

第6回：第2講の読解(1)——目的概念について——

第7回：第2講の読解(2)——自己同一性について——

第8回：第2講の読解(3)——因果性と相互作用——

第9回：第2講の読解(4)——社会における相互承認——

第10回：第2講の読解(5)——完全性をめぐる——

第11回；第2講の読解(1)——自然と道徳——

第12回：第2講の読解(2)——目標へ向かっての無限な接近——

第13回：第2講の読解(3)——自由であることと〈～べきである〉こと——

第14回：第2講の読解(4)——純粋な自我と個人——

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点(毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下を使用予定です。

J. G. Fichte - Gesamtausgabe der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. Hrsg. v. R. Lauth u. H. Jacobs, Stuttgart - Bad Cannstatt 1964ff.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB34402, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級

2. Course Title (授業題目)：Italian Intermediate

3. 授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and w

5. 学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 紹介、復習テスト
2. 過去と将来 直接法近過去その一
3. 旅行の単語・方向と前置詞
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 自分の趣味・読解と作文
7. 小テストと gerundio
8. 非人称動詞。
9. Volere と Vorrei (条件法現在)
10. Potere と Sapere と riuscire
11. 近過去と半過去
12. 小テストと会話の練習。
13. 近過去と半過去 2
14. 作文の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト

10. 授業時間外学習：無し

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読
2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History
3. 授業の目的と概要：欧文文献の精読を行い、美術作品を研究する基礎を身に着ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for the research of art works.
5. 学習の到達目標：西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 講読 (1)
 3. 講読 (2)
 4. 講読 (3)
 5. 講読 (4)
 6. 講読 (5)
 7. 講読 (6)
 8. 講読 (7)
 9. 講読 (8)
 10. 講読 (9)
 11. 講読 (10)
 12. 講読 (11)
 13. 講読 (12)
 14. 講読 (13)
 15. 講読 (14)
8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、期末課題 (50%)
9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.
10. 授業時間外学習：授業前に自分の担当部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：理論言語学各論／ Theoretical Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB54101, 科目ナンバリング：LHM-LIN332J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。
身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造、X バー理論
5. 文の構造を再考する、意味役割、能動と受動
6. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇、非対格仮説
7. 動詞句内主語仮説、主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
8. Ergativity
9. Tongan Syntax
10. Case Theory
11. Syntactic Ergativity in Tongan
12. Morphological Split: Accusative Behaviour of Pronouns
13. Raising or No Raising?
14. Passive
15. Antipassive and Middle Constructions

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：50%
- ・宿題：50%

9. 教科書および参考書：

教科書

岸本秀樹『ベーシック生成文法』ひつじ書房

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：インド学各論／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB54201, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』第6巻 (B.C. 600 頃以降) を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings (Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第3版])をテキストとして, Ma
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read Chandogya-Upanisad VI. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標： ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2 - 1 5 Chandogya-Upanisad VI.
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings. Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第3版]; Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morpholo
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：フランス文学各論 I / French Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：今井 勉

コード：LB54202, 科目ナンバリング：LHM-LIT312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文学批評を読む
2. Course Title (授業題目) : Reading of French criticism
3. 授業の目的と概要：19 世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。この授業では、20 世紀の文学と思想に大きな影響を与えたポール・ヴァレリーの文学批評から、『詩学講義』(1937-1945) の一部を読み、その思考表現の特徴を分析します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course reviews the history of French literary criticism since the 19th century. In this class, we will read a portion of Paul Valéry's "Lectures on Poetics" (1937-1945) from his literary criticism, which had a great influence on 20th century literature
5. 学習の到達目標：フランスの文学批評について具体的な見通しを持つことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to have a concrete outlook on French literary criticism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
(以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

第 1 回 導入：ポール・ヴァレリーの『詩学講義』について

第 2 回 テキスト解説

第 3 回 テキスト解説

第 4 回 テキスト解説

第 5 回 テキスト解説

第 6 回 テキスト解説

第 7 回 テキスト解説

第 8 回 テキスト解説

第 9 回 テキスト解説

第 10 回 テキスト解説

第 11 回 テキスト解説

第 12 回 テキスト解説

第 13 回 テキスト解説

第 14 回 テキスト解説

第 15 回 全体のまとめと補足

8. 成績評価方法：

予習をしたうえでの授業への参加状況 70%+課題レポート (2000 字程度) 30%

9. 教科書および参考書：

Google クラスルームに PDF ファイルをアップします。

10. 授業時間外学習：テキストの部分訳を担当していただきますので、ご準備ください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB54208, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：An Introduction to Syntax I

3. 授業の目的と概要：生成文法による自然言語の分析に関する入門書を用い、語や文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to how various words and sentences are analyzed in terms of key notions of the approach to the study of language called generative grammar. This course mainly consists of oral report by students and discussion.

5. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Morphology: Starting with Words (1)

3 Morphology: Starting with Words (2)

4 Syntactic Analysis Introduced (1)

5 Syntactic Analysis Introduced (2)

6 Syntactic Analysis Introduced (3)

7 Clauses (1)

8 Clauses (2)

9 Other Phrases: A First Glance (1)

10 Other Phrases: A First Glance (2)

11 Other Phrases: A First Glance (3)

12 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (1)

13 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (2)

14 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (3)

15 X-bar Theory and the Format of Lexical Entries (4)

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Dominique Sportiche, Hilda Koopman and Edward Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory, Wiley Blackwell.

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。授業後は、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：実験言語学各論／ Experimental Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB54203, 科目ナンバリング：LHM-LIN333J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法
2. Course Title (授業題目)：Quantitative research methods of language utilizing corpora
3. 授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Corpora, collections of language resources, are utilized in many different ways in linguistics or the related disciplines. In this course, students will first overview the possibilities of corpus studies, and then learn how to extract, process, and analyze
5. 学習の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to understand the history and possibilities of corpus linguistics. They will experience the process of corpus research, with which they learn the scientific research methodology of language. This experience will be beneficial for students
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容を予定している：
 - (1) ガイダンス (教員)
 - (2) 多様な言語資源、コーパスの概要① (教員)
 - (3) 多様な言語資源、コーパスの概要② (教員)
 - (4) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト①)
 - (5) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト②)
 - (6) コーパスを活用した研究紹介 (教員)
 - (7) コーパスデータの検索・分析法 (教員)
 - (8) コーパス研究プロジェクト立案① (受講生)
 - (9) コーパス研究プロジェクト立案② (受講生)
 - (10) コーパス研究プロジェクト課題設定① (受講生)
 - (11) コーパス研究プロジェクト課題設定② (受講生)
 - (12) コーパス研究プロジェクト分析① (受講生)
 - (13) コーパス研究プロジェクト分析② (受講生)
 - (14) コーパス研究プロジェクト分析③ (受講生)
 - (15) 最終成果プレゼンテーション (受講生)
8. 成績評価方法：
期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%) によって評価する。
9. 教科書および参考書：
指定しない。講読する文献を配布する。
10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当し、共同プロジェクトを進めてもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実にやること (その自信がない場合は受講しないこと)。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ロシア革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Russian Revolution Revisited

3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.

5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

9. 教科書および参考書：

開講後発表。

10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：中国語学演習／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIT339J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Modern Mandarin Chinese Linguistics

3. 授業の目的と概要：中国語で書かれた現代中国語文法を扱った論文を精読し、中国語を読む能力と現代中国語に関する文法問題を考える能力の養成を目的とする。また、論文に関連する文法現象のなかで、受講生が各自テーマを絞って、最後にレポートとしてまとめる。全体を通して、現代中国語文法に関する知識を深め、基本的な研究手法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability in reading Chinese and approaching linguistic research questions about modern Mandarin Chinese. Also, students are required to find a certain topic related to the articles we read in class and write a report a

5. 学習の到達目標：①現代中国語文法における重要な概念を理解し、説明することができる。

②現代中国語文法に関する問題点を発掘する力を身につける。

③関心のあるテーマについて学術的なレポートを作成する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will understand the essential concepts in modern Mandarin Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

②Students will develop the ability to notice possible research questions about modern Mandarin Chinese.

③Students will ac

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>輪読形式で進める。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 研究論文1 (1)

第3回 研究論文1 (2)

第4回 研究論文1 (3)

第5回 研究論文1 (4)

第6回 研究論文2 (1)

第7回 研究論文2 (2)

第8回 研究論文2 (3)

第9回 研究論文2 (4)

第10回 研究論文3 (1)

第11回 研究論文3 (2)

第12回 研究論文3 (3)

第13回 研究論文3 (4)

第14回 研究論文3 (5)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み、授業内発表：50%

期末レポート：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995年

10. 授業時間外学習：予習：事前にテキストの指定箇所を読んだうえ、和訳を考え、さらに問題点を整理する。

復習：テキストや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カントの目的論

2. Course Title (授業題目)：Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要： カントの『判断力批判』(1790)の第2部「目的論的判断力の批判」は、『純粹理性批判』と『実践理性批判』とのあいだに広がる自然と自由との断絶を架橋し、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、こんにちなお、生物学の哲学的基礎づけにとどまらず、自然における人間の生の位置と意味について、豊かな示唆を与えてくれる。

演習では「目的論的判断力の批判」の分析論から弁証論、さらに時間が許せば付録までを、邦訳をもとに読みすすめる。各回、担当者による読解の報告をふまえて、カント

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：『判断力批判』を読みといて、カントの目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 カント『判断力批判』第2部「目的論的判断力の批判」への導入

第2～7回 第1編 目的論的判断力の分析論

第8～11回 第2編 目的論的判断力の弁証論

第12～14回 付録 目的論的判断力の方法論

第15回 総括と討論

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判(下)』中山元訳、光文社、2023年。(教科書として生協に指定してあります。)

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な読解と咀嚼を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：絵巻物研究

2. Course Title (授業題目) : Study on Picture scrolls

3. 授業の目的と概要：古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「石山寺縁起」七巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」(元曉絵三巻・義湘絵四巻)、「慕婦絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students take up the picture scrolls important for considering the relationship between ancient medieval Buddhist thought and art, and carefully read the captions (narrative texts). Through that, students try to read the meaning contained in the painting

5. 学習の到達目標：絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students acquire the skill for understanding painting expression and narrative texts, and the skill for finding related materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****u です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

8. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、名詞収束型文。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is noun convergent sentences.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to thi

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB54205, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 『今昔物語集』についての解説
 - 2 『今昔物語集』についての解説
 - 3 『今昔物語集』についての解説
 - 4 『今昔物語集』についての解説
 - 5 『今昔物語集』についての解説
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：ドイツ語学演習 I / German Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB54302, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演
2. Course Title (授業題目)：German Linguistics (Seminar)
3. 授業の目的と概要：2 年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.
Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.
5. 学習の到達目標：B1~B2 レベルのドイツ語を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Gesundheit I - Beschwerden nennen
 2. Gesundheit II - Witz erzählen
 3. Gesundheit III - Bild beschreiben
 4. Gesundheit IV - Text zusammenfassen
 5. Gesundheit V - Gedicht
 6. Gesundheit VI - Orthographie
 7. Gesundheit VII - Lange und kurze Vokale
 8. Gesundheit VIII - Passiv
 9. Gesundheit IX - Relativsatz
 10. Gesundheit X - Konjunktiv
 11. Klima I - Wettererscheinungen benennen
 12. Klima II - Geschichte zu Bildern erfinden
 13. Klima III - Pro und Kontra Diskussion
 14. Klima IV - literarischer Text
 15. Klima V - Erlebnisbericht
8. 成績評価方法：
授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する
9. 教科書および参考書：
Stufen International 2
10. 授業時間外学習：毎回の課題・宿題
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：心理学各論Ⅱ／ Psychology (Special Lecture) II

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：戴 伸峰

コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-PSY327J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪心理学：日本と台湾の比較

2. Course Title (授業題目)：Criminal Psychology: the Comparison between Japan and Taiwan

3. 授業の目的と概要：犯罪心理学は犯罪および犯罪者について研究する心理学の一分野である。 犯行当時の心理状態、犯罪者の性格、罪を犯す発達の経緯などをはじめ、証言の心理などを研究する裁判心理学や、犯罪者の矯正・更生・犯罪予防を目的とする矯正心理学を含むことである。本講義では、犯罪心理学の紹介をはじめに、心理学の観点から犯罪現象や事例を分析することから成る。また、担任講師は台湾籍であり、日本と台湾の犯罪心理学の現状を紹介し、それぞれの特徴を比較することは講義の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Criminal Psychology is the empirical research field of criminal behaviors, law system, rehabilitation, imprisonment, judgement, and so on. This course introduces criminal psychology and analyze criminal cases from the psychological point of view. Also acco

5. 学習の到達目標：犯罪心理学の観点から、犯罪事情や事例を分析し、実証的な観点から犯罪を理解する力を育成することである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goal of this course is to develop students' abilities and knowledge of criminal psychology. And by using the empirical criminal cases of Japan and Taiwan, we develop students' comparison view point of different culture issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は基本的には Google Meet によるオンライン遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 現代日本の犯罪動向
2. 現代台湾の犯罪動向
3. 日本統治時代が台湾の犯罪や法律に及ぼす影響
4. 犯罪原因の科学的研究 1
5. 犯罪原因の科学的研究 2
6. 犯罪の社会的要因 1
7. 犯罪の社会的要因 2
8. 犯罪の社会的要因 3
9. 犯罪の個人的要因 1
10. 犯罪の個人的要因 2
11. 犯罪の発達の要因 1
12. 犯罪の発達の要因 2
13. 犯罪原因の統合的理解 1
14. 犯罪原因の統合的理解 2
15. まとめとレポート提出

8. 成績評価方法：

犯罪心理学（事例の分析、実証研究の結果、講義に関する心得など）に関する期末レポート（60%）、出席（40%）

9. 教科書および参考書：

参考用の教科書：犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるか 大淵憲一 培風館

10. 授業時間外学習：犯罪事情や事例に積極的に関心を持つこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：フランス文学演習 I / French Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB54401, 科目ナンバリング：LHM-LIT331J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Reading , Understanding , Interpreting

2. Course Title (授業題目)：Reading , Understanding , Interpreting

3. 授業の目的と概要：Activities include：

- oral reading practice
- methodical analysis of literary texts
- oral and written expression exercises

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Activities include：

- oral reading practice
- methodical analysis of literary texts
- oral and written expression exercises

5. 学習の到達目標：The aims of the course are as follows：

- initiate students to the analysis of literary texts
- increase reading and listening comprehension skills
- increase oral and written expression skills

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are as follows：

- initiate students to the analysis of literary texts
- increase reading and listening comprehension skills
- increase oral and written expression skills

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Methodical reading
- 3) Methodical reading
- 4) Methodical reading
- 5) Methodical reading
- 6) Methodical reading
- 7) Methodical reading
- 8) Methodical reading
- 9) Methodical reading
- 10) Methodical reading
- 11) Methodical reading
- 12) Methodical reading
- 13) Methodical reading
- 14) Methodical reading
- 15) Methodical reading
- 16) Screening of a film related to literature . Analysis and discussion

8. 成績評価方法：

Assessment will initially take the form of a continuous oral assessment (participation in classes) , and in writing (short texts) .

This will account for 60 % of the overall assessment . At the end of the semester , assessment will take the form of

9. 教科書および参考書：

Texts will be supplied to students.

10. 授業時間外学習：Students will be required to do some preparatory reading and write short texts related to the subject of the course .

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：下田 真奈美

コード：LB54402, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：書表現の基礎(一) (漢字)
2. Course Title (授業題目)：The Elements of Calligraphy Expression (1) (Chinese Character)
3. 授業の目的と概要： 王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the ten basic technique of Kaisho-tai (square (block) style) ten-kaku (the dots and strokes that make up a kanji character) based on the Hippo (way of writing method) of Wang Xizhi (王羲之) . In addition, learning about the
5. 学習の到達目標： 中国伝統の用筆法に従って、五つの書体を書けるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students write chinese character by the five style of calligraphy according to the traditional brush strokes method in China.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
対面授業のみにより実施する。
 1. オリエンテーション
 2. 楷書の基本十点画① (左はらい)
 3. 楷書の基本十点画② (点1)
 4. 楷書の基本十点画③ (よこ画)
 5. 楷書の基本十点画④ (たて画)
 6. 楷書の基本十点画⑤ (折れ)
 7. 楷書の基本十点画⑥ (折れとはね)
 8. 楷書の基本十点画⑦ (曲がりとはね)
 9. 楷書の基本十点画⑧ (右はらい)
 10. 楷書の基本十点画⑨ (点2・点3)
 11. 基本十点画のまとめ
 12. 篆書
 13. 隸書
 14. 草書
 15. 創作
8. 成績評価方法：
出席 (毎時、清書提出) [100%]
9. 教科書および参考書：
肉筆手本・五體字類等
10. 授業時間外学習： 11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語・日本文化論各論Ⅰ／Studies of Japanese Culture(Special Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 4講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB54403, 科目ナンバリング：LHM-OHU308E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文化論各論Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Special Lecture)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から2000年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption

5. 学習の到達目標：——江戸時代初期から2000年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。

——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.
- 2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came together

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Introduction: Defining popular culture
2. Proto-popular culture in Edo period I: Life and entertainment in cities and in the countryside
3. Proto-popular culture in Edo period II: Life and entertainment in cities and in the countryside
4. Proto-popular culture in Edo period II: Play and liminal spaces, traveling
5. Proto-popular culture in Edo period IV: Yōkai and hayarigami
6. Yōkai in the 20th century: from documented folklore to urban legends
7. The Taishō period I: Urbanization, westernization, new media
8. The Taishō period II: Entertainment in print, shōjo culture, and Takarazuka Revue
9. The Taishō period III: Early Japanese cinema; media and censorship
10. WWII aftermath: Japan during and after the occupation
11. The tumultuous 60s and new forms of entertainment
12. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
13. Many faces of 'kyara': yurukyara
14. Early history of game centers and video games in Japan
15. Mass media and scandal in Japan

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (20%)、課題 (70%)、および授業への貢献を加味する (10%)
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加 (特別の理由がない限り) =0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

使用言語は_英語_です。

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB54501, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「笑」の問題。滑稽とアイロニーの美学
2. Course Title (授業題目)：The problem of Laughter. Aesthetics of Comic and Irony
3. 授業の目的と概要：西洋美術史・美学史においては、「美」と「崇高」とらべれば、「滑稽」(コミック)と笑いはあまり高く評価されていなかった。しかし、「笑」と「美」はどのような関係をもっているのかという問題は、意外に深いです。色々な資料を参照しながら、学生の日常的な笑いの体験を出発点とし、笑い、コミック、アイロニーの美学を探検する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In the history of Western Art and Aesthetics, in comparison to the ideals of beauty and sublime, the "comic" and laughter have received very little attention. And yet, the connection between "beauty" and "laughter" can be a surprisingly complex problem. R
5. 学習の到達目標：滑稽とアイロニーの美的な範疇を理解し、美術鑑賞と日常的なコンテキストでそれを解釈することである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To comprehend conceptually the categories of the comic and of irony, and to interpret them both within artistic appreciation and in daily contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 笑いの問題：入門と「笑い日記」
 - 2 笑いの問題 Plessner
 - 3 ベルクソンの笑い論
 - 4 笑いの現象学
 - 5 コミックの範疇
 - 6 Vischer と大西の滑稽論
 - 7 作品としてのカリカチュア： Gombrich
 - 8 コミックな美術：作品分析
 - 9 コミックな美術：作品分析
 - 10 アイロニーの美学：古代から
 - 11 ロマンチック派のアイロニー論
 - 12 ポストモダニズムのアイロニー
 - 13 東洋の精神的な笑い：禅と見立て
 - 14 発表
 - 15 発表
8. 成績評価方法：

レポートと授業中の発表
9. 教科書および参考書：

全ての資料はpdfで提供される。そのうちには

H. プレスナー「笑い」と泣きの人間学」

H. ベルクソン「笑い」

大西「美学」(滑稽)
10. 授業時間外学習：All the materials will be shared in pdf. Among them there will be sections of
H. Plessner "Laughing and Crying"
H. Bergson "On laughing"
Onishi "Bigaku" (sections on the comic)
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB35101, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：形態論入門 I
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology I
3. 授業の目的と概要：自然言語で用いられている語の成り立ちを分析する形態論の入門書を読み、形態論の基本的考え方を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to the study of word formation known as morphology by reading a textbook showing how to find and analyze morphological data.
5. 学習の到達目標：語形成に関する言語現象を実際に分析することにより、形態論に関する基本的な概念や用語を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn basic concepts and terminology concerning morphological theory through hands-on activities designed to encourage them to gather and analyze morphological data.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス：What is Morphology?
 - 2 Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon (1)
 - 3 Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon (2)
 - 4 Lexeme Formation: The Familiar (1)
 - 5 Lexeme Formation: The Familiar (2)
 - 6 Lexeme Formation: The Familiar (3)
 - 7 Lexeme Formation: The Familiar (4)
 - 8 Productivity and Creativity (1)
 - 9 Productivity and Creativity (2)
 - 10 Productivity and Creativity (3)
 - 11 Productivity and Creativity (4)
 - 12 Lexeme Formation: Further Afield (1)
 - 13 Lexeme Formation: Further Afield (2)
 - 14 Lexeme Formation: Further Afield (3)
 - 15 Lexeme Formation: Further Afield (4)
8. 成績評価方法：

学期末レポート
9. 教科書および参考書：

Rochelle Lieber (2022) Introducing Morphology, Cambridge University
10. 授業時間外学習：予習では、自分のわからない箇所を明らかにした上で授業に臨む。復習では、授業で学んだ考え方を具体的な言語現象に当てはめて考えてみる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：言語学基礎講読 I / Linguistics (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB35102, 科目ナンバリング：LHM-LIN217J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学への招待
2. Course Title (授業題目)：Invitation to linguistics
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn the basics of linguistics by reading an introductory textbook on linguistics written in English.
5. 学習の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this semester, students should be able to read linguistic literature written in English.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Guidance
 - 2 Why study linguistics
 - 3 How English has changed over the centuries
 - 4 How words are made
 - 5 How words mean
 - 6 How phrases are formed
 - 7 How sentences are formed
 - 8 How sentences mean
 - 9 How to communicate with other people
 - 10 The sounds of language
 - 11 Regional varieties
 - 12 Language in Society
 - 13 How language is acquired
 - 14 How a second language is acquired
 - 15 Review and exam
8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

 - ・発表：40%
 - ・宿題：40%
 - ・平常点：20%
9. 教科書および参考書：

教科書
Kegeyama, Taro et al. First Steps in English Linguistics. 2nd Edition. Kuroshio Publisher.
10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。
Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教科教育法 I / Teaching Method of Religions Studies I

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB55101, 科目ナンバリング：LHM-EDU915J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ポスト多文化主義教育が描く宗教
2. Course Title (授業題目)：Post multiculturalism and religion
3. 授業の目的と概要：指定テキストに沿って、海外の事例を参考に、多文化が共存する社会において学校教育において宗教を教えることが持つ意味を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each student learns the significance of teaching religion in schools in a multicultural society.
5. 学習の到達目標：海外の事例を参考に、日本における宗教教育の課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand the nature of the problems involved with teaching religion in Japanese schools.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』(岩波書店、2017) を講読の形で読み進める。

(1) イントロダクション
(2) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(1)
(3) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(2)
(4) ディスカッション
(5) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(1)
(6) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(2)
(7) ディスカッション
(8) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(1)
(9) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(2)
(10) ディスカッション
(11) 共同体の結束へ——二〇〇〇年代以降の宗教教育
(12) 異文化理解型からどう変化したか——二〇一〇年代の教科書の分析①
(13) 公共的宗教の諸相——二〇一〇年代の教科書の分析②
(14) コミュニタリアンの転回の功罪
(15) まとめ
8. 成績評価方法：
期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』岩波書店、2017
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
教科書購入必須。
原則として、受講者は教員採用試験受験を予定しており、宗教科の教員免許を取得しようとしているものに限る。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB35206, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語中級

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Course of Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎文法を基にして、中世以降のテキストの読解力を習得することを目的とする。授業では、様々なテキストの中から重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is for students to acquire reading comprehension skills for texts from the Middle Ages onwards, based on fundamental Latin grammar. In class, giving attention and explaining important points in various texts.

5. 学習の到達目標：古典ラテン語文法を基にししながら、後期ラテン語、中世ラテン語など、様々な時代のテキストを読解できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the aim of this course, participants are able to read texts from various eras(Late Latin, Medieval Latin, and so on) based on classical Latin grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

※この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください (クラスコードは後日お知らせします)。

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. ラテン語詩歌の韻律法
3. 古典ラテン語以降のラテン語文法の変化 (～現代)
4. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文 (1)
5. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文 (2)
6. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文 (3)
7. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文 (4)
8. テキスト読解 (1)
9. テキスト読解 (2)
10. テキスト読解 (3)
11. テキスト読解 (4)
12. テキスト読解 (5)
13. テキスト読解 (6)
14. テキスト読解 (7)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況 (3 分の 2 の出席を単位取得の最低条件とし、残り 3 分の 1 を全体の 40% に換算), レポート (60%), に基づいて評価する。(ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。)

9. 教科書および参考書：

教科書 [Textbook]：なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]

参考書 [Recommended Lexicon Latino-Japonicum]：水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009 年。

10. 授業時間外学習：指定したテキスト (プリント) の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by w

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

Students must bring their own computers to class?

[No.] If we must use online (e.g. Zoom), need to bring our own device with our own account.

連絡先 [Contact]：paul-m@tohoku.ac.jp

(◎を@に置き換えてください [Replace ◎ to @.])

この講義は日本語で提供されます。

辞書は参考書としているが

科目名：英文学基礎講読Ⅰ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB35204, 科目ナンバリング：LHM-LIT215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland & Trough the Lookin-Glass
2. Course Title (授業題目)：Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland & Trough the Lookin-Glass
3. 授業の目的と概要：ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』を原書で読解します。これらの作品は子供でも読めるやさしい英語で書かれていますが、じつは多様なネタが仕込まれています。それらの面白さや笑いのツボを味わうように丁寧に作品を読み進めてゆきます。また、文学テキストを批評的に分析する技法も学びます。授業では毎回担当者を決めて発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Close reading of Lewis Carroll's Alice in Wonderland & Alice through the Lookin-Glass. These works are written in easy English that even children can understand, but there are various kinds of mysterious and laughing materials. We read closely the texts
5. 学習の到達目標：(1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
(2) 文学作品を分析する技法を身につける
(3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history
(2) To be able to think logically and critically
(3) To develop the skill of reading literary texts written in English
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) Alice in Wonderland, Chapters 1-2.
 - (3) Alice in Wonderland, Chapters 3-4.
 - (4) Alice in Wonderland, Chapters 5-6.
 - (5) Alice in Wonderland, Chapters 7-8.
 - (6) Alice in Wonderland, Chapters 9-10.
 - (7) Alice in Wonderland, Chapters 11-12.
 - (8) Alice through the Looking-Glass, Chapters 1-2.
 - (9) Alice through the Looking-Glass, Chapters 3-4.
 - (10) Alice through the Looking-Glass, Chapters 5-6.
 - (11) Alice through the Looking-Glass, Chapters 7-8.
 - (12) Alice through the Looking-Glass, Chapters 9-10.
 - (13) Alice through the Looking-Glass, Chapters 11-12.
 - (14) Discussion
 - (15) Review and exam
8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%
9. 教科書および参考書：

Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland & Trough the Lookin-Glass (Oxford World's Classics, 2009)
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：考古学基礎講読／ Archaeology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-HIS207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料読解

2. Course Title (授業題目)：Archaeology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：本講義の目的は、考古学研究の目的と手法、概念を学び、考古学について自分なりの問題意識・視点を獲得することです。考古学研究は、対象とする時代・地域あるいは研究者によって、理論的・方法的に多様です。そして、研究成果は一次的に報告書、そして研究を通した論文として発表されますが、報告書や論文にはそれぞれの形式が存在します。形式に沿って構造化された文章に親しむことは、調査・研究資料から正しく情報を引き出すために必要です。具体的な資料の読解を通して、考古学と論文の構造についての知識を獲得しつつ、考古学研究の多様性を

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to learn the purpose, method and concept of archaeological study and to acquire student's own problem awareness / opinion on archaeology.

5. 学習の到達目標：① 考古学の概念や考古学研究の目的について理解し、自分の研究に取り組める知識を深める

② 報告書や学術論文の構造について理解する

③ 考古学研究について自分なりの視点を持ち、議論できるようにする

6. Learning Goals(学修の到達目標)：① To understand the concept of archaeology and the purpose of archaeological study, deepen the knowledge to work on own study

② To understand the structure of reports and academic papers

③ To have own perspective on archaeological study and make discuss

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは「amkerid」です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス

2. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

3. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

4. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

5. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

6. 英文読解と議論 (考古学概念の理解)

7. 考古調査の流れ

8. 報告書読解と議論

9. 報告書読解と議論

10. 報告書読解と議論

11. 論文(和文・英文)読解と議論

12. 論文(和文・英文)読解と議論

13. 論文(和文・英文)読解と議論

14. 論文(和文・英文)読解と議論

15. 最終まとめ

8. 成績評価方法：

発表(40%)・出席および受講態度(30%)・レポート(30%)

9. 教科書および参考書：

授業時に文献を選択あるいは指示する。適宜資料を配布する。

(例：《Archaeology》などの考古学概論書、発掘調査報告書、英文・和文の関連論文)

10. 授業時間外学習：毎回、各自が課題文献を十分に予習済みであることを前提に進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB35205, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信
2. Course Title (授業題目)：Data processing and information providing with a computer
3. 授業の目的と概要：この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・ Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・ R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・ PowerPoint を使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
- ・ インターネットで文書

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- ・ Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- ・ Introduction to data processing with R
- ・ Creating MS Powerpoint

5. 学習の到達目標：・ Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・ R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・ PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・ Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・ SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・ プログラミング言語 Python を使って簡単なプログラムを作れるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:

- ・ Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- ・ Create effective slides for presentation
- ・ Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- ・ De

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. PowerPoint を使用したスライドの作成
8. R を利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
13. SQL を使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語 Python を使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらい、レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、classroom の授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：<事前学習>毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。

<事後学習>実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

連絡用のメールアドレスは classroom のストリームで公開する。テキストも classroom の授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようになっている。

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の木版本を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Japanese Old Books Printed in Woodblock Prints

3. 授業の目的と概要：江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When commercial publishing was established in the Edo period, many popular books for the general public were published, which had a major impact on society. In this course, students will read some books printed in woodblock prints published during the Edo

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に著された通俗的な書物を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的な特徴を理解できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal on this course is to be able to decipher popular books written in the Edo period and to understand the cultural characteristics of the Edo period from woodblock prints.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本授業では、江戸時代に出版された通俗的な木版本を取り上げ、受講生による読解と発表・討論を通して、史料読解能力の向上を図る。

第 1 回：ガイダンスー江戸時代と商業出版ー

第 2 回：女訓書を読む①ー『女実語教』と居初津奈ー

第 3 回：女訓書を読む②ー『女実語教』と江戸時代の諸思想ー

第 4 回：女訓書を読む③ー『女大学』と貝原益軒ー

第 5 回：女訓書を読む④ー『女大学』と江戸時代の現実ー

第 6 回：古典注釈書を読む①ー『徒然草諺解』と学問入門書ー

第 7 回：古典注釈書を読む②ー『徒然草参考』と仏教的世界観ー

第 8 回：古典注釈書を読む③ー『徒然草抄』と兼好法師ー

第 9 回：古典注釈書を読む④ー『経典余師』と四書ー

第 10 回：古典注釈書を読む⑤ー『経典余師』と近思録ー

第 11 回：パロディー文学を読む①ー『好色一代男』と井原西鶴ー

第 12 回：パロディー文学を読む②ー『仁勢物語』の笑いー

第 13 回：パロディー文学を読む③ー『尤之双紙』と江戸の教養ー

第 14 回：パロディー文学を読む④ー『修紫田舎源氏』の世界ー

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1 人 1 回担当する課題発表 40%、各授業中に実施する史料読解チェック 30%、小レポート 30%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。全受講生は、課題史料を事前に読解しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：3 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB35201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『徒然草』を読む
2. Course Title (授業題目)：Study on “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”
3. 授業の目的と概要： 文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『徒然草』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, you will understand what to learn and think about Japanese classical literature through practice of reading and interpreting “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”.
5. 学習の到達目標：(1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
(2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
(3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
(4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかんたいせつかということ考察の実践を通して理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about Japanese classical literature creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 はじめに — 文学表現を読み解くために —
 - 2 『徒然草』を読むにあたって
 - 3 変体仮名を読むために
 - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫）、かな研究会編『実用変体がな』（新典社）
参考書：授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB35305, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語文法入門・文法基礎

2. Course Title (授業題目)：Introductory Course of Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides participants to easily recognize an entire structure of Latin grammar and fundamental knowledge. It also provides explanations of important points on learning and points where you should be careful about.

5. 学習の到達目標：ラテン語文法理解の基礎となる事項（動詞・名詞・形容詞・代名詞その他）を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。

さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to acquire some part of Latin speech (verbs, nouns, adjectives, pronouns) as bases, and to learn the characteristics and the basic concepts of Latin.

It also enhances basic reading skills and understand

7. 授業の内容・方法と進度予定：

※この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください（クラスコードは後日お知らせします）。

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則
3. 動詞の基礎 (1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum 動詞
4. 動詞の基礎 (2) 現在幹、命令法
5. 名詞の基礎 (1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化
6. 名詞の基礎 (2) 第2変化、第3変化①i 幹
7. 名詞の基礎 (3) 第3変化②子音幹、前置詞（対格、奪格）
8. 名詞の基礎 (4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化名詞の基礎
9. 形容詞 (1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型
10. 形容詞 (2) 第3変化型
11. 形容詞 (3) 比較級、最上級、副詞、数詞
12. 代名詞 (1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞
13. 代名詞 (2) 指示代名詞・形容詞①
14. 代名詞 (3) 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞
15. 代名詞 (4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

9. 教科書および参考書：

教科書 [Textbook]：なし。教員が作成したPDF資料を、Google Classroomの中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]

参考書 [Recommended Lexicon Latino-Japonicum]：水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009年。

10. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

／ Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

Students must bring their own computers to class?

[No.] If we must use online (e.g. Zoom), need to bring our own device with our own account.

連絡先 [Contact] : paul-m@tohoku.ac.jp

(◎を@に置き換えてください [Replace ◎ to @.])

この講義は日本語で提供されます。

辞書は参考書としているが

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：高橋 亨

コード：LB35306, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門（文法編）

2. Course Title (授業題目)：An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

3. 授業の目的と概要：この講義の目的は、漢文の文型・句形について理解を深め、訓読処理を行う際に必要となる知識を習得することである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand classical Chinese grammar, and learn about skills to read ancient Chinese texts in ancient Japanese.

5. 学習の到達目標：この講義の目標は、教育や専門的研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につけることにある。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop reading skills and build a vocabulary crucial to understanding ancient Chinese texts used in the field of education and academic research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法] 講義の前半で個別の文法事項について解説し、後半で出席者とともにテキストに基づき訓読文と現代日本語訳の作成について検討する。

[進度予定]

第01講 訓点と文型

第02講 再読文字

第03講 使役形

第04講 受身形

第05講 否定形(1)

第06講 否定形(2)

第07講 否定形(3)

第08講 疑問形・反語形(1)

第09講 疑問形・反語形(2)

第10講 疑問形・反語形(3)

第11講 比較形

第12講 限定形・累加形

第13講 抑揚形

第14講 仮定形

第15講 期末試験

8. 成績評価方法：

出席状況(50%)と期末試験の成績(50%)によって総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教材は各回において適宜配布する。

Texts are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：講義時間は限られているため、自主学習が重要になる。それゆえ、予習・復習をしっかりと行うことを求める。

The session time is limited and therefore self-directed learning is important. Students are required to prepare and review for each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室(617)で毎週金曜日12:15~12:45とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on every Friday at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617.

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB35304, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法
2. Course Title (授業題目)：Advanced Reading Skills in English
3. 授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.
5. 学習の到達目標：英文を正確に読み、パラグラフの要点を特定すること、事実と意見を区別すること、情報を分類することができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students can identify the main idea of a paragraph, recognize facts and opinions, and categorize information.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. Unit 1 Sociology - Reading 1: We all need a role model
 3. Unit 1 Sociology - Reading 2: Everyday heroes
 4. Unit 1 Sociology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 5. Unit 2 Behavioral Science - Reading 1: Your Guide to Generation Z
 6. Unit 2 Behavioral Science - Reading 2: This is why you're addicted to your phone
 7. Unit 2 Behavioral Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 8. Unit Test 学習事項の確認
 9. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 1: The difference between fitting in and belonging, and why it matters
 10. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 2: Life lessons I learned from my dad in 23 years
 11. Unit 3 Developmental Psychology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 12. Unit 4 Science and Technology - Reading 1: Five innovative technologies that bring energy to the developing world
 13. Unit 4 Science and Technology - Reading 2: This device pulls water out of desert air
 14. Unit 4 Science and Technology - Reading skill / critical thinking strategy/ writing skill
 15. まとめの解説と学期末試験
8. 成績評価方法：

学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.
10. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
辞書を持参すること。

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と現代社会

2. Course Title (授業題目)：Religion and Modern Society

3. 授業の目的と概要：この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will explore the various aspects of religion in modern society from the perspective of religious studies to help students understand the meanings and tasks of religion in modern world.

5. 学習の到達目標：現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。

宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students learn about the meanings and tasks of religions in modern world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. . 宗教を定義／脱定義する 聖なるもの
3. 宗教を定義／脱定義する 儀礼
4. 宗教を定義／脱定義する 宗教集団
5. 小括
6. 現代宗教の基礎理論 世俗化
7. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
8. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
9. 小括
10. 宗教と政治
11. 宗教と経済
12. 宗教と教育
13. 宗教と移民
14. 宗教と科学
15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のレポート[60%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015年）をあげておく。

10. 授業時間外学習：日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：王朝物語文学の世界

2. Course Title (授業題目) : World of Ōchō Monogatari: tales of the Heian and Kamakura periods

3. 授業の目的と概要：日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : When did Japanese narrative literature emerge and when did it end? This lecture will explore the development of the Ōchō Monogatari (tales from the Heian and Kamakura periods), such as the Tale of Genji, by examining various texts of the works, in relation

5. 学習の到達目標：(1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。

(2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) To deepen the understanding of the characteristics and historical development of Japanese literature through the analysis of works or fragments thereof and related materials.

(2) By acquiring the basic knowledge for reading and appreciating classical

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる。

- 01 王朝物語史（現存物語、散逸物語）
- 02 前期物語（竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語）
- 03 源氏物語（補作を含む）
- 04 後期物語（狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語）
- 05 院政期物語（海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ）
- 06 歴史物語（大鏡、栄花物語）
- 07 物語評論（無名草子、今鏡）
- 08 物語歌合（物語二百番歌合）
- 09 物語歌集（風葉和歌集）
- 10 中世王朝物語（鎌倉時代）
- 11 中世王朝物語（南北朝時代）
- 12 中世王朝物語（室町時代）
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者（六条齋院物語歌合）
- 15 王朝物語の終焉（室町時代物語、お伽草子）

8. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート [50%] とミニツツペーパー [50%] をもって評価する。なお、ミニツツペーパーは毎時間記載して提出するものである。

9. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用する
ので、毎時間用意すること。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同
『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989) は本講義のバイブル（但し購入を必須とするも
のではない）。

10. 授業時間外学習：作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介した
ものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義は第4セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB35405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『自然学』第 1 巻講読

2. Course Title (授業題目) : Reading the 1st Book of Aristotle's Physics

3. 授業の目的と概要： アリストテレスの『自然学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテキストです。またこのテキストは、ニュートンの古典物理学以前の自然探求の基本テキストであり、学問とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

『自然学』の第 1 巻は、タレスやヘラクレイトスやパルメニデスなど、現在では断片のかたちでのみ伝えられているさまざまな先行

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : We are going to read the 1st book of Aristotle's Physics, which is one of the most classic text of philosophy. Until the Medieval Age it has been esteemed as the basic text for the natural phenomena. It gives also us the understanding, what the scientific

5. 学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことができるようになる

・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することができるようになる

・辞書・文法書を活用することができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate philosophical text in classical Greek into Japanese by oneself

・We aim to get accustomed to the conjugation and declension of the classical Greek and so to be able to analyse correctly

7. 授業の内容・方法と進度予定：

・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）

・第 2 回：第 1 巻読解 1～30 行

・第 3 回：第 1 巻読解 31～60 行

・第 4 回：第 1 巻読解 61～90 行

・第 5 回：第 1 巻読解 91～120 行

・第 6 回：第 1 巻読解 121～150 行

・第 7 回：第 1 巻読解 150～180 行

・第 8 回：第 1 巻読解 181～210 行

・第 9 回：第 1 巻読解 210～250 行

・第 10 回：第 1 巻読解 251～290 行

・第 11 回：第 1 巻読解 291～330 行

・第 12 回：第 1 巻読解 331～370 行

・第 13 回：第 1 巻読解 371～410 行

・第 14 回：第 1 巻読解 411～450 行

・第 15 回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。

辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]

10. 授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：佐崎 愛

コード：LB35404, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学の基礎リテラシーと質的調査

2. Course Title (授業題目)：Basic behavioural science literacy and qualitative research

3. 授業の目的と概要：この授業では、行動科学の研究に必要なリテラシーを身につけることを目指す。このリテラシーとは、文献探索、スライド作成、論文・レポートの作成技術を指す。また、社会科学の中で行動科学と連携が期待される質的調査の技法についても取り扱う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aims of this course is to provide students with the literacy necessary to conduct research of the behavioral sciences. This literacy refers to the techniques of reference search, preparation, and writing papers and reports. The course will also deal w

5. 学習の到達目標：(1) 論文やプレゼン、レポート作成に必要な技術を身につける。

(2) 行動科学において連携が期待される質的調査の基礎的な技術を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Acquire the skills necessary for writing papers, presentations and reports.

(2) Acquire basic skills in qualitative research, which is expected to be linked in the behavioural sciences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、第 1-6 回目に情報探索の方法や論文の書き方、スライドの作成技術といった行動科学のリテラシー、および社会調査（特に質的調査）の大枠について学ぶ。第 7 回目以降は、質的調査の手法について学ぶ。具体的には、事前に質的調査の各手法を用いて書かれた論文を読み、その内容を担当者がまとめて当日パワーポイントで発表する。その後、教員から各手法について補足・解説を行う形で進める。なお、授業内では一部グループワークを行うこともある。

最後に、期末レポートを作成し、提出してもらう。

授業は対面授業を予定している。特に、第 2-3 回目の授業は図書館での対面の学習を予定している。

資料は授業時、および classroom でも配布する（テキスト等の購入は必要ない）。

1. オリエンテーション
2. 図書館における情報探索(1)
3. 図書館における情報探索(2)
4. 社会調査の歴史と質的調査の特徴
5. 論文の書き方の作法（論文の構造、文献リストの書き方）
6. スライドの作り方とプレゼンの方法
7. 先行研究のレビューのやり方／フィールドワークの作法
8. フィールドワーク
9. 参与観察
10. 半構造化インタビュー
11. ライフヒストリー／ライフストーリー
12. 雑誌分析
13. 映像分析／ソーシャルメディア分析
14. 考現学／文化資料分析
15. アンケート調査

8. 成績評価方法：

出席と課題（30%）、7 回目以降のスライド発表やグループワーク（40%）、期末レポート（30%）

9. 教科書および参考書：

参考書

- ・日本社会学会編集委員会編, 2019, 『社会学評論スタイルガイド』（第三版）, 日本社会学会（日本社会学会 HP (<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>) より全文ダウンロードが可能。)
- ・工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編 2022(2010)『質的調査の方法（第 3 版）』法律文化社

10. 授業時間外学習：第 1-6 回目：適宜授業内で扱った内容に関する課題を課す

第 7-15 回目：全員、事前に指定の論文を読んで授業に臨む

※なお、7-15 回のうちどこかで一回発表を担当してもらう。担当者は事前に論文の内容をまとめスライド発表を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

何か質問がある際には授業の前後の時間、または ai.sazaki.b3@tohoku.ac.jp まで適宜連絡してください。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35403, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画史

2. Course Title (授業題目)：Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。

一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in Est Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of each era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1 ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2 ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 平安京の思想と美術 一陰陽五行と鬼門ー
- 7 回目 鎮護国家の美術 一平安時代 1 ー
- 8 回目 浄土教の美術 一平安時代 2 ー
- 9 回目 地獄絵と六道の絵画一平安時代 3 ー
- 1 0 回目 平安四大絵巻一平安時代 4 ー
- 1 1 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1 ー
- 1 2 回目 蓬萊山の美術・そして富士山へ 一画題研究 4 ー
- 1 3 回目 禅の興隆と道釈人物画一室町時代 2 ー
- 1 4 回目 禅の興隆と水墨山水画一室町時代 3 ー
- 1 5 回目 「魚」を描く意味一画題研究 5 ー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought.

5. 学習の到達目標：日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』1

第7回：加藤周一『日本文学史序説』2

第8回：原爆体験の結晶化（丸山眞男）

第9回：戦後知識人の限界と見直し

第10回：竹内好と沖縄、思想と運動

第11回：沖縄から「戦前」・「戦中」・「戦後」を見る（阿波根昌鴻1）

第12回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第13回：生活記録運動（鶴見和子1）

第14回：水俣病運動（鶴見和子2）

第15回：災禍と「生前退位」（平成天皇・皇太后）

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

10. 授業時間外学習：小レポート（3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Ethics

3. 授業の目的と概要：「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「そもそもなぜ善いことをしなくてはならないのか」「幸福とは何か」「道徳と幸福にはどんな関係があるのか」「生きることに何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じるさまざまな問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。

この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる（やはり基礎的な）思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：These lectures will provide an introduction to ethics. Topics covered will include normative ethics, metaethics, happiness and the meaning of life; contemporary debates on justice; relation between morality and religion.

5. 学習の到達目標：(1) 倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。

(2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。

(3) 倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The main purpose of this course is to provide basic knowledge of contemporary ethics (problems, theories, and objections), and help students consider moral problems by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的にはオンデマンド（資料配布）で進めます。

第一回：導入：倫理学とは何か

第二回：価値の相対主義：道徳や幸福は人それぞれなのか

第三回：質問への回答

第四回：善悪の規準は何か：第一の答え

第五回：善悪の規準は何か：第二の答え

第六回：善悪の規準は何か：第三の答え

第七回：質問への回答（余裕があれば、現代の正義論）

第八回：善悪という性質は客観的なものなのか

第九回：道徳は人を動機づける力をもつか

第一〇回：質問への回答（余裕があれば、道徳と宗教の関係）

第十一回：幸福とは何か：道徳と幸福の関係

第十二回：幸福とは何か：現代の福利(Well-Being)論

第十三回：人生に意味はあるか

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

理解度を確認し、理解の深化を図るため、毎回アンケートを取り、みなさんからの質問に答える回を定期的に設けます。取り上げるべき質問が多い場合は回答に二回使うこともあるでしょう。それゆえ、そうした回の内容や分量によって、上記の目的の範囲内で、授業計画全体には変更がありえます。以上の予定はあくまで「予定」です。

8. 成績評価方法：

ほぼ学期末試験のみで行ないます。

9. 教科書および参考書：

教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義内容がやや豊富なので、適宜復習し、参考文献にもあたることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

特別な予備知識は不要です。なお、演習や卒論指導にあたっては、本講義に相当する内容が既習であることを前提としますので、倫理学専攻の学生はできるかぎり履修してください。

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 原, 谷山 洋三, 問芝 志保, 木村 敏明

コード：LB35502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations do
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 1グループ
 3. 学部3年発表 2グループ
 4. 学部3年発表 3グループ
 5. 学部3年発表 4グループ
 6. 学部3年発表 5グループ
 7. 学部3年発表 6グループ
 8. 予備日：学部3年欠席者のため
 9. 学部4年発表 グループ1
 10. 学部4年発表 グループ2
 11. 学部4年発表 グループ3
 12. 学部4年発表 グループ4
 13. 学部4年発表 グループ5
 14. 学部4年発表 グループ6
 15. 予備日：学部4年欠席者のため
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目) : Training to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：日本における歴史資料の原典は肉筆で書かれており、活字で出版された現代の本を見るだけでは不十分な場合が多い。なぜなら読み間違いやミスプリントが多々存在するからである。研究を確かなものとするためには原典資料にあたることは不可欠だが、そのためには古文書やくずし字、変体がなを読む訓練を経なければならない。

そこで本講では、日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『名所図会』をはじめとした版本および実作品に付された賛文の基礎を学び、最低限の目標として浮世絵に

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides a training program to read "Miyako Rinsen Meisyou Zue" and "Gajyou Youryaku" which are documents related to the paintings of the Edo era.

5. 学習の到達目標：美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read documents related to the paintings in the Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 江戸時代の版本を読む

9 回～14 回 実作品に付された賛を読む

15 回 読解テスト

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

10. 授業時間外学習：授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：雲然 祥子

コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物史から考える日本の近代・現代
2. Course Title (授業題目)：A Study of Modern Japanese History and Social Situation from the Perspective of a Life of a Person
3. 授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や事績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。
それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史料資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：When discussing and understanding Japanese history and social situation, one must always take into account the relevant background. In this course, the purpose is to study and understand about the history and social situation of modern Japan, with the ca
5. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。
様々な史料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。
現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To acquire historical knowledge, thinking and express ability.
To understand the social situation by analyzing and reading various historical materials.
To discover issues in modern society and organize opinions in appropriate words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項
 - 第 3 回 ケーススタディ (事例報告①)
 - 第 4 回 受講生による発表
 - 第 5 回 受講生による報告・議論①
 - 第 6 回 受講生による報告・議論②
 - 第 7 回 受講生による報告・議論③
 - 第 8 回 受講生による報告・議論④
 - 第 9 回 ケース・スタディ (事例報告②)
 - 第 10 回 受講生による報告・議論⑤
 - 第 11 回 受講生による報告・議論⑥
 - 第 12 回 受講生による報告・議論⑦
 - 第 13 回 受講生による報告・議論⑧
 - 第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ
 - 第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて”
8. 成績評価方法：
演習中の課題 (20%)、報告・討論 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：史料・文献などを利用し、授業で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：言語学各論 I / Linguistics (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LB55202, 科目ナンバリング：LHM-LIN329J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育実証研究法

2. Course Title (授業題目) : Empirical Research Methods in Foreign Language Education

3. 授業の目的と概要：外国語教育における実証研究は、研究デザインから分析結果の報告に至るまで科学的な手法に沿って行われます。そして実証研究論文では、実験方法、実験参加者、実験手続きなどの詳細を研究結果とともに詳しく報告する必要があります。この授業では、外国語教員を目指す学生だけでなく言語学分野における実証研究を行うことを予定している学生を対象に、実証研究を行う上での基本的な知識を習得した上で、研究デザインの作成、データの分析、結果の報告のし方を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Empirical research in foreign language education follows scientific methods, from research design to data collection, to reporting the results of the analysis. When producing an empirical research paper, the researcher should elaborate the rationale, the

5. 学習の到達目標：1) 研究課題を設定することができる。

2) 研究デザインを作成することができる。

3) 研究課題を解決するためのデータ収集と分析方法を決めることができる。

4) 適切な方法で分析結果を報告することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to...

1) choose a research topic and form research question(s).

2) design their own research.

3) decide the ways of data collection and data analysis for research.

4) report the results of the analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：オリエンテーション

第2回目：研究テーマの見つけ方、研究課題の設定の仕方

第3回目：実証研究の種類と研究デザイン・アプローチの種類

第4回目：データ収集の方法

第5回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第6回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第7回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第8回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第9回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第10回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第11回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第12回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第13回目：混合研究法の紹介とデータ収集・分析の方法

第14回目：研究デザイン作成の方法

第15回目：分析結果の報告方法

8. 成績評価方法：

・小テスト（30 %）2 回目から 15 回目の授業で毎回行います。

・リアクションペーパー（20 %）毎回の授業で行います。

・授業参加（20%）授業でのディスカッションや練習に積極的に参加して下さい。

・研究デザイン（30 %）詳細な研究デザインを作成し、学期の最後に提出をしてもらいます。

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介します。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。興味のある研究テーマを見つける。

(Read the materials and literature to be distributed in the class, and present students' thoughts. Find a research theme they are interested in.)

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：考古学講読／ Archaeology (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：松本 圭太

コード：LB55204, 科目ナンバリング：LHM-HIS308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ユーラシア考古学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Eurasian Archaeology

3. 授業の目的と概要： 概説的英語文献を通読することによって、ユーラシア大陸における広い地域を対象とした考古学に関する一般的知識や歴史モデルの立て方を学ぶ。近年、世界各地の歴史的関連が注目され、東アジアやユーラシアという範囲を対象とした研究が盛んである。陸続と発見される膨大な資料や、関連分野からの多様な分析手法など、新しい研究動向を押さえておくことは重要であるが、そうした中でも一貫して解明すべき課題は何であるのかに注目しながら、本講読を進めたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： By reading through the overview English-language textbook, students will learn general knowledge about the archaeology of large areas of Eurasia and how to formulate a historical model. In recent years, historical connections between different parts of t

5. 学習の到達目標：(1) 考古学に関する英語文献を理解・翻訳できる。(2) ユーラシア考古学の基礎的な用語や問題を理解できる。(3) 自らの専門あるいは関心のある分野(地域・時代)における社会像や課題と、本文の内容を対比できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this lecture is that students understand (1) (and translate) the English textbook on archaeology, (2) basic terms and issues in Eurasian archaeology. And it would be better if students can compare the contents of this text with social images an

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義スケジュールは、以下を予定しています。

1 ガイダンス&イントロダクション：講義の進め方・成績評価など

2～14 Stuart Piggott 1965 Ancient Europe: From the Beginnings of Agriculture to Classical Antiquity. の講読

15 既読部分の復習およびレポート課題の中間報告

8. 成績評価方法：

出席・授業参加(担当箇所の訳出含む)：50%、レポート：50%

9. 教科書および参考書：

講読文献：Stuart Piggott 1965 Ancient Europe: From the Beginnings of Agriculture to Classical Antiquity. Edinburgh University Press

関連する論文や著書は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：割り当てられた箇所の翻訳を完成させて授業に参加する。当該文献で論じられている話題について、現在ではどのような状況になっているかを調べる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB55208, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用多変量解析

2. Course Title (授業題目)：Advanced Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：多変量解析の応用的なトピックに関して、文献講読と実習を通じて理論と実証分析への適用方法について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers advanced topics in multivariate statistical analysis. Students are expected to gain understandings on the theories and empirical applications through literature review and the practice of data analysis.

5. 学習の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら注目した事例に対して授業で学んだキーワードを適用し、適切な説明をできるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper that applies keywords on cases that are cho

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に指定された文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、解説を適宜行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 回帰分析 (1)
3. 回帰分析 (2) + 実習
4. マルチレベル分析 (1)
5. マルチレベル分析 (2) + 実習
6. パス解析 (1)
7. パス解析 (2) + 実習
8. 因子分析 (1)
9. 因子分析 (2) + 実習
10. パネルデータ分析 (1)
11. パネルデータ分析 (2) + 実習
12. イベントヒストリー分析 (1)
13. イベントヒストリー (2) + 実習
14. 総合演習 (1)
15. 総合演習 (2)

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べることが求められる場合もある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本科目は専門社会調査士カリキュラムの I 科目（「多変量解析に関する演習（実習）科目」）に該当する。

R による統計分析の経験を事前に有することが望ましい。

科目名：社会心理学演習Ⅱ／ Social Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-PSY323J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニティと社会行動

2. Course Title (授業題目)：Community and Social Behavior

3. 授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。毎回、受講生は、課題論文を読み、レポートを提出する。授業では課題論文の解説をおこなうとともに、レポートの内容についてフィードバックをおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students explore articles about community and culture. In every class, students are required to submit short reports.

5. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動にかんする社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。

2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn about theories and methods of research regarding community and culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を併用して実施する。

1. 導入：授業の進め方の説明

2. 地域社会と犯罪

3. 文化と発達

4. 移動とアイデンティティ

5. 移動と適応行動

6. 互助集団

7. 抵抗と服従

8. 文化と問題対処行動

9. 社会化過程

10. コミュニティの文化①

11. コミュニティの文化②

12. コミュニティの文化③

13. アクション・リサーチ

14. 事例研究法

15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回提出する小レポートにより評価（100%）

9. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、レポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

1回目の授業で、対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）の併用について説明します。上に示した授業計画はおおよその予定であり、授業進行に応じて調整をすることがあります。

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LB55205, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目) : Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：【目的】古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文文学作品『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を読解します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容につ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : 【Course Objectives】 This course aims to improve the students' ability to read texts of Chinese classical writings in a basic and traditional way, and to collate texts, which are necessary to study classical Chinese literature.

【Course Synopsis】 Chu Ci is a

5. 学習の到達目標：①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的な事柄を理解する。

②わかりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。

③レジュメや発表の内容を理解して問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : ①Students will be able to understand the basic issues necessary to read Chinese classical texts.

②Students will be able to make intelligible handout for their presentations, and to explain the contents precisely.

③Students will be able to clarify problem

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 『楚辞』について(1)

3. 『楚辞』について(2)

4. 『楚辞』「離騷」の読解(1)

5. 『楚辞』「離騷」の読解(2)

6. 『楚辞』「離騷」の読解(3)

7. 『楚辞』「離騷」の読解(4)

8. 『楚辞』「離騷」の読解(5)

9. 『楚辞』「離騷」の読解(6)

10. 『楚辞』「離騷」の読解(7)

11. 『楚辞』「離騷」の読解(8)

12. 『楚辞』「離騷」の読解(9)

13. 『楚辞』「離騷」の読解(10)

14. 『楚辞』「離騷」の読解(11)

15. 『楚辞』「離騷」の読解(12)

8. 成績評価方法：

授業参加態度 50%、発表内容 50%

9. 教科書および参考書：

教材は授業開始時に配布する。

Materials will be handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、問題点を発見すること。

Preparation: Presenters are required to read the assigned part of the text

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB98811, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代中国王朝と周辺諸国・諸民族
2. Course Title (授業題目)：The Relationships of Ancient Chinese Dynasties Formed with Neighboring Countries and Peoples
3. 授業の目的と概要：中国王朝は、東アジアの周辺諸国・諸民族との間で「冊封」や「朝貢」といった特殊な秩序を形成し、また国内外に住む多様な民族を統治してきた。この授業の前半では前近代の中国王朝の国際秩序に関する研究史を概観する。後半では秦漢時代に焦点を置き、中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係を歴史資料に即して具体的に考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In pre-modern East Asia, the Chinese Dynasty established distinctive orders such as the tributary system and the feudal system with neighboring countries, and ruled over ethnic groups in their territories. In the first half of this course, we will review
5. 学習の到達目標：・前近代東アジアの国際秩序に関する基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
・戦国から秦漢時代の中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係について、歴史資料に即した形で理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purposes of this course are as follows:
 - 1) To acquire basic knowledge about the orders of the Chinese dynasties in pre-modern East Asia, and to be able to explain them in writing.
 - 2) To understand about the relationships formed by the Chinese dynast
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：(序論) 中国王朝の対外関係と華夷思想、冊封と朝貢・互市
 - 第2回：冊封と東アジア (1)：「冊封体制論」の提唱
 - 第3回：冊封と東アジア (2)：「冊封体制論」の展開
 - 第4回：冊封と東アジア (3)：「冊封体制論」の批判
 - 第5回：朝貢・互市と天朝体制論
 - 第6回：「冊封」と高句麗をめぐる歴史論争
 - 第7回：秦漢時代の「内臣・外臣」構造論
 - 第8回：「内臣・外臣」論への批判と秦代への遡及
 - 第9回：志賀島の「金印」をめぐる
 - 第10回：漢代国家構造論の現在
 - 第11回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (1)
 - 第12回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (2)
 - 第13回：戦国・秦漢時代の他国民・異民族の同化と編入
 - 第14回：漢初の諸侯王と「内／外」秩序
 - 第15回：漢初の異民族統治：胡家草場漢簡から
8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB55206, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースカリキュラムの評価
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course evaluation
3. 授業の目的と概要：日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the matters to be considered in deciding of evaluation method for language course. Through activities and exercises, students will learn to apply the backward design to Japanese language course.
5. 学習の到達目標：(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
(2)様々な評価の方法について理解し、説明できる。
(3)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn the following:
 1. basic principles of evaluation in language teaching
 2. various methods of evaluation
 3. backward design in Japanese language course
7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

 1. イントロダクション
 2. コースデザイン
 3. コースカリキュラムの評価(1)
 4. パフォーマンス評価
 5. コースカリキュラムの評価(2)
 6. ルーブリック評価(1)
 7. ルーブリック評価(2)
 8. コースカリキュラムの評価(3)
 9. 伝統的評価と代替的評価
 10. テストによる評価(1)
 11. テストによる評価(2)
 12. スタンダードの分析(1)
 13. スタンダードの分析(2)
 14. ポートフォリオ評価
 15. バックワード・デザインとまとめ
8. 成績評価方法：

レポート30%・課題40%・授業参加度30%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本史各論／ Japanese History

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。なお、近世史で卒論の執筆を検討している3・4年生は受講することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。

(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他(報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB55207, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2. Course Title (授業題目)：History of Western Ethics through Arguments

3. 授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, we will learn the history of Western ethics since Plato through reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. In the first sessions, we will learn how to reconstruct arguments, and after that we will work on rec

5. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this seminar is to acquire a certain knowledge of the history of Western ethics and to be able to reconstruct arguments.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (テキスト：レイチェルズ「相対主義の挑戦」)

第四回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第五回：プラトン『ゴルギアス』より、不正を受けるよりもなすほうが悪いこと

第六回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、幸福が最高の善であること

第七回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、道徳的完成主義

第八回：トマス・アクィナス『神学大全』より、神の存在証明

第九回：ライプニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』より、この世界が最善であること

第一〇回：パスカル『パンセ』より、賭けの議論

第十一回：カント『道徳の形而上学の基礎づけ』より、幸福が最高の善ではないこと

第十二回：ミル『功利主義』より、功利原理

第十三回：ムーア『倫理学原理』より、自然主義的誤謬の批判

第十四回：マッキー『倫理学』より、誤謬理論の証明

第十五回：まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 70%、演習内のパフォーマンス 30%。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてこちらで用意します。

10. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提／帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックし

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German LiteratureⅢ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB55301, 科目ナンバリング：LHM-LIT308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルーマニアのユダヤ系詩人たちによるホロコーストの詩的表象
2. Course Title (授業題目)：Holocaust-Gedichte von Jüdischen Dichter*innen aus Rumänien
3. 授業の目的と概要： 詩のテキストを厳密に読み、凝縮された言語表現の理解を学ぶ。その際、詩のテキスト解釈を補強するべく、詩人の他のテキストや二次文献を読む。背景知識としてルーマニアにおけるナチズム受容の歴史を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar wird durch die genaue Lektüre von Gedichten das Verstehen der verdichteten sprachlichen Ausdrücken geübt. Dabei werden auch andere Texte der Dichter*innen sowie Sekundärliteratur eingesetzt, um ihre Gedichte überzeugender zu interpretieren
5. 学習の到達目標：ドイツ語による詩を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Gedichte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オーストリア帝国領からルーマニア領となったブコヴィナ出身のユダヤ系詩人たちのテキストを取り上げる。彼らの自伝的エッセイや二次文献の一部も読み、そのうえで再度、詩のテキストを読み直す。

第1回 導入
第2回 ルーマニアにおけるドイツ語話者の歴史
第3回 ルーマニアにおけるナチズム
第4回 ホロコーストをテーマとする詩（1）
第5回 ホロコーストをテーマとする詩（2）
第6回 自伝的エッセイ（1）
第7回 自伝的エッセイ（2）
第8回 自伝的エッセイ（3）
第9回 二次文献（1）
第10回 二次文献（2）
第11回 二次文献（3）
第12回 二次文献（4）
第13回 ホロコーストをテーマとする詩（3）
第14回 ホロコーストをテーマとする詩（4）
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
平常点（出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加）
9. 教科書および参考書：
プリントを配付する。Texte werden im Voraus verteilt.
10. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。
Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー
Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehrkr

科目名：言語学論文演習 I / Linguistics Research (Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：内藤 真帆・小泉 政利・木山 幸子

コード：LB55304, 科目ナンバリング：LHM-LIN334J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3 年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての的確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4 年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向について

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will deliver an oral presentation, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion, and conclusion of the article.

2. The presenter is

5. 学習の到達目標：言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to narrow down their interest in language and eventually find a topic of their thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の紹介・研究計画発表、質疑応答

3. 論文 2 の紹介・研究計画発表、質疑応答

4. 論文 3 の紹介・研究計画発表、質疑応答

5. 論文 4 の紹介・研究計画発表、質疑応答

6. 論文 5 の紹介・研究計画発表、質疑応答

7. 論文 6 の紹介・研究計画発表、質疑応答

8. 論文 7 の紹介・研究計画発表、質疑応答

9. 論文 8 の紹介・研究計画発表、質疑応答

10. 論文 9 の紹介・研究計画発表、質疑応答

11. 論文 10 の紹介・研究計画発表、質疑応答

12. 論文 11 の紹介・研究計画発表、質疑応答

13. 論文 12 の紹介・研究計画発表、質疑応答

14. 論文 13 の紹介・研究計画発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の議論への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、発表の週の月曜日までに配布すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）／ Forensic and Criminal Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-PSY317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：司法・犯罪心理学

2. Course Title (授業題目)：Forensic and Criminal Psychology

3. 授業の目的と概要：本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the purpose is to deepen the knowledge of the academic position of criminal psychology, basic knowledge on criminal psychology such as criminal justice system and criminal statistics, basic theory on the cause of crime, and psychological a

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の3点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to...

1. Understand the systems and laws in the field of criminal justice, and the activities and ethics of each organization.

2. Understand the criminological theory from the perspectives of cause of crime and opportunity of crim

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業もしくはリアルタイム型オンライン授業（リアルタイム型遠隔授業）を行います。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪と犯罪心理学
2. 司法・犯罪に関連する法律
3. 成人における刑事司法制度
4. 少年非行と司法システム
5. 犯罪統計
6. 犯罪・非行の生物学的原因 (1)
7. 犯罪・非行の生物学的原因 (2)
8. 犯罪・非行の心理学的原因 (1)
9. 犯罪・非行の心理学的原因 (2)
10. 犯罪・非行の社会学的原因 (1)
11. 犯罪・非行の社会学的原因 (2)
12. 環境と犯罪に関する理論
13. 犯罪予防
14. 犯罪・非行の心理学的アセスメントと支援
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

期末試験・レポート 60%

受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

The textbook is not specified. However, reference books and literature will be introduced during the lecture.

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

It is required to read through the reference materials introduced in the first class. In addition, each class will be based on the contents of th

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求められることがある。

As part of the course, students may be asked to participate in psychological experiments and surveys.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB55307, 科目ナンバリング：LHM-0HU311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大衆文化・メディミックス・ファンダムをめぐる研究著書の解説と翻訳
2. Course Title (授業題目)：Readings on Popular Culture, Transmedia, and Fandom
3. 授業の目的と概要：本授業では英語圏のファンダムかつメディア研究者の著書を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

本授業で活用する文献：

Henry Jenkins. Convergence Culture. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンス (著), 渡部宏樹 (翻訳), 北村紗

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary popular culture through comparative reading of English texts and their Japanese translations. The reading list consists of general audie

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における英日翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

- 3) 世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、コンテンツ市場の発展を把握できる。
- 4) コンテンツのメディア横断的展開を背景としたポピュラー作品の制作過程を常に視野に入れており、より包括な分析を行うことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the ea

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (Convergence Culture, Introduction 1)
6. Reading and translation (Convergence Culture, Introduction 2)
7. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 1.1)
8. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 1.2)
9. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 3.1)
10. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 3.2)
11. Reading and discussion (Convergence Culture, Chapter 4.1)
12. Reading and translation (Convergence Culture, Chapter 4.2)
13. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 1)
14. Reading and translation (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 2)
15. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』, Chapter 5)

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (30%)、課題 (70%)

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LB55305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アレント『精神の生』講読

2. Course Title (授業題目)：Reading Arendt: The Life of the Mind

3. 授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アレントの著書の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

*教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

We meet all the class members at the real classroom.

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.

2. To learn the significance of thinking radically.

3. To learn the significance of the history of philosophy.

4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第一部『思考』第3章第16節（その1）第1～6段落

第3回：『思考』第3章第16節（その2）第7～14段落

第4回：『思考』第3章第16節（その3）第15～19段落

第5回：『思考』第3章第16節（その4）第20～25段落

第6回：『思考』第3章第17節（その1）第1～5段落

第7回：『思考』第3章第17節（その2）第6～11段落

第8回：中間考察

第9回：『思考』第3章第17節（その3）第12～18段落

第10回：『思考』第3章第17節（その3）第19～23段落

第11回：『思考』第3章第18節（その1）第1～11段落

第12回：『思考』第3章第18節（その2）第12～21段落

第13回：『思考』第3章第18節（その3）第22～30段落

第14回：アレントの「一者のなかの二者」論

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

・ Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978

・ 佐藤和夫訳『精神の生活（上）』岩波書店、1994年

・ ハンナ・アレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

・ ハンナ・アレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

・ エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アレント』

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

使用言語：日本語／Language: Japanese

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：文 景楠

コード：LB55306, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Aristotle's Ethica Eudemia
3. 授業の目的と概要：アリストテレス倫理学の基本文献である『エウデモス倫理学』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's Ethica Eudemia, one of the most important works in his ethical treatises. Students will be required to read the original Greek text with the recent critical edition and commentaries.
5. 学習の到達目標：アリストテレスの倫理学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's ethics and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める（オンライン授業の予定はない）。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アリストテレス倫理学の紹介
- 第3回 Rowe の序文を読む
- 第4回 第1巻第1章を読む
- 第5回 第1巻第2章を読む
- 第6回 第1巻第3章を読む
- 第7回 第1巻第4章を読む
- 第8回 第1巻第5章を読む
- 第9回 第1巻第6章を読む
- 第10回 第1巻第7章を読む
- 第11回 第1巻第8章を読む
- 第12回 第2巻第1章を読む
- 第13回 第2巻第2章を読む
- 第14回 第2巻第3章を読む
- 第15回 レポート構想発表

8. 成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む平常点 60%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。

Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。

Students are assumed to be familiar with the essentials of the Ancient Greek language.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：永田 英明

コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2. Course Title (授業題目)：research of ancient historical materials(2)

3. 授業の目的と概要：日本古代の法令集『類聚三代格』の読解を通じて、古代史料の読解能力を養います。授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Ruiju-Sandaikyaku. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する研究能力を身につけるとともに、報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students acquire advanced research skills in ancient Japanese history, and It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

国史大系本『類聚三代格』前編・後編（吉川弘文館）※必ずしも購入の必要はない。

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB55308, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of s

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——社会調査と質的調査
- 2 研究倫理と社会調査の設計方法
- 3 質的調査の方法(1)
- 4 質的調査の方法(2)
- 5 質的調査の方法(3)
- 6 質的調査の方法(4)
- 7 質的調査の方法(5)
- 8 調査テーマの検討(1)
- 9 調査テーマの検討(2)
- 10 調査テーマの検討(3)
- 11 先行研究と調査対象の検討
- 12 予備調査
- 13 問いの設定と調査項目の検討(1)
- 14 問いの設定と調査項目の検討(2)
- 15 調査依頼の作成

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

後期の社会学実習と連続して履修してください。

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB55404, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む (1)
2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka (1)
3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカ (Franz Kafka: 1883-1924) の小説をテキストとして、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行います。映画化された作品も鑑賞する予定です。文学研究や他の関連する話題に関する簡単な講義なども行いたいと考えています。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. Brief lectures on li
5. 学習の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret literary texts written in German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. テキスト講読 (1)
 3. テキスト講読 (2)
 4. テキスト講読 (3)
 5. テキスト講読 (4)
 6. テキスト講読 (5)
 7. テキスト講読 (6)
 8. テキスト講読 (7)
 9. テキスト講読 (8)
 10. テキスト講読 (9)
 11. テキスト講読 (10)
 12. テキスト講読 (11)
 13. テキスト講読 (12)
 14. テキスト講読 (13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加 (80%) とレポート (20%)
9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備します。
10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
 - ・質問その他の連絡は、以下のアドレスへ。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (◎を@に変更)
 - ・授業は原則として対面で実施します。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知します。
 - ・オフィス・アワーは特にもうけません。随時、個人的な質問・相談・雑談など受けつけます。上記のアドレス宛に連絡してアポを取ってください。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟 (アクセスマップ A12) の 2 階です。

科目名：考古学演習 / Archaeology (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆, 松本 圭太

コード：LB55403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS309J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are introduced to history, method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。(2) 各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目(考古学演習)は、オンライン授業(主としてリアルタイム型遠隔授業)です。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは fzij7bw です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスと研究発表の説明。

2. 学生による研究発表①

3. 学生による研究発表②

4. 学生による研究発表③

5. 学生による研究発表④

6. 学生による研究発表⑤

7. 学生による研究発表⑥

8. 学生による研究発表⑦

9. 学生による研究発表⑧

10. 学生による研究発表⑨

11. 学生による研究発表⑩

12. 学生による研究発表⑪

13. 学生による研究発表⑫

14. 学生による研究発表⑬

15. 学生による研究発表⑭

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他(具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

1 0. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と社会福祉

2. Course Title (授業題目)：Religion and Social Welfare

3. 授業の目的と概要：社会福祉の源流として、キリスト教など諸宗教の慈善活動がある。これらの慈善活動そのものは意義深いものであるが、時代性による限界もあって、人権意識や平等性に課題があった。そのような前近代的課題を克服することで、個人の自由を前提とした「社会福祉」が発展した。このような経緯を踏まえて、日本での仏教社会福祉史、バングラデシュの仏教徒と社会福祉活動、長岡西病院ビハラー病棟、東日本大震災後の被災者支援活動などを例に、宗教と社会福祉の関係性について考察し、超高齢多死社会となる日本社会において、宗教が果たし得る役割について

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The source of social welfare is the charity activities of various religions, including Christianity. Although these charity activities themselves are significant, they are limited by the times, and there are issues with human rights awareness and equality

5. 学習の到達目標：宗教と社会福祉の関係性、超高齢多死社会における宗教の貢献について考察し、理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand the relationship between religion and social welfare, and contributions by religious organizations in a super-aged death-ridden society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

資料等は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：慈善と社会福祉

第3回：社会福祉と諸宗教

第4回：仏教と社会福祉

第5回：バングラデシュの仏教と社会福祉

第6回：ビハラー運動

第7回：小括（仏教と社会福祉）

第8回：震災と支援

第9回：地域包括ケア

第10回：自殺対策

第11回：小括（死と宗教）

第12回：ソーシャル・キャピタル

第13回：コンパッション・コミュニティ

第14回：小括（地域社会と宗教）

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：アラン・ケレハー『コンパッション都市』慶應義塾大学出版会、2022年

淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会編『共生社会の創出をめざして』学文社、2016年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LB55405, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 1

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 1

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford Univer

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.
To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB55401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：魏晋南朝貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Aristocratic System in the Wei, Jin, and Southern Dynasties

3. 授業の目的と概要：中国の魏晋南朝時代（220～589）は、貴族が政治・社会を主導する体制—貴族制の時代として知られる。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて中国史における魏晋南朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course covers the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties (220-589) to help students understand the characteristics of the Wei, Jin, and Southern Dynasties time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：魏晋南朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（貴族、貴族制とは）
- 2、後漢時代の貴族
- 3、九品官人法の制定
- 4、州大中正の設置と貴族制の形成
- 5、西晋の貴族制
- 6、東晋貴族制の成立
- 7、東晋中期の貴族制
- 8、東晋貴族制の動揺
- 9、宋・斉時代の貴族制
- 10、宋・斉時代の名門貴族
- 11、宋・斉時代の新興貴族
- 12、梁・武帝の貴族制改革—十八班制
- 13、梁・武帝の貴族制改革—試經制度
- 14、陳代の新傾向
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各講時に資料を配布する。参考書は、川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「講談社学術文庫」、2003 年）など。他は講義の中で紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

なし。

科目名：美学・西洋美術史演習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB55406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（基本編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Basic Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55407, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけでなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず日本史実習「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：博物館実習Ⅱ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55408, 科目ナンバリング：LHM-CUM307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目) : Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：この講義は主に歴史系博物館における古文書・歴史資料の取り扱いを念頭に置き、アーカイブズ学的観点から学んでいく。歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木村 敏明・高橋 原・谷山 洋三・問芝 志保

コード：LB55502, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations do
5. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 学部3年発表 グループ6
 8. 予備日：学部3年欠席者のため
 9. 学部4年発表 グループ1
 10. 学部4年発表 グループ2
 11. 学部4年発表 グループ3
 12. 学部4年発表 グループ4
 13. 学部4年発表 グループ5
 14. 学部4年発表 グループ6
 15. 予備日：学部4年欠席者のため
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB55501, 科目ナンバリング：LHM-PHI314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディアと情報倫理

2. Course Title (授業題目) : Media and Information Ethics

3. 授業の目的と概要：ソーシャルメディアは、人々のネットワークを拡大する情報インフラとして現代における社会生活の基盤をなしている。しかし、そこで交換される情報や、形成される人間関係は、利用者をしばしば傷つけ、人々の間で相互不信を増す働きをもつ。この現状を理解し、対応策を考察することは情報倫理学にとって重要な課題である。この授業では、この目的を果たすために、SNS に関する認識論、倫理学上の文献を講読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Social media form the foundation of modern social life as information infrastructures that expand people's networks. However, the information exchanged and relationships formed on social media often harm users and increase mutual distrust among people. Un

5. 学習の到達目標：マスメディアや SNS などの情報メディアの特性を理解する。

マスメディアや SNS などの情報メディアの認識論的、倫理的課題を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To understand the characteristics of information media such as mass media and SNS.

To understand the epistemological and ethical issues of information media such as mass media and SNS.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

SNS の認識論や情報倫理に関わる論文と書籍を読む。授業の構成は以下の通り。

第一回 イン트로ダクション

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する。

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41101, 科目ナンバリング：LHM-PHI204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 2－

2. Course Title (授業題目)：Outline of Indian Buddhist History 2

3. 授業の目的と概要： インド仏教における「密教」の占める位置とその意味について学んだのち、基本的な専門用語にも留意しながら、初期から後期まで史的展開に従って「インド密教の概略」を把握し、併せてインド密教と密接な繋がりを持っていたチベット仏教史の概略をも理解することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aims of this course are to

1. Understand the meaning of the Buddhist Tantrism in Indian Buddhist history.
2. Learn about the outline of the history of Indian and Tibetan Tantric Buddhism.
3. Grasp the fundamental Indian Tantric Buddhist tech

5. 学習の到達目標：インド密教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic knowledge of historical development and thought on the Indian Tantric Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論：インド密教とは何か
2. 初期インド密教 -1-
3. 初期インド密教 -2-
4. 初期インド密教 -3-
5. 中期インド密教 -1-
6. 中期インド密教 -2-
7. 中期インド密教 -3-
8. 後期インド密教 -1-
9. 後期インド密教 -2-
10. 後期インド密教 -3-
11. 後期インド密教 -4-
12. 後期インド密教 -5-
13. 後期インド密教 -6-
14. チベット密教 -1-
15. チベット密教 -2-

8. 成績評価方法：

レポート [100%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。

参考書は各単元において随時追加紹介する。

10. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オンデマンド型オンライン形式で実施する。

「インド仏教史概説－その 1－の既習者であること」を履修の原則とする。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：毛塚 和宏

コード：LB41102, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：ゲーム理論は人の行動や社会現象を理解するために役立つツールである。この講義では、実際の事例と結び付けながら、ゲーム理論を学ぶ。この授業では以下の内容を学ぶ。

- 1) ゲーム理論を用いて社会現象を表現する
- 2) 展開形ゲーム
- 3) 標準形ゲーム
- 4) 無限繰り返しゲーム
- 5) 不完備情報ゲーム
- 6) 進化ゲーム理論

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Game theory is a useful tool to analyze and understand behaviors and social phenomena. In this course, students learn game theory with actual cases.

The following topics will be covered in the course:

- 1) Explanation of social phenomena by game theory
5. 学習の到達目標：1) ゲーム理論によるモデルのメカニズムを他人に説明できるようになる。
2) ゲーム理論によるモデルを簡単な数学を用いて表現できるようになる。
3) ゲーム理論を、自分で見つけた社会現象に応用して分析できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : By participating in the course, students will be able to:
1) explain the models with game theory to others
2) express the models with basic mathematics
3) analyze the social phenomena, applying the game theory
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション
2. 保険料から人種まで：統計的差別と合理的選択理論の復習
3. Film for Two：標準形ゲーム
4. 見知らぬ他人と協力できるか：囚人のジレンマ
5. 通話料金の価格の決め方：寡占
6. 結婚相手は家事する人ぞ？：展開形ゲーム
7. 協調する関係が起りやすい環境：繰り返しゲーム
8. リーマンショックの裏で：モラルハザード
9. 家事をする夫と結婚するには：不完備情報ゲーム
10. 中古車市場は存在しない？：逆選択
11. 現代的な「踏み絵」：スクリーニング
12. なぜ学歴によって給料が異なるのか：シグナリングゲーム
13. 自分の希望価格を書かせる方法：オークション
14. エスカレーターに生じる規範：進化ゲーム理論
15. 授業のふりかえり

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [70%] ・ (○) 小課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

10. 授業時間外学習：入念な予習、復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

随時メール (kkezuka@ila.titech.ac.jp) にて連絡すること。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典チベット語初級文法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Classical Tibetan Grammar & Reading

3. 授業の目的と概要： 先ず文法事項の復習と理解確認を兼ねて短い笑話を読み、次に Abhayadattaśrī が著したとされるインド密教行者伝『八十四成就者伝』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。但し前期における進度によっては、文法事項の補足を先ず行う場合がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will translate Grub thob brgyad cu rtsa shiḥi lo rgyus (Hagiography of Eighty four siddhas) by Abhayadattaśrī into Japanese, so that they can get the basic ability of reading classical Tibetan literatures which is necessary for t

5. 学習の到達目標：纏まった分量のテキストを相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、古典チベット語で著された文献の読解力の深化を図る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to comprehend classical Tibetan literatures, by reading a decent amount of Tibetan text and also by preparing for the assigned part in referring intensively to dictionaries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット語テキスト訳読-1-

2. チベット語テキスト訳読-2-

3. チベット語テキスト訳読-3-

4. チベット語テキスト訳読-4-

5. チベット語テキスト訳読-5-

6. チベット語テキスト訳読-6-

7. チベット語テキスト訳読-7-

8. チベット語テキスト訳読-8-

9. チベット語テキスト訳読-9-

10. チベット語テキスト訳読-10-

11. チベット語テキスト訳読-11-

12. チベット語テキスト訳読-12-

13. チベット語テキスト訳読-13-

14. チベット語テキスト訳読-14-

15. チベット語テキスト訳読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

1. 短い笑話 1 編

2. Abhayadattaśrī：『八十四成就者伝』（いずれもコピーを配布する）

10. 授業時間外学習：予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生，及び前期で「チベット語」を履修した文学部生のみ履修可。

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB41202, 科目ナンバリング：LHM-LIT207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学習の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 分離動詞・非分離動詞 (1)
 - 3 分離動詞・非分離動詞 (2)
 - 4 受動態 (1)
 - 5 受動態 (2)
 - 6 再帰動詞 (1)
 - 7 再帰動詞 (2)
 - 8 機能動詞 (1)
 - 9 機能動詞 (2)
 - 10 接続詞 (1)
 - 11 接続詞 (2)
 - 12 語順 (1)
 - 13 語順 (2)
 - 14 格の用法 (1)
 - 15 格の用法 (2)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学基礎講読Ⅱ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB41204, 科目ナンバリング：LHM-LIT216J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：20世紀の演劇（バーナード・ショー）
2. Course Title (授業題目)：Twentieth-Century Drama (Bernard Shaw)
3. 授業の目的と概要：オードリー・ヘップバーン主演の映画『マイ・フェア・レディ』（1964年）の原作としても知られるバーナード・ショーの『ピグマリオン』（1914年）は20世紀初頭のイギリス・アイルランド文学を代表する演劇作品のひとつといってよいでしょう。この作品を精読しながら英語で書かれた文学作品の特性や英語圏の文化と社会についての理解を深めるとともに、演劇や映画といった、選択されるコミュニケーション手段の違いが、意味の伝達と生成にどのような影響を及ぼすのかについても考えます。また、1910年代初頭のイギリスは社会的な問題に
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Bernard Shaw's Pygmalion (1914) is one of the most famous plays in early-twentieth-century English and Irish literature. The 1964 American film My Fair Lady is an adaptation of this play. In this course, we closely read the text to understand English cult
5. 学習の到達目標：(1) 演劇というコミュニケーションの在り方について基本的な理解を得る
(2) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する
(3) 調べたことや自分の意見を説明できるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire basic knowledge of the communication style of drama

(2) To improve your reading skills to understand literary text in English

(3) To improve your presentation skills to explain what you have learned
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Preface
 3. Act One
 4. Act Two (1)
 5. Act Two (2)
 6. Act Two (3)
 7. Act Three (1)
 8. Act Three (2)
 9. Act Four
 10. Act Five (1)
 11. Act Five (2)
 12. Sequel
 13. My Fair Lady (1)
 14. My Fair Lady (2)
 15. まとめと試験
8. 成績評価方法：
発表と授業参加50%・試験50%
9. 教科書および参考書：
Bernard Shaw, Pygmalion (Penguin Classics)
10. 授業時間外学習：各回で扱う箇所は必ず事前に学習してくること

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：現代日本学概論Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (General Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB41201, 科目ナンバリング：LHM-OHS205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本と芸能・演劇
2. Course Title (授業題目)：Contemporary Japan and Performing Arts
3. 授業の目的と概要：古代から現代にいたるまでの日本の芸能と演劇について、様々な視点から講義する。現代の日本文化にも大きな影響を与えている芸能と演劇について、歴史的な事例を通して理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class will lecture on Japanese performing arts from ancient to modern times from various perspectives. The objective is to deepen understanding of the performing arts, which have had a great influence on contemporary Japanese culture, through history
5. 学習の到達目標：日本の芸能・演劇の歴史、特性について理解する。
現代の日本文化を考えるうえでの新たな視点を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand the history and characteristics of Japanese performing arts.
Acquire new perspectives on contemporary Japanese culture.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：日本芸能・演劇の歴史を概観する
第3回：芸能・演劇と国家
第4回：語りの芸能①
第5回：語りの芸能②
第6回：語りの芸能③
第7回：演技の発展と形成①
第8回：演技の発展と形成②
第9回：演技の発展と形成③
第10回：演技の発展と形成④
第11回：笑いの芸能・演劇①
第12回：笑いの芸能・演劇②
第13回：見世物の歴史と展開①
第14回：見世物と歴史と展開②
第15回：これまでの授業のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
出席・授業参加度（50%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB41205, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Tale of Genji". You are required to prepare for class according to the goal and content

5. 学習の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
- (2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
- (3) Be able

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『源氏物語』
3. 『源氏物語』を読む(1)
4. 『源氏物語』を読む(2)
5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1)
6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2)
7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3)
8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4)
9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5)
10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6)
11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7)
12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8)
13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9)
14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10)
15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：青表紙本源氏物語（新典社、影印本）、大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。

その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：松本 圭太

コード：LB41301, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：草原考古学概説

2. Course Title (授業題目)：General Lecture of Eurasian Steppe Archaeology

3. 授業の目的と概要： ユーラシア草原地帯はヨーロッパとアジアの歴史動態を繋ぐ地域として、考古学および関連分野の各国研究者に注目されている地域である。本講義では、考古学研究を行うにあたっての基礎的な知識と方法を学び、それを踏まえて草原地帯の青銅器時代から鉄器時代までの概説を行う。草原地帯に居住してきた牧畜民は、独特の物質文化を形成し、生活痕跡も少ない。また草原考古学では、研究対象地域が国境を跨ぐことも多く、こうした点では、一般的な考古学とはやや異なる面を持つ。しかしながら、日本考古学で培われてきたオーソドックスな方法でこそ明らか

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The Eurasian Steppe is a region that has attracted the attention of researchers from many countries in archaeology and related fields as a region that links the historical dynamics of Europe and Asia. In this lecture, students will learn basic knowledge

5. 学習の到達目標：(1) 考古学研究を進める上で必要な基礎知識を学ぶ。(2) 考古学独特の手法が歴史復元にどのように役立つかを理解する。(3) 青銅器時代から鉄器時代という人類史的な変化を、ユーラシア草原地帯を通じて理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this lecture is that students understand (1) the basic knowledge necessary to conduct archaeological research, (2) how archaeological methods can be used for historical reconstruction, and (3) the historical transition from the Bronze Age to th

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 本講義のガイダンスと全講義の説明。
2. 考古学とは・考古学の歴史・資料論
3. 層位論・分類・型式論
4. 時間論・空間論
5. 考古学と理論①
6. 考古学と理論②
7. 東アジアの二項対立構造
8. ユーラシアの青銅器時代と、中国における青銅器の開始
9. 先スキタイ文化と殷文化
10. 先スキタイ文化からスキタイ系(初期遊牧民)文化へ①
11. 先スキタイ文化からスキタイ系(初期遊牧民)文化へ②
12. スキタイ系文化の変容と春秋戦国時代
13. 龍の話：動物文の系譜と変化
14. 青銅器の考古学と化学分析
15. まとめ：時代区分論(青銅器時代から鉄器時代へ)

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：講義中の方法が自身の研究のどの部分に活用できるか考える。講義の対象となった時期や社会的様相について、自身の研究に近い地域と対比する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB41302, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代イギリス哲学史

2. Course Title (授業題目)：History of Modern British Philosophy

3. 授業の目的と概要： ベーコンからリードにいたる近代イギリス哲学史は、その思考の振幅の広がり、歴史的展開の過酷さの点で、哲学史におけるスペクタクルのひとつである。近代のイギリス哲学は、学問の大刷新の号令と、徹底的な唯物論から始まって、観念モデルの経験主義の諸段階をへて、ときに純粋なスピリチュアリズムの形而上学へと陥りつつも、緩和された懐疑論とコモン・センスの哲学へと収束した。その歩みを辿ることは、歴史的に繰り返された哲学的思考を追体験することになる。

講義では、16世紀から18世紀にかけての近代イギリスの哲学について

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： The lectures will discuss the historical development of British philosophy in the modern period (roughly from the sixteenth to the eighteenth centuries), examining the theories of the major philosophers.

5. 学習の到達目標： 近代イギリス哲学の諸論点を哲学的に考察する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)： A philosophical examination of various issues in modern British philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 序論

2～3 ベーコン——学問の大刷新

4～5 ホッブズ——唯物論の形而上学

6 カドワースとモア——ケンブリッジ・プラトニストの哲学

7～8 ロック——経験主義の観念理論

9 補遺1 人格同一性をめぐる展開

10～11 バークリ——非物質論の形而上学

12 補遺2 人間本性への眼差し——イギリスの道徳哲学

13～14 ヒューム——懐疑主義と自然主義

15 リード——コモン・センスへの回帰

8. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

引用資料集を掲載する。その他の参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業で紹介した哲学書などを自ら読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他： なし

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB41303, 科目ナンバリング：LHM-LIN227J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析2
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Analysis for teaching Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を分析的に捉える方法を理解し、分析し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language and connect this way with Japanese teaching practices.
5. 学習の到達目標：(1)日本語教育のための日本語の基礎を理解し説明できる。
(2)日本語教育の観点から日本語を分析することができる。
(3)日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language
 2. analyze Japanese language by using this view
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本語教育の参照枠
 3. 日本語教育のための文法①
 4. 日本語教育のための文法②
 5. 日本語教育のための文法③
 6. 日本語教育のための文法④
 7. 教案作成
 8. 模擬授業
 9. 日本語教育のための語用論①
 10. 日本語教育のための語用論②
 11. 日本語教育のための語用論③
 12. 日本語教育のための語用論④
 13. 教案作成
 14. 模擬授業
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

期末テスト30%・クイズ30%・課題40%
9. 教科書および参考書：

『みんなの日本語 初級1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
日本語教育学概論、日本語教育学基礎演習（前期）を履修していること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：フランス語学基礎講読／ French Literature (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB41401, 科目ナンバリング：LHM-LIT225J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス語文法
2. Course Title (授業題目)：French Grammar
3. 授業の目的と概要：主要な参考書として六鹿豊『これならわかるフランス語文法』（予定）を用いて、初級文法の復習と中・上級文法への導入を行います。また進度によってはさまざまな種類のフランス語のテキストを読みます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Using the manual mentioned below, each learner revises the basic French grammar and enters into the advanced French grammar.
5. 学習の到達目標：近現代までのフランス語の読解に必要な文法的知識を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner obtains enough knowledge to read French texts correctly.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の予定で『これならわかるフランス語文法』（以下教科書の項を参照）を読みます。実際には進度には変更があり得ます。可能であれば平行してさまざまなテキストの講読を行うことも検討します。

第一回	オリエンテーション
第二回	pp. 10-41
第三回	pp. 42-77
第四回	pp. 78-97
第五回	pp. 97-124
第六回	pp. 125-152
第七回	pp. 152-189
第八回	pp. 190-226
第九回	pp. 226-260
第十回	pp. 260-298
第十一回	pp. 299-332
第十二回	pp. 333-367
第十三回	pp. 367-401
第十四回	pp. 402-435
第十五回	pp. 436-457

8. 成績評価方法：
出席（100%：毎回小テストを実施します）。
9. 教科書および参考書：
六鹿豊『これならわかるフランス語文法』、NHK 出版、2016。
10. 授業時間外学習：初回を除いて、原則として毎回授業で扱う箇所を読んで来るが必要になります。また毎回小テストを実施します。従って、十分な予習と復習が必要になります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LB41402, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献解読
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：この授業では、最新の民族誌を精読し、文化人類学について概括的な知識を得る。そして、文化人類学の思考法と考え方を学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics and theory of cultural anthropology through literature study and discussion.
5. 学習の到達目標：基礎文献の精読と討論を通じて、文化人類学を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn main research topics and theories of cultural anthropology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、イントロダクション
 - 2、民族と世界
 - 3-4、バリ島民
 - 5-6、ナバホ族
 - 7-8、アラスカ・エスキモーの社会
 - 9-10、アフリカ・ナイル上流のヌエル族
 - 11-12、中央アフリカ
 - 12-13、イスラム世界
 - 13-14、トロブリアンド諸島の母型社会とクラ交易
 - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時. 後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明. 阿部 友紀. 谷山 洋三. 間芝 志保

コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要： 方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面、現代社会における方言の位置づけもテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or

5. 学習の到達目標：(1) 方言に対する関心を高め、研究の対象として考えることができる。

(2) 方言学について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To increase interest in dialects and to be able to consider them as a subject of research.

(2) To acquire a general knowledge of dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：方言の区画、方言の東西差

第 3 回：周圏論的分布、逆周圏論的分布

第 4 回：いろいろな分布、グロットグラム

第 5 回：発音の地域差、アクセントの地域差

第 6 回：イントネーションの地域差、アスペクトの地域差

第 7 回：条件表現の地域差、方言のオノマトペ

第 8 回：あいさつの地域差、話の進め方の地域差

第 9 回：コミュニケーションの意識の地域差、待遇表現の地域差

第 10 回：共通語化・標準語化、方言と共通語の使い分け

第 11 回：伝統方言の現在、中間方言の発生

第 12 回：新しい方言の発生と広がり、近代化によることばの地域差

第 13 回：方言の社会的立場づけの変遷、地域資源としての「方言」

第 14 回：ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ、社会現象としての「方言」

第 15 回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

期末レポート(70%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)

9. 教科書および参考書：

木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ(2013)『方言学入門』三省堂、ISBN：9784385363936

10. 授業時間外学習：授業の前にテキストの授業範囲に目を通し、疑問点、具体例などを洗い出しておくこと。また、授業終了後には、テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックについて身の回りの人々の言葉を観察し、体験的・具体的に理解するように努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英文学講読／ English Literature (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB61203, 科目ナンバリング：LHM-LIT319E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day: Modern British Fiction and Postwar History
2. Course Title (授業題目)：カズオ・イシグロ『日の名残り』：イギリス現代小説と戦後史
3. 授業の目的と概要：Kazuo Ishiguro is the acclaimed Japanese-born and British-based author who won the Nobel Prize for Literature in 2017. The Remains of the Day (1989) is one of his most famous novels (and later adapted into a popular movie), which describes the life and lo
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：カズオ・イシグロは、2017年にノーベル文学賞を受賞した、日本生まれで英国在住の高名な作家である。日の名残り』(1989年)は彼の最も有名な小説の一つで(後に映画化され人気を博した)、1930年代の英国貴族に仕える執事の人生と愛、そして第二次世界大戦の到来に対する彼の反応を描いている。このコースでは、社会階級を扱った現代イギリス小説の一例として、また戦後イギリス文化における世界大戦の記憶について考える方法として、イシグロの小説を学ぶ。受講生は毎週小説の一部を読み、クラスでは関連するトピックについて議論す
5. 学習の到達目標：1: To read a work of literary fiction in English and improve reading skills.
2: To consider the literary and cultural contexts of Postwar Britain.
3: To improve skills of intercultural understanding and knowledge through class content.
4: To help st
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 文芸小説を英語で読み、読解力を高める。
2: 戦後イギリスの文学的・文化的背景を考察する。
3: 授業内容を通して、異文化理解と知識のスキルを向上させる。
4: クラスでの学生同士のディスカッションを通して、異文化コミュニケーションのスキルを向上させる。
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1: Introduction to Ishiguro
 - 2: Reading The Remains of the Day, pp 1-20
 - 3: The Remains of the Day pp. 23-45
 - 4: The Remains of the Day pp. 46-70
 - 5: The Remains of the Day pp. 70-95
 - 6: The Remains of the Day pp. 95-115
 - 7: The Remains of the Day pp. 116-133
 - 8: The Remains of the Day pp. 134-149 [mid-semester test]
 - 9: The Remains of the Day pp. 150-167
 - 10: The Remains of the Day pp. 167-190
 - 11: The Remains of the Day pp. 190-211
 - 12: The Remains of the Day pp. 212-239
 - 13: The Remains of the Day pp. 240-258
 - 14: The Remains of the Day and the contemporary World Literature
 - 15: Conclusion and Final Exam
8. 成績評価方法：
Mid-term test 20%; Final test 30%; Short written assignments 25%; essay 25%
9. 教科書および参考書：
Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day (Faber, 1989).
10. 授業時間外学習：Mid-term quiz

Final exam

One essay

Short reaction comments to Google Classroom

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

This class will be taught in English

科目名：考古学各論／ Archaeology

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と実践

2. Course Title (授業題目)：Archaeological Method and Practice

3. 授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Archaeological studies are practiced using multiple analytical methods. In this course, students understand the analytical methods and its procedures. Students also practice some important analytical methods.

5. 学習の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are supposed to learn diverse analytical methods and to better understand how the analytical methods are practiced for archaeological studies. Students learn the procedures by practicing some analytical methods themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2-6. 実験考古学の方法と実践

7-10. 3D 考古学の方法と実践

11-14. GIS 考古学の方法と実践

15. 遺跡形成研究

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実験心理学演習Ⅳ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB61205, 科目ナンバリング：LHM-PSY321J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Fundamentals of Psychological Measurement
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals of Psychological Measurement
3. 授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is aimed to learn the fundamentals the theory of measurement method which is the methodological basis of psychology research by quantitative methodology. The lecturer expect students' understanding will be deepened by comparing classical test t
5. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be able to conceive data collection designs for actually conducting research on their own using methods based on psychological measurement theory.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業の実施形態：対面授業のみ
1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)
2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)
3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)
4. まとめ (1コマ)
8. 成績評価方法：
出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]
9. 教科書および参考書：
(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.
(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.
10. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB61204, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ナラトロジーと語りの実際
2. Course Title (授業題目)：Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の語りや物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学習の到達目標：物語の理論をもとに語りや物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業の概要
 2. 物語の分析理論 1
 3. 物語の分析理論 2
 4. 語りの分析
 5. ナラティブ分析の現在
 6. 物語作品の分析 1
 7. 物語作品の分析 2
 8. 物語作品の分析 3
 9. 会話データの分析 1
 10. 会話データの分析 2
 11. 語りの分析 1
 12. 語りの分析 2
 13. 研究発表の実際 1
 14. 研究発表の実際 2
 15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2024)ひつじ書房
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：冷戦期文学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Study on Japanese Literature during the Cold War

3. 授業の目的と概要：本講義では、1940 年代後半から 1960 年代までの日本文学の諸相について、冷戦期という歴史的観点を変えて検討する。授業では太宰治、安部公房、三島由紀夫、大江健三郎、寺山修司などのテキストを、社会的・文化的な文脈を視野に入れて読み解くことを通して、文学と時代との多様な関係を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This lecture will examine various aspects of Japanese literature from the late 1940s to the 1960s, including the historical perspective of the Cold War period. The lecture will examine the diverse relationships between literature and the times through rea

5. 学習の到達目標：文学テキストを、社会的・文化的なコンテクストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、戦後の日本文学の特性や意義について理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To develop the ability to read and understand literary texts from multiple perspectives, taking into account their relationship to social and cultural contexts, and to deepen understanding of the characteristics and significance of postwar Japanese litera

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 敗戦後の言説空間—太宰治「トカトントン」を読む
3. 横断する戦争と「希望」—横光利一「微笑」
4. 安岡章太郎「ガラスの靴」を読む
5. 朝鮮戦争と文学—堀田善衛「広場の孤独」など
6. 安部公房とSF
7. 深沢七郎「檜山節考」と〈日本再発見〉の時代
8. 倉橋由美子「パルタイ」を読む
9. 大江健三郎の出発①
10. 大江健三郎の出発②
11. 核時代とフィクションの想像力—三島由紀夫『美しい星』を中心に①
12. 核時代とフィクションの想像力—三島由紀夫『美しい星』を中心に②
13. ベトナム戦争と文学—日野啓三「向こう側」など
14. 寺山修司の活動とその時代①
15. 寺山修司の活動とその時代②

(質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

三島由紀夫『美しい星』(新潮文庫)

他のテキストはプリントで配布する。また、参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

なし

科目名：比較文化論各論／ Comparative Culture (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB61309, 科目ナンバリング：LHM-LIT338E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Keywords in Comparative Cultural Studies II
2. Course Title (授業題目)：比較文化研究のキーワード II
3. 授業の目的と概要：This lecture course is a continuation of the course in the Spring semester but is open to all students. It is intended to introduce basic concepts and approaches for intercultural research by reviewing some important English keywords for researching for b
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：本講義は春学期に引き続き開講するものであるが、全学生を対象とする。人文科学における広範なカルチュラル・スタディーズを研究するための重要な英語キーワードを確認しながら、異文化間研究のための基本的な概念やアプローチを紹介することを目的としています。ここでいう「カルチュラル・スタディーズ」とは、文学部で用いられる、知識の形式を研究するためのあらゆるアプローチを広く意味します。このクラスでは毎週、関連性のある概念、対象、トピックを表す特定の単語を取り上げ、その意味合いと学部での研究への応用について考えます。その
5. 学習の到達目標：1: To survey some critical vocabulary in English that is useful for humanities studies.
2: To read a variety of short texts and sources in English.
3: To improve comprehension and communication skills in English.
4: To improve intercultural understandi
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 人文科学に役立つ英語の語彙を調査する。
2: 様々な短文や資料を英語で読む。
3: 英語の理解力とコミュニケーション能力を高める。
4: 授業内容やクラス活動を通して、異文化理解を深める。
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1: Introduction
 - 2: Anachronism
 - 3: Ritual
 - 4: Comedy
 - 5: Tragedy
 - 6: Disgust
 - 7: Commodity
 - 8: Archive
 - 9: Tourism
 - 10: Cute/Kawaii
 - 11: Books
 - 12: Future
 - 13: Group work/presentations
 - 14: group work/presentations
 - 15: Final exam
8. 成績評価方法：

Short reaction papers to Google Classroom after class 25%; One final term paper at end of the semester 25%; Group presentation work 20%; Final test 30%
9. 教科書および参考書：

There is no textbook for this course and so reading material will be supplied. Students are encouraged to research keywords themselves as preparation for class. The Cultural Studies Reader, edited by Simon During (Third Edition 2007) is an expensive but u

1 0. 授業時間外学習 : Short reaction papers during or after class

One final essay

Group exercise

Final exam at end of the course

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他 : なし

The final list of keywords for the course may change by the start of the Fall semester.

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB61305, 科目ナンバリング：LHM-PHI312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第 1 章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyāna

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論 I 界品』(江島恵教著)、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎論』(真諦訳)。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：フランス語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of French Studies II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB61308, 科目ナンバリング：LHM-EDU910J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Language and Culture of Contemporary France
2. Course Title (授業題目)：Language and Culture of Contemporary France
3. 授業の目的と概要：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents (dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role - playing
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents (dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role - playing
5. 学習の到達目標：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skillsThe course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skillsThe course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Oral and written expression
 - 2) Oral and written expression
 - 3) Oral and written expression
 - 4) Oral and written expression
 - 5) Oral and written expression
 - 6) Oral and written expression
 - 7) Oral and written expression
 - 8) Oral and written expression
 - 9) Oral and written expression
 - 10) Oral and written expression
 - 11) Oral and written expression
 - 12) Oral and written expression
 - 13) Oral and written expression
 - 14) Oral and written expression
 - 15) Oral and written expression
 - 16) Film screening . Analysis and discussion .
8. 成績評価方法：

Attendance at all classes is required . Oral participation counts for 50 % .The evaluation will also be written (several short texts) .
9. 教科書および参考書：

The textbook will be chosen according to the students' level .
10. 授業時間外学習：Exercices will be used to review vocabulary and grammar points .Students will also be asked to write short texts related to the subject of the course .
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE. 茂木 謙之介

コード：LB61303, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学研究の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、清凉寺釈迦如来像の請来がもたらした平安時代以降の宗教美術の意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 鎌倉時代までの世界観と釈迦信仰
2. 北宋・遼美術の諸相1—盧舎那仏と梅檀瑞像
3. 北宋・遼美術の諸相2—盧舎那仏・釈迦・舍利
4. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像1
5. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像2
6. 平安時代の仏像と納入品
7. 重源の思想と美術1—東大寺再興と別所
8. 重源の思想と美術2—東大寺再興と別所
9. 貞慶の思想と美術
10. 春日信仰と美術—仏身論とその表象
11. 五台山と文殊菩薩像
12. 明恵の思想と高山寺の美術
13. 叡尊と忍性の思想と美術
14. 鎌倉時代の華嚴思想と美術
15. 仏身論から見る鎌倉時代の美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61304, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：鎌倉時代の裁判と社会(2)

2. Course Title (授業題目)：The Laws and Society of the Kamakura Period 2

3. 授業の目的と概要： 「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is the continuation of “The Law and Society of the Kamakura Period 1” in the previous semester. This class aims to find issues and discuss them. Students who are presenting are required to make presentations that pose issues. Students who are not

5. 学習の到達目標：(1)中世史料の読解力を身につける。

(2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。

(3)報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To gain the skills in reading medieval Japanese sources.

(2)Students can deepen their understanding of the law and society of Kamakura era.

(3)It enhances the development of students’ skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下(岩波書店)。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is Seno Seiichiro “Kamakura Bakuhu saikyozyou-syu”

10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

Students must take “The Laws and Society of the Kamakura Period” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi Ⅱ
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第3、4巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第3、4巻) and rese
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：映画『橋のない川』（1969）から

第3回：和栄政策の起点（加藤書第1章）

第4回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第2章）

第5回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第3章）

第6回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第4章）

第7回：「低開発国にたいする国際協力策」として（第5章）

第8回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第6章）

第9回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第2巻）

第10回：戦時下雑感（第2巻）

第11回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第3巻）

第12回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第3巻）

第13回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第4巻）

第14回：歳暮漫談・人道と科学＝続く理想と現実の悲喜劇（第4巻）

第15回：住井すゑから

※第3～8回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第9～14回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第2～4巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB61307, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB61306, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participant)
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に行き詰っている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は担当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022 年。

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB61404, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目)：Medieval German Literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften. In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. J
5. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
 - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
 - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
 - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1749-1750)
 - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1751-1752)
 - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1753-1755)
 - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1756-1758)
 - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1759-1761)
 - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1762-1765)
 - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1766-1769)
 - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1770-1773)
 - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1774-1777)
 - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1778-1781)
 - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1782-1785)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu
5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、英語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
オンライン公開されている、11 世紀イングランドを論じる論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むテキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB61406, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：新プラトン主義の秘儀論を読む
2. Course Title (授業題目)：Neoplatonists on mysteries
3. 授業の目的と概要：秘儀等をめぐる新プラトン主義者（イアンブリコス、プロクロス、プロティノス）さらにはプラトンのテキストを原語古代ギリシャ語で読み、内容について議論する。
それを通じて、秘儀等をめぐる新プラトン主義・プラトンの論の理解を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We shall read texts by Neoplatonists (Iamblichus, Proclus, Plotinus, etc.) and Plato on mysteries and other related topics to understand their views on these topics.
5. 学習の到達目標：新プラトン主義の秘儀論の主要論点を理解する。重要なテキストの内容を正確に説明できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand main points about Neoplatonist accounts of mysteries.
To become able to explain main texts on these topics accurately.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
最初の数回でイアンブリコス『秘儀について』からいくつかのテキストを読む。それからどんなテキストを読むかは授業時に話し合っ決めて。

1. オリエンテーション
2. イアンブリコス『秘儀について』(1)
3. イアンブリコス『秘儀について』(2)
4. イアンブリコス『秘儀について』(3)
5. イアンブリコス『秘儀について』(4)
6. 第2テキスト (1)
7. 第2テキスト (2)
8. 第2テキスト (3)
9. 第2テキスト (4)
10. 第2テキスト (5)
11. 第3テキスト (1)
12. 第3テキスト (2)
13. 第3テキスト (3)
14. 第3テキスト (4)
14. 第3テキスト (5)

8. 成績評価方法：
授業時のパフォーマンス
9. 教科書および参考書：
授業時に配布する

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習、読んだ箇所の復習
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世史料の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 2

3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

5. 学習の到達目標：(1) 日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.

(2) It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

日本史演習「中世史料の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval Historical Materials" 1 and 2 consecutively.

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB61402, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Utusemi' to 'Suetumuhana' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, a

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Makibashira ~ Suetumuhana Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the st

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容 [60%]、授業への参加（質疑応答を含む） [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語（一）桐壺～末摘花』（岩波書店、2017年）を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『（新装版）常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答は

ディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

- ・本演習は、第5セメスターから続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB61401, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術で笑う：イタリア・ルネサンスの世界

2. Course Title (授業題目)：Laughing at Art: The World of the Italian Renaissance

3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリア・ルネサンス美術を素材にして、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter.

5. 学習の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。

15～16 世紀イタリアの興味深い美術作品についての知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.

To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例

2：ルネサンス文化における笑い

3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として

4：エロス (1)

5：エロス (2)

6：パロディ (1)

7：パロディ (2)

8：逆転 (1)

9：逆転 (2)

10：連想 (1)

11：連想 (2)

12：皮肉 (1)

13：皮肉 (2)

14：誇張 (1)

15：誇張 (2)

(註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)

(註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)

8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート (方式は考え中。授業で示します) および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時, 後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：谷山 洋三, 問芝 志保, 木村 敏明, 阿部 友紀

コード：LB61407, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB61501, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世思想文献精読

2. Course Title (授業題目)：A Reading of Chinese Early Modern Thought

3. 授業の目的と概要：南宋・朱熹（1130-1200）の文集『朱文公集』を選読する。朱熹の思想形成にも留意しながらその著作を読むことを通して、中国思想文献の精確な訳注を作成する能力を涵養するのが本演習の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to provide students with the opportunity to read the several works by Zhuxi (朱熹) which are recorded in the Collected works of Zhu Wengong (朱文公集). The aim of this course is to cultivate the ability to produce accurate translations of

5. 学習の到達目標：中国思想の原典資料を読解し、精確な日本語訳を作成できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Be able to read and understand original source materials on Chinese thought and produce accurate Japanese translations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1、導入

2、『朱文公集』会読 1

3、『朱文公集』会読 2

4、『朱文公集』会読 3

5、『朱文公集』会読 4

6、『朱文公集』会読 5

7、『朱文公集』会読 6

8、『朱文公集』会読 7

9、『朱文公集』会読 8

10、『朱文公集』会読 9

11、『朱文公集』会読 10

12、『朱文公集』会読 11

13、『朱文公集』会読 12

14、『朱文公集』会読 13

15、まとめ

8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教室でプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB98824, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：春秋戦国秦漢史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies historical sources in the Spring and Autumn Period, the Warring States Period, and Qin-Han Period

3. 授業の目的と概要：漢文史料の読解力を向上させ、春秋・戦国・秦漢時代の基礎的な知識を獲得し、伝世文献の扱いを習得することを目的とする。後期は『春秋左氏伝』を資料とし、本文および注記を精読しながら、ほかの関連する文献、出土資料を参照して、訳注を作成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is help students improve the skills to read the Chinese classics, to acquire the basic knowledge about history from the Spring and Autumn period to Qin-Han period, and become proficient in handling the traditional literatures of Chi

5. 学習の到達目標：中国古代・中世史の漢文史料を扱うための基本的な能力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire the basic skills to handle the Chinese classics in the Ancient and Middle age of East Asia.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。春秋と三伝／『左伝』をめぐる問題と論争／新出土史料

第2回：『左伝』研究小史

第3回：『左伝』昭公二十二年（1）経文、齊・莒の紛争と盟

第4回：『左伝』昭公二十二年（2）宋華亥の出奔

第5回：『左伝』昭公二十二年（3）景王の死と王子朝の乱—1

第6回：『左伝』昭公二十二年（4）景王の死と王子朝の乱—2

第7回：『左伝』昭公二十二年（5）景王の死と王子朝の乱—3

第8回：『左伝』昭公二十二年（6）晋荀吳の東陽経略

第9回：『左伝』昭公二十二年（7）景王の葬儀と大乱—1

第10回：『左伝』昭公二十二年（8）景王の葬儀と大乱—2

第11回：『左伝』昭公二十二年（9）景王の葬儀と大乱—3

第12回：『左伝』昭公二十二年（10）晋の介入—1

第13回：『左伝』昭公二十二年（11）晋の介入—2

第14回：『左伝』昭公二十三年（1）経文、晋の介入—3

第15回：講義のまとめ

8. 成績評価方法：

報告および議論への参加状況（60%）と提出課題（40%）を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を配布する。参考書・工具書はガイダンスで紹介する。

10. 授業時間外学習：担当者は十分に予習のうえで報告資料を作成する。参加者全員で討論を行うため、担当者以外も予習のうえで出席すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：ドイツ文学基礎講読Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB42103, 科目ナンバリング：LHM-LIT220J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ
2. Course Title (授業題目)：Improving German Language Skills
3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。
ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.
Encounter language and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.
5. 学習の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire German language skills at the A2~B1 level of the Common European Framework of Reference for Languages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業説明
受講者のドイツ語能力確認
 2. Wetter II
 3. Wetter III
 4. Gesundheit und Körperpflege I
 5. Gesundheit und Körperpflege II
 6. Gesundheit und Körperpflege III
 7. Geschenke und Einladungen I
 8. Geschenke und Einladungen II
 9. Geschenke und Einladungen III
 10. Lebenslauf und Schulsystem I
 11. Lebenslauf und Schulsystem II
 12. Lebenslauf und Schulsystem III
 13. Müll und Umwelt I
 14. Müll und Umwelt II
 15. 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。
9. 教科書および参考書：

佐藤修子他著. Szenen 2 ワークブック付き. 三修社
10. 授業時間外学習：毎回の宿題
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB42102, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェイン・オースティンとイギリス小説
2. Course Title (授業題目)：Jane Austen and English Novels
3. 授業の目的と概要：ジェイン・オースティンに焦点を当てながら、18 世紀～19 世紀初頭におけるイギリス小説の展開を跡づけます。イギリスは近代的なリアリズム小説が比較的早い時期に成立しましたが、そのひとつの完成形がオースティンの小説です。その背景には政治的・社会的な要因が大きく作用しています。この授業では、そうした歴史的背景を説明しながら、オースティンと彼女に先立ついくつかの作家の作品を紹介してゆきます。同時に、小説の批評的な分析方法も紹介してゆきます。また、英語力を養うために、各作品の名場面を英語の原文で鑑賞します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture traces the history of English novel from the 18th- to 19th century, focusing on the works of Jane Austen. In Britain, modern realist novels developed relatively earlier than other European countries, and we find its fully developed form in Ja
5. 学習の到達目標：(1) 英文学史の知識を身につける
(2) 英語読解力を身につける
(3) 分析的思考力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history
(2) To be able to think logically and critically
(3) To acquire the skill of reading literary texts written in English
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) The Rise of English Domestic Novel
 - (3) Gentry and English Society
 - (4) Jane Austen, Northanger Abbey (summary)
 - (5) Jane Austen, Northanger Abbey (analysis)
 - (6) Jane Austen, Sense and Sensibility (summary)
 - (7) Jane Austen, Sense and Sensibility (analysis)
 - (6) Jane Austen, Pride and Prejudice (summary)
 - (8) Jane Austen, Pride and Prejudice (analysis)
 - (9) Jane Austen, Mansfield park (summary)
 - (10) Jane Austen, Mansfield park (analysis)
 - (11) Jane Austen, Emma (summary)
 - (12) Jane Austen, Emma (analysis)
 - (13) Jane Austen, Persuasion (summary)
 - (14) Jane Austen, Persuasion (analysis)
 - (15) Review and the term-end exam
8. 成績評価方法：
ミニペーパー40%、 期末テスト 60%
9. 教科書および参考書：
プリントを配布します
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LB42101, 科目ナンバリング：LHM-PHI202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思想史概説 2：隋唐以後

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Chinese Thought 2：After the period of the Sui-Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：7 世紀以後、20 世紀までの中国思想史を概観する。仏教と道教の隆盛を経て儒家思想の再生がなされた隋唐時代に始まり、朱子学と陽明学、考証学を高峰とする近世の思想、西洋思想との接触により伝統の再編がなされた近現代の思想について、原典の日本語訳を材料に解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of the history of Chinese thought from the 7th century onward through the 20th century. Beginning with the Sui and Tang dynasties, which saw the revival of Confucian thought after the rise of Buddhism and Daoism, and conti

5. 学習の到達目標：中国隋唐時代（7 世紀）から近現代に至る、諸思想の内容と史的展開について理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The students will be able to understand the content of various schools of thought and the historical development of thought from the Sui-Tang period(7c.) to the period of modern and contemporary.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

[授業内容・方法]

各回のテーマについて配布資料を元に解説する。

[進度予定]

1. 導入
2. 唐代初期の思想と学術
3. 中晩唐士大夫の思想 1
4. 中晩唐士大夫の思想 2
5. 隋唐時代の仏教と道教
6. 北宋の思想
7. 朱熹と朱子学の思想
8. 両宋期の仏教と道教
9. 金元の思想と宗教
10. 明代の思想 1：王守仁と陽明学の思想
11. 明末の思想 2：明末の思想
12. 清朝の思想と学術
13. 中国近代の思想
14. 20 世紀後半の中国語圏における思想と学術
15. まとめ

8. 成績評価方法：

中間レポートまたは小テスト(50%)、期末レポート(50%)。

9. 教科書および参考書：

毎回の授業始めにプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：紹介された参考書は出来るだけ読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学基礎講読Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB42204, 科目ナンバリング：LHM-OHS207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の〈古典〉を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the "classics" of Japanese studies
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本学の〈古典〉とされる様々な文献を講読し、日本学の歴史的な系譜を確認する。現在において日本学を考究することの可能性と困難さを考える。毎回発表者を立ててテキストを精読し、議論を行う。参加者には事前にテキストを熟読することが求められる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will read various documents considered to be 'classics' of Japanese studies and identify the historical genealogy of Japanese studies. The possibilities and difficulties of examining Japanese studies in the present day will be considered.
5. 学習の到達目標：日本学の基礎的文献についての基本的な知識を獲得するとともに、口頭報告と議論の技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire a basic knowledge of the basic literature of Japanese studies and to develop skills in oral reporting and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 インTRODクシヨN
第2回 担当の決定と資料検索の方法
第3回 準備報告①
第4回 準備報告②
第5回 論文講読①
第6回 論文講読②
第7回 論文講読③
第8回 論文講読④
第9回 論文講読⑤
第10回 論文講読⑥
第11回 論文講読⑦
第12回 論文講読⑧
第13回 論文講読⑨
第14回 論文講読⑩
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。参考書は大久保喬樹『日本文化論の系譜 『武士道』から『「甘え」の構造』まで』（中公新書、2014）
10. 授業時間外学習：毎回、事前のテキスト精読が必須となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学基礎演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：菅原 謙

コード：LB42207, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会学の基礎概念としての「社会構造」
2. Course Title (授業題目)：“Social Structure” as a Basic Concept of Sociology
3. 授業の目的と概要：この授業には、ふたつの目的があります。ひとつは、社会学の基礎概念のひとつである「社会構造」に習熟することです。もうひとつは、テキストを文法的に正しく、かつ論理的・批判的・分析的に読解することを通じて、外国語文献の精読を厭わぬ態度を身につけることです。上記の目的を踏まえ、日本語による4回の導入的講義に引き続き、指定されたテキストを輪読します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course has two objectives. One is to help students acquire a detailed knowledge of “social structure,” which is one of the basic concepts in sociology. The other is to help students develop an attitude of being willing to peruse foreign language lite
5. 学習の到達目標：(1)「社会構造」概念について詳細に説明することができる
(2)「社会構造」概念に関連した他の基礎概念について説明することができる
(3)テキストの精読によって可能となる精確な訳文を作成することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to
(1) be able to explicate the concept of “social structure,”
(2) be able to explain other basic concepts related to the concept of “social structure,”
(3) be able to provide accurate translations made possible by perusing
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：講義（概念／言明／理論）
第2回：講義（記述と説明）
第3回：講義（根拠と帰結）
第4回：講義（システム／構造／要素）
第5回～第15回：講読
8. 成績評価方法：
平常点（30%）、期末レポート（70%）および授業への貢献を考慮する
9. 教科書および参考書：
López, José and Scott, John (2000) Social Structure, Buckingham/Philadelphia: Open University Press.
10. 授業時間外学習：指定された範囲までテキストを読んでくること。報告分担者は訳文を作成すること。
Students are required to read the text up to the specified range, and translate it alternately.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：庄司 一平

コード：LB42208, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「聖書」を考える
2. Course Title (授業題目)：The Bible, Critically Considered
3. 授業の目的と概要：Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible (2021)を輪読する。「聖書」という奇妙な書物について、宗教学的に考え議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The class will read the whole textbook (Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible, 2021) and discuss cultural and historical issues on the Bible.
5. 学習の到達目標：宗教研究の基本的な概念・理論・方法について理解できる。
「聖書」および宗教教典の文化的・歴史的背景について説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand basic concepts, theories, and methodologies of religious studies and are to explain the cultural and historical contexts of the “sacred” scriptures as well.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
テキストの各章を複数の担当者で分担する。担当者は授業時に用語解説・内容の説明・質問への応答等を行う。
 1. 授業の概要・進め方について
 2. “Introduction: An Arranged Marriage”
(PART I: A Book Like No Other)
 3. “A Problematic Book”
 4. “But in the Original. . .”
(PART II: Beings Odd and Otherwise)
 5. “God”
 6. “Angels, Demons, and a Talking Ass”
 7. “Good People Behaving Badly”
(PART III: Troubling Texts)
 8. “Impossibilities, Normalized”
 9. “Misconceptions, Misapprehensions”
 10. “And General Befuddlements”
(PART IV: But the Bible Says. . .)
 11. “Arguments behind Closed Doors”
 12. “Biblical (Im)Morality”
 13. “The Perennial Bestseller”
 14. “Ten Commandments for Reading the Bible”
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
「授業への参加度」(50%) および「期末レポート」(50%) により総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible, Oxford University Press, 2021.
『聖書 聖書協会共同訳』日本聖書協会、2018年 (<https://www.bible.or.jp/read.html>)。
(参考書)
山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』岩波現代文庫、2003年／佐藤研『聖書時代史 新約篇』同左。
10. 授業時間外学習：担当者は担当部分の日本語訳、用語や内容のリサーチを事前に行っておくこと。また事後には必要に応じて補足説明を行うこと。
他の参加者は用語や日本語訳・内容等について質問を用意しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42201, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：中国清王朝（1616-1912）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the history of the Qing Dynasty (1616-1912) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems r

5. 学習の到達目標：中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Qing dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義をリアルタイムのオンライン形式で行う。

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 清王朝成立史（1）
4. 清王朝成立史（2）
5. 康熙・雍正・乾隆時代史（1）
6. 康熙・雍正・乾隆時代史（2）
7. 康熙・雍正・乾隆時代史（3）
8. 清朝文書行政（1）
9. 清朝文書行政（2）
10. 官僚制度－中央官制
11. 官僚制度－地方官制
12. 清朝後期史（1）
13. 清朝後期史（2）
14. 清朝の滅亡
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席点（30％）とレポート（70％）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

板書が非常に多くなるので注意すること。

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB42202, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法論要理
2. Course Title (授業題目)：An introduction to Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：言語はおよそ文という単位をもち、語という単位をもつ。その文や語のもつ構造やその構成の規則を考えていくのが文法論である。ここでは、その文法論について、文法論はなぜそのようなように考えるのか、その結果、どのような帰結が導かれるのかということを考えていく。対象とする言語は現代日本語を中心とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A language is composed of sentences and words. Grammatical theory considers the structure of sentences and words and the rules of their composition. In this class, we will discuss the theory of grammar, why the theory of grammar thinks the way it does, an
5. 学習の到達目標：(1) 文法論の視点、考え方が説明できるようになる。
(2) 日本語の文法事象について説明できるようになる。
(3) 文法論的に考え、その結果について説明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) To be able to explain the viewpoints and ways of thinking of grammatical theory.
(2) To be able to explain grammatical matters in Japanese.
(3) To be able to think grammatically and explain the results
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 「文法」への問い
第2回 言語単位をとりだす
第3回 文(1)
第4回 文(2)
第5回 文(3)
第6回 文の構造と類型(1)
第7回 文の構造と類型(2)
第8回 文の構造と類型(3)
第9回 品詞
第10回 語
第11回 活用
第12回 文法的時間表現
第13回 ムードとモダリティ
第14回 終助詞
第15回 文末音調、まとめ
8. 成績評価方法：
上記の「到達目標」に即して、筆記試験および講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：
必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDFで配布する。参考文献は講義内で随時提示する。
【主要参考文献】
庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク 2012
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 第3版』くろしお出版 2024
ウェイリー, L. J. 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』1997 (大堀壽夫他訳、岩波書店 2006)
10. 授業時間外学習：前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につけて次時にのぞむこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する(いずれでもかまわない)。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB42206, 科目ナンバリング：LHM-LIN224J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育と第二言語習得

2. Course Title (授業題目)：Second Language Acquisition Research

3. 授業の目的と概要：日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the basic knowledge of SLA and consider it relating to various teaching practice(teaching materials and classroom activities)

5. 学習の到達目標：(1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し説明できる。

(2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。

(3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to be able to:

1. explain the basic knowledge of SLA

2. consider it relating to practice in Japanese language teaching

3. apply it to their own study.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 第二言語習得研究

3. 中間言語

4. 母語の影響

5. 習得順序

6. インプットとアウトプット

7. インターアクション

8. 教室における学習①

9. 教室における学習②

10. 教室における学習③

11. 教室における学習④

12. 教案作成

13. 模擬授業

14. 振り返り

15. テスト

8. 成績評価方法：

テスト50%・課題50%

9. 教科書および参考書：

大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

日本語教育学概論・日本語教育学基礎演習（前期）を受講済みであること。

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB42205, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世史料講読

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese Medieval historical Materials

3. 授業の目的と概要：歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Historiography is a discipline that stands on proofs. Students studying Historiography must be able to read historical materials accurately. As a first step, in this class, students read standard historical materials in the Middle Ages and gain the fundam

5. 学習の到達目標：基本的な中世史料を読解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic reading skills to understanding historical materials of medieval Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義時にプリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ 2 週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ケーススタディで学ぶ倫理学

2. Course Title (授業題目)：Ethics case studies

3. 授業の目的と概要：倫理学は「善い人」になるための学問ではありません。人間の行為はどのように正当化されるのかを学び、道徳の多様性を学ぶことが倫理学の目的です。本講義では、現代の人々の倫理観の多様性に触れ、基礎的な倫理思想の理論とその背景を学びます。

世界中に多種多様な倫理思想がありますが、本講義は西洋で多用される理論を中心に紹介します。残念ながら全てを網羅することは難しく、アジア、アフリカ、中東、南米等の倫理観には言及できませんが、倫理思想を研究する足がかりの第一歩として、西洋倫理思想を学んでいきます。

本講義はケ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Ethics is not the study of being a 'good person'. The purpose of ethics is to study how human actions are justified and to study the diversity of morality. In this lecture, you will be exposed to the diversity of ethics among people today and learn about

5. 学習の到達目標：(1) 現代の倫理的課題を発見することができるようになること。

(2) 倫理思想の基礎知識を身につけること。

(3) 倫理問題に対して、各倫理思想に基づいた合理的判断を示すことができること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To be able to identify contemporary ethical issues.

(2) To acquire a basic knowledge of ethics.

(3) Be able to demonstrate rational decisions on ethical issues based on the respective ethical ideas.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：倫理学とはなにか (授業ガイダンス)

第二回：「兵役を拒否する権利はあるのか？」(権利論)

第三回：「貧しい女性がお金を稼ぐために代理母の仕事をするのを禁止すべきか？」(法と道徳)

第四回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第五回：「抗議活動の見せしめに警官が活動家を殺して秩序を保つことは正しいか？」(功利主義)

第六回：「人を殺した友達をかくまうために嘘をついてもよいか？」(義務論)

第七回：「明らかに間違っている患者の要望を、医者は受け入れるべきか？」(徳倫理学)

第八回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第九回：「貧しい家庭で育った子どもに奨学金を出すべきか？」(リベラル平等論)

第十回：「警察を民営化し、警備会社と契約すべきか？」(リバタリアニズム)

第十一回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第十二回：「地方に生まれた者は地元に残るべきか？」(コミュニタリアニズム)

第十三回：「市民による議論でものごとを決めることは良いことか？」(共和主義)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』勁草書房、2018年。

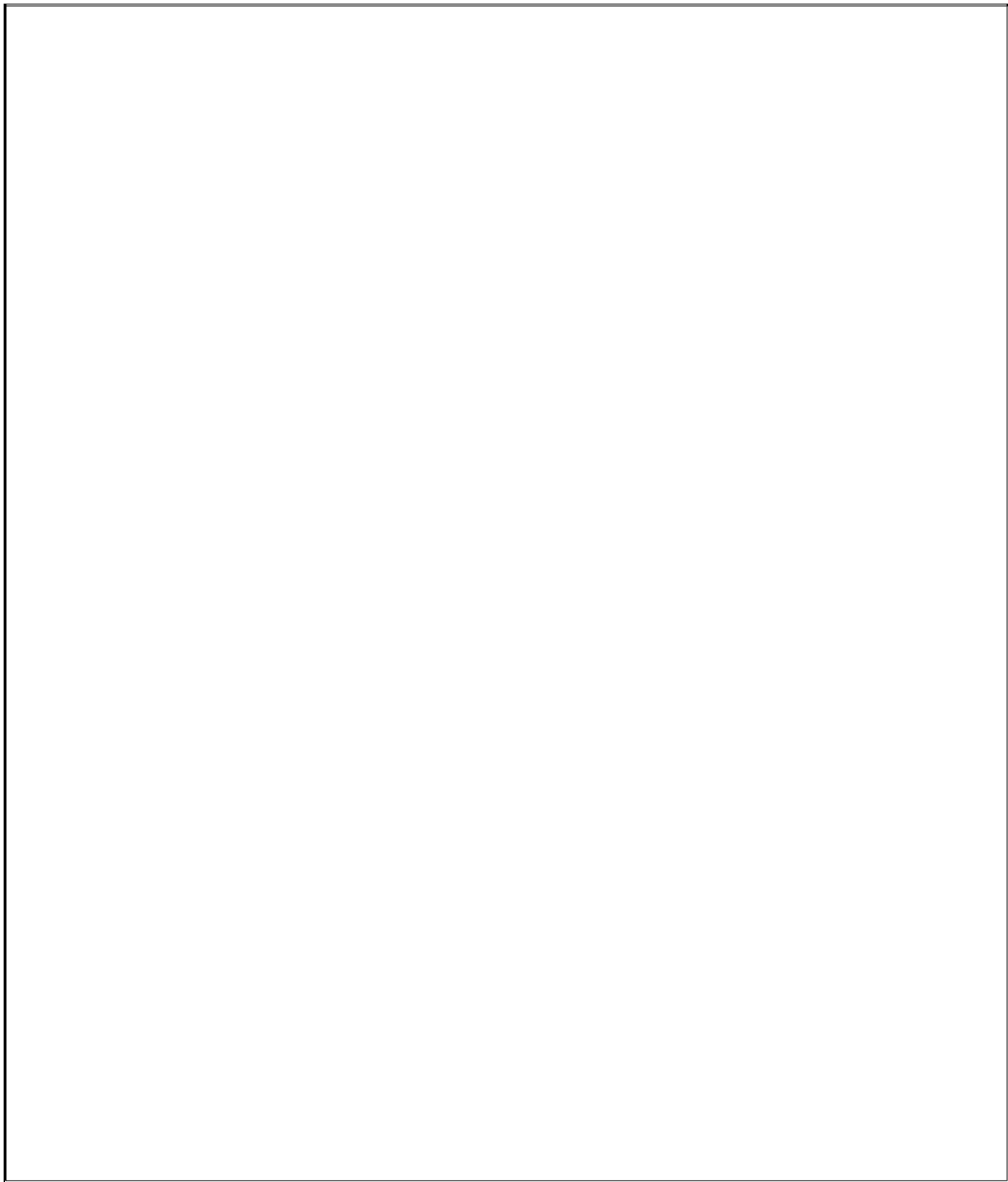
10. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし



科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB42308, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります。そうして文法事項を確認・学習し、ラテン語に馴れていきます。遠慮なく、積極的に質問してください。

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを読むことになると思います。

参考までに、過去数年に取り上げたテキストとして、初学者向けに現代人が書いた短い物語、カエサル『ガリア戦記』、キケロ『運命について』

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanations. We shall also practice the inflections or declensions of some words that we come across. Thereby we shall get used to the lang

5. 学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to comprehend the meaning, and give grammatical explanation, of the texts that we shall have read

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト(テキスト1)は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく(テキスト2以降)。

第1回：イントロ

第2回：テキスト1 数行 たとえば1-3行であろうか

第3回：テキスト1 次の数行 たとえば4行-7行途中でもであろうか

第4回：テキスト1 その次の数行 たとえば7行途中-11行でもであろうか

第5回：テキスト1 さらにその次の数行 たとえば11行-18行でもであろうか

第6回：テキスト1 18-21行 ならびに テキスト2 1-3行 でもであろうか

第7回：テキスト1 22行-27行 ならびに テキスト2 4-6行 でもであろうか

第8回：テキスト2 7-15行 でもであろうか

第9回：テキスト2 16-23行 でもであろうか

第10回：テキスト2 24-27行 ならびに テキスト3 1-4行 でもであろうか

第11回：テキスト2 28-32行 ならびに テキスト3 5-11行 でもであろうか

第12回：テキスト2 33-36行 ならびに テキスト3 12-17行 でもであろうか

第13回：テキスト3 18-21行 ならびに テキスト4 1-4行 でもであろうか

第14回：テキスト3 22-27行 ならびに テキスト4 5-10行 でもであろうか

第15回：テキスト4 11-22行 でもであろうか

8. 成績評価方法：

授業時のパフォーマンスによる

9. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』(南江堂、1968年初版、改訂1979年)を各自入手して下さい。読むテキストはオンラインで提供します。

10. 授業時間外学習：復習(とくに、意味を捉えながらの音読)。次回読む予定の箇所の下調べ(できる範囲で)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です(覚え残しが多少あっても構いません)。

科目名：言語学基礎演習Ⅱ／Linguistics (Introductory Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-LIN220J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のカテゴリカルデータ分析

2. Course Title (授業題目)：Categorical data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要な統計的データ分析の実習を行います。言語使用に関する色々なデータについて、統計ソフトウェアRを使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今回は、カテゴリカルデータ（ある基準によって分類された離散データ）の分析を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a practical course to cover a range of statistical analyses required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course

5. 学習の到達目標：言語研究で用いられる基本的な統計分析手法の要点を、とくにカテゴリカルデータの側面について把握し、自身が扱う言語データについて研究課題に応じて適切な分析法を応用できる素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on categorical data used in language studies. Students are expected to have basic abilities to conduct the appropriate statis

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 記述統計、統計的検定、統計的推測
- (2) カイ二乗検定
- (3) 残差分析
- (4) 評定者間信頼性分析
- (5) クラスタ分析
- (6) 判別分析
- (7) 決定木分析
- (8) ロジスティック線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習（授業および宿題 50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB42302, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会学の視点と方法

2. Course Title (授業題目)：Sociological perspectives and methods

3. 授業の目的と概要：こんにち私たちは高度に複雑化した社会に生きており、社会の全体像を見渡すことが非常に困難になっている。こうした状況下では、個人の行為が思わぬところに影響を与えることもありうる。「社会学」では、自分たちが生きている社会の全体像を理解しようとする試みが、先人たちの手によって取り組まれてきた。この授業の目的は、そのような先人の知恵を借りて、私たち「自身の身近な現実を全体の社会的現実とのつながりのなかで理解する資質」＝「社会学的想像力」を養うことである。そのために、この授業では、グループワークをおこない、様々な具体

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Today, we live in a highly complex society, making it extremely difficult to see the overall picture of society. Under these circumstances, individual actions can have unexpected effects. In sociology, our predecessors have attempted to understand the ove

5. 学習の到達目標：社会学の視点や方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to understand the perspectives and methods of sociology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン——授業の進め方について
- 2 社会学とは何か
- 3 日常生活を問う社会学(1)——自分と他者の関係を考える
- 4 日常生活を問う社会学(2)——家族を考える
- 5 日常生活を問う社会学(3)——福祉や教育を考える
- 6 日常生活を問う社会学(4)——地域社会を考える
- 7 日常生活を問う社会学(5)——働くことを考える
- 8 身近な文化を問う社会学(1)——文化とは何か？
- 9 身近な文化を問う社会学(2)——メディアを考える
- 10 身近な文化を問う社会学(3)——ジェンダーとセクシュアリティを考える
- 11 身近な文化を問う社会学(4)——エスニスティを考える
- 12 社会問題の社会学(1)——社会問題はいかに社会問題になるのか
- 13 社会問題の社会学(2)——格差を考える
- 14 社会問題の社会学(3)——環境問題を考える
- 15 社会問題の社会学(4)——社会運動を考える

8. 成績評価方法：

授業への参加と課題 50%、期末レポート 50%

9. 教科書および参考書：

工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編，2017，『基礎ゼミ社会学』世界思想社。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB42309, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級中国語読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students read essays about the differences in Japanese and Chinese cultures and customs. This course aims to enhance their reading comprehension in Mandarin Chinese as well as help them to learn more about the society and culture of China.

5. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays written in modern Mandarin Chinese with accuracy, and they will be able to give concrete examples to explain the differences of Japanese and Chinese cultures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、打招呼

第2回 老朋友

第3回 对姓名的钟爱

第4回 礼物的奥秘

第5回 “这是特意为你买的！”

第6回 “你不饿吗？”

第7回 “辛苦了”

第8回 脱大衣的礼节

第9回 忌讳

第10回 白纸黑字

第11回 对钩儿“✓”

第12回 东南西北

第13回 怎么区别

第14回 「いただきます」应该说怎么？

第15回 期末試験

8. 成績評価方法：

【成績評価方法】

課題：60%

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『小点心—あつさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

<参考書>『日本人が知りたい中国人の当たり前：中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016年

10. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語論とことばのバリエーション
2. Course Title (授業題目)：Narratology and Variation in Japanese Language
3. 授業の目的と概要：
 - ・物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。
 - ・言語は、ジャンル、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、広がりを見せる。本講義では物語とことばの関係を扱う。物語で使用されることば、物語と他のジャンルとの違い、語られることばの特徴など、「物語」をキーワードに日本語を分析する事例と分析方法について講義する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces narrative analysis in Japanese language variations. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between narrati
5. 学習の到達目標：物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。
 - (1) 物語論をとおして我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
 - (2) 会話分析の基本的技能を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：While considering the story in concrete terms, students will gain a certain knowledge of linguistics and its adjacent areas.
To develop student's ability to analyze language in everyday life
To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 物語と人間—言語分析の領域—
 2. 『星の王子さま』に見る世界の言語—比較・対照言語学—
 3. 物語と談話の法則—文法論—
 4. 音と耳から考える物語—音声学—
 5. 物語の翻訳—意味論—
 6. 物語と時間—談話分析—
 7. 構造主義と神話研究—音韻論—
 8. 物語の技巧—物語論—
 9. 物語の共通性—物語の種類論—
 10. ドラマ・アニメの構造とシナリオ術—シナリオ術—
 11. マンガと視点現象—マンガ学—
 12. 雑談と「もの」語り—会話分析—
 13. ケアの物語—語用論—
 14. コミュニケーション・ツールとしての物語—コミュニケーション論—
 15. 研究の方法
8. 成績評価方法：
出席 30%、提出物 50%、期末レポート 20%
9. 教科書および参考書：
テキストおよびプリントを用いて解説する。
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2004) ひつじ書房
10. 授業時間外学習：実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-LIN225J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本に住む外国人と日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Foreign Residents and Japanese language education
3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学校に通う留学生や技能実習生、外国人介護職員など日本に暮らす多様な外国人について知るとともに、彼らがどのような言語・文化背景をもち、どのような環境にいるのか、そして彼らはどのような問題や課題を抱えているのかについて理解を深めることを目的とする。ゲストを授業に招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外にフィールドワークに出かけたりするなど、実際に日本で暮らす外国人と接したり、実際の現場を訪問したりする活動の中から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn about various foreigners living in Japan, such as foreign students attending Japanese language schools, technical intern trainees, and foreign care workers, and to deepen understanding of their linguistic and cultural background.
5. 学習の到達目標：・日本で暮らす外国人が置かれている現状やその動向を理解し、外国人の受け入れ政策、多文化共生施策について理解を深める
・日本で暮らす外国人の言語・文化的背景、環境の多様性、個別性に対して理解を深める
・文化の多様性を尊重し、異なる文化背景をもつもの同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深める
・異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを有効に使い、実践することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：-Enhance students' understanding the current situation and trends of foreign residents in Japan, and deepen understanding of policies for acceptance of foreign residents and multicultural conviviality
-Deepen understanding of the linguistic and cultural background
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/1) イントロダクション、在留外国人と日本社会、宮城県の外国人について
第2回 (10/8) 外国人介護職員について①
第3回 (10/15) 外国人介護職員について②
第4回 (10/22) 外国人介護職員について③
第5回 (10/29) 外国人介護職員について④
第6回 (11/5) 外国人技能実習生について①
第7回 (11/12) 外国人技能実習生について②
第8回 (11/19) 外国人技能実習生について③
第9回 (11/26) 外国人技能実習生について④
第10回 (12/3) 外国人技能実習生について⑤
第11回 (12/10) 日本語学校留学生①
第12回 (12/17) 日本語学校留学生②
第13回 (1/7) 日本語学校留学生③
第14回 (1/14) 日本語学校留学生④
第15回 (1/21) まとめ
12/24 は休講予定。
それぞれのテーマによって、ゲストを招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外に実際の現場にフィールドワークに出かけたりすることがある。授業時間外に活動した場合はその分の授業を休講とし、調整する。先方とのスケジュール調整により授業内容の順番が入れ替わる可能性がある。詳細は初回の授業で説明する。
8. 成績評価方法：
授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。また授業外の時間に実際の現場に見学に行きます。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし
見学を伴う授業のため、履修者を10名までに制限します。日本語教育学研究室に所属する学生を優先します。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LB42307, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解1
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：本講義では、遊牧および牧畜に関する人類学的民族誌を精読し、乾燥地域に生きる人びとの生業、文化、考え方について討論を行う。そして、人間と動物の関係について理解を深め、人類学的研究方法を学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To learn main research topics of cultural anthropology through literature study
5. 学習の到達目標：文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To learn theory and ethnography of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 内陸アジアの文化
 3. 20世紀における牧畜文化の変化
 4. 生業経済としての牧畜
 5. 親族および社会関係
 6. 定住化と都市化
 7. 内陸アジアの牧畜と移動
 8. 遊牧の終焉？
 9. 遊牧民の土地
 10. 遊牧民の土地所有とは？
 11. 動物の主体性とは
 12. 多種共生の実態
 13. 家畜管理技術
 14. 動物と領土
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：心理学実験／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：阿部 恒之. 坂井 信之. 辻本 昌弘. 河地 庸介. 荒井 崇史. RAEVSKIY ALEXAND

コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-PSY208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目)：Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and a

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students acquire the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定 (ポリグラフィー)
3. 心理物理学的測定法
4. 幾何学的錯視
5. 一対比較法
6. 感覚の尺度化
7. 反応時間
8. ゲーム理論に基づく実験
9. 潜在的態度の測定
10. 脳機能の計測法 (NIRS)
11. 官能評価法とその応用
12. 心理学の応用 1 (裁判所)
13. 信号検出理論
14. 心理学の応用 2 (市場調査)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学研究法と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時、後期 火曜日 4講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB42305, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of handling artworks
3. 授業の目的と概要：素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Pr
5. 学習の到達目標：美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

 1. 博物館・美術館見学
 2. 和鏡の複製を作る 1
 3. 和鏡の複製を作る 2
 4. 和鏡の複製を作る 3
 5. 顔料と染料、箔の取り扱い
 6. 美術作品の梱包ー「掛軸」と「和鏡」の梱包ー
 7. 調書の作成1ー作品の観察ー
 8. 調書の作成2ー解説についてー
 9. 調書の作成3ー調査方法と記録の取り方1ー
 10. 調書の作成4ー調査方法と記録の取り方2ー
 11. 博物館での調査
 12. 展覧会の裏側「展示」を考える ー実地学習・藤崎ー
 13. 江戸時代の画家を調べる
 14. ミニ展覧会
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB42405, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習 (2)

2. Course Title (授業題目)：Reading Practice in English 2

3. 授業の目的と概要：この授業は、前期に引き続き、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to increase students' knowledge of English vocabulary and expressions, to develop their ability to read English texts accurately, and to learn about the English language by reading a book about how the English language has developed.

5. 学習の到達目標：(1) 英語の語彙や表現の知識を増やす。

(2) 英文を正確に読むことができるようになる。

(3) 英語という言語に関する知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will increase their knowledge of English vocabulary and expressions.

(2) Students will learn to read English passages accurately.

(3) Students will acquire knowledge of the English language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに 10 頁前後読み進めていきます。

事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。

それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。

また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Chapter 12 Shakespeare's English (1)

第 3 回 Chapter 12 Shakespeare's English (2)

第 4 回 Chapter 13 "My America" (1)

第 5 回 Chapter 13 "My America" (2)

第 6 回 Chapter 14 Wild West Words

第 7 回 Chapter 14 Wild West Words

第 8 回 Chapter 15 Sold Down the River

第 9 回 Chapter 16 Mastering the Language (1)

第 10 回 Chapter 16 Mastering the Language (2)

第 11 回 Chapter 17 The Proper Way to Talk (1)

第 12 回 Chapter 17 The Proper Way to Talk (2)

第 13 回 Chapter 18 Stream, Streets and Slang

第 14 回 Chapter 19 Indian Takeover (1)

第 15 回 Chapter 19 Indian Takeover (2)

8. 成績評価方法：

授業への参加 (20%)、発表担当 (50%)、コメントペーパーの提出 (30%)

9. 教科書および参考書：

Melvyn Bragg, The Adventure of English: The Biography of a Language

10. 授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。

また、復習をして知識の定着を図りましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB42401, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is a continuation of Introduction of English Syntax I, focusing on the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。

2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。

3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則から X 理論へ

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テスト（50%）、期末テスト（50%）

9. 教科書および参考書：

教科書/textbook：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

Not required. Handouts are distributed for each class.

参考書/reference book：

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

Students are required to review each class using handouts.

Students are also expected to read the reference books in advance.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

副読本の内容確認テストについては初回の講義で説明する。

Details on the short tests will be given in the first lecture.

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB42404, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布、もしくは URL を共有します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory reading of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する史料の基礎的な講読を行う。題材は、古代史研究に必要な漢文史料を取り上げる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn basic historical materials on Japanese ancient history.

5. 学習の到達目標：日本古代の漢文史料の読解力を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn how to read basic historical materials on Japanese ancient history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の漢文史料の読み方 (1)
3. 日本古代の漢文史料の読み方 (2)
4. 日本古代の漢文史料の読み方 (3)
5. 日本古代の漢文史料の読み方 (4)
6. 日本古代の漢文史料の読み方 (5)
7. 古代漢文史料を読む (1)
8. 古代漢文史料を読む (2)
9. 古代漢文史料を読む (3)
10. 古代漢文史料を読む (4)
11. 古代漢文史料を読む (5)
12. 古代漢文史料を読む (6)
13. 古代漢文史料を読む (7)
14. 古代漢文史料を読む (8)
15. まとめ と試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)・授業への参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

講義中プリントを配付

10. 授業時間外学習：配布された史料を講義の前に読んでおくこと、および復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB42501, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の実際

2. Course Title (授業題目)：Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an advanced course on social surveys. It helps students understand the practical knowledge that should be useful in planning surveys, interviewing, and analyzing survey data.

5. 学習の到達目標：社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students acquire practical knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)
9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)
10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)
11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)
12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)
13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)
14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)
15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第 2 版]』 東京大学出版会、2004

10. 授業時間外学習：参考書と補足資料 (Google Classroom で配付) などで予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- (1) 行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：中国語基礎演習／ Chinese Literature (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB42502, 科目ナンバリング：LHM-LIT214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：初級中国語

2. Course Title (授業題目)：Mandarin Chinese for Beginners

3. 授業の目的と概要：この授業は初心者を対象とするもので、中国語の基礎となる発音と文法事項を一通り学び、今後の勉学の土台作りをしておくことを目的とする。前期で習得した中国語の発音と基礎文法を踏まえて、日常的なコミュニケーションに役立つ基礎単語や文法事項を学習していく。この授業を通じて、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく習得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for students who learn Mandarin Chinese for the first time. It covers pronunciation and basic grammar of Mandarin Chinese, which will serve as a foundation for further learning. Based on the pronunciation and basic grammar that the

5. 学習の到達目標：1. 中国語の音を聞いて、正確にピンインで書き取れる。

2. 中国の基礎単語および基礎文法を身につけて、簡単な日常会話ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to dictate sounds accurately in Pinyin.

(2) Students will learn basic vocabulary words and grammar and be able to carry out simple daily conversations in Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>

テキストの会話文を使い、置き換え練習やロールプレイを通じて学習内容の定着を図る。

<進度予定>

第1回 発音と文法の復習

第2回 第1 3課 ちょうどおなかが空いていたところ

第3回 第1 4課 一足いくらですか

第4回 第1 5課 体調が悪いのですか

第5回 第1 6課 何をしていますか

第6回 第1 7課 中国語を少し教えていただけますか

第7回 これまでの学習の復習

第8回 第1 8課 私にも一冊買ってください

第9回 第1 9課 鶴を折るのがうまいですね

第10回 第2 0課 箱根はすごくきれいだそうですね

第11回 第2 1課 もう食べられません

第12回 第2 2課 雨が降るのでしょうか

第13回 第2 3課 お医者さんが家で数日休むように言った

第14回 第2 4課 明日はもう皆さんとお別れです

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (課題、小テストなど)

期末試験：40% (口頭および筆記)

9. 教科書および参考書：

<教科書>『中国語で伝えよう』楊凱榮・張麗群著、朝日出版社、2019年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：事前に内容を確認し、例文や本文の意味を訳しておく。

復習：学習した部分を読み返し、理解できたかを確認する。また、音声が正確に聞き取れるまで、CDを繰り返し聞くこと。また、音読の練習も3回以上すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42503, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読 (2)

2. Course Title (授業題目)：ERSHIERSHIZHAJI (Reading) (2)

3. 授業の目的と概要：『廿二史劄記』の読解を継続し、中国古典文(漢文)で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。2 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を作成し、あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についてもまとめて、課題として提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Ershiershizhaji”.

5. 学習の到達目標：学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the basic skills to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の 1～2 回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3 回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。前期に引き続き巻 31 を読み進める予定。

- 1、ガイダンス：授業の進め方について
- 2、明代の官職、制度等の調べ方について
- 3、『廿二史劄記』明史講読 (1)
- 4、『廿二史劄記』明史講読 (2)
- 5、『廿二史劄記』明史講読 (3)
- 6、『廿二史劄記』明史講読 (4)
- 7、『廿二史劄記』明史講読 (5)
- 8、『廿二史劄記』明史講読 (6)
- 9、『廿二史劄記』明史講読 (7)
- 10、『廿二史劄記』明史講読 (8)
- 11、『廿二史劄記』明史講読 (9)
- 12、『廿二史劄記』明史講読 (10)
- 13、『廿二史劄記』明史講読 (11)
- 14、『廿二史劄記』明史講読 (12)
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2 回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

配布した資料を用いて授業を進める。

10. 授業時間外学習：訓読・日本語訳及び注の作成を毎回行って授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：フランス語学演習Ⅱ／ French Linguistics (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB62101, 科目ナンバリング：LHM-LIT336J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス語の歴史と諸相（2）
2. Course Title (授業題目)：The history of French language and the francophonie (2)
3. 授業の目的と概要：フランス語の歴史をその起源から学び、また現代世界におけるその広がりについて学びます。指定された教科書 (Mireille Huchon, Histoire de la langue française, Paris, Le Livre de poche, 2002) を基に、フランス語の起源から今日におけるまでの歴史を概観します。同時に仏文解釈の練習も行います。前期・後期を別々に受講することも可能ですが、両方を受講することで理解がより深まります。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We learn about the history of the French language from its origin to nowadays. We will also excise French-Japanese translation.
5. 学習の到達目標：フランス語の起源と歴史、現代におけるその諸相についての基礎知識を習得する。また仏文解釈のスキルを向上させる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner acquires basic knowledge about the history of the French language. Also, he/she will have a better proficiency in French-Japanese translation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 ガイダンスおよび前期の総まとめ
 - 第二回 pp. 148-159.
 - 第三回 pp. 159-167.
 - 第四回 pp. 167-176.
 - 第五回 pp. 176-186.
 - 第六回 pp. 186-196.
 - 第七回 pp. 196-206.
 - 第八回 pp. 207-218.
 - 第九回 pp. 219-229.
 - 第十回 pp. 229-238.
 - 第十一回 pp. 239-249.
 - 第十二回 pp. 250-259.
 - 第十三回 pp. 259-271.
 - 第十四回 pp. 271-280.
 - 第十五回 pp. 281-286.
8. 成績評価方法：
 - 平常点 100% (毎週の仏文和訳)
9. 教科書および参考書：
 - Mireille Huchon, Histoire de la langue française, Paris, Le Livre de poche, 2002.
10. 授業時間外学習：指定箇所 of 仏文和訳が必要になります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB62102, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談
2. Course Title (授業題目)：A study of ghost folklore from American colleges
3. 授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" という民俗誌を読み、"ghostlore", つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊, 大学, アメリカ, 伝承, フォークロア, 死生観, 通過儀礼, 異文化) (前期の LB462 の続き)
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern "ghostlore" found on American college campuses. We will focus on one asp
5. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills:
(1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (
7. 授業の内容・方法と進度予定：
"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" の各章を読みすすめます。予定としては、前期：Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; 後期：Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.
8. 成績評価方法：
授業中のディスカッションおよび課題：30%; オンライン小テスト (Google classroom)：70%.
9. 教科書および参考書：
Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007) ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RN01AY
10. 授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1~3 時間の自主的学修をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
The textbook "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" is required. Paperback or Kindle.

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Geography and History Studies II

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：下山 忍

コード：LB62103, 科目ナンバリング：LHM-EDU914J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：高等学校の歴史授業の設計と実践
2. Course Title (授業題目) : Class study about the history field of geography and history in high school
3. 授業の目的と概要：高等学校学習指導要領における歴史科目の指導内容のポイントとその具体的展開や教材の取扱いを学び、学習指導案を作成して模擬授業を行える実践的な指導力を育成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learn the points of the teaching contents of history subjects in National curriculum for high schools, and the handling of teaching materials. Base on that, develop practical teaching ability to create a class plan and do a trial lesson.
5. 学習の到達目標：①新教育課程における歴史科目について、目標と指導内容、指導の具体的展開、教材の取扱いのポイントを理解し、授業づくりを進めることができる。
②学習指導案の役割や内容を理解し、歴史科目の学習指導案を作成することができる。
③作成した学習指導案に基づいて、(模擬) 授業を行うことができる。
④(模擬) 授業の評価を基に、授業改善について考えることができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : ①About history subjects of high school, you can understand the points of objectives and contents of instruction, the specific development of instruction, and handling teaching materials. And be able to make lessons.
②You can understand the role and content of lesson plans.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：オリエンテーション、地理歴史科改訂のポイント
第2回：「歴史総合」について
第3回：「日本史探究」について
第4回：「世界史探究」について
第5回：「歴史総合」の授業の実際(A「歴史と私たち」)
第6回：「歴史総合」の授業の実際(A「歴史の特質と資料」)
第7回：「歴史総合」の授業の実際(B「近代化への問い」)
第8回：「歴史総合」の授業の実際(B「結び付く世界と日本の開国」)
第9回：「日本史探究」の授業の実際(「時代を通観する問い」の表現)
第10回：「世界史探究」の授業の実際(A「世界史へのまなざし」)
第11回：学習指導案の書き方、教材研究の方法
第12回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(1)
第13回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(2)
第14回：模擬授業実施とルーブリックによる相互評価(3)
第15回：模擬授業の振り返り、相互評価結果を基にした授業改善レポートの作成
8. 成績評価方法：
学習指導案の作成及びそれに基づく模擬授業(50%)、授業改善レポート(40%)、授業への参加態度等(10%)
9. 教科書および参考書：
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社
『歴史総合 近代から現代へ』(山川出版社、歴史総合教科書)
『詳説日本史』(山川出版社、日本史探究教科書)
『詳説世界史』(山川出版社、世界史探究教科書)
『問いからはじまる歴史総合』(東京法令出版、歴史総合補助教材)
※参考書等は授業中に指示
10. 授業時間外学習：授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備等を行う。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism tran
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp.4-139.

※ コピーを配布する
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：言語学演習Ⅱ／Linguistics (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB62204, 科目ナンバリング：LHM-LIN337J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology Ⅱ

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native syllable structure, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belong

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB62205, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB62203, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（1）

2. Course Title (授業題目) : research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟し、古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read Heian era's document written by a male nobleman. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the society of Heian era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『小右記』を読む（1）

3.
『小右記』を読む（2）

4.
『小右記』を読む（3）

5.
『小右記』を読む（4）

6.
『小右記』を読む（5）

7.
『小右記』を読む（6）

8.
『小右記』を読む（7）

9.
『小右記』を読む（8）

10.
『小右記』を読む（9）

11.
『小右記』を読む（10）

12.
『小右記』を読む（11）

13.
『小右記』を読む（12）

14.

『小右記』を読む(13)

15.

まとめ

8. 成績評価方法:

レポート(50%)・授業での報告と討論への参加(50%)

9. 教科書および参考書:

テキスト 『大日本古記録 小右記』1~11(岩波書店)。購入の必要はない。

10. 授業時間外学習: 史料を事前に読むこと及び復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB62201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要： 平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of concerning literature and culture through reading the original of this class

5. 学習の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める

- 1 登場人物の形象の変移 — 源義仲に着目して —
- 2 登場人物の形象の変移 — 平家の人々に着目して —
- 3 歴史叙述と祝祭性 — 法住寺合戦をめぐる —
- 4 戦いの表現が指向するもの — 卷第九「木曾の最期」より —
- 5 表現の多様な可能性 — 卷第九「宇治川の先陣」より —
- 6 戦いの表現が指向するもの — 一の谷合戦をめぐる —
- 7 心の動きを語る物語 — 平維盛に着目して —
- 8 心の動きを語る物語 — 平重衡に着目して —
- 9 速さの表象とその意味 — 屋島合戦における源義経 —
- 10 場面を演出するしくみ — 卷第十一「那須与一」より —
- 11 事件を美化するしくみ — 平知盛に着目して —
- 12 事件を美化するしくみ — 平宗盛に着目して —
- 13 結尾部の記述が指向するもの — 建礼門院徳子に着目して —
- 14 表現の運動性がもたらすもの — 源行家に着目して —
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義（『平家物語』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：日本語論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB82201, 科目ナンバリング：LHM-OHU305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方
2. Course Title (授業題目)：Academic writing II
3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relev
5. 学習の到達目標：
 - 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
 - 2 読み手にわかりやすく書く力をつける
 - 3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to
 1. develop the writing skills and learn useful expressions.
 2. learn proper sentence construction.
 3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper
7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

 1. オリエンテーション
 2. テーマを見つけよう・調べよう
 3. 資料の探し方を知ろう
 4. 資料を整理しよう・話し合おう
 5. 資料を読んで整理しよう
 6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
 7. 定義の書き方を考えよう
 8. 筆者の意図と構成を考えよう
 9. タイトル・アウトラインを作成しよう
 10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
 11. レポートを書くときの表現を学ぼう
 12. レポートを作成する前に確認しよう
 13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
 14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
 15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう
8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など
10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：フランス文学各論Ⅲ／ French Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：翠川 博之

コード：LB62302, 科目ナンバリング：LHM-LIT314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語論の探求-物語形式の分析

2. Course Title (授業題目)：Exploring Narratology: Analyzing Narrative Structures

3. 授業の目的と概要：物語論とは物語の構造や語りの機能を分析する文学理論のひとつです。G. ジュネットの著作からその主要概念を取り上げ、物語がどのように構成されているのかを具体的作品に基づいて考察していきます。物語形式の分析を通じて文学作品の主題や内容を考察できるよう、その方法論を学びましょう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course delves into narratology, a literary theory that scrutinizes the structure and narrative functions within a story. Drawing upon Gérard Genette's treatise, we will explore key concepts and dissect how stories are constructed by examining specific

5. 学習の到達目標：1. 物語論のスキームを理解して文学作品の形式を評価できるようになる。

2. 物語論の分析概念を適切に用いて文学作品を分析できるようになる。

3. 文学研究に物語論を応用して作品解釈を深めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Comprehend the schematics of narratology and proficiently assess the form of various literary works.

2. Apply appropriate analytical concepts of narratology to effectively analyze and deconstruct literary texts.

3. Utilize narrative theory in literar

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 物語論とは何か

第2回 時間① 順序：錯時法；先説法／後説法

第3回 時間② 順序：錯時法；回顧的後説法

第4回 時間③ 持続：休止法／伸長法／叙景法／要約法／省略法

第5回 時間④ 頻度：単起的物語言説／反復的物語言説／括復的物語言説

第6回 叙法① 話法：距離と再現；直接話法／間接話法

第7回 叙法② 焦点化：内的固定焦点化

第8回 叙法③ 焦点化：内的不定焦点化

第9回 叙法④ 焦点化：内的多元焦点化

第10回 叙法⑤ 焦点化：外的焦点化とゼロ焦点化

第11回 態① 語りの時間：後置的／前置的／同時的／挿入的語り

第12回 態② 語りの水準：物語世界外／物語世界内の語り手

第13回 態③ 語りの水準：等質物語世界的／異質物語世界的語り手

第14回 態④ 語りの水準：転説法

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

課題への取り組み (50%)、学期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

【教科書】 プリントを配布する。

【参考書】 以下の書籍を随時参照する。

Gérard Genette, Figures III, Seuil, coll. Poétique, 1972.

Gérard Genette, Nouveau discours du récit, Seuil, coll. Poétique, 1983.

ジェラルド・プリンス『改定 物語論辞典』(遠藤建一訳) 松柏社, 2015.

上記ジュネットの著作の訳書として、

『物語のディスクール 方法論の試み』(花輪光・和泉涼

10. 授業時間外学習：事前に課題を指示しますので必ず予習をしてきてください。授業後には資料とテキストを読み返し、学んだ事柄について自分自身で検証を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB62304, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史文献購読・英訳
2. Course Title (授業題目)：Reading and Translation Fundamentals for Japanese History
3. 授業の目的と概要：購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating historical Japanese sources.
5. 学習の到達目標：将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving historical sources and academic works in Japanese.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. 文献の紹介
 2. 文献購読・英訳
 3. 文献購読・英訳
 4. 文献購読・英訳
 5. 文献購読・英訳
 6. 文献購読・英訳
 7. 文献購読・英訳
 8. 文献購読・英訳
 9. 文献購読・英訳
 10. 文献購読・英訳
 11. 文献購読・英訳
 12. 文献購読・英訳
 13. 文献購読・英訳
 14. 文献購読・英訳
 15. 文献購読・英訳
8. 成績評価方法：
翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]
9. 教科書および参考書：
各時間に適宜資料を配布する。
Readings will be distributed for each class.
10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。
1回書いた英訳を提出する。
Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：考古学各論／ Archaeology

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In Japan, majority of excavation is carried out in advance of construction or other land development. Such excavation is performed as a part of preservation of cultural properties administration. This situation is having a big influence on an archaeology

5. 学習の到達目標：(1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。

(2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1)Basic structure of buried cultural properties protection administration in Japan

(2)Relation between cultural property protection administration and archaeological studies in Japan

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、屋外での史跡見学を行います。

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1)
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2)
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3)
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡仙台城跡の見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB62303, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：合理的選択理論入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to rational choice theory
3. 授業の目的と概要：合理的選択理論の代表的な文献を講読し、その基本的な考え方の理解を身につける。また、代表的なモデルの応用について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with major readings on the rational choice theory. Students are expected to learn the basic thoughts on the theory and practice on the application of typical models.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、合理的選択理論の基本的な考え方を理解し、代表的なモデルの応用について検討できるようになる。
(2) 担当回の発表を通じて、学術的な発表の経験を積む。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the rational choice theory and practice on the application of typical models
(2) To learn academic presentation skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (1)
 2. イントロダクション (2)
 3. 人的資本、努力、性別役割分業 (1)
 4. 人的資本、努力、性別役割分業 (2)
 5. 人種隔離のダイナミックモデル (1)
 6. 人種隔離のダイナミックモデル (2)
 7. 人種隔離のダイナミックモデル (3)
 8. コモンズの悲劇
 9. 集合行動のいき値モデル (1)
 10. 集合行動のいき値モデル (2)
 11. 協力の進化
 12. 社会理論、社会調査、行為の理論 (1)
 13. 社会理論、社会調査、行為の理論 (2)
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

授業への積極的参加、文献の担当回における発表および課題提出
9. 教科書および参考書：

小林盾・金井雅之・佐藤嘉倫編，2022，『リーディングス 合理的選択理論——家族・人種・コミュニティ』勁草書房。
10. 授業時間外学習：指定された文献をあらかじめ読んでから授業に臨むことが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：・技術の哲学

2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of technology

3. 授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology

5. 学習の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。

・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of technology

・Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(P. =P. フェルベーク『技術の道德化』/Maarten Franssen et al. (ed.) Philosophy of Technology after the Empirical Turn 2016)を文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 歴史と背景(1)
- 3, 歴史と背景(2)
- 4, 現象学と解釈学(1)
- 5, ポスト現象学と解釈学(2)
- 6, 批判理論(1)
- 7, 批判理論(2)
- 8, 分析哲学的アプローチ(1)
- 9, 分析哲学的アプローチ(2)
- 10, デザインの哲学
- 11, リスクの哲学と倫理
- 12, 情報技術から哲学へ (1)
- 13, 情報技術から哲学へ (2)
- 14, ロボット工学と人工知能
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート(報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%

9. 教科書および参考書：

直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」『知の生態学的転回』2013。直江清隆「行為の形としての技術」『思想』2001-7。マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆、久木田水生監訳、丸善出版、2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020) ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：心理学特殊実験Ⅱ／ Individual Instruction on Psychological Study II

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-PSY325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Individual Instruction on Psychological Study II
3. 授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will conduct research so that they can acquire practical skills of experimentation, survey, field research, and so on.
5. 学習の到達目標：心理学の実験・調査の方法を実践的に修得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire practical skills of psychological research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 研究テーマの選定 1
 3. 研究テーマの選定 2
 4. 文献の検討 1
 5. 文献の検討 2
 6. 研究計画の立案 1
 7. 研究計画の立案 2
 8. 実験・調査の実施 1
 9. 実験・調査の実施 2
 10. 実験・調査の実施 3
 11. 実験・調査の実施 4
 12. データの分析 1
 13. データの分析 2
 14. レポート作成 1
 15. レポート作成 2
8. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
心理学専修の学生は必ず履修してください（履修できるは、原則として心理学専修の学生に限ります）。前セメスターの心理学特殊実験Ⅰと連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：足達 薫

コード：LB62306, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成

2. Course Title (授業題目) : Planning and cataloging of the "Imaginary Exhibition

3. 授業の目的と概要：美術作品が有する視覚的特質を歴史および文化の中に位置づけ、作品の意義および価値を提示する能力を身につける。

前期に行うポスター作成をさらに拡大強化し、「空想の展覧会」（フランスの文学者・文化史家アンドレ・マルローの概念に起因する）を企画し、カタログを作成するまでの作業を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students will acquire the ability to present the significance and value of works of art by placing their visual qualities in the context of history and culture. They will expand and strengthen the poster creation process of the first semester, planning a

5. 学習の到達目標：美術作品の歴史的・文化的価値を明確に記述し、魅力的なコンセプトに基づく展示プランを立ててカタログを制作することにより、美術館や博物館などでの実践のための基礎的能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By clearly describing the historical and cultural value of works of art, formulating an exhibition plan based on an attractive concept, and producing a catalog, students will acquire basic skills for practical use in museums and art galleries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: 「空想の展覧会」のコンセプト マルローから現代へ
- 2: 近代における美術作品の展示 礼拝価値から展示価値へ
- 3: 企画準備 1) コンセプト
- 4: 企画準備 2) 目玉作品
- 5: 企画準備 3) タイトルと章構成
- 6: 企画会議 プレゼンテーション
- 7: 作品選定 1
- 8: 作品選定 2
- 9: 作品制定 3
- 10: 中間発表
- 11: カタログ制作 1
- 12: カタログ制作 2
- 13: カタログ制作 3
- 14: カタログ制作 4
- 15: 最終発表

(註：状況に応じて、土日を利用した美術館見学も考えていますが現時点では未定です)

8. 成績評価方法：

出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業中に指示します。

10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（カタログ作成）が必要となります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：菊池 克己

コード：LB62404, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：より楽にドイツ語を読むために
2. Course Title (授業題目) : Reading German at more ease
3. 授業の目的と概要：細部まで深く掘り下げる「精読」よりも、大雑把でもたくさん読む「多読」のほうが、効果的に外国語が身につくと多くの人が指摘する。しかし、単語や文法をハードルに感じてしまい、なかなか踏み出せなかったり、やり方がわからない人も多い。
そこで、文法を再確認するとともに、「多読」的な読み方を例示するために、簡単に（おそらく辞書なしで）読めるドイツ語の文法書を最初に取り上げる（Die Grundschulgrammatik, Dudenverlag を予定）。これを導入として、以降は各自が、DaF の読み物、絵本・児童
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : It is often pointed out that “extensive reading” is a more effective way to learn a foreign language than “close reading”. However, many people find vocabulary and grammar to be hurdles and find it difficult to get started or do not know how to do it.
Th
5. 学習の到達目標：・ドイツ語に対する心理的なハードルを下げる
・ドイツ語を気楽に読める自分なりのスタイルを見つける
・ドイツ語を読む頻度と量を増やす
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to
 - lower psychological hurdles to German
 - find your own style to read German at ease
 - Increase the amount and frequency of reading German
7. 授業の内容・方法と進度予定：
自分に合う本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。
 - 1 オリエンテーション：多読とは何か？
 - 2 多読実践 1
 - 3 多読実践 2
 - 4 多読実践 3
 - 5 多読実践 4
 - 6 多読実践 5
 - 7 多読実践 6
 - 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
 - 9 多読実践 7
 - 10 多読実践 8
 - 11 多読実践 9
 - 12 多読実践 10
 - 13 多読実践 11
 - 14 多読実践 12
 - 15 読書経験を振り返って
8. 成績評価方法：
平常点 [100%]
9. 教科書および参考書：
教室で指示
10. 授業時間外学習：隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅱ／ English Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：福士 航

コード：LB62408, 科目ナンバリング：LHM-LIT321J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Twelfth Night を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Twelfth Night
3. 授業の目的と概要：William Shakespeare, *Twelfth Night* を参加者全員で精読する。英語を正確に読むことはもちろん、作品の内包するイメージ・シンボル、構造なども読解することが要求される。授業では毎回担当者を決めて該当箇所の日本語訳とコメントをしてもらう。その後参加者でディスカッションを行い、テキストの理解を深める。最終的に作品論を書いてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will be required to do the 'close reading' of William Shakespeare, *Twelfth Night*. 'Close Reading' in this class means not only understanding Shakespeare's English correctly but also reading, for example, images, symbols, structures of the text.
5. 学習の到達目標：1. Shakespeare の英語（初期近代英語）の理解を深める。
2. 文学批評の理解を深める。
3. 文学作品の作品論を書く能力を涵養する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To understand Shakespeare's English (Early Modern English)
2. To understand literary criticism
3. To build up a competency to write an academic essay on a literary text
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Act 1 Scene 1 - Scene 2
 3. Act 1 Scene 3 - Scene 4
 4. Act 2 Scene 1 - Scene 3
 5. Act 2 Scene 4 - Scene 5
 6. Act 3 Scene 1
 7. Act 3 Scene 2 - Scene 3
 8. Act 3 Scene 4 1-210.
 9. Act 3 Scene 4 211-386.
 10. Act 4 Scene 1 - Scene 2
 11. Act 4 Scene 3, Act 5 Scene 1 1-201.
 12. Act 5 Scene 1 202-398
 13. *Twelfth Night* についての論文解題 1
 14. *Twelfth Night* についての論文解題 2
 15. レポート作成のための論点整理
8. 成績評価方法：
発表の充実度と積極的なディスカッションへの参加 50%、レポート 50%
9. 教科書および参考書：
William Shakespeare, *Twelfth Night* (The New Cambridge Shakespeare)
10. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること。
Students are required to read the assigned part before each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学各論Ⅰ／

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

semester：6 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-OHS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代皇室の文化表象

2. Course Title (授業題目)：Study on representation of Japanese Royal family

3. 授業の目的と概要：本講義では、戦後から現代における皇室の文化表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的にはポピュラーカルチャーを中心に戦後以降の天皇と皇室を描いた様々なイメージを検討し、それらが近現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Post-war Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family in the 2010s and think about the

5. 学習の到達目標：戦後の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of post-war Japanese royals.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 インTRODクシヨN

第2回 天皇制と表象

第3回 天皇・皇室表象の“限界”

第4回 事例研究1：「セカイ系」と天皇

第5回 事例研究2：偽史と正史のあいだ

第6回 事例研究3：8月15日の神話叙述

第7回 事例研究4：「Jブンガク」の天皇たち

第8回 事例研究5：闘う少女天皇

第9回 事例研究6：皇族萌えの到達点

第10回 事例研究7：生殖と連帯

第11回 事例研究8：「天皇晴れ」と「災害の時代」

第12回 事例研究9：天皇と怪獣

第13回 事例研究10：天皇と新皇

第14回 事例研究11：妖怪と天皇的なるもの

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Ignorance

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk

5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再訪—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み (SARF)
10. リスクガバナンスの考え方 (1)
11. リスクガバナンスの考え方 (2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にするべき文献を適宜指示します。

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。

授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもらいます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB62403, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語の諸相
2. Course Title (授業題目)：Various Aspects of Modern Mandarin Chinese
3. 授業の目的と概要：現代中国語の言語的特徴について、理解を深めることを目的とする。まず、現代中国語に関する概説を読み、その全体像をある程度把握したうえで、テーマ別の研究論文の精読を通して、中国語学における重要な概念や構文、さらに、問題意識の置き方や研究手法について学習する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to enhance students' understanding of the linguistic characteristics of modern Mandarin Chinese. At first, students are required to read an overview of modern Mandarin Chinese, and then by reading research papers that deal with different
5. 学習の到達目標：①中国語の論文を正確に読み解く能力を身につける。
②中国語学における重要な概念を理解し、説明することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will be able to read research papers written in Chinese accurately.
②Students will understand the essential concepts in Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
＜授業内容・方法＞基本的に講義形式で行うが、演習も取り入れる。
＜進度予定＞
第1回 ガイダンス
第2回 研究論文3 (一)
第3回 研究論文3 (二)
第4回 研究論文3 (三)
第5回 研究論文3 (四)
第6回 研究論文4 (一)
第7回 研究論文4 (二)
第8回 研究論文4 (三)
第9回 研究論文4 (四)
第10回 研究論文5 (一)
第11回 研究論文5 (二)
第12回 研究論文5 (三)
第13回 研究論文5 (四)
第14回 研究論文5 (五)
第15回 期末まとめ
8. 成績評価方法：
授業への取り組み：50%
課題：50%
9. 教科書および参考書：
＜教科書＞プリントを配布する。
＜参考書＞『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995 年
10. 授業時間外学習：予習：プリントの指定箇所を読んだうえ、問題点を整理する。
復習：プリントや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門
2. Course Title (授業題目)：An introduction to philosophical logic
3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、様相論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of both technic
5. 学習の到達目標：様相論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed for students (i) to understand the soundness and completeness result for modal logic, and (ii) to understand philosophical topics related to modal logic.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - [1] ガイダンス
 - [2] 様相論理の形式言語
 - [3] 様相論理の意味論 (1)
 - [4] 様相論理の意味論 (2)
 - [5] 様相論理の意味論 (3)
 - [6] 様相論理の意味論 (4)
 - [7] 様相論理の証明体系 (1)
 - [8] 様相論理の証明体系 (2)
 - [9] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (1)
 - [10] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (2)
 - [11] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (3)
 - [12] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (4)
 - [13] 様相論理に関連する哲学的話題 (1)
 - [14] 様相論理に関連する哲学的話題 (2)
 - [15] まとめ
8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB62409, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワークⅡ
2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Education Ⅱ
3. 授業の目的と概要：この授業では、前期に開講した「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」で計画した調査を夏季休業中に実施し、そこで収集したデータを分析し、ミニ論文としてまとめます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students analyze qualitative data and write up a mini-paper based on the data collection in "Fieldwork in Japanese Language Learning I"
5. 学習の到達目標：・フィールドワークで得られたデータを適切に分析することができる
・フィールドで得られた知見を発表やミニ論文の形でわかりやすくまとめることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-analyze data collected in the fieldwork properly
-make a presentation and write up a mini-paper based on the result
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/1)：イントロダクション
第2回 (10/8)：データ収集の報告と振り返り
第3回 (10/15)：データの分析方法
第4回 (10/22)：データの分析①
第5回 (10/29)：データの分析②
第6回 (11/5)：分析の検討①
第7回 (11/12)：分析の検討②
第8回 (11/19)：発表の準備①
第9回 (11/26)：発表の準備②
第10回 (12/3)：発表の練習
第11回 (12/10)：発表会
第12回 (12/17)：発表会フィードバック、論文の形式
第13回 (1/7)：ミニ論文の検討①
第14回 (1/14)：ミニ論文の検討②
第15回 (1/21)：まとめ
12/24 は休講予定です。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 40%、最終課題 (ミニ論文) 60%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期に開講された「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修条件です。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB62407, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料研究（2）

2. Course Title (授業題目)：Early Modern Document Research (2)

3. 授業の目的と概要：「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：(1)近世史料についての読解能力を身につける。

(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見し深めていくきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス
2. 史料読解の報告と討論(1)
3. 史料読解の報告と討論(2)
4. 史料読解の報告と討論(3)
5. 史料読解の報告と討論(4)
6. 史料読解の報告と討論(5)
7. 史料読解の報告と討論(6)
8. 史料読解の報告と討論(7)
9. 史料読解の報告と討論(8)
10. 史料読解の報告と討論(9)
11. 史料読解の報告と討論(10)
12. 史料読解の報告と討論(11)
13. 史料読解の報告と討論(12)
14. 史料読解の報告と討論(13)
15. 史料読解の報告と討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB62402, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史

2. Course Title (授業題目) : History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife

3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とでは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようにすることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスー日本思想史における生と死ー

第2回：黄泉国の確立ー『古事記』を読む①ー

第3回：生者と死者の距離ー『日本霊異記』を読む①ー

第4回：仏教伝来と異界/他界の変容ー『日本霊異記』を読む②ー

第5回：肉体と魂の分離ー『日本霊異記』を読む③ー

第6回：富をもたらす異界ー『古事記』を読む②ー

第7回：病をもたらす異界ー「備後国風土記逸文」を読むー

第8回：遠ざかる極楽浄土ー『沙石集』を読むー

第9回：浄土を渴仰する人々ー『発心集』を読むー

第10回：抜け出し得ぬ地獄ー『今昔物語集』を読む①ー

第11回：救済者としての地藏菩薩ー『今昔物語集』を読む②ー

第12回：山中で死者に出会うー『今昔物語集』を読む③ー

第13回：自宅に死者を招くー『伽婢子』を読むー

第14回：再び接近する現世と異界/他界ー『霊の真柱』を読むー

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1人1回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー20%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB62503, 科目ナンバリング：LHM-PHI311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
 2. Course Title (授業題目) : Vedic Literature
 3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 24 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read R.gveda IV 24 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRH
 5. 学習の到達目標： リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 24
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature II

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB62501, 科目ナンバリング：LHM-LIT307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (16)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (16)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a G

5. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. エゴン・エルヴィン・キッシュとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. Aus Prager Gassen und Nächten 1
5. Aus Prager Gassen und Nächten 2
6. Aus Prager Gassen und Nächten 3
7. Aus Prager Gassen und Nächten 4
8. Aus Prager Gassen und Nächten 5
9. Aus Prager Gassen und Nächten 6
10. Aus Prager Gassen und Nächten 7
11. Aus Prager Gassen und Nächten 8
12. Aus Prager Gassen und Nächten 9
13. Aus Prager Gassen und Nächten 10
14. Aus Prager Gassen und Nächten 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the classroom. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB62505, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記憶継承の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of memory inheritance
3. 授業の目的と概要：戦争、災害、差別など、一般的にネガティブな感情をともなう記憶（＝いわゆる「負の記憶」）に、人びとはいかに集合的に向き合ってきたのか。この授業では、「負の記憶」を語ること、聞くこと、そして継承することに着目して、現代社会のあり様を考えることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How have people collectively faced memories that generally involve negative emotions, such as wars, disasters, and discrimination (so-called ``negative memories'')? The purpose of this class is to consider the state of modern society by focusing on talking
5. 学習の到達目標：記憶の継承をめぐる様々な論点を理解し、それらを文化的、政治的、社会的文脈の中に位置づけられるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the various issues surrounding the inheritance of memory and to be able to place them in cultural, political, and social contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——授業の進め方について
 - 2 経験を語ることの社会学(1)
 - 3 経験を語ることの社会学(2)
 - 4 経験を語ることの社会学(3)
 - 5 経験を語ることの社会学(4)
 - 6 経験を語ることの社会学(5)
 - 7 経験を語ることの社会学(6)
 - 8 経験を語ることの社会学(7)
 - 9 経験を語ることの社会学(8)
 - 10 経験を聞くことの社会学(1)
 - 11 経験を聞くことの社会学(2)
 - 12 経験を聞くことの社会学(3)
 - 13 経験を聞くことの社会学(4)
 - 14 経験を聞くことの社会学(5)
 - 15 まとめ——制度化される記憶とその相対化
8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%
9. 教科書および参考書：
 - テキスト：時間ごとに文献を指定します
 - 参考書：
 - (1) 関礼子編, 2023, 『語り継ぐ経験の居場所——排除と構築のオラリティ』新曜社.
 - (2) 石井弓, 2013, 『記憶としての日中戦争——インタビューによる他者理解の可能性』研文出版.
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『受動的総合の分析』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『受動的総合の分析』における有機的世界の構成

2、「触発の現象」読解（1）

3、「触発の現象」読解（2）

4、「触発の現象」読解（3）

5、「触発の現象」読解（4）

6、中間まとめ1 触発について

7、「触発と連合」読解（5）

8、「触発と連合」読解（6）

9、「触発と連合」読解（7）

10、「触発と連合」読解（8）

11、中間まとめ2 連合について

12、「触発と予期」読解（9）

13、「触発と予期」読解（10）

14、「触発と予期」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the research presentation of the Advanced Seminar on Early Modern and Modern History in JapanⅢ (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.

Then, through discussions, students narrow

5. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本語理解表現Ⅱ／ Japanese comprehension and expression II

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB82501, 科目ナンバリング：LHM-0HU313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunity
5. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
 1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
 2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 再話活動(1)
 3. 再話活動(2)
 4. 再話活動(3)
 5. 再話活動(4)
 6. 再話活動(5)
 7. 再話活動(6)
 8. 中間テスト
 9. 再話活動(7)
 10. 再話活動(8)
 11. 再話活動(9)
 12. 再話活動(10)
 13. 再話活動(11)
 14. 再話活動(12)
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：Academic Writing II is a continuation of Academic Writing I (AWI) from the spring semester; therefore successful completion of AWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Academic Writing II is a continuation of Academic Writing I (AWI) from the spring semester; therefore successful completion of AWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester

5. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematize

6. Learning Goals (学修の到達目標)：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematize

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Class Schedule and Activities for 15 lessons

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern

10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consistency.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：音声学Ⅱ／Phonetics II

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB43204, 科目ナンバリング：LHM-LIN222J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音響音声学・聴覚音声学

2. Course Title (授業題目)：Acoustic and Auditory Phonetics

3. 授業の目的と概要：言語音の物理的性質を実験的観察によって理解すると同時に、音を知覚するメカニズムを学びます。実験的観察ではパソコンを利用して、母音・子音の録音と分析実習を行い、調音と音声性質の相関性を科学的に分析する力を身につけます。さらにその発展的応用についても検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students with the opportunity to study various topics concerning acoustic phonetics and speech perception. Students will analyze data and take note of articulatory-acoustic relations. We will, furthermore, discuss how to design a novel

5. 学習の到達目標：・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。

・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to describe both acoustic phonetic features of various sounds, as well as the theory of speech perception. They will also be able to identify and understand correlation between articulation data and acousti

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音響音声学・聴覚音声学とは
2. 聴覚器官と音の知覚
3. 純音と複合音
4. 波長・周期・周波数
5. 音源・共鳴・音源フィルター理論
6. パソコンを用いた音響分析の方法
7. 子音の調音と特徴
8. 共鳴音の波形とスペクトログラム
9. 阻害音の波形とスペクトログラム
10. 有声音と無声音
11. 母音の調音と特徴
12. 母音のフォルマント周波数
13. 狭帯域分析・広帯域分析
14. 聴覚現象
15. 音声性質・音の知覚にもとづく発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) Keith Johnson, Acoustic and Auditory Phonetics, Wiley-Blackwell (2011)

10. 授業時間外学習：波形を分析するためには調音音声学の知識が必要になるため、予習と復習を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

音声学Ⅰの知識を前提とした内容になりますので、受講希望者は事前に音声学Ⅰ（前期開講）を受講してください。講義には毎回パソコンを持参してください。

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学/技術の哲学
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the philosophy of science and technology
3. 授業の目的と概要：科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では技術哲学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、技術哲学に関わる今日の主要な社会問題を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How to understand the relationship between science, technology has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of philosophy of technology . It also explains some important social issues of philosophy of technology .
5. 学習の到達目標：技術哲学の基本的な事項を理解し、その個別の問題に対して自分なりに考えることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
 - Explain the essential concepts of philosophy of technology
 - Discuss the specific problems of philosophy of technology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

技術哲学の基礎とともに、その具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

- 第1回 技術はなぜ哲学の対象となるのか
- 第2回 技術と政治
- 第3回 技術と歴史
- 第4回 技術とエンジニアの視点
- 第5回 AI
- 第6回 ロボット
- 第7回 テレプレゼンス
- 第8回 スマート農業
- 第9回 宇宙開発
- 第10回 都市
- 第11回 遺伝子ドライブ
- 第12回 ゲノム編集作物
- 第13回 原子力発電
- 第14回 気候工学
- 第15回 まとめと討論

【最新のテーマを取り入れるため、一部内容を変更することがあります。】

8. 成績評価方法：

レポート 80% (授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%
9. 教科書および参考書：

金光秀和、吉永明弘編『3STEPシリーズ 技術哲学』昭和堂 (2024年6月刊)
10. 授業時間外学習：上記テキストをもとに基本事項を解説するので必ず振りかえってみたい。技術哲学に関連する生命倫理学や環境倫理学、AI の倫理学の文献もたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：問芝 志保

コード：LB43202, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本宗教の近現代
2. Course Title (授業題目)：Japanese Religion in Modern Society
3. 授業の目的と概要：近代・現代日本社会における宗教現象の変容過程を論じるとともに、日本の宗教学・宗教社会学の歴史と学説・理論の展開を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will discuss the theoretical history of the study of religion and the sociology of religion in Japan, relating them to the process of transformation of religious phenomena in Japanese society.
5. 学習の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的知識および基本的な概念を学ぶ。日本人・日本社会にとって宗教とは何かを考察する視点を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn about the history of religious studies in Japan and its basic terms, and develop a perspective on what religion means for Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
教員が講義する。ミニットペーパーに記された質問や疑問については、可能な限り次回の授業開始時に回答する。

(1) イントロダクション
(2) 「日本の宗教」をいかにとらえるか
(3) 幕末維新期の民衆宗教
(4) 明治期の日本型政教関係
(5) 日本における宗教学の創始
(6) 近代日本と仏教・キリスト教・新宗教
(7) 戦争と宗教
(8) 戦後日本の宗教政策
(9) 都市化と宗教浮動人口
(10) 高度経済成長期の新宗教
(11) オウム事件と宗教・宗教学
(12) スピリチュアルブーム・パワースポットブーム
(13) 震災と宗教・宗教学
(14) 人口減少・高齢多死・グローバル時代の宗教
(15) まとめ
8. 成績評価方法：
毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べる。
授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB43206, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Statistical Inference and Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：社会調査に必要な統計学について学ぶ。特に、統計的推測・仮説検定の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析などの手法について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers statistics that are needed to analyze social surveys. Topics include statistical inference, statistical test of means/proportions, analysis of variance, correlation, and regression.
5. 学習の到達目標：社会調査に必要な統計学について理解し、自ら適用できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn statistical methodologies that are needed to analyze social surveys.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 統計的推測と仮説検定 (1)
 2. 統計的推測と仮説検定 (2)
 3. 2グループ間の平均の差の検定
 4. 3つ以上のグループ間の平均の差の検定
 5. コンピュータ演習 (1)
 6. 離散変数間の関連 (1)
 7. 離散変数間の関連 (2)
 8. 連続変数間の関連 (1)
 9. 連続変数間の関連 (2)
 10. コンピュータ演習 (2)
 11. 単回帰分析 (1)
 12. 単回帰分析 (2)
 13. 重回帰分析とその応用 (1)
 14. 重回帰分析とその応用 (2)
 15. コンピュータ演習 (3)
8. 成績評価方法：

各回のレポート課題 (60%)、およびコメントシート (40%)
9. 教科書および参考書：

[教科書] 林拓也, 2024, 『社会統計学入門 [三訂版]』放送大学教育振興会.
10. 授業時間外学習：教科書と配布資料で予習・復習をし、課題に取り組む。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本授業は、社会調査士カリキュラムのD科目（「社会調査に必要な統計学に関する科目」）に該当する。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 西洋史研究の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History

3. 授業の目的と概要： 演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.

5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 夏季課題発表(1)
2. 夏季課題発表(2)
3. 資料・文献の探し方
4. 課題発表(1)a
5. 課題発表(1)b
6. 課題発表(1)c
7. 課題発表(1)d
8. 学術論文の作法(1)
9. 学術論文の作法(2)
10. 課題発表(2)a
11. 課題発表(2)b
12. 課題発表(2)c
13. 課題発表(2)d
14. 総括

8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

9. 教科書および参考書：

資料等は基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は授業の進行に合わせて随時紹介する。

10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

後期の講読は、前期からの継続的受講を前提としている。

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級作文

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Writing

3. 授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing

5. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>テーマに沿って、作文練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、“儿童不知春，问草何处绿”について

第2回 “留春”について

第3回 “第三张笺”について

第4回 “穿了爸爸的衣服”について

第5回 “研究”について

第6回 “教育”について

第7回 “瓶里、盆里、地里的花”について

第8回 “爸爸不在家的时候”について

第9回 “拉黄包车”について

第10回 “清明”について

第11回 “似爱之虐”について

第12回 “进步”について

第13回 “战争的起源”について

第14回 “买得一枝春”について

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：100%（主に課題）

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリント配布

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB43208, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：初級韓国語
2. Course Title (授業題目)：Elementary Korean
3. 授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To be able to comprehend Korean text and carry out simple everyday conversation.
5. 学習の到達目標：日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To improve vocabulary and expressions necessary for everyday life, and to enhance communication skills.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：現在形の用言活用Ⅰ（規則活用）
 - 第3回：現在形の用言活用Ⅱ（規則活用）
 - 第4回：現在形の用言活用（変則活用）
 - 第5回：固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
 - 第6回：過去形の用言活用Ⅰ（規則活用）
 - 第7回：過去形の用言活用Ⅱ（規則活用）
 - 第8回：過去形の用言活用（変則活用）
 - 第9回：願望を表す表現
 - 第10回：意志を表す表現
 - 第11回：目的を表す表現
 - 第12回：格式体敬語表現
 - 第13回：非格式体敬語表現
 - 第14回：意向・意見・勧誘の表現
 - 第15回：総まとめと試験
8. 成績評価方法：

期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
9. 教科書および参考書：

鄭世桓、権来順、金永昊、吳正培、張基善 著『パルン韓国語』 朝日出版社、参考資料のプリント配布
10. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/

Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
基本文字の学習を終えて、ハングル(韓国語)文字が読めれば履修可能。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分を自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質 3 ページ程度ととても短いなが

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.

5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。

また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：学術英語演習Ⅱ／ Academic English II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB43306, 科目ナンバリング：LHM-LIT342E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing in Humanities II
2. Course Title (授業題目)：アカデミック・ライティング 人文科学 II
3. 授業の目的と概要：In this class, students will learn how to write an academic essay in continuous English prose of at least five paragraphs. Each week, we will review a stage of the writing process from preparing a topic and thesis statement to organizing and editing paragraphs.
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このクラスでは、アカデミック・エッセイの書き方を学びます。毎週、トピックや論文の準備から段落の構成、編集に至るまで、執筆プロセスの各段階を確認します。学期前半では、5段落のエッセイを書き、後半では、アカデミックな仕事における出典の正しい使い方、剽窃の回避、引用の種類について学びます。コース終了時には、各自が選択した学術的なトピックについて、引用と文書化を伴った2本目のエッセイを作成する必要があります。

このクラスの定員は35名です。このクラスは前期にも開講されます。

5. 学習の到達目標：1: To write academic essay/term paper in English
2: To learn the stages of preparing an academic written report in the humanities.
2: To introduce academic citation methods so as to avoid plagiarism.
4: To practice and improve confidence in communicating.
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 英語でエッセイや論文を書く。
2: 人文科学における学術レポート作成の段階を学ぶ。
2: 剽窃を避けるための学術的な引用方法を紹介する。
4: 書いた英語でコミュニケーションをとる練習をし、自信をつける。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 Introduction
- 第2回 Choosing Essay Topics
- 第3回 Thesis Statements
- 第4回 Introductions
- 第5回 Body Paragraphs
- 第6回 Linking Ideas
- 第7回 Conclusions
- 第8回 Using Sources: Quotations
- 第9回 Summaries and Paraphrases
- 第10回 Citations
- 第11回 References
- 第12回 Definitions
- 第13回 Arguments
- 第14回 Plagiarism
- 第15回 Conclusion

8. 成績評価方法：

First essay 30%; Final essay 40%; Weekly short exercises 30%

9. 教科書および参考書：

There is no textbook for this class.

10. 授業時間外学習：First essay (5 paragraphs)

Second essay (minimum of 5 paragraphs)

Short exercises and quizzes via Google Classroom

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

This class will be conducted in English.

科目名：インド学概論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB43301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ祭式を巡る議論とその展開

2. Course Title (授業題目)：History of discussions and approaches to Vedic rituals

3. 授業の目的と概要：本講義では、アーリヤ人の宗教文献群「ヴェーダ」から、特に紀元前800年頃以降に順次編集された文献を中心に、当時の人々の死生観と後の仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れ、アーリヤ諸部族の定住化に伴う社会の変化を個々の議論から理解することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces a bulk of religious texts gradually accumulated by the Āryan people since 800 B.C. The aim of the course is to help students understand views on life and death in the Vedic religion as well as development of 'karma' and 'saṃsāra' co

5. 学習の到達目標：・当時の人々の死生観を、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。
・仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想が、ヴェーダ以来の議論を背景としていることが理解できる。
・宗教儀礼及び神学議論の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon the completion of this course, students will be able to interpret the Āryans' views on life and death in line with the ancient Vedic tradition. They will also be able to discern the roots of such concepts as 'karma' and 'saṃsāra' in religious dispute

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- なぜ祭式を行うのか1 祭式の目的とその変化
- なぜ祭式を行うのか2 息子の獲得 胎児の発生説に論じられる家系の継続
- なぜ祭式を行うのか3 なぜ地上に再生するのか 胎児の発生説に論じられる個人の継続
- なぜ祭式を行うのか4 死後の世界 「再死」とその克服
- なぜ祭式を行うのか5 エネルギーの循環と供物の循環
- なぜ祭式を行うのか6 受け継がれてゆく「私」 五火二道説
- 自己の原理と宇宙の原理1 シャーンディリヤの梵我同一説
- 自己の原理と宇宙の原理2 ウッターラカ・アールニの「有」の教説
- 自己の原理と宇宙の原理3 ヤージュニャヴァルキヤのオートマン論
- 祭式からの離陸1 自由思想家たちの時代とブッダ 沙門果経
- 祭式からの離陸2 輪廻からの解脱 不死の門
- 祭式からの離陸3 祭官階級、王族階級、法律の整備
- ヴェーダ補助学の伝統と展開1 法律文献の登場
- ヴェーダ補助学の伝統と展開2 文法学と諸分野の学問、哲学、医学、文学等
- 宗教と社会との連動 共同体と個人

※上記は必要に応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

課題提出(随時, 40%), レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

資料を配付する。参考書は授業で指示する。

Reading and reference materials will be distributed in class.

10. 授業時間外学習：講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

I would like you to review printed materials and your notes before and after class. Feel free to ask about any unclear po

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

原則として、前期のインド学概論の履修者であること。

The course is aimed primarily at the students that completed Indological Studies (General Lecture) in the first semester.

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB43302, 科目ナンバリング：LHM-LIT205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ文学史
2. Course Title (授業題目)：History of German Literature
3. 授業の目的と概要：9世紀から現代までのドイツ文学の歴史を概観する。ドイツ文学の主要な作品を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In dieser Vorlesung handelt es sich um die Geschichte der deutschen Literatur vom 9. Jahrhundert bis zur Moderne. Dabei werden wichtige Werke der deutschen Literatur vorgestellt.
5. 学習の到達目標：ドイツ文学の歴史の概要を知る。ドイツ文学の主要な作品の内容を知る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel der Vorlesung ist, die grundlegende Geschichte der deutschen Literatur und die Inhalte der wichtigen Werke kennen zu lernen.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 ロマン主義 (1)
 - 3 ロマン主義 (2)
 - 4 ロマン主義 (3)
 - 5 三月前期 (1)
 - 6 三月前期 (2)
 - 7 19世紀後半の文学 (1)
 - 8 19世紀後半の文学 (2)
 - 9 19世紀後半の文学 (3)
 - 10 20世紀前半の文学 (1)
 - 11 20世紀前半の文学 (2)
 - 12 20世紀前半の文学 (3)
 - 13 戦後の文学 (1)
 - 14 戦後の文学 (2)
 - 15 児童文学
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

参考書：手塚富雄・神品芳夫「増補ドイツ文学案内」(岩波文庫)、柴田翔編著「はじめて学ぶドイツ文学史」(ミネルヴァ書房)、畠山寛他編「ドイツ文学の道しるべ」(ミネルヴァ書房)
10. 授業時間外学習：最も大事なことは自分で実際に作品を読むことです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 近現代ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Modern/Contemporary Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、近現代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標： ・「国家」と「社会」の観点から、西洋近現代史の展開過程を把握する
・西洋近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標) : ・ To grasp the outline of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society"
・ To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 「イギリス革命」再論
 3. アメリカ独立革命
 4. フランス革命(1)
 5. フランス革命(2)
 6. フランス革命(3)
 7. 国民国家とナショナリズム
 8. 1848/49年革命
 9. 「良き時代」
 10. 世界戦争と総力戦体制
 11. ロシア革命(1)
 12. ロシア革命(2)
 13. 冷戦と脱植民地化
 14. 現代の「革命」
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、初期近代までをほぼカバーするものとして、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984年、をまず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
なし。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：城戸 淳, 直江 清隆

コード：LB43304, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン(2)

2. Course Title (授業題目)：Philosophy for Beginners 2

3. 授業の目的と概要：前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の 2 年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の 5～10 は英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の 4 回ほどは、担当者が自分で決

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessio

5. 学習の到達目標：(1) 哲学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and discuss philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～14. 各人がテーマを担当する本を見つけ発表し、討論する。

15. まとめ

(参加者の人数により、内容を一部変更することがある)

8. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後 4 回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

10. 授業時間外学習：英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。レジュメ報告を担当する際、事前に教員および TA に相談し、アドバイスを受けて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3 年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB43305, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (2)
2. Course Title (授業題目)：Ethics for Beginners 2
3. 授業の目的と概要： この授業は前期の「倫理学研究のレッスン (1)」の続編です。倫理学専修の2年生は前期・後期ともに履修して下さい。
この授業の目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論について発表し、討論する力を身につけることです。
前半は英語のテキストについて、担当者が担当箇所の訳読や要約を発表します。後半は、担当者がみずから選んだテーマについて発表してもらいます。
なお、前期・後期を通じて1人1回は自由テーマで発表していただきますので、後期は前期に割り当てられなかった方の担当です。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to give students the ability to read, present and discuss the literature of philosophy and ethics.
The first half of the course consists of reading philosophical texts in English. In the second half of the course, students will
5. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、発表・討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえて、自分の問題関心にそって探究する力を体得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and explore philosophical topics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 - 2～9. 英語による基礎文献の講読・発表
 - 10～15. 発表と討論(参加者の人数などにより、内容を変更することがある。)
8. 成績評価方法：
英語テキストの報告や討論 (50%)。後半の発表、ないし学期末レポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
授業のなかで説明します。
10. 授業時間外学習：英語テキストを読む回では、予習を欠かさないようにしてください。
発表の際は、担当者は事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
哲学・倫理学以外の学生、または3年生以上の学生が受講を希望する場合は、事前に担当教員に相談してください。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB43405, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 上級
2. Course Title (授業題目)：Advanced Italian
3. 授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become
5. 学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 復習テスト
 2. 会話と読解の練習。
 3. 小テストと直接法未来形。
 4. 進行動詞と gerundio の使用
 5. 会話と読解の練習。
 6. 曲の聞き取り、歌詞分析
 7. 翻訳の小テスト
 8. passato remoto の過去形
 9. 会話と読解の練習。
 10. 動詞文法のまとめ
 11. 作文・自分の趣味
 12. イタリア語での映画
 13. 映画でまとめた文法・単語。
 14. 聞き取り練習とテストの準備。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト、音楽、映画
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB43402, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。

(2)近世古文書読解能力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills to reading early modern documents.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、本講義は原則として対面で実施する。。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・確認テスト[80%]

9. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多変量解析
2. Course Title (授業題目)：Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：R を用いた統計実習を通じて、多変量解析の理論とその適用について理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers basic topics on multivariate statistical analysis. Students receive trainings using R software.
5. 学習の到達目標：(1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
(2) R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To understand theories on multivariate statistical analysis
(2) To learn skills needed to use R
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. R の基礎
 3. 変数のタイプと基本統計量
 4. グラフの基本
 5. クロス集計表
 6. 単回帰分析
 7. 重回帰分析
 8. ダミー変数、交互作用項
 9. 回帰分析におけるモデルの診断
 10. 多変量解析と因果関係
 11. 二項ロジスティック回帰分析
 12. 順序ロジスティック回帰分析、多項ロジスティック回帰分析
 13. 多変量解析の結果の報告
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

毎週の授業前後の課題 (60%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：ほぼ毎回課題が出るので、計画的に取り組むことが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本授業は、社会調査士カリキュラムの E 科目（「多変量解析の方法に関する科目」）に該当する。

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB43401, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学概論

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Psychology

3. 授業の目的と概要：心理学は心の仕組み、働き方を実証的に調べていく学問領域である。とはいえ心は目に見えるわけでもなければ、聴くことも、触ることもできない。それにもかかわらず心理学が現在に至るまで発展してきたのは、先人らが巧妙に計画した実証的研究によって心を詳らかにしてきたからである。本講義では、心の諸相について実際の具体的な研究例を紹介しながら幅広く体系的に学習していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Psychology is the empirical research area to investigate the mechanisms and functions of the mind. However, we cannot see, hear or touch the mind directly. Nevertheless, psychology develops based on brilliant findings by well-planned research to titillate

5. 学習の到達目標：具体的な研究例をもとに基本的な心の仕組み、働きを学び、近年様々なメディアで取りあげられている心理学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the mechanisms and functions of the mind from the many empirical studies and then improve the ability to understand and evaluate psychological topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス：(実験) 心理学とは
2. 心の学問の成り立ち 1
3. 心の学問の成り立ち 2
4. 世界を感じる心の基本特性（閾値・順応・恒常性など）
5. 感覚・知覚 1
6. 感覚・知覚 2
7. 感覚・知覚 3
8. 記憶・忘却とその障害
9. 学習
10. 問題解決・推論
11. 感情 1
12. 感情 2
13. パーソナリティ
14. 発達
15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

試験もしくはレポート（60%）およびコメントシートの提出（40%）をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：『心理学の視点 25』（東北大学文学部心理学研究室（編），国際文献社） ISBN 978-4-910603-04-9

10. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について，論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LB43404, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニケーション行為の理論
2. Course Title (授業題目)：The theory of Communicative Action
3. 授業の目的と概要：ドイツの社会学者・哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』をドイツ語原文で精読する。
学術論文をドイツ語で精読する方法を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will closely read German sociologist and philosopher Jürgen Habermas' "Theory of communicative action" in the original German text.
In this class, students will learn how to do a close reading of academic articles in German.
5. 学習の到達目標：1) ドイツ語で学術論文を読解できる能力を獲得する。
2) 学術論文を精読するとはどのようなことなのかを理解できるようになる。
3) コミュニケーション行為理論の基本的な考え方を理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Students will acquire the ability to read and understand academic articles in German.
2) Students will be able to understand what it means to read academic articles closely.
3) Students will be able to understand the basic ideas of the theory of comm
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) イントロダクション
 - 2) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 1 回)
 - 3) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 2 回)
 - 4) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 3 回)
 - 5) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 4 回)
 - 6) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 5 回)
 - 7) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 6 回)
 - 8) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 7 回)
 - 9) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 8 回)
 - 10) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 9 回)
 - 11) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 10 回)
 - 12) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 11 回)
 - 13) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 12 回)
 - 14) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 13 回)
 - 15) まとめめの討論
8. 成績評価方法：
評価は、平常点 (毎回の訳文作成) による。
9. 教科書および参考書：
Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns, Band 1: Handlungsrationalität und gesellschaftliche Rationalisierung; Band 2: Zur Kritik der funktionalistischen Vernunft, Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1981.
10. 授業時間外学習：授業前に、各自、訳文を作成する。
授業後、授業での検討をふまえて、各自、訳文を再点検する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
ドイツ語学習 (文献読解) のために、社会学専修以外の学生の履修を歓迎する。
ドイツ語をこれから学ぼうとする学生の履修も受け付ける。初級文法を独習する必要があるなど、自主的な努力が必要になるが、1 回に進む分量が限定されているので、ドイツ語の初学者にとっても決して無理な内容ではない。参考書を提示するなど、ドイツ度文献読解法について助言をおこなう。ただし、履修にあたっては、ハーバーマスに限定されなくてもよいが、社会学理論に関心があることが望ましい。

科目名：専門ドイツ語／ Advanced Germany

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：松崎 裕人

コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底

2. Course Title (授業題目) : Deutsch besser lesen und verstehen

3. 授業の目的と概要：ドイツ語散文を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。

併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。

その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Lesen der erzählerischen Schriften.

Verwendung der wichtigen Materialien.

Ganz Erlernen elementaren Deutsches.

5. 学習の到達目標：中級ドイツ語の文献を読解することができる。

独和辞典や学習独事典・特殊事典を効果的に使うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Sie können Mitteldeutsch gut verstehen.

Sie können verschiedene Lexika und Materialien richtig benutzen.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1)
- 3 講読 (2) およびビューチャークンデについて
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4)
- 6 講読 (5) および独辞典の活用
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8)
- 10 講読 (9) および事典の活用
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

8. 成績評価方法：

小テスト (不規則動詞の単語テスト) 12 回 (50%)、授業での発表 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：

Stefan Zweig: Die Monotonisierung der Welt. (1925)

Stefan Zweig: Schachnovelle. (2013 Neuausgabe) [抜粋]

(いずれもプリント配布)

その他のテキストや参考文献については適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：毎回、テキスト 1 頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業は原則的に対面で行いますが、オンラインに切り替える場合は事前に告知します。

学習支援ツールには Google Classroom を利用します。

連絡先：hiroto.matsuzaki.c4@tohoku.ac.jp

(◎を@に換えてください。)

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：French oral and written expression
2. Course Title (授業題目)：French oral and written expression
3. 授業の目的と概要：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents (dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role - playing
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will take several forms：
 - reading of various types of texts
 - listening to audio documents (dialogues , songs ...)
 - analysis of visual documents
 - discussions on social issues
 - role playing
5. 学習の到達目標：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skillsThe course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In both oral and written form , the course will enable you to
 - enrich vocabulary and consolidate syntax
 - enhance argumentation skills
 - improve comprehension skillsThe course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Oral and written expression
 - 2) Oral and written expression
 - 3) Oral and written expression
 - 4) Oral and written expression
 - 5) Oral and written expression
 - 6) Oral and written expression
 - 7) Oral and written expression
 - 8) Oral and written expression
 - 9) Oral and written expression
 - 10) Oral and written expression
 - 11) Oral and written expression
 - 12) Oral and written expression
 - 13) Oral and written expression
 - 14) Oral and written expression
 - 15) Oral and written expression
 - 16) Film screening . Analysis and discussion .
8. 成績評価方法：

Attendance at all classes is required . Oral participation counts for 50 % . The evaluation will also be written (several short texts) .
9. 教科書および参考書：

The textbook will be chosen according to the students' level .
10. 授業時間外学習：Exercices will be used to review vocabulary and grammar points . Students will also be asked to write short texts related to the subject of the course .
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：中国文学基礎講読／ Chinese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LB43403, 科目ナンバリング：LHM-LIT213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代文読解による中国語実用文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Chinese Grammar through reading Chinese Contemporary Prose

3. 授業の目的と概要：【目的】中国語学習歴 1 年以上（中国語を母語とする者を除く）の受講生を対象に、中国語のより高度な読解能力を身につけてもらうことを目的として開講します。

【概要】現代中国語で書かれた随筆や短編小説を取り上げて精読します。それを通して、受講生が、これまでに学んできた中国語の基礎的な文法事項について再確認し、中国文化への理解を深めるとともに、中国語発音のブラッシュアップができるよう促します。授業ではテキストを輪番で音読し、読解しますので、受講生の十分な予習が求められます。なお、この授業は、中国語の講読演習を兼ね

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：【Course Objectives】

This course aims to further improve the students' ability to read contemporary Chinese texts.

【Course Synopsis】

In this course, students read essays or short stories written in modern Chinese. Through reading, students review

ba

5. 学習の到達目標：①現代中国語で書かれた随筆文や短編小説を、辞書を使いながら読んで理解し、適切な日本語に訳すことができる。

②現代中国語の文法についての高度な知識を習得し、文章の文構造を把握できる。

③現代中国語で書かれた文章を正しい発音で音読することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：①Students will be able to read essays or short stories written in modern Chinese and translate them in accurate Japanese by using dictionary.

②Students will acquire further knowledge about Chinese grammar, and be able to grasp the grammatical constructi

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 中国現代文読解 (1)

3. 中国現代文読解 (2)

4. 中国現代文読解 (3)

5. 中国現代文読解 (4)

6. 中国現代文読解 (5)

7. 中国現代文読解 (6)

8. 中国現代文読解 (7)

9. 中国現代文読解 (8)

10. 中国現代文読解 (9)

11. 中国現代文読解 (10)

12. 中国現代文読解 (11)

13. 中国現代文読解 (12)

14. 中国現代文読解 (13)

15. 中国現代文読解 (14)

8. 成績評価方法：

授業参加態度（発音・翻訳・応答などを含む）により総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

教材は授業開始時に配布する。

The materials will be handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：予習：単語の発音や意味を調べ、文構造や文法事項に留意しながら試訳文を作成する。

復習：主要な単語や文を暗記し、文構造を正しく理解できるようにする。

Preparation: Students are required to look up pronunciation and meaning of words in dictionary, translate the texts into Japanese with careful attention to grammatical construct

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB43502, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（2）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Classical Greek (2)
3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Continuing from the previous semester, students will deepen their study of the rudiments of classical Greek grammar. The course will basically follow the textbook, but the order will be changed as necessary. Important grammatical points will be explained
5. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ω 動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法
 - ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μ ι 動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞
 - 接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文
 - 希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文
 - 希求法を用いた条件文、ο τ ι, ως によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化
 - 直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文
 - 直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文
 - 直接法中・受動相アオリスト、事実と反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文
 - 接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、ε ως, π ρ ι ν の用法
 - 希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来
 - 受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υ π ο + 属格、手段・方法の与格
 - 能動相完了・過去完了・未来完了
 - 中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格
 - 命令法：ω 動詞
 - 命令法：μ ι 動詞
 - μ ι 動詞型の変化をすする第2アオリスト、動形容詞、動詞の腫瘍部分
 - 数詞
8. 成績評価方法：
 - 出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%
9. 教科書および参考書：
 - 水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税
10. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB43501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：パーリ語講読

2. Course Title (授業題目)：Pali Reading

3. 授業の目的と概要：文法事項，シンタクス，仏教用語などについて，繰り返し復習確認しながら，Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ，ブッダの伝記，ダンマパダ，ミリンダパンハーなど，言語と内容の両面を大切に組み込む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read some chapters of ANDERSEN: A Pāli Reader, e.g. Jātaka, Buddha's life story, Dhammapada, Milindapañha, etc. The course also helps students deepen their understanding both the grammatical points and that of the history of

5. 学習の到達目標：前期に習得した能力を基に，比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to acquire intermediate reading skills in Pāli.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)
- 2 同 (2)
- 3 同 (3)
- 4 同 (4)
- 5 「ブッダの誕生」(1)
- 6 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「四門出遊」(1)
- 10 同 (2)
- 11 同 (3)
- 12 同 (4)
- 13 『ダンマパダ』より
- 14 『ミリンダパンハー』より(1)
- 15 同 (2)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader. 後者は大学に必要部数が揃っているが，自分で持っていないでも後まで役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

10. 授業時間外学習：受講者は単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3セメスターのパーリ語を受講していることが望ましい。初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：実験心理学演習Ⅱ／ Experimental Psychology (Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB63101, 科目ナンバリング：LHM-PSY319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の心理と生理
2. Course Title (授業題目) : Emotion science on mind and body
3. 授業の目的と概要：この授業では、感情心理学・生理心理学に関する論文を読み、その内容を発表し、全員で議論する。講読する論文は、基本感情、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論などであり、順次関連付けながら進行する。そして、差別問題に感情がどのように関わっているかを考え、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。

キーワード：基本感情、嫌悪、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論、差別、行動免疫システム

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, every student will make presentations on articles of emotion/psychophysiology, and all students will discuss it. The articles are on basic emotions, CAD triad hypothesis, moral foundations theory, and so on. The discrimination problem will

5. 学習の到達目標：アクティブラーニングを通じて、心と体、さらには社会と関わる心理学について定見を得る。また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This class is designed to help students understand the wide range of psychology on mind/bod/society and to improve presentation skill through active learning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。資料提供や小レポートの提出、連絡などは Classroom を通じて行う。Classroom のクラスコードは教務係から通知されるので、それに基づいて必ず登録すること。以下のように講義を進めるが、実情に合わせて変更する。変更したスケジュールは、都度配布する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 主要テーマ 1：基本感情
- 3 回目 感情心理学の補足・展開 1
- 4 回目 発表 1：基本感情
- 5 回目 主要テーマ 2：CAD 三幅対仮説
- 6 回目 感情心理学の補足・展開 2
- 7 回目 発表 2：CAD 三幅対仮説
- 8 回目 主要テーマ 3：道徳基盤理論
- 9 回目 感情心理学の補足・展開 3
- 10 回目 発表 3：道徳基盤理論
- 11 回目 主要テーマ 4：コロナ問題
- 12 回目 感情心理学の補足・展開 4
- 13 回目 感情心理学の補足・展開 5
- 14 回目 発表 4：コロナ問題
- 15 回目 発表 5：コロナ問題

8. 成績評価方法：

毎時間の小レポート (60%)、期末レポート* (10%)、発表資料の提出と発表* (20%)、出席**と討議への参加 (10%)
上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと発表資料の提出と発表については、もれなく提出・実施した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

資料は Classroom 経由で提示する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

10. 授業時間外学習：論文 (和・英) を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

発表資料等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にすることがある。これを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。

なお、講義室のプロジェクタは VGA 端子 (D-sub15pin) もしくは HDMI なので、変換端子を用意すること。

発表以外の時もコンピュータ持参のこと。

科目名：英文学各論／ English Literature

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Paul Auster. Moon Palace (2) & Paul Auster. Man in the Dark
2. Course Title (授業題目)：Paul Auster. Moon Palace (2) & Paul Auster. Man in the Dark
3. 授業の目的と概要：現代アメリカの作家ヴポール・オースターの『ムーン・パレス』の後半部分と『マン・イン・ザ・ダーク』の原書を精読します。『マン・イン・ザ・ダーク』は、ある老人の人生が語られますが、複数の物語が同時並行的に描かれる実験的な技法が用いられています。筋は複雑ですが、読者を引き込む圧倒的な魅力をもっており、この作品を読むことは大きな知的満足を与えてくれるでしょう。前期は作品の前半部分を読みます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A close reading of the latter half of Paul Auster's "Invisible" and "Man in the Dark." In "Man in the Dark," a old man's life is described through multiple layers of stories. The plot structure is complicated, to be sure, but the reading experience of th
5. 学習の到達目標：(1)英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
(2)文学作品を分析する技法を身につける
(3)自分の意見を論理的に発表する力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history
(2) To be able to think logically and critically
(3) To develop the skill of reading literary texts written in English
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) Moon palace, pp. 233-252.
 - (3) Moon palace, pp. 253-270.
 - (4) Moon palace, pp. 271-288.
 - (5) Moon palace, pp. 289-307.
 - (6) Man in the Dark, pp. 1-23.
 - (7) Man in the Dark, pp. 24-46.
 - (8) Man in the Dark, pp. 47-69.
 - (9) Man in the Dark, pp. 70-92.
 - (10) Man in the Dark, pp. 93-115.
 - (11) Man in the Dark, pp. 116-138.
 - (12) Man in the Dark, pp. 139-161.
 - (13) Man in the Dark, pp. 162-180.
 - (14) Discussion
 - (15) Review and exam
8. 成績評価方法：
発表と授業参加 50%・試験 50%
9. 教科書および参考書：
Paul Auster. Moon Palace (Penguin Modern Classics, 1989).
Paul Auster, Man in the Dark (Faber & Faber, 2009).
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：現代日本学演習V／ Innovative Japanese Studies Seminar V

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-OHS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アダプテーション作品の分析からみる日本文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Culture through Analysis of Adapted Works
3. 授業の目的と概要：アダプテーションとは、もとにある作品を異なる形に移し替えて新たな作品を作ることを指す。日本におけるアダプテーションの歴史は古く、現代に至るまで盛んに行われている。この授業では、日本におけるアダプテーションの歴史を踏まえ、主に近世後期から近現代におけるアダプテーション作品を取り上げて受講生の興味関心に従い論じる。作品の分析を通して日本文化の特性を学ぶとともに、その作品が生まれたそれぞれの時代背景について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Adaptation refers to the process of creating a new work by transferring the original work into a different form. Adaptation in Japan has a long history and has been actively practiced up to the present day. In this class, based on the history of adaptation
5. 学習の到達目標：日本の文化と歴史について理解する。
作品を分析するための基本的なスキルや、様々な文献を読解する力を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand Japanese culture and history.
Learn basic skills for analyzing works and reading a variety of literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：アダプテーションの歴史と日本文化
第3回：課題設定、文献調査の方法について
第4回：担当者による発表と質疑応答①【近世後期の作品1】
第5回：担当者による発表と質疑応答②【近世後期の作品2】
第6回：担当者による発表と質疑応答③【近世後期の作品3】
第7回：担当者による発表と質疑応答④【近代の作品1】
第8回：担当者による発表と質疑応答⑤【近代の作品2】
第9回：担当者による発表と質疑応答⑥【近代の作品3】
第10回：担当者による発表と質疑応答⑦【近代の作品4】
第11回：担当者による発表と質疑応答⑧【現代の作品1】
第12回：担当者による発表と質疑応答⑨【現代の作品2】
第13回：担当者による発表と質疑応答⑩【現代の作品3】
第14回：担当者による発表と質疑応答⑪【現代の作品4】
第15回：これまでの発表のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
授業中の発表(40%)、出席・授業参加度(20%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB63210, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証
2. Course Title (授業題目) : Social Science and Bayesian Statistics
3. 授業の目的と概要：1) 社会現象をどのようにして数理モデルとして表現するのか，そしてデータを使ってそのモデルのフィットをどのように確認するのかを学ぶ。
2) 統計モデルを利用するうえで必要な確率論の基礎を学ぶ。あわせて経験科学的に興味深い問題を構成する力の基礎を涵養する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : 1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from
5. 学習の到達目標：Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
2.To learn mathematical formalization and modeling
3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は Classroom を使用します。
 1. イントロダクション モデルとはなにか
 2. 真の分布，確率モデル，データ
 3. 最尤推定
 4. ベイズ推定
 5. MCMC
 6. 確率分布
 7. 汎化誤差，AIC，WAIC，予測分布
 8. Stan による分析：回帰
 9. Stan による分析：モデル式の書き方
 10. Stan による分析：階層モデル 1
 11. Stan による分析：階層モデル 2
 12. Stan による分析：観測モデルとの接合
 13. Stan による分析：マーケティングへの応用
 14. Stan による分析：数理モデルと統計モデルの接続
 15. まとめと総括
8. 成績評価方法：
出席 [70%]，授業内の課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
教科書：松浦健太郎，2016，『Stan と R で統計モデリング』共立出版
参考書：久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。
浜田宏・石田淳・清水裕士，2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。
Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.
その他の参考書は適宜指示する
10. 授業時間外学習：予習に指定した範囲を事前に読んでくること。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
本演習では R と Stan による実装例を紹介するので，実行環境を整えた PC を準備できることが望ましい。
また高校・大学初年度レベルの微積分を復習しておくことが望ましい。

科目名：実験言語学演習／ Experimental Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-LIN340J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語実験の実践

2. Course Title (授業題目)：Practicum of linguistic experiment

3. 授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment or survey, prepar

5. 学習の到達目標：実証的な言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, by facing the big differences betw

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課す小課題（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。その自信がない場合は受講しないこと。

科目名：実験心理学演習 I / Experimental Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB63211, 科目ナンバリング：LHM-PSY318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：知覚・認知・感性科学の展開

2. Course Title (授業題目) : Development of Perception, Cognition, and Kansei Science

3. 授業の目的と概要：本演習では、実験心理学研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、⑤取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, we will read recent papers from experimental psychology and discuss them with the focus as follows: 1) the way to form a research hypothesis, 2) the selection of research methods to test a hypothesis, 3) sound data processing and analysis,

5. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること。

③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

④新たな研究課題を見つけることができるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are to help students 1) select a research topic and paper based on their interests and read the information they need, 2) evaluate the validity of hypothesis testing methods, 3) evaluate the novelty and significance of the research

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。ただし、状況に応じてオンライン授業を行う。

なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス (演習の進め方)

2. 話題提供・解説・討論

3. 話題提供・解説・討論

4. 話題提供・解説・討論

5. 話題提供・解説・討論

6. 話題提供・解説・討論

7. 話題提供・解説・討論

8. 話題提供・解説・討論

9. 話題提供・解説・討論

10. 話題提供・解説・討論

11. 話題提供・解説・討論

12. 話題提供・解説・討論

13. 話題提供・解説・討論

14. 話題提供・解説・討論

15. 話題提供・解説・討論

8. 成績評価方法：

出席(20%)、発表(40%)、討論への参加(40%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。

10. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておく必要がある。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライスコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019 年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of the history of feminism and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite
5. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the history of feminism. It also aims to consider social problems from the perspective of gender.
Furthermore, it is intended to help students think about issues of concern to them, to pose their own
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

第1回 イン트로ダクション
第2回 フェミニズムの歴史
第3回 ジェンダー研究の展開
第4回 家族の戦後体制
第5回 労働とジェンダー（統計データを読む）
第6回 主婦論争とは何か
第7回 第1次・第2次・第3次主婦論争
第8回 第4次主婦論争
第9回 第5次主婦論争
第10回 第6次主婦論争
第11回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
第12回 発表と討論①
第13回 発表と討論②
第14回 東大祝辞（2019 年）を読む
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。
Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to re

5. 学習の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practic

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：(1)言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2)研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史における日本とアジア
2. Course Title (授業題目)：Japan and Asia in Modern History
3. 授業の目的と概要：近現代日本とアジアの関係は、世界の中での日本の位置や抱えていた課題を示すものであった。本講義では、その関係を通して見える日本国内の政治経済構造の特質や、国際政治上の位置について考察することを目指す。具体的には、「大東亜共栄圏」と言われた戦時期の経済ブロック構想の内実とその実態について、それ以前・以後の歴史もふまえて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The relationship between modern Japan and Asia shows Japan's position in the world and the issues it faced. This lecture aims to understand the characteristics of Japan's domestic political and economic structure and its position in international politics
5. 学習の到達目標：(1) 近現代日本とアジアの関係について基礎的な事実を把握して理解できるようになる。
(2) 近現代日本の政治経済構想について理解できるようになる。
(3) 近現代における日本の国際社会での位置について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to grasp and understand the basic facts about modern Japan's relationship with Asia, Japan's political and economic structure, and its position in the international community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ガイダンス、概要、導入
 - 第2回 近代日本とアジア
 - 第3回 総力戦体制下の帝国日本の特徴とアジアとの関係
 - 第4回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(1)
 - 第5回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(2)
 - 第6回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(3)
 - 第7回 「大東亜共栄圏」構想の内実(1)
 - 第8回 「大東亜共栄圏」構想の内実(2)
 - 第9回 「大東亜共栄圏」政策の展開(1)
 - 第10回 「大東亜共栄圏」政策の展開(2)
 - 第11回 「大東亜共栄圏」政策の展開(3)
 - 第12回 「大東亜共栄圏」政策の展開(4)
 - 第13回 戦後の日本とアジア(1)
 - 第14回 戦後の日本とアジア(2)
 - 第15回 戦後の日本とアジア(3) とまとめ
8. 成績評価方法：

期末レポート60%、出席20%、ミニッツペーパー20%
9. 教科書および参考書：

教科書：安達宏昭『大東亜共栄圏—帝国日本のアジア支配構想—』中公新書、2022年。
参考書：安達宏昭『戦前期日本と東南アジア』吉川弘文館、2022年。安達宏昭『「大東亜共栄圏」の経済構想』吉川弘文館、2013年。

その他、必要に応じて参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：教科書、配付したプリントを、授業のために予習や復習を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
履修要件：受講者は「近現代史における日本とアジア」の未履修者に限る。
オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50 要予約

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象

2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cu

5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.

(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業はオンラインで実施する。

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

テキストとして配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：博物館実習Ⅲ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB63312, 科目ナンバリング：LHM-CUM308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館学資料分析法

2. Course Title (授業題目)：Field Work and Methodology on Museology

3. 授業の目的と概要：実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。授業以外にも、相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：For the purpose of skill learning in museum studies practice, the class material is composed of archaeological research records and artifacts.

This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifa

5. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面で行います。

なお、Classroomのクラスコードは 3e6klbu です。

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。

2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。

3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。

4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。

5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。

6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。

7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。

8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。

9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。

10. 写真撮影 (1)。

11. 写真撮影 (2)。

12. 写真撮影 (3)。

13. 保存処理に関する研修。

14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。

15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他(具体的には、受講態度、発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

1 0. 授業時間外学習：出土品の実測図作成などの宿題が相当量ある。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

前期（5セメスター）に考古学実習を履修していることが望ましい。本科目の履修には、考古学基礎実習（2単位）、および考古学実習（2単位）の既修程度（考古資料実測図の作製、発掘調査経験、遺物整理の基礎）が求められる。

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB63204, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：身体と美学：メルロー・ポンティの芸術論からシュミッツの雰囲気論へ
2. Course Title (授業題目)：The Aesthetics and the Body: From the theory of art in Merleau Ponty to Schmitz' s Atmospheres
3. 授業の目的と概要：二十世紀の哲学においては、人間の身体性 (embodiment)は色々考えなおされて、特にフッサールの開始した現象学派においては身体は大きな問題として見做られてきた。知覚も感情も身体的なものとして認めたら、芸術の鑑賞と創作にとっても身体は大事なものになった。M. Merleau・Ponty と H. Schmitz の芸術論が根本的に違いますが、両方の思想においては身体は根本的な役割を果たす。現象学へ入門して、この著者の美術論を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In 20th century philosophy, human embodiment has been thoroughly rethought, especially in the phenomenological line of philosophy inaugurated by Husserl. Recognizing the body as a site of both perception and emotion, involved in both the production and th
5. 学習の到達目標：現象学派の基礎的な知識を得て、その方法を美学・美術論の色々な問題に適用すること
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquiring a basic knowledge of phenomenology, and applying it to problems of aesthetics and art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 美学というのは何ですか。
 2. フッサールと現象学の歴史
 3. メルロー・ポンティの現象学
 4. 「知覚の現象学」
 5. 「知覚の現象学」2
 6. メルロー・ポンティの絵画論「セザンヌ論」1
 - 7.メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」
 - 8.メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」2
 9. H. Schmitz の身体論「哲学体系」
 10. H. Schmitz の雰囲気論1
 11. H, Schmitz の雰囲気論2 ・G. Bohme との議論
 12. H. Schmitz の雰囲気論3 芸術論
 13. 現代現象学と身体論
 14. 現代現象学と身体論 2
 15. 試験
8. 成績評価方法：

筆記試験 (100)
9. 教科書および参考書：

全ての資料はスライドでされる。

参照書として

M. Merleau Ponty 「知覚の現象学」「眼と精神」

「シュミッツ現象学の根本問題：身体と感情からの思索」 / 梶谷真司著
10. 授業時間外学習：無
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分を自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質 3 ページ程度ととても短いなが

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.

5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。

また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：島 越郎, 中村 太一

コード：LB83201, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 II

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学と自然言語処理
2. Course Title (授業題目)：Computational Social Science and Natural Language Processing
3. 授業の目的と概要：計算社会科学研究でよく用いられる自然言語処理技術の知識と応用能力を習得する。ニューラルネットワーク、単語埋め込み、ファインチューニングなどの概念を学ぶとともに、Word2vec モデルの実装、深層学習による文書分類、大規模言語モデルの応用など実践的な能力を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course focuses on the knowledge and techniques that widely applied in computational social science research.
Students will learn concepts, such as neural networks, word embeddings, and fine-tuning as well as hands-on application skills such as
5. 学習の到達目標：テキスト分析の一連のプロセスを理解し、Python で実装することを目標とする。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim is to understand a series of text analysis processes and put them into practice using Python.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 自然言語処理の基礎
 3. 深層学習の基礎
 4. ニューラルネットワーク
 5. 誤差逆伝播法
 6. Pytorch
 7. Word2vec モデル
 8. Word2vec の実装
 9. Word2Vec が人文・社会科学における応用
 10. RNN
 11. Seq2Seq
 12. Attention
 13. Transformer アーキテクチャ
 14. BERT
 15. 大規模言語モデル
8. 成績評価方法：
復習課題+出席 [70%], 期末課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
Lewis Tunstall, Leandro von Werra, Thomas Wolf, 「機械学習エンジニアのための Transformers —最先端の自然言語処理ライブラリによるモデル開発」, オライリージャパン
斎藤 康毅, 「ゼロから作る Deep Learning ② —自然言語処理編」, オライリージャパン
Delip Rao, Brian McMahan, 「Deep Learning for NLP with Pytorch」, O'Reilly
10. 授業時間外学習：参考書と配布資料などで予習・復習をする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
 - (1)前期の計算人文社会科学演習 I と併せて参加することが望ましい。あるいは、Python の基本的な使い方についての習熟を求める。
 - (2)本講義では Python の実習を含むため、PC を準備できることが望ましい。

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理
2. Course Title (授業題目)：Spirituality and Psychology of Religion
3. 授業の目的と概要：W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn about the classical theories of psychologists of religion, such as, Willam James, Sigmund Freud, or Carl Gustav Jung. This will help students understand the meaning of religion and spirituality in terms of human psyche.
5. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Student will learn the thought of psychologists and basic theory of their system, in order to understand how spirituality effects human in crisis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：古典的回心理解(1)
 - 第3回：古典的回心理解(2)
 - 第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)
 - 第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)
 - 第6回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
 - 第7回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム
 - 第8回：心理療法と宗教(1)
 - 第9回：心理療法と宗教(2)
 - 第10回：心理療法と宗教(3)
 - 第11回：心理療法と宗教(4)
 - 第12回：深層心理学と宗教(1)
 - 第13回：深層心理学と宗教(2)
 - 第14回：深層心理学と宗教(3)
 - 第15回：まとめ
8. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）／ Neuroscience and Physiological Psychology(Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB63302, 科目ナンバリング：LHM-PSY314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学
2. Course Title (授業題目)：Neuroscience and Physiological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students with their understanding about human neuron systems and about neural mechanisms underlying human cognitive functions such as learning, memory and emotion.
5. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how human cognitive functions evoked by brains.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進捗の予定は以下の通り。

- 第1回 日常生活を支える脳の仕組み
- 第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に
- 第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質
- 第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚
- 第5回 脳を測る：電気信号と化学信号
- 第6回 経験に基づく脳の変化
- 第7回 人の知情意を司る脳
- 第8回 ものを見るのは目か脳か？
- 第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？
- 第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？
- 第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？
- 第12回 お腹が空く理由は？
- 第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？
- 第14回 記憶を失った青年の話
- 第15回 心の病気＝脳の病気

8. 成績評価方法：

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は90分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LB63306, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世文学研究

2. Course Title (授業題目)：Chinese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：本授業では、中国の伝統的な注釈方法に基づいて、中国古典文学の作品を読解します。作品読解を通して中国古典文学の基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力の向上を目指します。授業は出席者による発表と質疑応答によって進めます。

後期は、主に南宋詞を読みます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the fundamental knowledge about Chinese classical literature, gain reading ability, analysis ability, through reading Chinese classical literature.

This course is centered on a presentation and a quest

5. 学習の到達目標：(1) 中国古典文の読解力を向上させる。

(2) 中国の文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。

(3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。

(4) 歴史的背景を踏まえ、中国の文学作品がどのように変化してきたかを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students improve Chinese classical Literature reading skill.

2. Students gain the perspective needed to analyze Chinese classical Literature.

3. Students gain the skills of using dictionaries, databases and original books and so on.

4. Students und

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりです。

1. ガイダンス

2. 発表と質疑応答 (1)

3. 発表と質疑応答 (2)

4. 発表と質疑応答 (3)

5. 発表と質疑応答 (4)

6. 発表と質疑応答 (5)

7. 発表と質疑応答 (6)

8. 発表と質疑応答 (7)

9. 発表と質疑応答 (8)

10. 発表と質疑応答 (9)

11. 発表と質疑応答 (10)

12. 発表と質疑応答 (11)

13. 発表と質疑応答 (12)

14. 発表と質疑応答 (13)

15. 発表と質疑応答 (14)

8. 成績評価方法：

授業への取り組み（レジュメ提出含む）：50%

発表（資料作成を含む）：50%

9. 教科書および参考書：

テキスト・資料等は、Google Classroom より配布予定。

参考文献等は授業中に指示。

10. 授業時間外学習：辞書類やデータベース等を活用して、予習・復習をしてください。

原文の語彙について語釈を見るだけでなく、前後の文脈も考慮した丁寧な読解をこころがけましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Self-Consciousness in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要：自己意識は、近代哲学全体を貫く基本的モチーフの一つです。〈私は私である〉ということをめぐる、それぞれの哲学者がきわめて多様な理解を展開しました。その中でも、ヘーゲルの『精神現象学』における自己意識の理論はきわめて独自のものといえます。そこでは、〈私〉は単独的なものとしてではなく、別の〈私〉との相互的な関係に常にあるものとされています。ヘーゲルの自己意識理論は、近代的市民社会のありように密接にかかわるものとして、後代の様々な思想家によって注目され続けてきました。その意味でも、『精神現象学』の自己意識理論
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Das Selbstbewusstsein ist eines der wichtigsten Themen in der neuzeitlichen Philosophie. Was das bedeutet, dass Ich Ich bin, darüber haben jede Philosophen in der Neuzeit seine eigene Theorie entwickelt haben. In diesem Kontext ist Hegels Theorie des Sel
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことができるようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション (授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：意識の一形態としての自己意識
第3回：自己意識の対象性について
第4回：生きたものは生きたものを対象とする——自己意識の対象としての生——
第5回：自己意識の基本的特徴としての欲望
第6回：自己意識と類
第7回：〈私は私である〉ことの意味とは
第8回：欲望の充足と自己確信
第9回：私と我々——自己意識の普遍性——
第10回：相互承認をめぐる
第11回：二重化された自己意識
第12回：主人と奴隷
第13回：労働と物の加工
第14回：労働を通じた自由の獲得
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phenomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス 一美術史と鑑定
- 2回目 江戸と浮世絵1 一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2 一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3 一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 6回目 武士の絵画1 一鑑戒一
- 7回目 武士の絵画2 一暢神一
- 8回目 京都と円山派1 一円山応挙一
- 9回目 京都と円山派2 一応挙の門人たち一
- 10回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 11回目 天下の台所・大坂の絵画
- 12回目 江戸の絵画1 一18世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 13回目 江戸の絵画2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 14回目 伊藤若冲 一その真実を探る

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社1970年代後半)

『日

10. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (1)
2. Course Title (授業題目)：A study of the Modern Japanese Political and Social History (1)
3. 授業の目的と概要：前期の史料講読の続講。参謀本部編『杉山メモ』と参謀本部戦争指導班『機密戦争日誌』を照合して読解し、関連する史料などとあわせて、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read the” Sugiyama Memo” edited by the General Staff Headquarters, which is a central document of the nation during the war, and the” Secret War Diary” by the War Guidance Group of the General Staff Headquarters, and use it t
5. 学習の到達目標：(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。
(2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
(3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.
(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.
(3) Through the above two t
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・史料の概要
 2. 日中戦争からアジア・太平洋戦争に至るころの陸軍に関する研究の把握
 3. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
 4. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
 5. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
 6. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
 7. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
 8. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
 9. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
 10. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
 11. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
 12. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
 13. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
 14. 『杉山メモ』『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
 15. これまでの報告と討論のまとめ
8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]
(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]
9. 教科書および参考書：

史料は、随時、配付する。
10. 授業時間外学習：『杉山メモ』『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:”○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約
履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LB63304, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought 2
3. 授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)
5. 学習の到達目標：卒業論文作成の準備と研究内容の深化
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Preparation of graduation thesis and deepening of research contents
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表1
 - 3、研究発表2
 - 4、研究発表3
 - 5、研究発表4
 - 6、研究発表5
 - 7、研究発表6
 - 8、研究発表7
 - 9、研究発表8
 - 10、研究発表9
 - 11、研究発表10
 - 12、研究発表11
 - 13、研究発表12
 - 14、研究発表13
 - 15、研究発表14
8. 成績評価方法：
レポート [50%] 平常点 [50%]
9. 教科書および参考書：
佐藤弘夫編『概説日本思想史』
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：松本 圭太, 鹿又 喜隆

コード：LB63309, **科目ナンバリング：**LHM-HIS310J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料分析法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Methodology of Archaeological Analysis

3. 授業の目的と概要：5 Semesterに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The m

5. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassromを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは rwhilal です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。

2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。

3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。

4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。

5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。

6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。

7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。

8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。

9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。

10. 写真撮影 (1)。

11. 写真撮影 (2)。

12. 写真撮影 (3)。

13. 保存処理に関する研修。

14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。

15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

1 0. 授業時間外学習：講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB63310, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course II

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善を図ることができる力を養成することを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials a

5. 学習の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・単独で教壇に立って授業を実施することができる

・自身の実践を客観的に分析することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善を図ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-design and run a course in collaboration with other students.

-teach a class independently

-analyze one's own practice objectively

-improve the classes and the course as a whole by reviewing

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/2)：コース開講の準備①

第2回 (10/9)：コース開講の準備②

第3回 (10/16)：模擬授業①

第4回 (10/23)：模擬授業②

第5回 (10/30)：模擬授業③

第6回 (11/6)：模擬授業④

第7回 (11/13)：模擬授業⑤

第8回 (11/20)：振り返り①

第9回 (11/27)：振り返り②

第10回 (12/4)：振り返り③

第11回 (12/11)：振り返り④

第12回 (12/18)：振り返り⑤

第13回 (1/8)：振り返り⑥、コースデザインの評価

第14回 (1/15)：授業分析中間発表

第15回 (1/22)：コース全体の振り返り、まとめ

12/25 は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目) : Doing Fieldwork: Methods in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acqu

5. 学習の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

8. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%] 報告書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB63402, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の思考法 II
2. Course Title (授業題目)：Fundamental Perspectives in English Linguistics II
3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、文献を正確に読む能力を育成するとともに、生成文法統語論の基本的な概念の理解を目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and introduce students to basic concepts of generative syntax, through intensive reading of English texts on English linguistics.
5. 学習の到達目標：①生成文法統語論の思考法や研究方法論を理解する
②批判的に英文を読む力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concepts and methodology of generative syntax and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は担当教員による講義、担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第 1 回：ガイダンス
第 2 回：導入
第 3 回：項交替
第 4 回：項交替の諸問題
第 5 回：項交替へのアプローチ (1)：変形規則による分析
第 6 回：項交替へのアプローチ (2)：語彙主義的分析と構文文法に基づく分析
第 7 回：項交替へのアプローチ (3)：反語彙主義的分析と機能主義的分析
第 8 回：与格交替 (1)：交替形間に見られる意味的な違い
第 9 回：与格交替 (2)：動詞の意味の違い
第 10 回：与格交替 (3)：交替形間に見られる機能的な違い
第 11 回：使役交替 (1)：他動詞形と自動詞形の意味の重なり
第 12 回：使役交替 (2)：被行為者項に見られる意味的制限
第 13 回：使役交替 (3)：原因項に見られる意味的制限
第 14 回：使役交替 (4)：交替形間に見られる語用論的な違い
第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
授業における発表とディスカッションへの参加 (40%)， 期末レポート (60%)
9. 教科書および参考書：
テキスト：Levin, Beth (2015) "Semantics and Pragmatics of Argument Alternations," Annual Review of Linguistics 1: 63-83. プリント使用。
10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し問題点について理解を深める (2 時間)。
The students are required to read the assigned part of the textbook in advance and prepare for in-class discussion and presentation. They are also required to review each class to have a better
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB63401, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from a sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aim of this course is to encourage students to think about issues of death and dying from a sociological perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1)
3. 現代社会における死 (2)
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1)
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2)
6. 中間まとめ
7. 終末期ケアの社会学 (1)
8. 終末期ケアの社会学 (2)
9. 終末期ケアの社会学 (3)
10. 死生観の社会学 (1)
11. 死生観の社会学 (2)
12. 死生観の社会学 (3)
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016 年）

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022 年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020 年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB63403, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participant)
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1)：テキストの背景
第三回：入門講義 (2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
【重要】 通年の受講が望ましい。

科目名：記述言語学演習／ Descriptive Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB63504, 科目ナンバリング：LHM-LIN338J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析

2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages

3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。

理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.

5. 学習の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。

・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践
2. Course Title (授業題目)：Practice of care around death by religious professionals
3. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn how religion has played the role of care for the people facing death.
5. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand from practical cases how religion has contributed to the care for the people facing death.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者（臨床宗教師）を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。
 1. 臨床宗教師の理念
 2. グリーフケアと宗教
 3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
 5. 終末期医療と宗教者
 6. 臨床心理学と宗教
 7. 民間信仰論
 8. 宗教間対話
 9. 臨床宗教師の実践報告(1)
 10. 臨床宗教師の実践報告(2)
 11. 臨床宗教師の実践報告(3)
 12. 臨床宗教師の実践報告(4)
 13. 臨床宗教師の実践報告(5)
 14. 臨床宗教師の実践報告(6)
 15. 臨床宗教師の実践報告(7)
8. 成績評価方法：
 毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。
9. 教科書および参考書：
 特に指定しない。
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB63505, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
読解は前期の続きから始めるが、後期から参加した受講生がいる場合は、前期の復習の時間を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読

第七節 宇宙論における、理性のじぶん自身との抗争の批判的判定

第八節 宇宙論的理念にかんする純粋理性の統制的原理

第九節 あらゆる宇宙論的観念にかんして、理性の統制的原理を経験的に使用することについて

 - I 世界全体という現象の合成における、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
 - II 直観において与えられた全体の分割にさいしての、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
数学的一超越論的理念の解決に対する結びの注、ならびに力学的一超越論的理念の解決への予備的注意
 - III 世界のできごとをその原因からみちびき出すさいの、導出の全体性にかんする宇宙論的諸理念の解決
自然必然性の普遍的法則と統合された、自由による原因性の可能性
普遍的自然必然性と結合された、自由という宇宙論的理念の解明
 - IV その現存在一般という面での、現象の依存性の全体性にかんする宇宙論的理念の解決
純粋理性のアンチノミー全体に対する結語
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students will improve the reading skills of historical materials in Ming Qing Period and understand the research method of Early Modern China which is necessary to write a graduation thesis.

5. 学習の到達目標：内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方
2. 明清史料研究Ⅱ- (1)
3. 明清史料研究Ⅱ- (2)
4. 明清史料研究Ⅱ- (3)
5. 明清史料研究Ⅱ- (4)
6. 明清史料研究Ⅱ- (5)
7. 明清史料研究Ⅱ- (6)
8. 明清史料研究Ⅱ- (7)
9. 明清史料研究Ⅱ- (8)
10. 明清史料研究Ⅱ- (9)
11. 明清史料研究Ⅱ- (10)
12. 明清史料研究Ⅱ- (11)
13. 明清史料研究Ⅱ- (12)
14. 明清史料研究Ⅱ- (13)
15. 明清史料研究Ⅱ- (14)

8. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB63502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：中国文学概論／ Chinese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LB44101, 科目ナンバリング：LHM-LIT202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国の小説と戯曲

2. Course Title (授業題目)：Chinese Novel and Drama

3. 授業の目的と概要：中国の小説・戯曲は、伝統詩文との関わりを保ちつつ、豊かな発展を遂げてきました。本講義では、「小説」と戯曲の起源を理解し、歴史的社会的背景をもとに中国の小説・戯曲がどのように発展してきたのかを、原文資料をもとに学びます。

授業を通して、受講生の中国の小説と戯曲に対する基礎知識の再確認と理解を深めることを主たる目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the origin of Chinese classical novel and drama, learn about changes Chinese classical novel and drama have undergone, based on historical and social background, using the original text.

The main purpose of this c

5. 学習の到達目標：(1) 中国文学史(小説・戯曲)について知識を深める。

(2) 中国の小説・戯曲の特徴を多角的に考察し、自分の言葉でまとめられる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students better understand Chinese literature history (classical novel and drama) .

2. Students consider the features of Chinese classical novel and drama from diversified standpoints, and describe them in their own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

資料を用いて、作品の成立までの背景、作者、概要等のポイントを解説し、原文を付した現代日本語訳によって作品を鑑賞します。(以下のトピックは、多少変更する場合があります。)

受講生には、配布された資料を読み、資料に関わる課題を提出することを求めます。

第1回 ガイダンス

第2回 志怪小説・志人小説

第3回 唐代伝奇

第4回 唐末から宋元への展開

第5回 宋から元の演劇

第6回 元の演劇と明初の短篇文言小説

第7回 『三国志演義』(1)

第8回 『三国志演義』(2)

第9回 『水滸伝』(1)

第10回 『水滸伝』(2)

第11回 『西遊記』

第12回 『金瓶梅』

第13回 明末清初の戯曲と短篇白話小説集

第14回 『聊齋志異』

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み：30%

課題(レポート)：70%

9. 教科書および参考書：

テキスト：資料配布

参考書：授業中に紹介

10. 授業時間外学習：配布する資料だけでなく、授業中に紹介する参考書等を積極的に読み、講義内容の理解を深めるようにしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学概論Ⅱ／Linguistics (General Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB44202, 科目ナンバリング：LHM-LIN216J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（運用）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to pragmatics

3. 授業の目的と概要：は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論の理論の概要を理解し、それらの理論を実証的に検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：According to our inner motivations, language is used for various purposes with various others in various situations. The study of pragmatics concerns the processes where a linguistic expression can have many different meanings depending on the context, si

5. 学習の到達目標：身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、実際の言語使用は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Upon completion of this course, each student should have an analytic perspective of pragmatics about language phenomena. Students are also expected to be aware of, and open-minded about the diversity of language uses, which are highly dependent upon indiv

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
- (2) 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
- (3) あいづち：促しか？さえぎりか？
- (4) 敬語の古今：通時的变化をたどる
- (5) 敬語の東西：共時的变化をたどる
- (6) 間接的発話行為：なぜはっきり言わないの？
- (7) ことばと感情：話し手の気持ちが現れる言語マーカー
- (8) 子どものことば：発達における共同注意の役割
- (9) ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
- (10) 母語と外国語：その習得過程の違い
- (11) ことばと加齢：衰える機能、保たれる機能、向上する機能
- (12) ことばの障害：語用論的処理を中心に

8. 成績評価方法：

毎回授業の最後に課す小課題（50%）、最終筆記試験（50%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。また、授業でとりあげた話題に照らして、日常的に使われていることばの機能を考え直していただくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本授業は、前期に開講される「言語学概論Ⅰ」とは独立しているので、前期の授業を受講していなくても差し支えない。本授業では、出席を重視する。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代哲学史

2. Course Title (授業題目) : History of Ancient Philosophy

3. 授業の目的と概要：・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からソクラテス、プラトン、アリストテレスを経てヘレニズム哲学、プロティノスまでの主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
・講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Milesian School to Socrates, Plato, and Aristotle to Hellenistic philosophers and Plotinus. Basically a lecture, but questions will be very welcome.

5. 学習の到達目標：・ミレトス学派からプロティノスまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。

・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Milesians to Plotinus.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派、クセノファネス

2. ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス（1）

3. セノンのパラドクス、パルメニデス（2）

4. エンペドクレス、アナクサゴラス、デモクリトス。プロタゴラス、ゴルギアス

5. ソクラテス

6. プラトン（1）

7. プラトン（2）

8. プラトン（3）

9. アリストテレス（1）

10. アリストテレス（2）

11. アリストテレス（3）

12. エピクロス派

13. ストア派

14. 懐疑派。プロティノス

15. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

ミニッツ・ペーパー

9. 教科書および参考書：

資料はクラスルームで配布する。

参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。
(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

予備知識は特に必要ない。

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：堀 裕. 安達 宏昭. 籠橋 俊光. 柳原 敏昭

コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史概説 2

2. Course Title (授業題目) : Lecture on Japanese History 2

3. 授業の目的と概要：本講義は、「都市」を通して、日本史の概要と特色を明らかにすることにある。「都市」とは一般に、人や物、情報が行き交う結節点であり、農村とは異なる景観をもつと考えられる。このような「都市」がなくては、そもそも国家が成り立たないことから、「都市」を考えることとは、国家や政治を考えることでもある。また、「都市」に暮らす人々の生き生きとした様子から、差別や自由といった歴史の深層を探り当てることもできる。このように、多面的な魅力を持つ「都市」ではあるが、そもそも「都市」とは何かを問うこと自体、研究史上の論点でもあった

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学ぶこと

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (安達)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学における都市 (柳原)
15. まとめ (堀・籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

受講生は、原則として文学部に在籍する者と、他学部の教職の関係から単位取得が必要な者ならびに 4 年生とする。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB44305, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 初級
2. Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)
3. 授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去）、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the
5. 学習の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業紹介・挨拶から
 3. 冠詞と名詞。
 4. 形容詞の二種類
 5. Essere
 6. Avere
 7. 規則動詞入門
 8. 不規則動詞入門
 9. 数字、時間、日付
 10. 中間テスト
 11. 過去入門
 12. 副詞の種類
 13. 疑問詞。
 14. 小テストと復習。
 15. 期末テストとまとめ。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：キャリアデザイン講座／ Carrier Design Course

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

semester：4 単位数：2

担当教員：猪股 歳之

コード：LB44306, 科目ナンバリング：LHM-OAR901J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る

2. Course Title (授業題目)：For making a concept of your own profession

3. 授業の目的と概要：この授業では、文学部学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていきえるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位は学部専門教育科目として卒業単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students of the Faculty of Arts and Letters will deepen their understanding of basic matters such as Japan's economic structure and labor legislation, have a concrete image of the actual "working" field, and take the initiative in their future.

5. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していきえるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to get a concrete image of their own work-life and think independently about their careers.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 日本経済の基本構造について(1)

3. 日本経済の基本構造について(2)

4. ビジネス全般について(1)

5. ビジネス全般について(2)

6. ビジネス全般について(3)

7. 公務員

8. 労働法

9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）

10. 業界・仕事研究セミナー(1)

11. 業界・仕事研究セミナー(2)

12. 業界・仕事研究セミナー(3)

13. 自己分析と就職活動(1)

14. 自己分析と就職活動(2)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業と指定されたセミナー等への参加およびその報告の提出（100％）。

9. 教科書および参考書：

特になし。必要な資料は授業時に配付する。

Necessary materials will be distributed during class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的にニュースやインターネット等を通じて経済情報に目配りすること。

Prepare for assignments given in class. Monitor economic information through news, the internet, etc. daily.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to classical Sanskrit literature II

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書およびシュパイエルの統語法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class continued from Sanskrit (Introduction to classical Sanskrit literature I), we aims to deepen our understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's "A Sanskrit Reader." We will read as much as possible by refe

5. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODダクシオン
2. 『ナラ王物語』第3章 23-25, 第4章 (ナラ王とダマヤンティへの対話) 1-5
3. 『ナラ王物語』第4章 6-13
4. 『ナラ王物語』第4章 14-22
5. 『ナラ王物語』第4章 23-31
6. 『ナラ王物語』第5章 (婿選びの式) 1-9
7. 『ナラ王物語』第5章 10-18
8. 『ナラ王物語』第5章 19-27
9. 『ナラ王物語』第5章 28-36
10. 『ナラ王物語』第5章 37-46
11. 『有益な教え (ヒトバデーシャ)』イントロダクション, プロローグ
12. 『有益な教え』プロローグ
13. 『有益な教え』プロローグ
14. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」
15. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」

8. 成績評価方法：

授業への出席状況と受講態度 (40%), 授業内容の理解度 (40%) および予習 (20%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar, J. S. Speijer: Sanskrit Syntax

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

サンスクリット語初級の知識を有すること。夏セメスターのサンスクリット語 (サンスクリット語基礎演習 I) と合せて受講するのが望ましい。

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅱ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-LIT218E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：William Shakespeare, Romeo and Juliet. The Invention of Love
2. Course Title (授業題目)：ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット 愛の発明
3. 授業の目的と概要：Romeo and Juliet is one of the most famous love stories in world literature. Its influence makes it one of the most popular plays by William Shakespeare. In this course, we will study the original English version of Shakespeare's play and consider a number
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：ロミオとジュリエット』は、世界文学の中で最も有名なラブストーリーのひとつである。その影響により、ウィリアム・シェイクスピアの戯曲の中でも最も人気のある作品のひとつとなっている。このコースでは、シェイクスピアの戯曲の英語原作を学び、ルネサンス期のイギリス演劇、世界の悲劇、ロマンチックな愛の観念、そしてティーンエイジャーという近代的な観念の発明におけるこの戯曲の歴史的重要性など、さまざまな側面について考察する。毎週クラスで戯曲の一部と一緒に学び、戯曲がどのように解釈され、上演されるかを見るために、いくつかの
5. 学習の到達目標：1: To read Shakespeare's play in English
2: To examine drama in a critical context
3: To enhance skills of intercultural awareness through literature
4: To improve intercultural communication through class discussion between Japanese students and exc
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: シェイクスピアの戯曲を英語で読む。
2: 批評的な文脈で戯曲を考察する。
3: 文学を通して異文化理解力を高める。
4: 日本人学生と交換留学生とのクラスディスカッションを通して、異文化コミュニケーションを深める。
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1: Introduction to Shakespeare

第2: Reading Romeo and Juliet: Act One

第3: Act One

第4: Act Two

第5: Act Two

第6: Act Three

第7: Act Three

第8: Act Four

第9: Act Four

第10: Act Five

第11: Act Five

第12: The Legacy of Romeo and Juliet

第13: Romeo and Juliet in popular culture

第14: Global Shakespeare

第15: 01/ 20 第15: Exam
8. 成績評価方法：
Assessment: short reaction writing (paragraphs) 30% Essay assignment 30% Mid-term test and final exam 40%
9. 教科書および参考書：
William Shakespeare. Romeo and Juliet. Edited by Rex Smith. Cambridge School Shakespeare. Cambridge UP, 2014.

1 0. 授業時間外学習 : Reaction comments on Google Classroom

Mid term test

Writing Assignment (short essay)

Final exam

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他 : なし

This class will be taught in English.

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：渡部 東一郎

コード：LB44301, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思想文献講読・初級 2

2. Course Title (授業題目) : Reading of Chinese Philosophical Classics, Elementary 2

3. 授業の目的と概要：道家の代表的書物の一つである『莊子』から、老荘折衷の傾向が見られるとされる外篇・知北遊篇を取り上げ、輪読していく。読解作業を通して思想系の文献に特徴的な思惟方式や表現形式に慣れるとともに、中国古典文全般に対する基礎的読解力を培う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : From the Zhuangzi, one of the most representative books of the Taoists, the students in this class will take up as texts and read in rotation the "Knowledge Rambling in the North" section of Outer chapters, which are said to show a tendency to blend the i

5. 学習の到達目標：思想系の文献に特徴的な思惟方式や表現形式に慣れるとともに、中国古典文全般に対する基礎的読解力を向上させることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The students will be able to become familiar with the modes of thought and forms of expression characteristic of thought-related literature, as well as develop basic reading comprehension skills for Chinese classical literature in general.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

〔授業内容・方法〕

授業は、あらかじめ割り当てられた範囲について担当者が訓読と現代語訳、注解を発表し、それを全員で討論する形で進める。

〔進度予定〕

1. 導入

2. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 1
3. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 2
4. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 3
5. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 4
6. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 5
7. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 6
8. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 7
9. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 8
10. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 9
11. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 10
12. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 11
13. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 12
14. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 13
15. 『莊子』外篇・知北遊篇 読解 14

8. 成績評価方法：

発表の内容 (50%)、討論への参加度 (50%)。

9. 教科書および参考書：

初回授業時にプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：発表担当者でなくとも、辞書等で調べ、訓読と現代日本語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後に十分な復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

特になし。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『法哲学講義』の良心論を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Hegel's theory of the conscience in "Vorlesungen über die Philosophie des Rechts"

3. 授業の目的と概要： この授業では、G. W. F. ヘーゲルがベルリン大学で行った「法哲学講義」のうち、1824/25年度の講義における良心論を精読します。このテキストはヘーゲル自身の手によるものではなく、聴講生であるグリースハイムによる筆記録です。そのため、ヘーゲル自身のテキストに比べてかなり読みやすいです。

良心の問題は道徳と宗教の間を理解する上で重要であるだけでなく、ヘーゲルの中心思想である絶対精神や純粋な知の形成過程を知る上で極めて重要です。ヘーゲルの良心論を読み解くことで、近代ドイツ哲学の特有な点を理解することが

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： We are going to read Hegel's theory of the conscience in the Vorlesungen über die Philosophie des Rechts of 1824/25 in original German text. This text is a note form Hegel's lecture in Berlin University, which is written by one of his students, names Gries

5. 学習の到達目標： ・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)： ・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション（授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認）

第2回：善とは何か（1）——主観性をめぐって——

第3回：善とは何か（2）——自己確信とは——

第4回：内面と確信（1）——志操について——

第5回：内面と確信（2）——自己規定をめぐって——

第6回：内面と確信（3）——否定性の役割とは——

第7回：内面と確信（4）——〈深み〉としての良心——

第8回：〈知〉としての良心（1）——一切を洞察する良心——

第9回：〈知〉としての良心（2）——責めを負うということ——

第10回：〈知〉としての良心（3）——行動との関係——

第11回：〈知〉としての良心（4）——悪の自覚——

第12回：善と悪（1）——偽善について——

第13回：善と悪（2）——自己矛盾をめぐって——

第14回：善と悪（3）——意志の役割とは——

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下を使用予定です。G. W. F. Hegel, Vorlesungen über die Philosophie des Rechts III. Nachschriften zu den Kollegien der Jahre 1824/25 und 1831, Hamburg 2015.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です [Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB44402, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級
2. Course Title (授業題目)：Italian Intermediate
3. 授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and w
5. 学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 紹介、復習テスト
 2. 過去と将来 直接法近過去その一
 3. 旅行の単語・方向と前置詞
 4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
 5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
 6. 自分の趣味・読解と作文
 7. 小テストと gerundio
 8. 非人称動詞。
 9. Volere と Vorrei (条件法現在)
 10. Potere と Sapere と riuscire
 11. 近過去と半過去
 12. 小テストと会話の練習。
 13. 近過去と半過去 2
 14. 作文の練習。
 15. 期末テストとまとめ。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読
2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History
3. 授業の目的と概要：西洋美術史の研究を行う上で基礎となる欧文文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。そのうえで、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for research of art works and to introduce the students to read the texts in other languages.
5. 学習の到達目標：西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history and read the reference books in other languages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 講読 (1)
 3. 講読 (2)
 4. 講読 (3)
 5. 講読 (4)
 6. 講読 (5)
 7. 講読 (6)
 8. 講読 (7)
 9. 講読 (8)
 10. 講読 (9)
 11. 講読 (10)
 12. 講読 (11)
 13. 講読 (12)
 14. 講読 (13)
 15. 講読 (14)
8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、課題 (50%)
9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.
10. 授業時間外学習：授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：地理学B / Geography B

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：磯田 弦

コード：LB64102, 科目ナンバリング：LHM-GE0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地理情報科学を導入した地理教育
2. Course Title (授業題目)：Incorporating Geographical Information Science in Geography Education
3. 授業の目的と概要：高校の新しい必修科目「地理総合」では、第 1 章で地理情報システム (GIS) が紹介され、その後の国際理解や国際協力および地域調査の教育において地理情報システムを活用することが求められている。この授業ではまず、地理情報システムとその学問的基盤である地理情報科学について概説したのち、学校教育において地理情報をどのように活用すべきかを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：A new compulsory subject in high school "Comprehensive Geography" introduces Geographical Information System (GIS) and expects to utilize GIS in subsequent chapters dealing with International understanding and cooperation, and in regional research. This lec
5. 学習の到達目標：(1) GIS および地理情報科学がどのようなものかわかる
(2) GIS に関連した教材としてどのようなものがあるか知っている
(3) GIS を活用した自然地理学および人文地理学の授業・実習を構成できる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Knows what are GIS and Geographical Information Science
(2) Knows available teaching materials associated with GIS
(3) Able to compose a lecture incorporating GIS
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義ののち、授業を構成する課題をグループワークで行い、発表する。

1. 地理総合で求められている地理教育
2. 地理情報システム・地理情報科学とは
3. 地理教育内容とオンライン教材
- 4-5. 自然地理学的な実習
- 6-7. 人文地理学的な実習
- 8-9. 課題 1 準備
- 10-11. 課題発表 1
- 12-13. 課題 2 準備
- 14-15. 課題発表 2

8. 成績評価方法：
課題にもとづく（個人またはグループで、受講生数による）

9. 教科書および参考書：

文部科学省「【地理歴史編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説」、平成 30 年

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/11/22/1407073_03_2_2.pdf

高校で地理を履修していない方は、いずれかの出版社の地理総合の教科書の購入をおすすめする。

- 1 0. 授業時間外学習：授業案を考案する課題が複数回課されるため、相応の授業時間外学修を必要とする。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

課題のうち優秀な作品はインターネット等で公開する可能性があり、その際は同意を求めます。

科目名：理論言語学演習／ Theoretical Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB64101, 科目ナンバリング：LHM-LIN339J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目) : Language and thought

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、言語学の基礎を学ぶことである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this class is to learn the basics of linguistics through a critical review of research cases on language and thought.

5. 学習の到達目標：下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。

a) オーストロネシア語族の言語の形態統語的特性

b) 言語と思考の関係

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of the course, students should acquire a basic understanding of

a) morphosyntactic properties of Austronesian languages, and

b) the interaction of language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 月田 (2009a)
- 3 Tsukida (2005) 1
- 4 Tsukida (2005) 2
- 5 McDonnell and Chen (2022)
- 6 Chen (2023)
- 7 月田 (2009b) 6.1-6.2
- 8 月田 (2009b) 6.3
- 9 月田 (2009b) 6.4-6.5
- 10 月田 (2009b) 6.6
- 11 月田 (2009b) 6.7-6.8
- 12 月田 (2009b) 6.9-6.11
- 13 月田 (2009b) 6.12-6.13
- 14 月田 (2009b) 7.1-7.5
- 15 月田 (2009b) 7.6-7.7

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・課題：40%
- ・議論への積極的な参加：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB64201, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『シャタパタ・ブラーフマナ』 I 6, 3 (B.C. 650 頃以降) 「Indra による Vrtra 退治」の神話を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber の校訂本及び Kalyan-Bombay 版を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will read Satapatha-Brahmana I 6, 3. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2 - 1 5 Satapatha-Brahmana I 6, 3
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

Satapatha-Brahmana (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Student; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar 等。
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB64205, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：An Introduction to Syntax II

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、生成文法による自然言語の分析に関する入門書を読み、語や文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course, which is a continuation of An Introduction to Syntactic and Morphological Structures I from the spring, provides an intensive introduction to how various words and sentences are analyzed in terms of key notions of the approach to the study of

5. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (1)

3 Binding and the Hierarchical Nature of Phrase Structure (2)

4 Apparent Violations of Locality of Selection (1)

5 Apparent Violations of Locality of Selection (2)

6 Apparent Violations of Locality of Selection (3)

7 Infinitival Complements: Raising and Control (1)

8 Infinitival Complements: Raising and Control (2)

9 Wh-questions: Wh-movement and Locality (1)

10 Wh-questions: Wh-movement and Locality (2)

11 Wh-questions: Wh-movement and Locality (3)

12 Wh-questions: Wh-movement and Locality (4)

13 Probing Structures (1)

14 Probing Structures (2)

15 Probing Structures (3)

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Dominique Sportiche, Hilda Koopman and Edward Stabler (2014) An Introduction to Syntactic Analysis and Theory, Wiley Blackwell.

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。授業後は、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

前期に英語学演習を履修済みであることが望ましい。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LB64202, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス研究の視座と方法
 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
 7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
 8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
 10. コミュニケーション行為概念の再規定
 11. 生活世界論の再構成
 12. 生活世界とシステム
 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
 14. 再構成的社会学の可能性
 15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会心理学演習 I / Social Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB64210, 科目ナンバリング：LHM-PSY322J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪・非行と心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the psychological knowledge related to crime and delinquency through extensive reading of literature on social psychology and criminal psychology conducted using empirical methods. Students not only read designated

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to acquire following points.

1. By touching on the modern research in social psychology and criminal psychology, students will deepen their understanding of psychological theories and findings on crime and delinquency.

2. Student

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目は対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

8. 成績評価方法：

発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去 5 年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

なお、発表論文については、事前に担当教員にメールにて送付すること。他受講生の発表論文は ISTU にて事前に受講生に配布するので、各自印刷等を行うこと。

The textbook is not s

10. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、

発表資料の改定を求める。

In order to prepare for the lecture, students should be able to explain their paper to other students using PowerPoint etc. In order to

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

履修状況によって、授業形態や発表回数に変更になることがある。初回の授業で授業形態や発表担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

The class format and number of presentations may be changed depending on the number of students. We will adjust the class format and the number o

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ロシア革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Russian Revolution Revisited

3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.

5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1)a
3. 試訳の検討と討論 (1)b
4. 試訳の検討と討論 (1)c
5. 試訳の検討と討論 (1)d
6. 試訳の検討と討論 (1)e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2)a
9. 試訳の検討と討論 (2)b
10. 試訳の検討と討論 (2)c
11. 試訳の検討と討論 (2)d
12. 試訳の検討と討論 (2)e
13. 小括 (2)
14. 課題発表
15. 総括

8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

9. 教科書および参考書：

開講後発表。

10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：中国語学演習／

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-LIT340J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Modern Mandarin Chinese Linguistics

3. 授業の目的と概要：中国語で書かれた現代中国語文法を扱った論文を精読し、中国語を読む能力と現代中国語に関する文法問題を考える能力の養成を目的とする。また、論文に関連する文法現象のなかで、受講生が各自テーマを絞って、最後にレポートとしてまとめる。全体を通して、現代中国語文法に関する知識を深め、基本的な研究手法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability in reading Chinese and approaching linguistic research questions about modern Mandarin Chinese. Also, students are required to find a certain topic related to the articles we read in class and write a report a

5. 学習の到達目標：①現代中国語文法における重要な概念を理解し、説明することができる。

②現代中国語文法に関する問題点を発掘する力を身につける。

③関心のあるテーマについて学術的なレポートを作成する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will understand the essential concepts in modern Mandarin Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

②Students will develop the ability to notice possible research questions about modern Mandarin Chinese.

③Students will ac

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>輪読形式で進める。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 研究論文4 (1)

第3回 研究論文4 (2)

第4回 研究論文4 (3)

第5回 研究論文4 (4)

第6回 研究論文5 (1)

第7回 研究論文5 (2)

第8回 研究論文5 (3)

第9回 研究論文5 (4)

第10回 研究論文6 (1)

第11回 研究論文6 (2)

第12回 研究論文6 (3)

第13回 研究論文6 (4)

第14回 研究論文6 (5)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み、授業内発表：50%

期末レポート：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995年

10. 授業時間外学習：予習：事前にテキストの指定箇所を読んだうえ、和訳を考え、さらに問題点を整理する。

復習：テキストや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリソン『カントの超越論的観念論』を読む

2. Course Title (授業題目)：Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense

3. 授業の目的と概要：アリソンの『カントの超越論的観念論 — 解釈と擁護』(改訂増補版, 2004年)を読む(英語)。おそらくここ四半世紀でもっとも重要な『純粹理性批判』の研究書であり、ひとつの里程碑として踏まえておくべきという地位をなお失っていないと思われる。

予定では、第1部の The Nature of Transcendental Idealism から読み始め、時間が許せば受講生の関心に応じて別の箇所へ進む。演習では担当者による要旨の発表(日本語)につづいて、討議によって理解を深めるものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Reading Kant's Transcendental Idealism by Henry E. Allison.

5. 学習の到達目標：英語の専門的なカント研究書を読みこなす力をつけること。アリソン式のカント解釈の概要を学ぶこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To read a scholarly work on Kant in English. To obtain an overview of Allison's interpretation of Kant.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Part I The Nature of Transcendental Idealism

1 An Introduction to the Problem

2 Transcendental Realism and Transcendental Idealism

3 The Thing in Itself and the Problem of Affection

Part II Human Cognition and Its Conditions

4 Discursivity and Judgment

5 The Sensible Conditions of Human Cognition

6 The Intellectual Conditions of Human Cognition

Part III Categories, Schemata, and Experience

7 The Transcendental Deduction

8 The Schematism of the Understanding and the Power of Judgment

9 The Analogies of Experience

10 Inner Sense and the Refutation of Idealism

Part IV The Transcendental Dialectic

11 Reason and Illusion

12 The Paralogisms

13 The Antinomy of Pure Reason

14 The Ideal of Pure Reason

15 The Regulative Function of Reason

8. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004. ISBN-13: 978-0300102666.

(講読箇所のコピーを配布する。その他の箇所や文献表を参照するには、上記の冊子を買うほうが望ましい。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術資料を読む

2. Course Title (授業題目)：Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要： 本講は本当の意味での「美術鑑賞」を行うための実践的授業で、講師の近著である『鑑定学への招待』に書いた内容を実際に行う。つまり、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」する。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかないとい一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのよ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides programs of training to read information on Japanese art work. It helps students learn about the differences between Japanese art work by comparison and appreciate them.

5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read information on art work and explain their thoughts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行ってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は講師が作品について論じる。以下におおよその内容を示しておく。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 絵画

5 回目 刀装具

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 絵画

9 回目 和鏡

10 回目 絵画

11 回目 陶磁器

12 回目 絵画

13 回目 受講生による作品の比較発表

14 回目 受講生による作品の比較発表

15 回目 受講生による作品の比較発表

8. 成績評価方法：

事前にクラスルームに掲げる画像を予習として分析しておき、授業当日に行う質疑内容によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1

10. 授業時間外学習: 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法 II -言語変化研究
2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language II: study of language change
3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will clarify the linguistic changes that have occurred in the history of the Japanese language, and analyze them from the viewpoint of what kind of changes there were and why they occurred. Participants will conduct their own research a
5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
(3) be able to conduct research to clarify
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 言語変化研究の現状(1)
 3. 言語変化研究の現状(2)
 4. 言語変化研究の現状(3)
 5. 言語変化研究の問題意識(1)
 6. 言語変化研究の問題意識(2)
 7. 言語変化についての研究発表(1)
 8. 言語変化についての研究発表(2)
 9. 言語変化についての研究発表(3)
 10. 言語変化についての研究発表(4)
 11. 言語変化についての研究発表(5)
 12. 言語変化についての研究発表(6)
 13. 言語変化についての研究発表(7)
 14. 言語変化についての研究発表(8)
 15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ
8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。
その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。
10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。
日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB64203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

semester：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB64302, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習
2. Course Title (授業題目)：German Linguistics (Seminar)
3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education. Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.
5. 学習の到達目標：B1~B2 レベルのドイツ語を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Klima VI - Brief
 2. Klima VII - Wortakzent und Satzakzent
 3. Klima VIII - Präpositionen
 4. Klima IX - Komparation
 5. Klima X - Plusquamperfekt
 6. Etikette I - Höflichkeitsregeln
 7. Etikette II - Parabeln
 8. Etikette III - Rollenspiel
 9. Etikette IV - Ausdruck der Bewegungsrichtung
 10. Etikette V - Hörverstehen Interview
 11. Etikette VI - Gedicht
 12. Etikette VII - Satzakzent und Rhythmus
 13. Etikette VIII - Konjunktiv II
 14. Etikette IX - Verben mit Präpositionen
 15. Etikette X - Nominalisierungen
8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する
9. 教科書および参考書：

Stufen International 2
10. 授業時間外学習：毎回の課題・宿題
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：心理学各論 I / Psychology (Special Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：WIWATTANAPANTUWO

コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-PSY326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学

2. Course Title (授業題目)：The Psychology of Well-being

3. 授業の目的と概要：1946 年の世界保健機関 (WHO) 憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態 (well-being) であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている (厚生労働省)。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイング研究について論ずる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The constitution of the World Health Organization (WHO) in 1946 rose the term of 'Health' as a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. This course will introduce you to the world of well

5. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。

2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。

3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students can explain the definition of well-being, the way to measure well-being, and its relationship with other psychological factors.

2. Students can identify the change of well-being between the 'usual time' and 'unusual time' such as, natural di

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。

1. ウェルビーイングの定義とその使い方

2. ウェルビーイングの種類：ヘドニック&ユダイモニク

3. ポジティブ心理学および心理的介入

4. 文化、多様性、およびウェルビーイング

5. ウェルビーイングと持続可能性

6. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (1)

7. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (2)

8. 災害・心理学・及びウェルビーイング

9. 災害中およびその後の人間の感情と反応：英雄のおよびハネムーンフェーズ

10. 災害中およびその後の人間の感情と反応：幻滅と再構築フェーズ

11. 災害中およびその後の人間の感情と反応：噂、パニック、および犯罪

12. 災害時の群衆および集団行動

13. 災害時の心理的サポート活動

14. 災害とメンタルヘルス

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 80%

受講態度 20% (授業内での議論への参加度)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：フランス文学演習Ⅱ／ French Literature (Seminar)II

曜日・講時：後期 木曜日 4講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB64402, 科目ナンバリング：LHM-LIT332J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Reading , Understanding , Interpreting
2. Course Title (授業題目)：Reading , Understanding , Interpreting
3. 授業の目的と概要：Activities include :

- oral reading practice
- methodical analysis of literary texts
- oral and written expression exercises

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Activities include :

- oral reading practice
- methodical analysis of literary texts
- oral and written expression exercises

5. 学習の到達目標：The aims of the course are as follows :

- initiate students to the analysis of literary texts
- increase reading and listening comprehension skills
- increase oral and written expression skills

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are as follows :

- initiate students to the analysis of literary texts
- increase reading and listening comprehension skills
- increase oral and written expression skills

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Methodical reading
- 3) Methodical reading
- 4) Methodical reading
- 5) Methodical reading
- 6) Methodical reading
- 7) Methodical reading
- 8) Methodical reading
- 9) Methodical reading
- 10) Methodical reading
- 11) Methodical reading
- 12) Methodical reading
- 13) Methodical reading
- 14) Methodical reading
- 15) Methodical reading
- 16) Screening of a film related to literature . Analysis and discussion

8. 成績評価方法：

Assessment will initially take the form of a continuous oral examination (participation in classes) , and in writing (short texts) .

This will account for 60 % of the overall assessment . At the end of the semester , assessment will take the form of

9. 教科書および参考書：

Texts will be supplied to students .

10. 授業時間外学習：Students will be required to do some preparatory reading and write short texts related to the subject of the course .

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：考古学各論／ Archaeology

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：菅野 智則

コード：LB64401, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：先史文化の考古学
2. Course Title (授業題目)：Archeology of the prehistory culture
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is to understand the prehistoric culture (Jomon culture) in the so-called "Jomon Period," the prehistoric period of the Japanese archipelago. Archaeological research on the Jomon culture has so far focused mainly on artifacts such
5. 学習の到達目標：(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Understand the history of research on Jomon culture to date. (2) Understand the various perspectives and research methods used in the study of Jomon culture. (3) Learn the fundamentals for understanding not only Jomon culture but also prehistoric culture
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。
 - 2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。
 - 4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第2次世界大戦前後における縄文文化研究、1980年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の3段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。
 - 8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。
 - 9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の3期に区分して、それぞれの時期に関して2回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。
 - 15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚や湿地帯遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。
8. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。
10. 授業時間外学習：講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）
メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：下田 真奈美

コード：LB64403, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：書表現の基礎(二) (かな)

2. Course Title (授業題目)：The Elements of Calligraphy Expression (2) (Hiragana Character)

3. 授業の目的と概要：○ いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。

○ かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to imitate the penmanship from the writing style of each 'iroha' syllabary to the "Koyagire, the Third type". In addition, students thoroughly learn writing method with kana small brushes from the basics.

5. 学習の到達目標： 独力でかなの古典臨書ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students write classic kana character according to a copybook by yourself.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. かな用小筆の執筆法・運筆法
3. 基本練習といろは単体 1
4. いろは単体 2
5. いろは単体 3
6. いろは単体のまとめ
7. 変体仮名
8. 連綿
9. 高野切第三種の臨書 1
10. 高野切第三種の臨書 2
11. 高野切第三種の臨書 3
12. 高野切第三種の臨書 4
13. 高野切第三種の臨書 5
14. 高野切第三種の倣書 (下書き)
15. 高野切第三種の倣書 (清書)

8. 成績評価方法：

出席 (毎時、清書提出) [100%]

9. 教科書および参考書：

肉筆手本・プリント・高野切三種 (影印本) 等。

10. 授業時間外学習： 14. 「高野切第三種の倣書 (下書き)」、15. 「高野切第三種の倣書 (清書)」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語・日本文化論各論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Special Lecture)II

曜日・講時：後期 木曜日 4講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB64404, 科目ナンバリング：LHM-OHU309E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文化論各論 II

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Special Lecture) II

3. 授業の目的と概要：本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ (taking the first course is not a strict requirement), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and

5. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.

2) Recognize ke

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku I: What is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku II: A history of fan practices in Japan
3. Different types of fan engagement and fan creativity
4. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
5. Various media of otaku market I: Anime industry today
6. Various media of otaku market II: How anime is made
7. Various media of otaku market III : How manga is made
8. Various media of otaku market IV: Manga industry in the 21 century
9. 2.5-jigen practices I: Voice acting in the Japanese popular media (history)
10. 2.5-jigen practices II: Voice acting in the Japanese popular media today
11. 2.5-jigen practices III: 2.5 stage plays/musicals
12. 2.5-jigen practices IV: Anime tourism (contents tourism)
13. 2.5-jigen practices V: Cosplay
14. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
15. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（20%）、課題（70%）、および授業への貢献を加味する（10%）
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

使用言語は_英語_です。

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB45102, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：形態論入門 II
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology II
3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、自然言語で用いられている語の成り立ちを分析する形態論の入門書を読み、形態論の基本的考え方を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course, which is a continuation of Introduction to Morphology I from the spring semester, provides an intensive introduction to the study of word formation known as morphology by reading a textbook showing how to find and analyze morphological data.
5. 学習の到達目標：語形成に関する言語現象を実際に分析することにより、形態論に関する基本的な概念や用語を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn basic concepts and terminology concerning morphological theory through hands-on activities designed to encourage them to gather and analyze morphological data.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 Inflection (1)
 - 3 Inflection (2)
 - 4 Inflection (3)
 - 5 Typology (1)
 - 6 Typology (2)
 - 7 Typology (3)
 - 8 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (1)
 - 9 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (2)
 - 10 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (3)
 - 11 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (1)
 - 12 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (2)
 - 13 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (3)
 - 14 Theoretical Challenges (1)
 - 15 Theoretical Challenges (2)
8. 成績評価方法：

学期末レポート
9. 教科書および参考書：

Rochelle Lieber (2022) Introducing Morphology, Cambridge University
10. 授業時間外学習：予習では、自分のわからない箇所を明らかにした上で授業に臨む。
復習では、授業で学んだ考え方を具体的な言語現象に当てはめて考えてみる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：言語学基礎講読Ⅱ／Linguistics (Introductory Reading) II

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB45103, 科目ナンバリング：LHM-LIN218J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語認知脳科学への招待
2. Course Title (授業題目)：Invitation to cognitive neuroscience of language
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた入門書の講読を通じて、言語認知脳科学の基礎を身につけます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn the basics of cognitive neuroscience of language by reading an introductory textbook written in English.
5. 学習の到達目標：英語で書かれた言語認知脳科学の文献が読めるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this semester, students should be able to read literature of cognitive neuroscience of language written in English.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Guidance
 - 2 Introduction
 - 3 The tool box
 - 4 Sounds in the brain
 - 5 A neural code for speech
 - 6 Activating words
 - 7 Representing meaning
 - 8 Structure and prediction
 - 9 Composing sentences
 - 10 Building dependencies
 - 11 Wrapping up
 - 12 Syntactic structure
 - 13 Information structure
 - 14 Interaction
 - 15 Review and exam
8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

 - ・発表：40%
 - ・課題：40%
 - ・平常点：20%
9. 教科書および参考書：

教科書

Brennan, Jonathan R. (2022) Language and the Brain: A Slim Guide to Neurolinguistics. Oxford University Press.
ISBN-10 : 0198814763
ISBN-13 : 978-0198814764
10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。
Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Religions Studies II

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB65103, 科目ナンバリング：LHM-EDU916J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教教育の問題点
2. Course Title (授業題目)：Issues in teaching religion in the classroom
3. 授業の目的と概要：中学生高校生に宗教を教える際の問題点を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Each student learns basic issues in teaching religion in the classroom.
5. 学習の到達目標：世界の諸宗教について教える際の問題点を分かりやすく説明できるようにする。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students develop an ability to give a plain explanation of issues in teaching world religions in classroom.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) イントロダクション
 - (2) 日本の宗教 1
 - (3) 日本の宗教 2
 - (4) 日本の宗教 3
 - (5) 日本の宗教 4
 - (6) 日本の宗教 5
 - (7) 世界の宗教 1
 - (8) 世界の宗教 2
 - (9) 世界の宗教 3
 - (10) 世界の宗教 4
 - (11) 世界の宗教 5
 - (12) 世界の宗教 6
 - (13) 現代の宗教 1
 - (14) 現代の宗教 2
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：

期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

Religion in the Classroom: Dilemmas for Democratic Education
by Jennifer Hauver James, Simone Schweber, et al. Routledge; 1st edition (December 22, 2014)
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
原則として、受講者は教員採用試験受験を予定している教員志望者で、前期に宗教科教育法 I を履修し、宗教科免許取得を希望している者とする。

科目名：考古学基礎実習／ Archaeology (Introductory Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時, 後期 金曜日 2 講時

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：鹿又 喜隆, 松本 圭太

コード：LB45101, 科目ナンバリング：LHM-HIS208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学資料の観察と記録

2. Course Title (授業題目) : Introductory Field Work of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides sufficient opportunities to draw projected figure of archaeological material as several lithic tools, potteries and a polished stone axe. It is also important to understand manufacture sequence, utilization and breakage of the tool. Pr

5. 学習の到達目標：(1) 考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。(2) 特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn how to draw archaeological material. They also learn how to observe and understand archaeological materials through this course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通りです。

また、Classroom のクラスコードは xg7pjlr です。

1. 考古学における資料化
2. 剥片の実測図作成
3. ツールの実測図作成
4. 石核の実測図作成①
5. 石核の実測図作成②
6. 石核の実測図作成③
7. 磨製石器の実測図作成①
8. 磨製石器の実測図作成②
9. 縄文土器の実測図作成①
10. 縄文土器の実測図作成②
11. 縄文土器の実測図作成③
12. 縄文土器の実測図作成④
13. 土師器・須恵器の実測図作成①
14. 土師器・須恵器の実測図作成②
15. 拓本の作成と断面実測

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [30%]・(○) その他 (具体的には、提出課題と受講態度) [70%]

9. 教科書および参考書：

実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。

10. 授業時間外学習：課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題 (実習整理室での宿題) がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB45203, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信
2. Course Title (授業題目)：Data processing and information providing with a computer
3. 授業の目的と概要：この授業ではExcelなどのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。
- ・Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・PowerPointを使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
- ・インターネットで文書

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- ・Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- ・Introduction to data processing with R
- ・Creating MS Powerpoint

5. 学習の到達目標：・Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・Webページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・プログラミング言語Pythonを使って簡単なプログラムを作れるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:

- ・Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- ・Create effective slides for presentation
- ・Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- ・De

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBAプログラミング)
7. PowerPointを使用したスライドの作成
8. Rを利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScriptを使用したWebページの作成 (その1～その4)
13. SQLを使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語Pythonを使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらい、レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、classroomの授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：<事前学習>毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。

<事後学習>実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

連絡用のメールアドレスは classroom のストリームで公開する。テキストも classroom の授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようになっている。

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代文語文による文章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading classical Japanese texts in the late 19th century
3. 授業の目的と概要：近代文語文による文章を精読し、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、仙台出身の思想家・新井奥邃（あらい おうすい、1846-1922）の語録を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read the classical Japanese texts in the late 19th century, and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, read the verses of Arai Ousui (1846-1922), a philosopher from Sendai.
5. 学習の到達目標：日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) オリエンテーション
 - 2) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 3) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 4) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 5) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 6) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 7) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 8) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 9) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 10) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 11) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 12) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 13) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 14) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 15) 発表（現代語訳・語釈）と対話
8. 成績評価方法：

平常点（発表・対話への参加度）[70%] 出席点 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書～『おうすいポケット 奥邃語録抄』からセレクトしたプリントを配布。
参考書～授業時に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『天徳内裏歌合』を読む

2. Course Title (授業題目)：Read "Tentoku Dairi Uta-awase" (Imperial Palace Poetry Contest of the Tentoku era)

3. 授業の目的と概要：『天徳内裏歌合』について輪読と発表を繰り返し行う中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to practically learn how to make the text of a classic work, how to annotate it, and how to consider it, while repeatedly reading and presenting "Tentoku Dairi Uta-awase". It also aims to learn about appreciation of classical works.

5. 学習の到達目標：『天徳内裏歌合』を素材に、以下について学習することを到達目標とする

(1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。
(2) 和歌をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal is to learn about the following using "tentoku Dairi Uta-awase" as a material.

(1) Practically learn basic tasks for classical literature research, such as reading comprehension of Hentaigana, writing texts, and annotations.

(2) To deepen the un

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 『天徳四年内裏歌合』および歌合についての講義。変体仮名の読解練習の説明。
3. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い (出席・質疑応答) [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：萩谷朴，谷山茂校注『歌合集 (日本古典文学大系 74)』(岩波書店、1965年)。『実用変体がな』(新典社)。

参考書：変体仮名の読解練習に用いる影印についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。

10. 授業時間外学習：事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う (遊ぶ) など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

『天徳内裏歌合』は、後世、内裏歌合の模範として仰がれ続けた日本文化史上、記念すべき行事です。百人一首にとられた有名な和歌もあり、記録も豊富に残っていることから、行事の内容や規模をある程度、復元することができます。本イベントの内容について学ぶとともに、歌合という競技を追体験することで、和歌の鑑賞に役立てていきます。

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB45305, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『自然学』第1巻講読

2. Course Title (授業題目)：Reading the 1st Book of Aristotle's Physics

3. 授業の目的と概要： アリストテレスの『自然学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテキストです。またこのテキストは、ニュートンの古典物理学以前の自然探求の基本テキストであり、学問とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

『自然学』の第1巻は、タレスやヘラクレイトスやパルメニデスなど、現在では断片のかたちでのみ伝えられているさまざまな先行

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We are going to read the 1st book of Aristotle's Physics, which is one of the most classic text of philosophy. Until the Medieval Age it has been esteemed as the basic text for the natural phenomena. It gives also us the understanding, what the scientific

5. 学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことができるようになる

・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することができるようになる

・辞書・文法書を活用することができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate philosophical text in classical Greek into Japanese by oneself

・We aim to get accustomed to the conjugation and declension of the classical Greek and so to be able to analyse correctly

7. 授業の内容・方法と進度予定：

・第1回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）

・第2回：第1巻読解 1～30行

・第3回：第1巻読解 31～60行

・第4回：第1巻読解 61～90行

・第5回：第1巻読解 91～120行

・第6回：第1巻読解 121～150行

・第7回：第1巻読解 150～180行

・第8回：第1巻読解 181～210行

・第9回：第1巻読解 210～250行

・第10回：第1巻読解 251～290行

・第11回：第1巻読解 291～330行

・第12回：第1巻読解 331～370行

・第13回：第1巻読解 371～410行

・第14回：第1巻読解 411～450行

・第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

9. 教科書および参考書：

教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。

辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]

10. 授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB45306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語文法および読解
2. Course Title (授業題目) : Latin grammar and reading
3. 授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎的文法の仕上げをすることを目的とする。動詞の基本（直説法、現在、能動態）に基づく発展的文法を習得し、ラテン語の文法体系を総合的に理解できるようにする。さらに総合的な読解力のために、さまざまな時代の文献を対象とし、古文書学やキリスト教に関する基本的知識をもとにして、読解する。それにより、学術的研究にラテン語の果たす役割の一端を実感できるであろう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to help students develop entire basic Latin grammar. Students will learn various grammatical rules based on the fundamental understanding (indicative, present, active voice) of verbs, and the Latin grammar system. Furthermore, fo
5. 学習の到達目標：(1) ラテン語文法の総合的な理解を習得すること。
(2) ラテン語原典にふれて読解力がつくようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) The purpose of this course is to help students to learn a general understanding of Latin grammar and learn sentence structure.
(2) Students will develop reading skills and better understand using Latin original texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 イントロダクション動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法
 - 第2回 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去（直説法能動態）、未来（直説法能動態）、sum の未完了過去、未来
 - 第3回 受動態人称語尾、形式受動態語尾（デポネンティア動詞）、命令法受動態
 - 第4回 完了（直説法能動態）、完了幹、過去完了（直説法能動態）、未来完了（直説法能動態）
 - 第5回 分詞（1） 分詞の種類と性格、性・数・格、現在分詞
 - 第6回 分詞（2） 完了分詞、未来分詞、目的分詞
 - 第7回 非人称動詞、不定法（現在、完了、未来）、動名詞
 - 第8回 動形容詞、奪格別句
 - 第9回 接続法（1） 接続法現在（能動態）、単文での用法、接続法の基本用法
 - 第10回 接続法（2） 接続法現在（受動態）、接続法未完了過去（能動態・受動態）、接続法完了（能動態・受動態）、接続法過去完了（能動態・受動態）、
 - 第11回 接続法（3） 時制の対応関係、間接話法（疑問文、命令文）、目的文
 - 第12回 接続法（4） 程度文・結果文、条件文・譲歩文
 - 第13回 原典講読①
 - 第14回 原典講読②
 - 第15回 原典講読③
8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。
出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）
9. 教科書および参考書：

教科書 [Textbook] : なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]

参考書 [Recommended Lexicon Latino-Japonicum] : 水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009年。
10. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。
テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく
Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by w
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
Students must bring their own computers to class?
[No.] If we must use online (e.g. Zoom), need to bring our own device with our own account.
連絡先 [Contact] : paul-m@tohoku.ac.jp
(◎を@に置き換えてください [Replace ◎ to @.])
この講義は日本語で提供されます。この講義は日本語で提供されま

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：高橋 亨

コード：LB45307, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門（故事成語編）
2. Course Title (授業題目)：An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.
3. 授業の目的と概要：この講義の目的は、故事成語の出典となった史書の読解と理解を通して、漢文に対する読解力のさらなる向上させることである。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about ancient Chinese grammar through reading the history book that became the source of the idiom.
5. 学習の到達目標：この講義の目標は、教育や専門的研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につけることにある。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop reading skills and build a vocabulary crucial to understanding ancient Chinese texts used in the field of education and academic research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
[内容・方法]
出席者とともに故事成語の出典となった史書を読み、その訓読文と現代日本語訳の作成について検討する。
[進度予定]
第01講 故事成語 (1)
第02講 故事成語 (2)
第03講 故事成語 (3)
第04講 故事成語 (4)
第05講 故事成語 (5)
第06講 故事成語 (6)
第07講 故事成語 (7)
第08講 故事成語 (8)
第09講 故事成語 (9)
第10講 故事成語 (10)
第11講 故事成語 (11)
第12講 故事成語 (12)
第13講 故事成語 (13)
第14講 故事成語 (14)
第15講 期末試験
8. 成績評価方法：
出席状況 (50%) と期末試験の成績 (50%) によって総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教材は各回において適宜配布する。
Texts are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：講義時間は限られているため、自主学習が重要になる。それゆえ、予習・復習をしっかりと行うことを求める。
The session time is limited and therefore self-directed learning is important. Students are required to prepare and review for each class.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15~12:45 とする。
Office hours are from 12:15 to 12:45 on every Friday at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617.

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB45303, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学のための数理モデル入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Mathematical Models in Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：行動科学において重要なツールである数理モデルについて初歩から学ぶ。

この授業で主にあつかうトピックは行動経済学，合理的選択理論，数理社会学，確率モデル，推測統計である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to study mathematical models that are important analytical tools in behavioral science.

5. 学習の到達目標：(1) 数理モデルとは何かを正しく理解できる。

(2) 数理モデルの基礎となる数学を正しく理解できる。

(3) 数理モデルを用いて社会現象や人間行動を分析する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will clearly understand what mathematical models are.

(2) Students will clearly understand mathematics that is the foundation of mathematical models.

(3) Students will acquire the skill of analyzing social phenomena and human behavior by m

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はClassroomを使用して課題等を配布します。

浜田 (2018) をテキストとして、様々な数理モデルの手法とその考え方を解説する。単にテキストを講読するだけでなく、数理モデルを用いて参加者が自分で社会現象や人間行動を分析できるようになることを重視する。

1. モデルとは何か (序)
2. 隠された事実を知る方法 (第1章)
3. 卒業までに彼氏ができる確率 (第2章)
4. 内定をもらう方法 (第3章)
5. 先延ばしをしない方法 (第4章)
6. 理想の部屋を探す方法 (第5章)
7. アルバイトの配属方法 (第6章)
8. 売り上げをのばす方法 (第7章)
9. その差は偶然でないと言えるのか? (第8章)
10. ネットレビューは信頼できるのか? (第9章)
11. なぜ0円が好きなのか? (第10章)
12. 取引相手の真意を知る方法 (第11章)
13. お金持ちになる方法 (第12章)
14. 数理モデルで社会を分析しよう (1) (担当者・履修者による報告1)
15. 数理モデルで社会を分析しよう (2) (担当者・履修者による報告2)

8. 成績評価方法：

出席 (70%)，授業内での課題 (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏，2018，『その問題、数理モデルが解決します：社会を解き明かす数理モデル入門』ベレ出版。

参考書：矢野健太郎・田代嘉宏，1993，『社会科学のための基礎数学 改訂版』裳華房。

10. 授業時間外学習：演習中の議論に積極的に参加できるようにテキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

命題の証明はかならず自分で計算してフォローすること。内容の理解に必要な数学については矢野・田代 (1993) を参照すること。

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB45304, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法
2. Course Title (授業題目)：Advanced Reading Skills in English
3. 授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.
5. 学習の到達目標：英文を正確に読み、要点と細部を区別すること、対比的な考えを判別すること、著者の意図を理解すること、推測して結論を出すことができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students can distinguish main ideas from details, identify contrasting ideas, understand the author's intent, and make inferences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. Unit 5 Nutritional Science - Reading 1: Eating well
 3. Unit 5 Nutritional Science - Reading 2: A personalized nutrition company will use your DNA to tell you what to eat
 4. Unit 5 Nutritional Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 5. Unit 6 Education- Reading 1: From student to employee
 6. Unit 6 Education - Reading 2: Making my first post-college career decision
 7. Unit 6 Education - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 8. Unit Test 学習事項の確認
 9. Unit 7 Geology- Reading 1: Ocean discoveries
 10. Unit 7 Geology - Reading 2: Alaska's Pebble Mine
 11. Unit 7 Geology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 12. Unit 8 Engineering - Reading 1: The Tacoma narrows bridge collapse and the lessons learned
 13. Unit 8 Engineering - Reading 2: How to design a student project that benefits the developing world
 14. Unit 8 Engineering - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
 15. まとめ解説と学期末試験
8. 成績評価方法：

学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.
10. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
辞書を持参すること。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the knowledge of basic topics in social psychology (social cognition, attitudes, interpersonal relationships and interpersonal behaviors, group interactions, family functions, etc.). In class, basic knowledge of each

5. 学習の到達目標：社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course will enable students to understand and explain social psychological theories about topics covered in this class, such as social cognition, attitude, interpersonal attraction, helping behavior, aggressive behavior, group influence, and family f

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目はリアルタイム遠隔授業を実施します。授業にあたって、この科目ではGoogle Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ずGoogle Classroomにアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
2. 対人認知の歪み
3. 原因帰属
4. 態度とは何か？
5. 態度変容
6. 説得的コミュニケーション
7. ステレオタイプと偏見
8. 対人関係の形成
9. 対人関係の発展
10. 言語的コミュニケーション
11. 非言語的コミュニケーション
12. 攻撃行動
13. 援助行動と援助要請
14. 家族の人間関係
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

最終試験／レポート 60%

受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

The textbook is not specified. However, reference books and literature will be introduced during the lecture.

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

It is required to read through the reference materials introduced in the first class. In addition, each class will be based on the contents of the

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求められることがある。

As part of the course, students may be asked to participate in psychological experiments and surveys.

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB45301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近現代文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：明治時代から第二次世界大戦中に至るまでの多様な小説を取り上げ、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的に分析するとともに、テキスト分析の方法や、日本近現代文学の形成過程などについて概説を行う。毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will analyze a variety of literary works from the Meiji era to the Showa era, with a view to their cultural and social contexts.

5. 学習の到達目標：(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 文学テキストを分析する基本的な方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the diverse characteristics of modern Japanese literature, including its relationship to cultural and social contexts.

(2) To learn basic methods of analyzing literary texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 分析のレッスン —志賀直哉「小僧の神様」
3. 概説①：日本近代文学の成立
4. 概説②：テキスト分析の方法
5. 樋口一葉「十三夜」を読む①
6. 樋口一葉「十三夜」を読む②
7. 田山花袋「少女病」を読む
8. 芥川龍之介「羅生門」の生成論
9. 横光利一「蠅」を読む
10. 江戸川乱歩「人間椅子」を読む
11. 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」を読む
13. 検閲と文学
14. 太宰治「葉桜と魔笛」を読む
14. 岡本かの子「老妓抄」を読む
15. 文学と戦争—坂口安吾「真珠」を中心に

なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB45402, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現
2. Course Title (授業題目)：Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation
3. 授業の目的と概要：古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：If you overview the history of Japanese art from ancient times, you can see that many arts were born out of relationships with faith. Because religions that envision an invisible world need arts that visualizes it. In this course, among the religious arts
5. 学習の到達目標：(1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
(2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
(3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students gain basic knowledge in Japanese art history.
(2)Students learn the basic methodology of art history research.
(3)Students learn the knowledge and method, especially about sculpture research.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
 1. ガイダンス
 2. イントロダクション—法隆寺の美術
 3. 薬師如来像に見る神仙思想
 4. 東大寺と大仏の世界
 5. 補陀落山観音の世界
 6. 空海登場—密教がもたらしたもの
 7. 釈迦如来の再生—清涼寺釈迦如来像がやってきた
 8. 阿弥陀如来の再生—平等院鳳凰堂と中尊寺金色堂
 9. 仏の世界はどこにある？—風景画の宗教的意味
 10. 東大寺復興—重源の目指したこと
 11. 五台山文殊の世界
 12. 春日の神様と本地仏
 13. 生身地藏の世界
 14. 毘盧舎那仏と大日如来—明恵の描いた世界観
 15. 仏教美術のひみつ—見える世界と見えない世界
8. 成績評価方法：
課題 [50%]、出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年
10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB45401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人と獣の日本思想史
2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Humans and Beasts
3. 授業の目的と概要：歴史を叙述することは、人類のみに許された特権的な営為とみなされてきた。しかし、近年ではこうした人間中心主義的な見方に対する批判が高まりをみせている。そこで、本授業では、自然や野生動物といった要素を加味することで、日本の歴史を見直し、人間中心主義的な歴史叙述の是非を検討してみたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Narrating history has long been considered a privileged activity only allowed to humans. However, in recent years, there has been increasing criticism of this anthropocentric view. Therefore, in this course, we will review Japanese history by adding elements.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、自然や野生動物の働きかけに注目して日本の歴史を見直し、偏りのない歴史分析を行えるようになることである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to be able to review Japanese history by focusing on the influence of nature and wildlife, and to be able to conduct unbiased historical analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ガイダンス—歴史叙述の特権性—
 - 第2回 ヨーロッパの人と獣—動物裁判を事例として—
 - 第3回 日本に動物裁判はあったか？
 - 第4回 肉食の日本史①—獣の肉を好む神々—
 - 第5回 肉食の日本史②—肉食に対する禁忌意識の高まり—
 - 第6回 肉食の日本史③—禁忌と戦った僧侶たち—
 - 第7回 大開発の江戸時代と自然観の激変
 - 第8回 生類憐み政策の真意①—村は鉄砲を手放したか？—
 - 第9回 生類憐み政策の真意②—農耕と牛馬—
 - 第10回 生類憐み政策の真意③—なぜ「お犬様」は愛護されたか？—
 - 第11回 鷹狩りの政治史
 - 第12回 見世物としての動物
 - 第13回 ペットブームの変遷
 - 第14回 戦争と動物
 - 第15回 まとめ
8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 20%、ミニットペーパー 20%、期末試験 60%の割合で評価する。
9. 教科書および参考書：

必要に応じて資料を配付する。
10. 授業時間外学習：各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明・高橋 原・谷山 洋三・問芝 志保

コード：LB45502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations do
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 予備日：学部3年欠席者のため
 8. 学部4年発表 グループ1
 9. 学部4年発表 グループ2
 10. 学部4年発表 グループ3
 11. 学部4年発表 グループ4
 12. 学部4年発表 グループ5
 13. 予備日：学部4年欠席者のため
 14. 学部2年発表 グループ1
 15. 学部2年発表 グループ2
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加。
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名: 東洋・日本美術史基礎講読 / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時: 後期 金曜日 5 講時

セメスター: 4 単位数: 2

担当教員: 長岡 龍作

コード: LB45501, 科目ナンバリング: LHM-ART204J, 使用言語: 日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目: 東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目): Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要: 東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要): Students take up basic research papers of Oriental and Japanese art history and carefully read them. One person give a presentation about contents of papers at each class, showing pictures and documents. Participants will read the paper in advance and dis

5. 学習の到達目標: 東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標): Students learn the methods to research through reading basic papers on Oriental and Japanese art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定:

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****b です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—東洋・日本美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
15. 総括と講評

8. 成績評価方法:

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書:

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

10. 授業時間外学習: 参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。

Participants should carefully read the paper in advance.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

科目名：地誌学／ Topography

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小田 隆史

コード：LB65102, 科目ナンバリング：LHM-GE0303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：都市社会の諸相・諸課題

2. Course Title (授業題目)：Multiple Aspects and Challenges in Urban Societies

3. 授業の目的と概要：地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：During the course, students will learn about challenges pertaining to urban societies of the world from geographical and topographical perspectives. The topics include such issues as urbanization, redevelopment, sustainability, natural disaster and global

5. 学習の到達目標：都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire knowledge and skills in examining wide variety of urban issues from geographical and topographical perspectives, and will be able to consider possible solutions to such challenges faced by the urban societies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください

1. 地誌学とは—地誌と地域研究
2. 地理学と空間概念
3. 世界都市論
4. 先進国の都市化
5. 発展途上国の都市化
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災
8. アメリカ地誌概説～その 1
9. アメリカ地誌概説～その 2
10. インナーシティと都市における多重剥奪
11. 移民・難民・エスニック集団と空間
12. 越境する人々の地誌～その 1 難民の発生と再定住
13. 越境する人々の地誌～その 2 日系アメリカ人コミュニティ
14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ
15. 総括・振り返り・授業内テスト

8. 成績評価方法：

課題 [60%] 及び期末レポート [40%] で評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

授業に必要な資料は classroom で配布する。

No specific textbook is designated while some reading materials will be distributed during the course.

10. 授業時間外学習：事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。

There is no office hour for the lecturer, however, an appointment can be made for arranging a meeting for inquiries. The email address will be provided during the class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと

科目名：博物館資料論／

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB65101, 科目ナンバリング：LHM-CUM303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館資料・標本の特性

2. Course Title (授業題目) : The characteristic of the various museum collections

3. 授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあ
り、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究
の方法も異なっている。本講義では、地学・考古学・美術史学等の各分野の資料標本について、4 人の教員が各専門分野から、
博物館資料としての特性を講義する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class is needed for museum curator qualification
acquisition. In a museum there are many collections of the various fields, and the characteristic is different in
each. According to those characteristics, the way of collection and management is diffe

5. 学習の到達目標：博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、地学・考古学・美術史学等の各分野の資
料標本の特性について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand the variety and the
characteristic of the various museum collections.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 博物館法における博物館資料
3. 考古学資料の種類と特質
4. 考古学資料の収集と管理
5. 東北大学所蔵の考古学資料
6. 地学資料について (1)
7. 地学資料について (2)
8. 地学資料について (3)
9. 地学資料について (4)
10. 美術資料研究の歴史 (1)
11. 美術資料研究の歴史 (2)
12. 美術資料研究
13. 東日本大震災と博物館資料
14. 拡がる博物館資料
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：キリスト教史／ History of Christianity

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：6 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB55210, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キリスト教の歴史と課題

2. Course Title (授業題目)：History of Christianity and its challenges

3. 授業の目的と概要： この講義では、キリスト教の歴史をキリスト者の霊性（つまり体験）の視点で概観し、今後の世界に向けて課題となるテーマについて考える。

そのために、キリスト教神学（西方キリスト教・東方キリスト教の主流派の神学）の基礎的思想を把握する。

特に、キリスト教の教義形成には東方キリスト教の歴史が大きく関わっているため、日本ではあまり紹介されない東方キリスト教（おもにギリシャ正教）の特徴についても学ぶ。

また、キリスト者の生き方と体験については、キリスト教の宣教がその始めから全人類を対象としていたことから、

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we study an overview of the history of Christianity from the perspective of Christian spirituality (that is, christian way of lives or experiences) and consider relevance that we will be posed challenges for the world in the future (e.g.

5. 学習の到達目標：キリスト教思想の中心を理解することをとおして、キリスト教の歴史を評価する基準・根拠について考察し、現代に対する影響と課題についてそれぞれの専門的関心との関連で研究できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Through understanding the central issues of Christian thought, we will consider the criteria and grounds for evaluating the history of Christianity on a point of view of human studies, and the related influence on the contemporary time with each professio

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（1）本講義の目的・内容

- ・歴史の記述の問題、歴史的存在としての人間が歴史を記述するということ
- ・キリスト教の過去の記述、歴史の中のキリスト教
- ・現代において我々が歴史を記述すること——時代を超える普遍的なものの追求

2. イントロダクション（2）方法論

- ・記述の立場と基準をどこにおくか——現代キリスト教神学の学術的役割
- ・多様性と一致、〈自己〉と〈他者・他なるもの〉

3. キリスト教の発生とその周辺状況

- ・旧約聖書のエッセンス
- ・イエスの福音はなぜ「良い知らせ」といえたのか
- ・キリスト教の核心としてのイエスの復活と「神の愛」との関連

4. 「イエスとは何者か」という問い

5. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教（1）

- ・信条という文書の役割と教会

6. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教（2）

- ・教会
- ・修道の発生と発展

7. キリスト教基本教義の確立、教会の権威（1）

- ・公会議によるキリスト両性論
- ・聖像（イコン）をめぐる問題

8. キリスト教基本教義の確立、教会の権威（2）

- ・公会議による三位一体論
- ・三位一体論と理解の試み
- ・教会と政治

9. キリスト教東方とキリスト教西方（1）

- ・東方キリスト教と西方キリスト教——現在の姿

10. キリスト教東方とキリスト教西方（2）

- ・東方キリスト教と西方キリスト教——文化的多様性の問題
- ・ローマ帝国と東ローマ帝国、およびその後の“ローマ”

11. 神へのアプローチの営み（1）
 - ・東方と西方の人間論の相違——神化、聖化、義化（義認）
12. 神へのアプローチの営み（2）
 - ・修道
13. 現代世界の状況とキリスト教
 - ・自然科学、特に現代物理学とキリスト教
14. Epilogue（1）真理探求の営みと歴史的存在としての人間
 - ・キリスト教的人間観①——memento mori
15. Epilogue（2）キリスト教と人類の未来
 - ・キリスト教的人間観②——終末論
 - ・キリスト教的人間観③——未解明の分野

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、アクシデントの有無等により調整することがある。）

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

Students are required to prepare for the assigned part of the handouts.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この講義は日本語で提供されます。教科書に代えてプリントを配付します。下記の教員あてメールアドレスを利用できません。

paul-m@tohoku.ac.jp（◎を@に代える）

This course will be taught in Japanese. You will receive handouts instead of textbooks. You can send a mail to the teacher (following email address). pa

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB65202, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語の詩を読む
2. Course Title (授業題目) : Reading German poetry
3. 授業の目的と概要：詩を通してドイツ語圏文学について学び、同時にドイツ語のリズムとイントネーションについても学ぶ
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learning about German literature through German poetry and simultaneously learn about German-language rhythm and intonation
5. 学習の到達目標：ドイツ語の詩について基礎的に理解し、ドイツ語の発音及びリズム・イントネーションスキルを向上させる
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Gain a basic understanding of German language poetry and improve one's pronunciation and intonation skills in German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
古典時代の18世紀後半から20世紀前半にかけて代表的なドイツ語圏の詩人の詩を読んで、その一部を暗記する。

第1～第3週 シラー
第4～第6週 ゲーテ
第7～第9週 ヘルダーリン
第10～第12週 アイヒェンドルフ
第13～第15週 リルケ

ただし、参加者のドイツ語力や関心に合わせて異なるものを読む場合もある
8. 成績評価方法：
授業参加と毎回の課題・宿題に基いて評価する
9. 教科書および参考書：
授業時に指示
10. 授業時間外学習：毎回の課題
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：言語学演習 I / Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LB65205, 科目ナンバリング：LHM-LIN336J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語テストと評価

2. Course Title (授業題目) : Language Testing and Assessment

3. 授業の目的と概要：言語教育におけるテストは、言語学習者の熟達度や到達度を測定することだけではなく、学習と教育を強化するための手段として大きな役割を担っています。この授業では、主に英語教育に焦点を置き、言語テストと評価の基本的理論を学び、主に 2 つの実践を行います。1 つ目は、言語教育におけるテストの役割、言語能力、テストの有用性を理解した上でテスト作成を行い、テストの妥当性と実用性を測定する方法を学びます。2 つ目は、テストの評価方法、テスト結果の分析方法・活用方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Tests in language education measure not only proficiency and achievement of language learners but also play a major role of strengthening learning and education. In this class, focusing mainly on English education, students will learn the basic theory of

5. 学習の到達目標：1) 言語テストが備えるべき要件を満たしたテストが作成できる。

- 2) 言語テストの妥当性を測定することができる。
- 3) 言語テストの実用性を測定することができる。
- 4) テスト結果を分析することができる。
- 5) テストが学習者の学習方法や教師の教え方に及ぼす影響を測定することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to...

- 1) develop tests which meet the requirements of language tests.
- 2) measure the validity of language tests.
- 3) measure the practicality of language tests.
- 4) analyze test results.
- 5) measure the effect of the test on le

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回目：オリエンテーション/言語テスト・言語評価研究とは
- 第 2 回目：社会における言語テストの役割と波及効果
- 第 3 回目：言語テストの種類
- 第 4 回目：言語能力とは (1)
- 第 5 回目：言語能力とは (2)
- 第 6 回目：言語テストの有用性 (1)
- 第 7 回目：言語テストの有用性 (2)
- 第 8 回目：妥当性理論と妥当性検証 (1)
- 第 9 回目：妥当性理論と妥当性検証 (2)
- 第 10 回目：評価者訓練とテスト採点者の信頼性検証
- 第 11 回目：リーディングテストの作成と評価 (1)
- 第 12 回目：リーディングテストの作成と評価 (2)
- 第 13 回目：ライティングテストの作成と評価 (1)
- 第 14 回目：ライティングテストの作成と評価 (2)
- 第 15 回目：技能統合型テストと技能混合型テスト

8. 成績評価方法：

- ・小テスト (20 %) 毎回行います。
- ・リアクションペーパー (20 %) 毎回の授業で行います。
- ・作成テスト 1 (リーディング) (20 %)
- ・作成テスト 2 (ライティング) (20%)
- ・作成テスト 3 (技能統合型または技能混合型) (20%)

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介いたします。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。(After each lesson, read the material distributed and prepare to present your thoughts.)

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB65207, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：非伝統的データの分析
2. Course Title (授業題目)：Statistical analysis of non-traditional data in social sciences
3. 授業の目的と概要：伝統的な社会調査とは異なるタイプのデータに関して、文献購読と実習を通じて理解を深める。具体的なトピックとしては、テキストデータ、空間データ、ネットワークデータを扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn non-traditional types of data analysis in social sciences through literature review and the practice of data analysis. Topics include text data, spatial data, and network data.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、各種のデータの構造と扱い方について基本的な理解を身に着ける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら問いを立てて分析できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the structures and the way of handlings various types of data through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper with a research question set by students themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. テキストデータ (1)
 3. テキストデータ (2)
 4. テキストデータ (3)
 5. テキストデータ (4)
 6. 空間データ (1)
 7. 空間データ (2)
 8. 空間データ (3)
 9. 空間データ (4)
 10. ネットワークデータ (1)
 11. ネットワークデータ (2)
 12. ネットワークデータ (3)
 13. ネットワークデータ (4)
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べを求められる場合もある。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
実習には統計ソフトRを使用するため、事前に知識を有していることが望ましい。

科目名：社会心理学各論（文化心理学）／ Cultural Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB65203, 科目ナンバリング：LHM-PSY316J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化心理学

2. Course Title (授業題目)：Cultural Psychology

3. 授業の目的と概要：文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn about diversity of cultures, cultural evolution and acculturation processes.

5. 学習の到達目標：文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand theories and research of cultural psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化心理学とは
2. 生まれか育ちか
3. 心と文化
4. 日本文化論
5. 東洋と西洋の比較
6. 文化と自己
7. 進化と適応
8. 生態環境と文化
9. 適応論による文化研究
10. 移民の異文化体験
11. 文化変容の理論
12. 国民国家と文化
13. 多文化主義
14. 異文化の理解
15. まとめ

8. 成績評価方法：

小テスト (50%), 期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目)：Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：【目的】古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文文学作品『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を読解します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容につ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：【Course Objectives】 This course aims to improve the students' ability to read texts of Chinese classical writings in a basic and traditional way, and to collate texts, which are necessary to study classical Chinese literature.

【Course Synopsis】 Chu Ci is a

5. 学習の到達目標：①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的な事柄を理解する。

②わかりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。

③レジュメや発表の内容を理解して問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：①Students will be able to understand the basic issues necessary to read Chinese classical texts.

②Students will be able to make intelligible handout for their presentations, and to explain the contents precisely.

③Students will be able to clarify problem

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 『楚辞』について(1)

3. 『楚辞』について(2)

4. 『楚辞』「離騷」の読解(1)

5. 『楚辞』「離騷」の読解(2)

6. 『楚辞』「離騷」の読解(3)

7. 『楚辞』「離騷」の読解(4)

8. 『楚辞』「離騷」の読解(5)

9. 『楚辞』「離騷」の読解(6)

10. 『楚辞』「離騷」の読解(7)

11. 『楚辞』「離騷」の読解(8)

12. 『楚辞』「離騷」の読解(9)

13. 『楚辞』「離騷」の読解(10)

14. 『楚辞』「離騷」の読解(11)

15. 『楚辞』「離騷」の読解(12)

8. 成績評価方法：

授業参加態度 50%、発表内容 50%

9. 教科書および参考書：

教材は授業開始時に配布する。

Materials will be handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、問題点を発見すること。

Preparation: Presenters are required to read the assigned part of the text

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LB98812, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：秦国史の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the History of Qin State

3. 授業の目的と概要：秦始皇帝による中国統一は、東アジア史においてきわめて重要な位置を占める。だが統一時代は、実のところ秦の長期にわたる歴史のごく一部に過ぎず、またその実態も、歴史資料の不足により、これまで不明な点が多かった。ところが近年、新出土資料が増加したことにより、研究の進展が著しく、多くの事実が明らかにされつつある。この授業では、建国から統一、そして滅亡にいたる秦の歴史を通覧し、いくつかの重要な論点を取り上げ、研究上の到達点をあきらかにすることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The unification of China by the First Emperor (Qin Shi Huangdi) occupies a special place in the history of East Asia. Though the unification period of Qin Dynasty was actually only a small part of its long history, and much of its institutional and ideolo

5. 学習の到達目標：受講生は講義で示した基礎的な知識を身につけるとともに、論争点を把握し、自身の理解や解釈を提示できることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goal for students of this course is to acquire the basic knowledge presented in the lectures, to grasp the issues and as well as to be able to present their own interpretations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：(導入) 秦の歴史のスケール／春秋・戦国史と秦漢史／取り扱う史料

第2回：秦の起源論争と『史記』の起源伝承の批判

第3回：大堡子山遺跡の発見と秦の建国

第4回：秦の東方進出とその挫折

第5回：青銅器銘文が語る春秋秦の自己意識

第6回：秦孝公の登場と商君変法

第7回：商君変法の虚実

第8回：覇者から王者へ：恵文王から昭襄王へ

第9回：昭襄王の台頭と長平の戦い

第10回：ロウアイの乱前後

第11回：秦と「戎」

第12回：統一戦争と「皇帝」の出現

第13回：里耶秦簡と秦の郡県制

第14回：「更名扁書」が語る秦の統一

第15回：秦の滅亡

8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点（10%）および最終レポート（90%）を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：配布した資料を精読し、参考文献も積極的に参照すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：日本史各論／ Japanese History

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目)：Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する講義を行う。講義はおもに東アジアの宗教史と東北古代史をとりあげる。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、史料の扱い方、先行研究から何を読み取り、何を考えるべきかを学ぶこととなる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義と論文講読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

1.
ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.
古代史講義 1

3.
論文を読む 1

4.
論文を読む 2

5.
古代史講義 2

6.
古代史講義 3

7.
古代史講義 4

8.
論文を読む 3

9.
古代史講義 5

10.
古代史講義 6

11.
古代史講義 7

12.
論文を読む 4

13.
古代史講義 8

14.
古代史講義 9

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（100%）

9. 教科書および参考書：

プリント随時配布

10. 授業時間外学習： 配付された論文を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談を希望する場合、事前に申し込みをすること。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB65206, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文学の意義を倫理的に考える
2. Course Title (授業題目)：Value of Humanities: Examination from the View Point of Ethics
3. 授業の目的と概要：アメリカの哲学・倫理学者であるマーサ・ヌスバウムの『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』(岩波書店)を読み、人文学を学ぶ意義を主に(「倫理的」ではなく)倫理的な観点から考え、議論します。本書でヌスバウムは、タイトルに掲げた通りの問いに取り組みつつ、感情の道徳的価値、議論が民主主義にとってもつ重要性、文学作品を読むことの意義などを論じていきます。この演習では、担当者の要約を踏まえて参加者で議論したり、論証らしきものがあつたら再構成を試みたり、といった仕方、ヌスバウムの議論を検討し、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Martha Nussbaum's Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities, and discuss the significance of studying the humanities primarily from an ethical (not "ethical") perspective.
5. 学習の到達目標：人文学の意義について考え、一定の意見を形成する。
実践的な問題についての論証の再構成と検討や、自分なりの議論の提示ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn how to examine the significance of the humanities.
Students will be able to reconstruct and examine arguments on practical issues and advance their own arguments.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：ガイダンス
第二回以降：担当者による要約と参加者全員による議論
8. 成績評価方法：
要約60パーセント、授業内パフォーマンス40パーセント
9. 教科書および参考書：
マーサ・ヌスバウム『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店(ただし、演習で用いる範囲についてはこちらで用意します)
10. 授業時間外学習：演習はみなさんの発言によって進みます。テキストをよく読み、検討し、反論や異見を考えておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature IV

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-LIT309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語の散文作品を読む
2. Course Title (授業題目)：Deutsche Prosa lesen
3. 授業の目的と概要：散文テクストを読み、また著者の自伝的テクストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In dieser Klasse wird geübt, Prosatexte genau zu lesen. Dabei werden auch autobiografische Texte der Schriftstellerin sowie Sekundärliteratur über sie eingesetzt, um die Texte überzeugender zu interpretieren..
5. 学習の到達目標：ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Prosatexte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
2009年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-)のテクストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

- 第1回 導入
- 第2回 ヘルタ・ミュラーの小説 (1)
- 第3回 ヘルタ・ミュラーの小説 (2)
- 第4回 ヘルタ・ミュラーの小説 (3)
- 第5回 ヘルタ・ミュラーの小説 (4)
- 第6回 ヘルタ・ミュラーの小説 (5)
- 第7回 ヘルタ・ミュラーの小説 “ (6)
- 第8回 ヘルタ・ミュラーの小説 (7)
- 第9回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)
- 第10回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)
- 第11回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)
- 第12回 二次文献 (1)
- 第13回 二次文献 (2)
- 第14回 二次文献 (3)
- 第15回 まとめ

8. 成績評価方法：
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

9. 教科書および参考書：
プリントを配付する。

Texte werden im Voraus verteilt.

10. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テクストを予習し、読解すること。

Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

このクラスではGoogle Classroomを用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehr

科目名：言語学論文演習Ⅱ／Linguistics Research (Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木山 幸子、内藤 真帆、小泉 政利

コード：LB65306, 科目ナンバリング：LHM-LIN335J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要： 3年生は前期に引き続き論文紹介を行いそれを卒業論文にどう繋げるかを発表するか、卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッション

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course third year students will deliver an oral presentation of a journal article of their own choice, while fourth year students an interim report of their thesis. Oral presentations will be followed by a discussion among the participants.

1.

5. 学習の到達目標：よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills to write better theses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文1の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

3. 論文2の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

4. 論文3の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

5. 論文4の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

6. 論文5の紹介発表、質疑応答

7. 論文6の紹介発表、質疑応答

8. 論文7の紹介発表、質疑応答

9. 論文8の紹介発表、質疑応答

10. 論文9の紹介発表、質疑応答

11. 論文10の紹介発表、質疑応答

12. 論文11の紹介発表、質疑応答

13. 論文12の紹介発表、質疑応答

14. 論文13の紹介発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

semester：6 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害と宗教

2. Course Title (授業題目) : Disaster and Religion

3. 授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践に関する文献を毎回取り上げ、現代社会における宗教の意義や課題について議論と講義を行うことで問題の理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explores various previous studies on disaster and religion and discusses meanings and tasks of religion in modern society.

5. 学習の到達目標：宗教学的なものを見方をみにつけることができる。

現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand meanings and tasks of religion in modern society through the topic about religion and disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション1:何故災害と宗教か?
2. イントロダクション2:発表準備
3. 災害と神話
4. 災害と神話
5. 災害表象
6. 災害表象
7. 災害と祭礼
8. 災害と祭礼
9. 災害と死者
10. 災害と死者
11. 宗教と災害支援
12. 宗教と災害支援
13. 宗教とレジリエンス
14. 宗教とレジリエンス
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表とコメントで評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：使用文献の精読および発表準備

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB65307, 科目ナンバリング：LHM-0HU311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：オタク文化をめぐる研究著書の解説と翻訳

2. Course Title (授業題目)：Readings on Popular and Otaku Culture

3. 授業の目的と概要：本授業では日本語の評論家かつメディア研究者の著書の英語版を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary Japanese popular culture through comparative reading of Japanese texts and their English translations. The reading list consists of genre

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における日英翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

3) 世界中のポピュラー・カルチャーにおける傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、ポピュラー・メディア及びコンテンツ市場の発展を追うことができる。

4) 日本におけるオタク文化の歴史を把握した上で、その特徴の分析を行うことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the ea

7. 授業の内容・方法と進度予定：

クラスワークが課題に基づきます。課題の内容は、文献リスト（「その他を参照」）から五つか六つの研究論文を選んでいただいたものにします。学生からの提案した英語の論文・章も考慮します。

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (Article 1.1)
6. Reading and translation (Article 1.2)
7. Reading and discussion (Article 2.1)
8. Reading and translation (Article 2.2)
9. Reading and discussion (Article 3.1)
10. Reading and translation (Article 3.2)
11. Reading and discussion (Article 4.1)
12. Reading and translation (Article 4.2)
13. Reading and discussion (Article 5.1)
14. Reading and translation (Article 5.2)
15. Final discussion

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（30%）、課題（70%）

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

文献リスト：

OTAKU

1. Okada, Toshio. "The Transition of Otaku and Otaku." Trans. by Kamm Björn-Ole. In *Debating Otaku in Contemporary Japan: Historical Perspectives and New Horizons*, Patrick W. Galbraith, KamThiam Huat, and KammBjörn-Ole (eds.), London: Bloom

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 中世後期ドイツの政治と社会—帝国都市ニュルンベルクを中心に—
2. Course Title (授業題目) : Politics and Society of the Late Medieval Germany- A Case Study of the Imperial City of Nuremberg
3. 授業の目的と概要： 中世後期ドイツの政治的構造および社会の状況について、主に帝国都市ニュルンベルクのケースを取り上げて説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explains the political structure and the social situation of the late medieval Germany, focusing on the imperial city of Nuremberg.
5. 学習の到達目標： 中世後期ドイツの政治・社会について専門知識を深める。歴史学で研究対象として扱われる様々なテーマについて知識を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are understanding the political structure and the social situation of the late medieval Germany and also learning a variety of themes in the historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ヨーロッパ史における中世後期ドイツ
 2. 帝国都市ニュルンベルクとは
 3. ニュルンベルクの市参事会制度
 4. ニュルンベルクの商業
 5. ニュルンベルクの手工業
 6. ニュルンベルクのユダヤ人
 7. ニュルンベルクと教会
 8. ニュルンベルクと教会文化
 9. ニュルンベルクと周辺諸侯
 10. ニュルンベルクと帝国議会
 11. ニュルンベルクと同盟関係
 12. ニュルンベルクと戦争
 13. ニュルンベルクと大学
 14. ニュルンベルクと出版文化
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (コメントシートの提出) : 40 パーセント・期末レポート : 60 パーセント
9. 教科書および参考書：

授業内で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習： 講義内容を復習すること。適宜、授業内で紹介された参考文献や概説書を自ら確認すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB65305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料研究（1）
2. Course Title (授業題目)：research of Japanese ancient historical materials
3. 授業の目的と概要：8 世紀を中心とした歴史書『続日本紀』の講読を行う。これらをテキストとして古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業は毎回担当者が報告を行う。できれば、現地見学会を実施する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.
5. 学習の到達目標：古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみがく。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of ancient Japanese history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス 『続日本紀』とは何か。講読のすすめかた。
 2. 史料を読む（1）
 3. 史料を読む（2）
 4. 史料を読む（3）
 5. 史料を読む（4）
 6. 史料を読む（5）
 7. 史料を読む（6）
 8. 史料を読む（7）
 9. 史料を読む（8）
 10. 史料を読む（9）
 11. 史料を読む（10）
 12. 史料を読む（11）
 13. 史料を読む（12）
 14. 史料を読む（13）

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）報告と授業への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）

10. 授業時間外学習：オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時. 後期 金曜日 4 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB65308, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods 2

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of s

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——調査倫理の説明、聞き取り調査のシミュレーションなど
- 2 データ収集(1)（聞き取り調査、参与観察、文書資料の収集など）
- 3 データ収集(2)（聞き取り調査、参与観察、文書資料の収集など）
- 4 データ収集(3)（聞き取り調査、参与観察、文書資料の収集など）
- 5 データ収集(4)（聞き取り調査、参与観察、文書資料の収集など）
- 6 分析方針の検討
- 7 調査結果の整理、分析(1)
- 8 調査結果の整理、分析(2)
- 9 調査結果の整理、分析(3)
- 10 追加調査の実施
- 11 調査報告書の作成(1)
- 12 調査報告書の作成(2)
- 13 調査報告書の作成(3)
- 14 調査報告書の作成(4)
- 15 調査報告会（口頭発表）

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美，2016，『質的社会調査の方法』有斐閣。

蘭由岐子，2017，『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院。

10. 授業時間外学習：この授業は4-5人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

前期の社会学実習（社会調査実習）とあわせて履修してください。

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB65404, 科目ナンバリング：LHM-LIT326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む (2)
2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka (2)
3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカ (Franz Kafka: 1883-1924) の小説をテキストとして、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行います。映画化された作品も鑑賞する予定です。文学研究や他の関連する話題に関する簡単な講義なども行いたいと考えています。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. Brief lectures on li
5. 学習の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret literary texts written in German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. テキスト講読 (1)
 3. テキスト講読 (2)
 4. テキスト講読 (3)
 5. テキスト講読 (4)
 6. テキスト講読 (5)
 7. テキスト講読 (6)
 8. テキスト講読 (7)
 9. テキスト講読 (8)
 10. テキスト講読 (9)
 11. テキスト講読 (10)
 12. テキスト講読 (11)
 13. テキスト講読 (12)
 14. テキスト講読 (13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加 (80%) とレポート (20%)
9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備します。
10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
 - ・質問その他の連絡は、以下のアドレスへ。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (◎を@に変更)
 - ・授業は原則として対面で実施します。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知します。
 - ・オフィス・アワーは特にもうけません。随時、個人的な質問・相談・雑談など受けつけます。上記のアドレス宛に連絡してアポを取ってください。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟 (アクセスマップ A12) の 2 階です。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆, 松本 圭太

コード：LB65403, 科目ナンバリング：LHM-HIS309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目) : Method and Theory of Archaeology

3. 授業の目的と概要：考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students are introduced to history, method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology c

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassromを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは u7ipfu です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

1 0. **授業時間外学習**：発表内容は時間外に各自がまとめる。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：なし

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。オフィスアワー：金曜日 13：30～14：30

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LB65402, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア
2. Course Title (授業題目)：Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Discussing on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious
5. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法の理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。
第1回：オリエンテーション
第2回：チャプレンとビハーラ僧
第3回：「臨床宗教師」の誕生
第4回：生活の中にある心のケア
第5回：スピリチュアルペイン
第6回：スピリチュアルな探求
第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
第9回：宗教的資源の活用
第10回：宗教的ケア
第11回：臨床宗教師の可能性
第12回：臨床宗教師の資質
第13回：ワークショップ「死の体験」
第14回：ワークショップ振り返り
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]
9. 教科書および参考書：
教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LB65405, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 2

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 2

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を、前期に続けて講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford Univer

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.
To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：北朝隋唐貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Aristocratic System in the Northern Dynasties, Sui and Tang

3. 授業の目的と概要：中国の北朝隋唐時代（439～907）における貴族制は、魏晋南朝の貴族制と異なり、皇帝権力主導の下に貴族の格付けが行われ、官僚制に組み込まれる傾向があり、隋唐時代には科挙制が成立するに至る。しかし、科挙制成立後も貴族は存続した。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせるを試みる。この試みを通じて、中国史における北朝隋唐時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course covers the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang (439-907) to help students understand the characteristics of the Northern Dynasties, Sui and Tang time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：六朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（北朝隋唐時代の流れ）
- 2、五胡十六国時代の胡漢の貴族
- 3、北魏前期の胡漢の貴族
- 4、北魏・孝文帝の貴族制導入—官制改革
- 5、北魏・孝文帝の貴族制導入—姓族分定
- 6、北魏の九品中正制度
- 7、北魏後期の貴族制への反発
- 8、東魏・北齊の九品中正制度
- 9、西魏・北周の新貴族制
- 10、隋の貴族
- 11、隋の科挙制
- 12、唐・太宗の『貞観氏族志』
- 13、唐の貴族と科挙
- 14、牛・李の党争
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各時間に資料を配布する。参考書は、講義時間に紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

なし。

科目名：美学・西洋美術史演習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB65406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（発展編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Developmental Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス（2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時, 後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB65407, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理実習

2. Course Title (授業題目)：Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス

2. 史料整理実習 (1)

3. 史料整理実習 (2)

4. 史料整理実習 (3)

5. 史料整理実習 (4)

6. 史料整理実習 (5)

7. 史料整理実習 (6)

8. 史料整理実習 (7)

9. 史料整理実習 (8)

10. 史料整理実習 (9)

11. 史料整理実習 (10)

12. 史料整理実習 (11)

13. 史料整理実習 (12)

14. 史料整理実習 (13)

15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

8. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

9. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

10. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず日本史実習「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：問芝 志保, 木村 敏明, 高橋 原, 谷山 洋三

コード：LB65502, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations do
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 予備日：学部3年欠席者のため
 8. 学部4年発表 グループ1
 9. 学部4年発表 グループ2
 10. 学部4年発表 グループ3
 11. 学部4年発表 グループ4
 12. 学部4年発表 グループ5
 13. 予備日：学部4年欠席者のため
 14. 学部2年発表 グループ1
 15. 学部2年発表 グループ2
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加。
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB65501, 科目ナンバリング：LHM-PHI306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

2. Course Title (授業題目)：Research Ethics and Science Communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これら是对立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになり、融合が進んでいます。そこで、この授業では、研究倫理の観点を考慮しつつ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of re

5. 学習の到達目標：1. 科学コミュニケーションの基礎理論とその問題点を理解する。

2. 東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. to understand the basic theory of science communication and its problems

2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。

対面とオンラインを併用します。

1. イントロダクション

2～7. 科学コミュニケーションの理論

8・9. 東日本大震災と科学コミュニケーション

10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケーション

12・13. コロナ禍と科学コミュニケーション

14. 科学コミュニケーションの新しい課題

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：遠藤 不比人

コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：情動と英国モダニズム文学
2. Course Title (授業題目)：Affect and British Modernist Literature
3. 授業の目的と概要：文学研究においても注目を集めている「情動 (Affect)」という視点から英国モダニズム文学を再考します。その議論において、言語芸術である文学と視覚芸術である絵画との差異と同一性が浮上してきます。このような観点から、新たな人文学の可能性を探究します。受講生が、文学研究に関して、これまでにない斬新な視野から議論をできるように訓練をします。この講義が準拠する情動理論は米国の理論家である Fredric Jameson のリアリズム論ですが、この議論は文学テキストにおける「絵画的瞬間」に関して新たな解釈を可能にする
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to reexamine British modernist literature through the lens of 'affect,' a prominent theme in recent literary studies. This perspective aims to highlight the intriguing distinctions and similarities between literature as a verbal art
5. 学習の到達目標：1. 英国モダニズムに関して新たな視点を獲得する。
2. 言語芸術たる文学と視覚芸術たる絵画の差異と同一性に関して批評的な視点を獲得する。
3. 文学言語における情動の批評的可能性について十分な知識を得る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To gain new perspectives from which to reconsider British Modernism
2. To gain critical perspectives from which to reconsider the differences and similarities between literature as a verbal art and painting as a visual art.
3. To gain sufficient knowledge
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入 (情動理論概観)
 2. 情動的唯物論 1 (Jameson)
 3. 情動的唯物論 2 (Freud)
 4. 情動的唯物論 3 (Fry)
 5. 情動的唯物論 4 (Fry and Woolf)
 6. 情動と静物画的瞬間 1 (Mansfield)
 7. 情動と静物画的瞬間 2 (Mansfield)
 8. 情動と静物画的瞬間 3 (Conrad)
 9. 情動と静物画的瞬間 4 (Conrad)
 10. 情動と静物画的瞬間 5 (Woolf)
 11. 情動と静物画的瞬間 6 (Woolf)
 12. 精神分析と情動
 13. 物質性と情動
 14. 総括的議論
 15. 筆記試験各授業の最後に reaction paper を提出してもらい次の授業の最初にそれへの応答をすることにより、講義の双方向性を確保する。
8. 成績評価方法：
平常点 (40%) 期末試験 (60%)
9. 教科書および参考書：
教材は各回とも担当者が PowerPoint で提示する。
参考書は、遠藤不比人『情動とモダニティ—英米文学/精神分析/批評理論』彩流社、2017年。および、遠藤不比人「情動的唯物論—モダニズムにおける霊的なものの系譜」『現代思想』(特集：感情史) 2023年12月号
10. 授業時間外学習：最終試験に備え、毎回の講義内容の復習を行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：熊野 直樹

コード：LB98815, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツ司法とナチズム責任

2. Course Title (授業題目) : German judiciary and dealing with the Nazi past

3. 授業の目的と概要： 本授業では、ドイツを事例に「法治国家」からナチス「不法国家」への移行過程における司法の役割について検討し、その司法がナチズム責任として戦後東西ドイツにおけるナチズム裁判でどのように裁かれたのかについて検討を行う。以上を通じて、司法と政治との緊張関係について理解を深めるとともに、政治からの「司法権の独立」の持つ意味を歴史的に深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : While man often tends to think of Nazi Germany as a zone of lawlessness, the Nazi regime and its policies of persecution were maintained by judges, lawyers and jurists. This course focuses on why German judiciary were attracted to the Nazi Regime, how the

5. 学習の到達目標： ・ドイツ司法の歴史について学び、ドイツ現代史に関する理解を深める。

・ドイツ司法とナチズム責任について学び、司法（正義）について考える視座を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To deepen understanding of German modern history by leaning about German judiciary.

To get a perspective to think about Justice by learning about German judiciary and dealing with the Nazi past.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ近現代史の概説ではなく、主に裁判所をはじめとしたドイツ司法とナチズムとの関係及び戦後東西ドイツ及び統一ドイツの司法のナチズム責任について論じる。受講者の数や要望等によって、内容・方法が若干変更される可能性がある。

第1回 プロローグ：ガイダンス（授業内容・方法、単位認定の方法等の説明）

第2回 ナチス「不法国家」の成立過程（1）：ヴェーバーの支配の諸類型

第3回 同上（2）：ヴァイマル共和国におけるドイツ司法

第4回 同上（3）：ヒトラーの権力掌握とドイツ司法

第5回 同上（4）：ドイツ司法の強制的同質化

第6回 同上（5）：「合法的支配」から「カリスマ支配」へ

第7回 同上（6）：政治司法としてのドイツ司法

第8回 戦後ドイツにおけるナチズム裁判と「ベルリンの壁」裁判（1）：二つのニュルンベルク裁判

第9回 同上（2）：旧東ドイツにおける司法とナチズム裁判

第10回 同上（3）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（上）

第11回 同上（4）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（中）

第11回 同上（5）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（下）

第13回 同上（6）：統一ドイツにおける「ベルリンの壁」裁判

第14回 現代ドイツ司法とナチズム責任

第15回 まとめと評価

8. 成績評価方法：

第15回の授業時間中に理解度を確認する試験を行う（100%）。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。レジュメと板書による。参考書及び参考文献は、以下の通り：

ジェーン・キャプラン著、藤井美佐子訳、熊野直樹監修『14歳から考えたいナチ・ドイツ』すばる舎、2023年；田村栄子・星乃治彦編『ヴァイマル共和国の光芒—ナチズムと近代の相克—』昭和堂、2007年；熊野直樹「戦後ドイツにおける戦争の記憶と現在」九州大学法政学会『法政研究』第73巻第2号、2006年（open access）；「東西ドイツ司法と『過去の克服』」『法政研究』第71巻第3号、2005年（open access）。

10. 授業時間外学習： 参考書及び参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LB98810, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝のモンゴル支配、その歴史的 성격と意義
2. Course Title (授業題目)：Qing dynasty's rule over Mongolia: its historical nature and significance
3. 授業の目的と概要：清朝は、「外藩」と称する独自の統治範疇を設けて安定的なモンゴル遊牧民統治を実現した。その制度的な諸要件は、「王公制度」「盟旗制度」と呼ばれるが、多くの点で清代に先立つ北元末期モンゴルの分節的な社会構造に基盤を置く諸制度を継承したものであると同時に、これを皇帝の専制的統治の下に組み込み、垂直的な統治構造を創出した。本講義では、このような清のモンゴル統治制度と政治的統治手法を概観しつつ、その歴史的意義を考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The Qing dynasty established special governing system called “Wai fan” (Outer Mongol) and achieved stable rule over Mongolian nomadic society. This system consisted of “wang gung system” and “league and banner system”. Then many of its elements inherited
5. 学習の到達目標：清朝によるモンゴル支配の概要を習得するとともに、その歴史的意義をモンゴル史の文脈に即して理解することを目標とする。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to provide an overview of the Qing Dynasty's rule over Mongolia and to understand its historical significance in the context of Mongolian history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一講「イントロダクション：清代モンゴル史の課題」
清代モンゴル史に関する研究史を整理しつつ、検討・再検討されるべき課題を論じる。
 - 第二講「外藩とは何か」
清朝によるモンゴル支配の統治カテゴリーとしての外藩の特徴と清の帝国構造の中でのその位置づけを論じる。
 - 第三講「北元から清へ 1——内モンゴルの服属」
モンゴル諸集団が清朝に服属する過程を概観しつつ、マンジュのモンゴルに対する政策展開の特徴を考察する。第一回は内モンゴル諸集団の服属過程に焦点を当てる。
 - 第四講「北元から清へ 2——ハルハの服属」
内モンゴル服属後も独立を保っていた清朝とハルハ・モンゴルとの政治的関係を概観し、清朝入関後、順治・康熙期のモンゴル政策の展開を考察する。
 - 第五講「清朝によるハルハ支配強化政策」
乾隆帝がハルハモンゴルに対して展開した一連の支配強化策を通じて、清のモンゴル統治の手法の特徴について考察する。
 - 第六講「清のモンゴル統治制度：王公制度と盟旗制度」
清朝のモンゴル統治制度として知られる王公制度と盟旗制度の歴史的性質を、北元期との対比において考察する。
 - 第七講「統治制度と社会構造：オトク・バク」
清代モンゴルに存在したオトク・バク of 社会構成体としての特質を論じ、盟旗制度との関係について考察する。
 - 第八講「ナツァグドルジの清代モンゴル社会構造理解」
清代モンゴル史に多大な業績を残したモンゴルの研究者 Sh. ナツァグドルジの社会構造理解を再検討し、その成果と問題点をまとめる。
 - 第九講「清代モンゴル史の歴史記述」
清朝政府及び清代モンゴルの知識人たちが残したモンゴルに関する歴史記述を取り上げ、その内容の特徴と清朝支配との関係を論じる。
 - 第十講「外藩統治の「中央ユーラシア的」性格」
清朝のモンゴル統治における「中央ユーラシア的」特徴について論じ、清朝の帝国統治の歴史的性質を考察する。
 - 第十一講「いわゆる「封禁政策」について」
清朝のモンゴル支配における基本政策とされてきた「封禁政策」理解の問題点を批判的に整理しつつ、その実態と意義を考察する。
 - 第十二講「清代モンゴルにおける人の移動：出稼ぎ」
清朝統治下のモンゴルに現れた新たな現象として、活発な人の越境移動を挙げる事ができる。ここではとくにモンゴル人の出稼ぎに焦点を当てて移動の問題を考察する。
 - 第十三講「清代モンゴルにおける人の移動：所属旗を知らぬ人々」
清代において越境移動が活性化の中で、長期にわたり所属旗を離れて生活したために所属旗を知らない人々に焦点を当て、清代モンゴルの人口流動現象の意義について考察する。
 - 第十四講「外藩統治における人身把握」
人の移動が活性化の中で、清朝当局が移動者に対していかなる管理を行おうとしたのか、その際にどのような困難に直面したのかを論じ、清のモンゴル支配の限界の所在を考察する。
 - 第十五講「講義のまとめ」
モンゴル史上における清朝支配の歴史的意義について考察をまとめる。
8. 成績評価方法：

成績評価はレポートにより行う。

9. 教科書および参考書：

参考文献

岡洋樹「乾隆帝の対ハルハ政策とハルハの対応」『東洋学報』第73巻第1・2号、1992年

岡洋樹「第三代ジェヴツンダムバ・ホトクトの転生と乾隆帝の対ハルハ政策」『東方学』第83輯、1992年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京：東方書店、2007年

岡洋樹「北元から清へ—清朝の外藩統治形成の歴史的経緯」『東洋史研究』第81巻第1号、2022年

岡洋樹「大清国による歴史記述のモンゴル史的文脈」『北東アジア研究』別冊第3号、2017年

岡洋樹「清朝中期におけるモンゴル人の人口流動性に

10. 授業時間外学習：受講者は講義に先立って清朝のモンゴル統治の概要について、参考文献、あるいはインターネット上の情報によって予習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：宮地 朝子

コード：LB98816, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法史研究
2. Course Title (授業題目)：Historical study of Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：日本語の文法変化の具体的事例として機能語（助詞）の確立過程を取り上げ、言語の変化と多様性およびそれを支える構造について考える。日本語の、音韻、形態、統語・意味的な側面が相互に関連しながら変化していく様相を観察し、個々の形態の変化を条件付けたり制約として作用したりする語彙の意味や構造的な特性と、変化をもたらす言語運用上の諸条件の関係について考察する。言語変化の把握や記述・分析法の一例を提示するとともに、さまざまな立場を批判的に検討し、言語の変化や多様性にかかわる諸現象を分析する手法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The main aims of this course are to explore properties of syntax and syntactic change in the history of Japanese. Some aspects of morphology, semantics and pragmatics are also included where relevant. We will survey selected changes and discuss different
5. 学習の到達目標：・日本語の文法史的变化について問題を設定し、語彙の意味や構造的な特性、言語運用上の諸条件の関係について考察することができる。
 - ・日本語の文法史研究の諸説に対し、要点と問題点を精確につかんで批判的に検討できる。
 - ・文法変化の条件を明らかにする文法史研究を自ら実践することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:
 - ・Understand the relationship between grammatical changes and language use from the perspective of language history.
 - ・Compare and contrast alternative theories and approaches in terms of their underlying
7. 授業の内容・方法と進度予定：

文法変化の事例として、名詞ほかさまざまな形態に由来する体言性の機能語（主に副助詞類）の確立と展開を取り上げる。
※授業の進度等の状況に応じて、内容・順序には多少の変更を行う場合がある。

 1. ガイダンス：日本語史概観
 2. 言語変化とは：変化・多様性をとらえる視点
 3. 助詞の文法史 概観
 4. 副助詞と係助詞、並立助詞と接続助詞
 5. 体言・名詞の多様性と文法
 6. 事例1-ダケの史的展開 (1) 形式名詞から形式副詞へ
 7. 事例1-ダケの史的展開 (2) 形式副詞から接続助詞・副助詞へ
 8. 事例1-ダケの史的展開 (3) ダケとバカリ
 9. ディスカッション：文法史の諸問題
 10. 事例2-シカ類の史的展開 (1) 方言形式の多様性
 11. 事例2-シカ類の史的展開 (2) 否定極性と文法変化
 12. 事例3-ナラデハの史的展開 (1) 中古・中世前期
 13. 事例3-ナラデハの史的展開 (2) 中世後期・近世
 14. 事例3-ナラデハの史的展開 (3) 近代から現代へ
 15. まとめ：変化と普遍、現象と構造
8. 成績評価方法：

平常点（参加姿勢20％・小課題30％）および期末のレポート課題（50％）の総合評価による。
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は指定しない。スライド資料等を提示する。
【参考書】主なもののみ。そのほかは授業中に随時提示する。

 - ・宮地朝子『日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究』ひつじ書房、2007
 - ・大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房、2019
 - ・青木博史・高山善行編『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、2020
 - ・此島正年『国語助詞の研究 助詞史素描』桜楓社、1966
10. 授業時間外学習：(1) 授業時に提示する小課題に取り組む
(2) 参考文献や配布資料を読んで内容を検討し、問題点や発展的課題として指摘すべき箇所を見出す
(3) 期末レポート課題へ向けて問題を設定し、参考文献の参照、用例の調査を行う
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

メールアドレスは開講時に提示する。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 大介

コード：LB98806, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域の歴史資料の保全と継承を考える

2. Course Title (授業題目)：Considering the preservation and succession of local historical materials

3. 授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。特に、東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論や実際の体験を通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about issues to protect and pass on the vast amount of historical materials that still remain in the local community, as well as how to practice them, through lectures, discussions, and actual community activities. In p

5. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Based on the history surrounding the preservation of historical materials in the past, you will learn about the issues for inheriting the historical materials left in the local community.

・Through lectures, students gain the ability to think for themself

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1. 17」の経験、「3. 11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー

4 講義 原発被災地での活動①

5 講義 原発被災地での活動②

6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり

10 講義 史料を通じて地域と向き合う①

11 講義 史料を通じて地域と向き合う②

12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全

13 講義 史料保全の可能性①

14 講義 史料保全の可能性②

15 質疑応答

*講義のより詳細な内容については、履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

8. 成績評価方法：

・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） *日本語のみとします。

9. 教科書および参考書：

・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

10. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

・講義は日本語で行います。 This lecture will be given in Japanese only.

・学部4年生が受講する場合、事前の手続きにより、大学院生対象の「認定アーキビスト」の必修単位とすることが出来ます。

This course can be taken by 4th year undergraduate students as a required credit for the "Certified Archivist" program for graduate stude

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：小林 文雄

コード：LB98807, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世の芸能と文化

2. Course Title (授業題目)：Research on early modern Japanese public entertainments and society

3. 授業の目的と概要：近世の日本では、歌舞伎や浄瑠璃など多様な芸能が発展し、庶民の暮らしや心性に影響を与えました。また、出版業が成立し、文字の文化が庶民の間に普及したのもこの時代です。この講義では、芸能と書籍（本）を通して、近世文化の特色と意義を考察したいと思います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to understand the history of public entertainments and publishing industry in early modern Japan. I will introduce cultural features and significance in early modern Japanese society.

5. 学習の到達目標：日本近世の文化史的な意義を説明できるようになる。
文化的事象と時代背景・社会状況との関連を読み取ることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the history of early modern Japan through public entertainments and publishing industry.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 ガイダンス
- 2 近世の芸能文化 (1)
- 7 近世の芸能文化 (2)
- 3 近世の芸能文化 (3)
- 4 歌舞伎から江戸の社会を考える (1)
- 5 歌舞伎から江戸の社会を考える (2)
- 6 歌舞伎から江戸の社会を考える (3)
- 7 城下町の芸能と社会 (1)
- 8 城下町の芸能と社会 (2)
- 9 芸能文化の交流と受容 (1)
- 10 芸能文化の交流と受容 (2)
- 11 芸能文化の交流と受容 (3)
- 12 書物と地域社会 (1)
- 13 書物と地域社会 (2)
- 14 書物と地域社会 (3)
- 15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

講義中に提出するミニッツペーパー 30% 出席 20% 理解度確認のための試験 50%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します。参考書は授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：配付した資料に挙げられた作品（演劇・音楽）やその作者について、図書館やインターネットで調べたり、視聴したりしておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業のなかで、歌舞伎や長唄などの近世芸能を視聴する時間をとる予定です。

科目名：博物館経営論／ Museum administration

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 修

コード：LB98827, 科目ナンバリング：LHM-CUM302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館経営論
2. Course Title (授業題目)：Museum administration
3. 授業の目的と概要：博物館の活動は資料の研究、収集・保存、展示、普及交流事業といった基本的な活動に加え、地域振興、NPOやボランティア等の市民団体との連携、博物館評価など、その事業内容は多面化しつつあります。これら事業同士を結び付け、発展させていくために、あらためて博物館経営の在り方が問われています。博物館経営の現状と課題についての諸問題を学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The role of Museums diversifies. For example, in addition to research, collection, conservation management, exhibition, education, there are revitalization for regions, cooperation with citizens or museum evaluation, too. We connect these business, and it is a
5. 学習の到達目標：1：博物館経営の基本的な仕組みを理解する。
2：社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. The student will explain the basic structure of Museum management.
2. The student will explain the cooperation reinforcement with a museum and the society from a viewpoint of the Museum management.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ガイダンス
 - 第2回 博物館の使命と事業体系
 - 第3回 博物館評価の仕組み
 - 第4回 博物館のアメニティ ミュージアムショップとミュージアムレストランを中心に
 - 第5回 博物館経営の中における組織・人員の在り方
 - 第6回 博物館の運営形態 指定管理者制度を中心に
 - 第7回 博物館経営における集客と広報
 - 第8回 博物館の財政
 - 第9回 博物館を支援する団体 博物館友の会を中心に
 - 第10回 博物館同士のネットワーク
 - 第11回 博物館経営における市民参画 博物館ボランティアを中心に
 - 第12回 博物館経営と市民団体とのネットワーク NPO 法人との連携を中心に
 - 第13回 博物館経営における学校教育とのネットワーク
 - 第14回 博物館の危機管理
 - 第15回 まとめ 博物館経営の課題
8. 成績評価方法：

平常点(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)
平常点は授業への参加状況、小レポートの提出状況等から総合的に判断をします。
9. 教科書および参考書：

参考書：大堀・水嶋編『博物館学 III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』(学文社、2012年)
水嶋・高橋・山下編『ミュージアムABCシリーズ ビジュアル博物館学 Basic』(人間洞、2022年)
10. 授業時間外学習：1：できるだけ様々な博物館を訪問し、運営の在り様について比較検討しながら、それぞれの館の個性を把握するよう努めてください。
2：博物館で刊行されている要覧・年報などの文献を読み、それぞれの館の運営の現状について把握するよう努めてください。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
Google Classroomにて授業資料等を送付しますので、それを介して質問等を受け付けます。

科目名：博物館情報・メディア論／ Museum informatics and media practices

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大島 幸代

コード：LB98830, 科目ナンバリング：LHM-CUM306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館における情報・メディア活用の現在

2. Course Title (授業題目)：Current Use of Information and Media in Museums

3. 授業の目的と概要：新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、情報通信技術（ICT）は飛躍的な進化を遂げ、生活スタイルも大きく変貌するなか、資料の収集・保管・活用を使命とする博物館もまた、そのあり方に変化を求められている。なかでも博物館が生成し発信する情報やメディアは重要度を増し、効果的な活用方法が日々模索されている。この授業は、博物館の多種多様な情報とメディアを知り、その意義を考え、情報を集積・管理・活用していくための基本的な知識や方法を学ぶことを目的とする。情報を受信する側の視点を持ちつつ発信する側の課題等を理解するために

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The coronavirus pandemic has triggered a dramatic evolution of information and communication technology (ICT), which has drastically changed people's lifestyles. Under these circumstances, museums, whose mission is to collect, store, and utilize materials

5. 学習の到達目標：現在の博物館における情報とメディアの重要性を知り、直面している課題等を理解した上で、博物館に求められている情報発信のあり方を考える。情報とメディアを活用する基礎能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Aim to learn about the importance of information and media in today's museums, understand the challenges that museums face, and think about the type of information dissemination that museums are expected to provide. Cultivate the basic ability to utilize

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス 博物館というメディア
- 2 資料情報の記録の歴史
- 3 資料情報のドキュメンテーションと公開
- 4 博物館情報の階層とメディア
- 5 メディアの多様化と知的財産権
- 6 展覧会というメディア
- 7 ワークショップ1 展覧会には伝えたいストーリーがある (はず)
- 8 ワークショップ2 展覧会には伝えたいストーリーがある (はず)
- 9 ユニバーサルデザインと博物館
- 10 ワークショップ3 展覧会でさまざまなメディアを駆使する
- 11 ワークショップ4 展覧会でさまざまなメディアを駆使する
- 12 ワークショップ5 展覧会でさまざまなメディアを駆使する
- 13 プレゼンテーションと講評1
- 14 プレゼンテーションと講評2
- 15 プレゼンテーションと講評3

8. 成績評価方法：

出席状況とワークショップの取り組み状況 (20%)、授業中に課すりフレクション (30%)、プレゼンテーションの内容 (50%) から総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

講義のなかで適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：興味のある博物館のインターネット上に公開されている情報を閲覧しておくこと。特に、データベースやデジタルアーカイブ等を閲覧・検索してみること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：博物館実習VI／ Museology (FieldWorkMethodology)VI

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：1

担当教員：藤澤 敦

コード：LB98831, 科目ナンバリング：LHM-CUM311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：館園実習

2. Course Title (授業題目)：Museum training at the Tohoku university museum, archives and botanical garden

3. 授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本類について管理や展示などの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class is needed for museum curator qualification acquisition. Students experience management in a museum and work of exhibition at this course. It's practiced in the Tohoku university museum, archives and botanical garden. Practiced facilities are as

5. 学習の到達目標：博物館における資料・標本類の管理や展示の実務作業を体験し習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is help students to experience and acquire the work in a museum.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り
2. 展示見学
3. 収蔵庫見学
4. 資料管理方法の体験（1）
5. 資料管理方法の体験（2）
6. 資料管理方法の体験（3）
7. 小グループによる展示案作成（1）
8. 小グループによる展示案作成（2）
9. 小グループによる展示案作成（3）
10. 小グループによる展示案作成（4）
11. 展示案の発表
12. 展示作成作業（1）
13. 展示作成作業（2）
14. 展示作成作業（3）
15. まとめと講評

8. 成績評価方法：

出席（80%）、受講態度（20%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB98817, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children

3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their under

5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。

2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。

3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children

- understand and describe the difficulties in life and learning of children

-gain fundamental

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)

3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)

4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)

5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)

6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備

7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎

8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習

9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習

10. 子どもへの日本語支援体験 (1)

11. 子どもへの日本語支援体験 (2)

12. 子どもへの日本語支援体験 (3)

13. 体験の振り返り

14. 教師の役割

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%

9. 教科書および参考書：

文部科学省 (2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中

セメスター：6 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LB98822, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目) : Cultivating Wisdom of Mortal Human Life

3. 授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course describes the origins and purposes of the discipline of thanatology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide car

5. 学習の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:

1) discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic l

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章～終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話① 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話② 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話③ 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話④ いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話⑤ 共に生きること、本当に生きること(第5章)

9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク

- 12) テキストをめぐる対話⑥ 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話⑦ ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話(終章)
- 15) 授業全体のふり返り

8. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

9. 教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:

Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

10. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれませんが。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話＝本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：前期集中 単位数：2

担当教員：神作 研一

コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：江戸の雅俗
2. Course Title (授業題目)：Refined Literature and Popular Literature during the Edo Period
3. 授業の目的と概要：日本近世文学の全容と特質を視野に収めながら、特に雅文学を主たる対象としてその展開の種々相と達成を考える。和本（モノ）、翻字や注釈などの基本的な手続きを確認しながら、ジャンルの関係性にも配慮しつつ、江戸に即して実証的に解析する研究方法を学ぶ。基礎と応用を自在に往還して最新の近世文学研究を追跡し、文学とは何か/古典とは何かということを皆さんと一緒に考え、現代に生きる私たちにとってどんな意味があるのかをも探りたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Considering the entirety and characteristics of Japanese early modern literature, with a focus on the field of refined literature, students will explore the various aspects and achievements of its development. While solidifying foundational knowledge about
5. 学習の到達目標：主たる目標は3つ。
 - ① 近世文学の特徴を知り、研究上のさまざまな基礎知識を身につける【全体から個へ】
 - ② 江戸に即して、作品を読解できるようにする【読むための研究方法の獲得】
 - ③ それらを踏まえて、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する【思考と表現】
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goals are the following three.
 - ① Understanding the characteristics of early modern literature and acquiring various foundational research knowledge [From the general to the individual].
 - ② Grasping the characteristics of the Edo period, and a
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 【1】9/10 (火) 文学のちから/研究ということ/近世文学史の全体像
 1. イントロダクション (シラバス確認・エチケット・課題レポート案内)
文学とは何か/古典の楽しみ/研究と評論/江戸に即して
 2. ウォーミングUP
くずし字/干支・年表・異体字など工具書紹介/翻字と注釈
 3. 日本近世文学の特質 (出版・雅俗と和漢・教訓と滑稽)
近世文学史の諸相 (上方から江戸へ、江戸から明治へ)
 - 【2】9/11 (水) 近世和歌史/和本の楽しみ/歌書刊本
 4. 近世和歌史概説 (前期・中期・後期)
主要参考文献紹介
 5. 和本を見る・知る・さわる (古典籍のスキル)
はじめての古典籍/写本と刊本/本の身分 (表記と書型) /てのひらの江戸
 6. 歌書いろいろ
刊記/歌書の刊・印・修
★課題レポート案内「レポートを書くために」
 - 【3】9/12 (木) 多色摺り/歌仙絵/伝記
 7. 多色摺りの発生と展開
二色套印本/詩箋/絵本と浮世絵
 8. 歌仙絵の魅力
画譜・絵入り本・絵本/近世絵入り本研究の最前線
 9. 西行への思慕
歌僧似雲/江戸の今西行/伝記研究の方法 (墳墓録ほか)
 - 【4】9/13 (金) 古典学/狩野文庫渉猟/通信添削
 10. 古典の継承
江戸の源氏学/幕臣たちの古典享受/伊勢・徒然・百人一首の近世的展開 (文化誌)
 11. 東北大学附属図書館狩野文庫渉猟
狩野亨吉伝/蔵書印/〈知の宝庫〉に分け入る
 12. 元禄の添削
地方と中央/江戸のみやび
 - 【5】9/14 (土) 俳書/短冊/文学のちから
 13. 俳書の変遷
おくのほそ道は枳型本/笈の小文/美濃派歳旦帖
 14. 短冊を見る・知る・さわる
短冊の楽しみ/慶安手鑑/『短冊ものがたり』『短冊覚え書』『むかしをいまに』
 15. まとめと展望

8. 成績評価方法：

レポート（60％）、折々に課すリアクションペーパー（20％）、授業への主体的な学び（20％）に基づいて、総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

適宜プリントを配布、参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：適切な予復習に努め、主体的に授業に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

鉛筆（B）1本必携。授業前に石けんで手を洗っておくこと。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：前期集中 単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LB98819, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：奈良仏教絵画史論
2. Course Title (授業題目)：The History of Nara's Buddhist Painting
3. 授業の目的と概要：古代から中世にかけて仏教文化の中心地だった奈良は、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から中世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara, a center of Buddhist culture from ancient times and through the medieval period, has produced and passed down countless masterworks of Buddhist painting in each generation. In light of this importance, the course focuses on the region to explore the
5. 学習の到達目標：①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of such the central themes of art historical research into Japanese Buddhist painting as:, including:
 1. The inheritance and transmission of Buddhist painting techn
7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。
0. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
1. 天平絵画の彩色技法
法隆寺金堂壁画、聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいべき奈良時代の絵画技法について考察。
2. 奈良時代の儀礼と仏画 ①
法華堂根本曼荼羅の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
3. 奈良時代の儀礼と仏画 ②
薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
4. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
5. 南都仏画と天平復古①
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
6. 南都仏画と天平復古②
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
7. 中世南都の教学復興と美術①
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
8. 中世南都の教学復興と美術②
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
9. 中世南都の教学復興と美術 ③
鎌倉時代初期、京都・高山寺を拠点として南都仏教の中核を占める華嚴教学の復興に努めた明恵。その思想が生み出した仏画作品を通じて、高山寺を中心に広まった華嚴教美術や密教美術の特色を明らかにする
10. 春日曼荼羅の成立と展開①

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

11. 春日曼荼羅の成立と展開②

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。11. The

12. 春日曼荼羅の成立と展開③

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

13. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻①

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

14. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻②

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

15. 南都の祖師絵伝としての玄奘三蔵絵

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：博物館概論／ Museology (General Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：前期集中 単位数：2

担当教員：芳野 明

コード：LB98826, 科目ナンバリング：LHM-CUM301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館の使命と学芸員の仕事
2. Course Title (授業題目)：The Mission of Museums and the Work of Museum Staff
3. 授業の目的と概要：博物館の誕生とその歴史、博物館の目的や機能、その業務内容など、博物館に関する基本的事項と、博物館に関する基礎的概念を学ぶ。わたしたちはともすると博物館にはニュートラルな良質のモノが集積されていると思いがちだが、実際にはさまざまな角度からの眼差しが反映されている。この講義では、そうした態度を持って博物館を一から眺め直すことを試みる。また、他の省令科目の基礎となることながらも学ぶ。スライドを用いて講義形式で進行するが、対話形式をとる場合もある。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will cover the origins and history of museums, their purposes and functions, their operational content, as well as basic concepts related to museums. While we tend to think that museum collections are an accumulation of neutral, high-quality o
5. 学習の到達目標：博物館の本質的機能とその社会的存在意義を理解し、これらからの博物館活動を考え、実践するうえで必要な基礎知識を修得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students will have an understanding of the essential functions of the museum and its social significance, in addition to a fundamental knowledge necessary for evaluating and engaging in practical museum activities.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス、博物館学とは
 2. 博物館の様態
 3. 欧米の博物館の歴史 I —収集の欲望—
 4. 欧米の博物館の歴史 II —公開への欲望—
 5. 日本の博物館の歴史 I —博覧会から博物館へ—
 6. 日本の博物館の歴史 II —戦後の博物館—
 7. 博物館と法律
 8. 博物館の仕事 I —博物館の目的と機能—
 9. 博物館の仕事 II —博物館の組織と事業—
 10. 展覧会を考える
 11. 博物館の経営と情報
 12. 博物館制度の展望
 13. 博物館の限界
 14. 博物館のリベンジ
 15. まとめ —博物館とは、学芸員とは—
8. 成績評価方法：

授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリント配布または参考図書に適宜示す。

[No textbooks will be used. Handouts of reference books will be given as appropriate.]
10. 授業時間外学習：多くの博物館のウェブサイトを開覧し、また身近な博物館を訪れて案内リーフレットや展示案内、事業案内（参加募集チラシ）等入手し、すくなくとも利用者として博物館を理解しておくこと。特別展（企画展）や常設展を観覧して、展示テーマや構成方法、設備等と観覧者の反応を観察しておくこと。[Students are required to browse various museum websites, visit local museums to obtain brochures, exhibition guides,
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：前期集中 単位数：2

担当教員：中西 裕二

コード：LB98821, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と観光の文化論、東北の宗教人類学、歴史人類学
2. Course Title (授業題目)：Cultural Theory of Religion and Tourism, Anthropology of Religion, and Anthropology of History
3. 授業の目的と概要：本講義では、神仏習合の視点からみた東北地方の宗教人類学的考察、日本に関する観光の社会史と観光人類学的考察、日本の宗教的世界観に対する構築主義的視点の導入、という3つのテーマから授業を進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, the class will focus on three themes: an anthropological examination of religion in the Tohoku region from the perspective of syncretism of Shintoism and Buddhism; a social history of tourism and an anthropological examination of tourism
5. 学習の到達目標：①日本の宗教的世界観における東北地方の特殊性について理解を深める。
②観光と文化の関係についての理解を深める。
③文化理解における歴史の問題について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Deepen understanding of the uniqueness of the Tohoku region in the Japanese religious worldview.
(2) Deepen understanding of the relationship between tourism and culture.
(3) Deepen understanding of historical issues in cultural understanding.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本の観光的行動の発生—日本における巡礼の成立
 3. 日本における観光史と宗教史—江戸期末まで
 4. 21世紀における観光の変化と日本
 5. コンタクト・ゾーンとしての観光地の変化
 6. 観光と構築的文化観の再生産
 7. 日本における「歴史」と「文化」の関係性
 8. 「創られた伝統」論—歴史の構築主義的視点
 9. 神仏習合と寺社勢力論—中世史学の成果から
 10. 日本宗教史上の大転換—神仏分離
 11. 東北地方の寺社勢力—旧山形藩の事例から
 12. 東北地方の薬師信仰の謎
 13. 創られる歴史—歴史伝承
 14. 創られる歴史—偽書、書き換え
 15. 日本における「歴史」と「文化」を再度考える
8. 成績評価方法：

平常点を20%、期末レポートを80%として評価する。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

Not specified. Handouts will be distributed in class.
10. 授業時間外学習：文化人類学は生活に根付いた知識を分析する学であるため、日々生きている日常の中での気づきが重要となる。本授業でテーマとなる東北地方の宗教的世界観、神仏習合、観光と宗教、歴史と構築主義に関して、観察や情報のチェック、文献の検索を日常的に行う必要がある。
Since cultural anthropology is the study of analyzing knowledge rooted in daily life, it is important to become aware of the ever
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学基礎実習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

semester：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB98801, 科目ナンバリング：LHM-LIN228J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Education Internship Abroad

3. 授業の目的と概要：この海外インターンシップでは、長期休業中に2週間海外の日本語教育の現場に行き、どんな日本語学習者が海外の日本語教育の現場で学んでいて、どのような授業が実施されているのかを知るとともに、日本語の授業を見学・参加したり、現地学生の日本語学習者とともに日本文化ワークショップを実施したりして実践経験を積む。事前研修では、現地のことば、文化を知るワークショップを開催するだけでなく、異文化適応の過程、異文化受容の態度も学び、現地研修に備える。事前研修の中で日本文化ワークショップの内容の検討も行う。現地研修では、授業

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this overseas internship program, students will visit Japanese language education sites overseas for two weeks during their long vacation to learn what kind of Japanese language learners are studying in overseas Japanese language education sites and wh

5. 学習の到達目標：・異なることばや文化への理解を深めながら、異文化適応の過程、異文化受容の態度について理解する
・海外インターンシップ実施国における日本語教育の状況を理解し、現地での学習者の日本語学習動機や学習状況、学習環境について理解を深める

・異なる言語・文化的背景をもつ現地の日本語学習者とのコミュニケーションを通して文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深める

・異なる言語・文化的背景をもつ現地の日本語学習者とのコミュニケーションを通して対人関係能力を向上させる
・異なる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To deepen understanding of different languages and cultures, the process of cross-cultural adaptation, and attitudes toward cross-cultural acceptance.

Understand the situation of Japanese language education in the country where the overseas internship is

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前研修①：オリエンテーション

事前研修②：現地のことば、文化を知るワークショップ、日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修③：日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修④：日本文化ワークショップの内容の検討、危機管理セミナー、異文化適応・異文化受容について

インターンシップ（2週間）：海外インターンシップ実施校での授業見学、授業参加、現地学生と協力して日本文化ワークショップの実施

事後研修①：振り返り、学びの共有

報告会：インターンシップでの成果の報告

◎2024年度は2月または3月に実施する予定である。インターンシップの日程が決まり次第、周知するとともに、事前研修の日程は、履修学生とともに調整する。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、事前課題 30%、報告書 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：必要に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

海外インターンシップは、履修人数に制限があります。日本語教育学研究室に所属する学生の履修が優先されます。日本語教育学研究室以外に所属する学生が参加を希望する場合は、後期が始まり次第、担当教員までお問合せください。(メール：k.shimasaki@tohoku.ac.jp)

科目名：中国思想各論／

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：6 単位数：2

担当教員：森 由利亜

コード：LB98809, 科目ナンバリング：LHM-PHI302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明末から清代中期に至る道教（全真教）と士大夫知識人
2. Course Title (授業題目) : Daoism (Especially Complete Perfection School) and Literati from Late Ming to Mid-Qing China.
3. 授業の目的と概要：明末期から清朝中後期にかけて、道教の一部とされる全真教に「龍門派」と称する派が顕著な活動を示すようになる。そこには、当時の士大夫層が積極的に道教の信仰世界や倫理体系の中に参与しようとしていた動きを見て取ることができるのである。明末から清朝の乾隆・嘉慶年間にかけては、儒教的な文脈から思想の変化を検討することは盛んに行われてきた。また仏教と儒教の関係については荒木見悟の研究がよく知られている。しかし、この時代に道教と士大夫の関係についてはこれまでほとんど研究がなされていない。この授業では、ごく初歩的かつ部分的
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : From the late Ming to the late-mid-Qing period, a religious lineage called the "Longmen Lineage" became prominent in Quanzheng, or Complete Perfection School, which is one of the major traditions of Daoism in China. In this period, we can see the active p
5. 学習の到達目標：受講生が、明末から清朝にかけての士大夫の宗教的関心の広がり的一端に興味をもち、従来とは異なる視野からこの時代の思想を考える糸口を見つけることを目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aim of the course is to interest students in some aspects of the spread of the religious interests of the literati during the late Ming and Qing dynasties, and to find clues for thinking about the ideas of this period from a different perspective than
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 概要の説明
 - 第二回 道教の基礎知識 (1)
 - 第三回 道教の基礎知識 (2)
 - 第四回 道教の基礎知識 (3)
 - 第五回 『道蔵』と蔣予蒲 (1755-1819) の『道蔵輯要』(1)
 - 第六回 『道蔵』と蔣予蒲 (1755-1819) の『道蔵輯要』(2)
 - 第七回 伍守陽 (1574-1643) の内丹法と全真教龍門派の自己認同 (1)
 - 第八回 伍守陽の内丹法と全真教龍門派の自己認同 (2)
 - 第九回 朱元育と潘易庵の内丹法と龍門派の自己認同 (1)
 - 第十回 朱元育と潘易庵の内丹法と龍門派の自己認同 (2)
 - 第十一回 王常月 (1594-1680?) の戒律改革と全真教龍門派 (1)
 - 第十二回 王常月の戒律改革と全真教龍門派 (2)
 - 第十三回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (1)
 - 第十四回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (2)
 - 第十五回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (3)
8. 成績評価方法：
 - 平常点 (20 パーセント) レポート (80 パーセント)
9. 教科書および参考書：
 - 教科書はありません。参考書は授業時に紹介します。[We don't use text book. Recommended readings will be introduced in class]
10. 授業時間外学習：参考資料を事前配布した際には、それらに一通り目を通していただきます。[When reference materials are distributed in advance, you will be asked to read through them.]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：後期集中 単位数：2

担当教員：清塚 邦彦

コード：LB98818, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：画像表象に関する分析哲学的研究

2. Course Title (授業題目)：Analytical philosophical research on pictorial representation

3. 授業の目的と概要：本講義では現代の分析哲学において展開されてきた画像表象の本性をめぐる論議について学び、そこで用いられている一連の概念や、争点となってきた一連の命題について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will learn about the debate over the nature of oictorial representation that has been developed in contemporary analytical philosophy, and aim to deepen our understanding of the series of concepts used in the debate and the series of p

5. 学習の到達目標：本講義では、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討することを通じて、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念と画像概念の関連について理解を深め、具体的な事例の分析に活用できるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, we will introduce and examine major theories in analytic philosophy concerning the nature of pictorial images, and we will explore related concepts such as "resemblance," "illusion," "symbol system," "perception," and "imagination." The g

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、画像の多様な形や、多様な関連事例についての予備的な考察の後に、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討を行う。またその中で、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念が画像概念とどのように関連について検討を行う。講義日程の予定は下記の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 予備的な考察（1）いくつかの概念的区別
- 3 予備的な考察（2）絵の近縁種について
- 4 類似性について
- 5 ビアズリーの類似説について
- 6 類似説への批判
- 7 ゴンブリッチのイリュージョンの理論
- 8 ゴンブリッチ（続）
- 9～10 グッドマンの記号システムの理論
- 11～12 ウォルハイムの知覚説
- 13～14 ウォルトンのごっこ遊び理論
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

平常点ならびに期末レポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：清塚邦彦『絵画の哲学』勁草書房、2024年 参考書は随時指示する。

10. 授業時間外学習：講義と並行して教科書の該当箇所について予習ならびに復習として学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：後期集中 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education internship abroad

3. 授業の目的と概要：これまでに受講してきた日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約2週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は2、3月中に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to participate in Japanese language education internship abroad for 2 weeks. The students will see what people are learning Japanese language overseas and how Japanese language classes are conducted, and have

5. 学習の到達目標：1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る

2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ

3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- understand Japanese language education and a variety of Japanese language learners overseas
- observe Japanese language teaching classes overseas
- get experiences to teach Japanese language

7. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール (予定)

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施 (約2週間)

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

8. 成績評価方法：

事前課題 50%、事後報告書 50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- ・3年次の日本語教育学実習(前後期)を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。

科目名：博物館資料保存論／ Museum preservation

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：水澤 教子

コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-CUM304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館資料保存の方法と実務

2. Course Title (授業題目)：Method and Technique of Museum Preservation

3. 授業の目的と概要：博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is a part of qualification for the curatorial occupation by the Japanese government. The lecture covers essential knowledge concerning appropriate methods and techniques for preservation and conservation of stored materials in the museum. The

5. 学習の到達目標：博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are expected to understand fundamental knowledge with techniques for actual preservation of stored materials in the museum.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。
2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。
3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。
4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。
5. 「くん蒸とI PM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたI PMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。
6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。
7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。
8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。
9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。
10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。
11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。
12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆紙文書の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。

13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。

14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせる実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・展示事例として紹介する。

15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

9. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：博物館展示論／ Museum exhibit planning and design

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：6 単位数：2

担当教員：水澤 教子

コード：LB98829, 科目ナンバリング：LHM-CUM305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館展示の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and Practice of Museum Exhibit

3. 授業の目的と概要：展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのもの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is a part of qualification for the curatorial occupation by the Japanese government. The lecture covers essential subjects for the museum exhibition, from both educational facets and scientific objectivity. Practical knowledge and techniques f

5. 学習の到達目標：展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are expected to learn fundamental techniques and methods for effective museum exhibits, including history, media, education, and forms of exhibition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを事例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。

2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。

3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。

4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に挙げて解説する。

5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。

6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演示具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。

7. 「展示解説Ⅰ－パネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。

8. 「展示解説Ⅱ－展示図録」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。

9. 「展示解説Ⅲ－一人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。

10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。

11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を体験する。

12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。

13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。

14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。

15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

9. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：人文社会科学特別講義Ⅰ／ Humanities and Social Sciences(Special Lecture)Ⅰ

曜日・講時：

セメスター：集中 単位数：1

担当教員：KLAUTAU ORION

コード：LB98833, 科目ナンバリング：LHM-OHU203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化理論入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Cultural Theory
3. 授業の目的と概要：この授業は、Dr. Lisa Zhang (国際文化研究科・JSPS 外国人特別研究員)を講師に招き、英語による講義を提供する。日本学国際共同大学院(GPJS)との共催科目であり、カルチュラルスタディーズの諸問題に留まらず、文化理解の方法論についても論じられる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Course Description by Dr. Lisa Zhang (Graduate School of International Cultural Studies, JSPS Fellow):
This course serves as an introduction to cultural theory. Throughout the course, students will critically explore various aspects of culture, including
5. 学習の到達目標：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:
 - 1) Know the basics of Cultural Theory
 - 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
 - 3) Be able to use appropriate theories and con
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:
 - 1) Know the basics of Cultural Theory
 - 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
 - 3) Be able to use appropriate theories and con
7. 授業の内容・方法と進度予定：
The course is structured around eight sessions.

Each session will involve two activities:
 - 1) Lecture and close reading of the assigned text(s) for the session
 - 2) Presentation and discussion of reflection papers and cultural phenomenon
Session 1: Culture and Cultures
Session 2: Decoding and Encoding Culture
Session 3: The Culture Industry
Session 4: The Democratization of Art
Session 5: The Workings of Ideology
Session 6: Truth and Politics
Session 7: Intersectionality, Race, and Sex
Session 8: The Vocabulary of Gender
8. 成績評価方法：
Students are expected to prepare for and actively participate during each session. All materials will be provided by the teacher before the first class. To complete the course, students must write 3 reflection papers over the span of the course (with each
9. 教科書および参考書：
Texts include:
 - 1) Raymond Williams, "Culture," in Keywords: A Vocabulary of Culture and Society. London: Croom Helm, 1976.
 - 2) Stuart Hall, "Encoding and Decoding in the television discourse," in CCCS Selected Working Papers, ed. Ann Gray et al, Abingd
10. 授業時間外学習：Expected individual study is 45 minutes per lecture hour. Students are expected to read 1 (or 2 short) articles or chapters before each session.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
This course is taught in English

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：宮崎 泉

コード：LB98813, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践
2. Course Title (授業題目)：Mādhyamika in India on Emptiness, Compassion, and the Practice
3. 授業の目的と概要：インド中観派の思想と実践を理解するために、関連するインド仏教文献の和訳を資料として利用しながら、空とは何かを多角的に解説する。空性そのものだけではなく、慈悲との関係やインド後期中観派の実践も取り上げることで、インド大乘仏教の展開のひとつに触れることにもなる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a general introduction to the thought and practice presented by Mādhyamika in India. We will read a Japanese translation of related Indian Buddhist materials and investigate what is meant by emptiness from different perspectives. It may
5. 学習の到達目標：インド大乘仏教の一派である中観派の思想と実践に関する理解を深めることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is a better understanding of the thought and practice presented by a school of Mahayana Buddhism in India, Mādhyamika.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション（授業の進め方と取り組み方について）
 2. 空性と慈悲（『八千頌般若経』）（1）
 3. 同（2）
 4. 慈悲の修習（『修習次第』初篇）
 5. 菩提心（『修習次第』初篇）
 6. 智慧と方便（『修習次第』初篇）
 7. ナーガールジュナ（龍樹）の説く空（『中論』）（1）
 8. 同（2）
 9. 中観派と自立論証（『明らかなことば』）
 10. 同（2）
 11. 同（3）
 12. 空性と智慧（『修習次第』初篇）（1）
 13. 同（2）
 14. 止と観（『修習次第』初篇）（1）
 15. 同（2）
8. 成績評価方法：

積極的な授業参加（40%）と複数回の課題（60%）による総合評価
9. 教科書および参考書：

授業中にプリントを配付し、教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業で扱う資料をあらかじめ配付するので、授業前に十分予習し、疑問点を整理しておくことが必要になる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
リアルタイム型オンライン形式で実施する。

科目名：現代日本学各論Ⅳ／

曜日・講時：通年集中 その他 その他

semester：集中 単位数：2

担当教員：岩下 朋世

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-OHS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「マンガ」とは何か
2. Course Title (授業題目)：What Is "Manga"
3. 授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn about the definition, history, and narrative of manga. Manga is a very popular culture in Japan. Because of this, we tend to think that we know something about "manga". However, it is actually very difficult to answer the question, "What is manga?".
5. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understand the history and expression of manga. Learn the skills to analyze manga.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 イントロダクション
第2回 「マンガ」のさまざまな定義
第3回 「北斎漫画」はマンガか？
第4回 コマと物語
第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に
第6回 マンガと出版文化①
第7回 マンガと出版文化②
第8回 手塚治虫と少女マンガ
第9回 少女マンガにおける異性装
第10回 マンガにおけるイメージと言葉①
第11回 マンガにおけるイメージと言葉②
第12回 萩尾望都「半神」を読む
第13回 マンガを読む-受講者による発表①
第14回 マンガを読む-受講者による発表②
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：輪田 直子

コード：LB98808, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世の文芸「弾詞」の文学性と女性に関する研究
2. Course Title (授業題目)：Research on the literary nature and the feminine of the Tanci(弾詞) art in Modern China
3. 授業の目的と概要：中国近世の語り物「弾詞」は、長編叙事詩や方言文学としての特殊性、主要な受容層や作り手を女性が占めることなど、中国文学史上多くの検討すべき点を持つ文芸である。本講義では、作品の読解を通じて、弾詞のこれらいくつかの特徴について考えていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Tanci(弾詞)was the narrateive that had some characteristics such as the special nature of the long epic and the dialective literature, women were the main recipients and producers in Modern China. This course through the reading of works to help student
5. 学習の到達目標：作品を適切に読解し、代表作品の性格や弾詞の文学的特徴を理解した上で、その社会的位置づけについて説明できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students read masterworks properly and explain the literary nature of the Tanci (弾詞) and its social position.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は講義と演習によって進める。内容と進度予定は以下の通り。
 1. 弾詞以前の通俗文芸の概要
 2. 弾詞の概要
 3. 鄭振鐸『中国俗文学史』について
 4. 『何必西廂』概要と背景
 5. 『何必西廂』精読
 6. 弾詞の文体について
 7. 『三笑』概要と精読
 8. 方言文学としての弾詞について
 9. 『三国志玉璽伝』概要と背景
 10. 『三国志玉璽伝』精読
 11. 歴史物語と女性について
 12. 『天雨花』概要と背景
 13. 『天雨花』精読
 14. 女性作家作品と弾詞ジャンルについて
 15. 弾詞の文学性と女性の関与について
8. 成績評価方法：
授業に対する参加姿勢、及び最終レポートにより総合的に判断します。
9. 教科書および参考書：
呉毓昌『三笑新編』（上海古籍出版社、1990）、秦万年総校正『梅花夢』（黒竜江人民出版社、1988）、童万周校正『三国志玉璽伝』（中州古籍出版社、1986）、陶貞懷『天雨花 上・中・下』（中州古籍出版社、1984）、鄭振鐸『中国俗文学史』（商務印書館、1998）、高津孝・李光貞監訳『中国俗文学史』（東方書店、2023年）、譚正璧・譚尋『弾詞叙録』（上海古籍出版社、1981）、盛志梅『清代弾詞研究』（齋魯書社、2008年）、方蘭『エロスと貞節の靴 弾詞小説の世界』（勉誠出版、2003）など
10. 授業時間外学習：各作品は長編であるので、参考書に挙げた『弾詞叙録』などを参考に、概要を押さえておいて下さい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：インターンシップ / Internship

曜日・講時：通年集中 その他 その他

semester：集中 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB98832, 科目ナンバリング：LHM-0AR902J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インターンシップ（就業・ボランティア体験）

2. Course Title (授業題目)：Internship (working and volunteer activities)

3. 授業の目的と概要：実質 10 日間以上（60 時間以上）にわたる企業等での就業体験またはボランティア体験について、2 単位を授業単位として認める。大まかな流れは以下の通りである。

(1) 4 月 履修を希望する学生は、ガイダンスに出席する。

(2) 4 月～7 月 履修学生は、学部が提供する受入企業等の情報をもとに、あるいはみずから情報を収集して、各自インターンシップに応募し、受入内諾書をください教務係に提出する。

(3) 夏期休業中 履修学生は、実習を行い、実習修了証明書および報告書・評価書（いずれも学部で定めた様式による）

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：インターンシップまたはボランティアを通じて、大学で学んだ知識が実社会においてどのように役立つかを検討する。

5. 学習の到達目標：自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験または震災復興等ボランティア体験を行うことによって、職業適性や資質を正しく認識し、高い意識のもとで主体的な職業選択ができるようにする。また、社会体験を大学での勉強にフィードバックすることで、学生生活をより実りあるものとする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Through work experience, or through volunteer experiences such as earthquake reconstruction, students will be able to correctly recognize their vocational aptitudes and qualities and make independent career choices. In addition, by feeding back the social

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受入企業等での実習、ボランティア活動

3. 受入企業等での実習、ボランティア活動

4. 受入企業等での実習、ボランティア活動

5. 受入企業等での実習、ボランティア活動

6. 受入企業等での実習、ボランティア活動

7. 受入企業等での実習、ボランティア活動

8. 受入企業等での実習、ボランティア活動

9. 受入企業等での実習、ボランティア活動

10. 受入企業等での実習、ボランティア活動

11. 受入企業等での実習、ボランティア活動

12. 受入企業等での実習、ボランティア活動

13. 受入企業等での実習、ボランティア活動

14. 受入企業等での実習、ボランティア活動

15. 事後報告会での発表

8. 成績評価方法：

(1) ガイダンスへの出席, (2) 実習修了証明書の提出, (3) 実習報告書・評価書の提出, (4) 事後報告会での発表

9. 教科書および参考書：

ガイダンスで指示する。

10. 授業時間外学習：この科目は、受入企業等での履修学生の実習、あるいは震災復興等ボランティア活動を中心としている。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

(1) 選択必修科目としては2単位を上限とする。(2) 就業体験は、夏期休業中に行うことを奨励する。(3) インターンシップという名称でなくとも、実質それに相当すると見なされる就業体験については、単位取得の対象として認めるので、担当教員に相談すること（福祉・医療施設での実習など）。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：佐藤 哲彦

コード：LB98820, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ディスコース社会学の基礎と実践

2. Course Title (授業題目)：Fundamentals and Practice of Discursive Sociology

3. 授業の目的と概要：この授業は「ディスコース社会学」と呼ぶる社会学的研究について論じるものである。ここでいう「ディスコース社会学」とは、質的調査の結果として得られたインタビュー・データや観察結果を用いて社会的な研究を成り立たせるための方法と、その方法から得られる知見によって形作られるものである。調査を行ってデータを得たからといって、それを理論や命題に「当てはめる」ということでは、社会的な研究は成り立たないし、そもそもそれが誤っていることもしばしばである。そこで、それらのデータを社会的な視点から眺め、そのデータで観察さ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course discusses a sociological study that can be called "Discursive sociology". "Discourse sociology" refers both to the methods used to conduct sociological research using interview data and observations obtained as a result of qualitative research

5. 学習の到達目標：この授業で講じる基礎と実践を通して、受講生が自分で得たデータや既存のデータを社会的に眺められるようになり、社会的分析の入り口に立たせるのが、この授業の目的である。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose and the aim of this class is to help students to view their own and existing data in the sociological ways through the fundamentals and practices taught in this class, and to get them to the point of entry into a sociological analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 質的調査と質的分析
2. 社会学的方法と社会学的分析
3. 言語に着目することの意義と課題
4. ディスコース分析の基礎 (1) シークエンス
5. ディスコース分析の基礎 (2) レリバンスとカテゴリー
6. ディスコース分析の実践 (1) 構築プロセスの分析
7. ディスコース分析の実践 (2) レパトワール分析
8. 参与観察データの観察 (1) エスノグラフィーにおけるカテゴリー実践
9. 参与観察データの観察 (2) 記述をめぐる問題
10. インタビューデータの分析 (1) 記述をめぐる問題
11. インタビューデータの分析 (2) シークエンスを観察する
12. インタビューデータの分析 (3) インタビューにおけるカテゴリー実践
13. ディスコース分析から社会的思考へ
14. ディスコース社会学というプロジェクトの意義
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業中の課題の提出と最終レポート

9. 教科書および参考書：

フランシス&ヘスター, 2014, 中河他訳 『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』, ナカニシヤ出版/ウーフィット, 1998, 大橋他訳 『人は不思議な体験をどう語るか：体験記憶のサイエンス』, 大修館書店/シルバーマン, 2020, 渡辺忠温訳 『良質な質的研究のための、かなり挑発的でとても実践的な本』, 新曜社/山田富秋, 2020, 『生きられた経験の社会学：当事者性・スティグマ・歴史』, せりか書房/ギリバート&マルケイ, 1990, 柴田・岩坪訳 『科学理論の現象学』, 紀伊国屋書店/

10. 授業時間外学習：最終レポートに使用するために、自分の関心のあるデータを探索・収集しておいてください。それは必ずしも自分自身の調査である必要はなく、YouTube などでも構いませんし、出版された手記などでも構いません。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし